

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第158集

惣 作 遺 跡

2009

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

序

矢作川中流域に位置する安城市も現在では市街地化が進み、住宅地が増えてきましたが、まだ田園風景も多数目にすることができ、かつて「日本のデンマーク」と呼ばれた面影を残しています。また歴史的には安城市は東海道や矢作川を通じた人の往来が盛んな地域であり、碧海台地の縁辺部を中心にした一帯には多くの遺跡が存在します。特に亀塚遺跡で出土した古墳時代初頭の人面文土器は、全国的に著名で、当時の習俗を知る上で重要な資料となっております。

財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター(当時)では、平成16年から17年にかけて、鹿乗川の河川改良工事に伴う事前調査として、安城市木戸町に所在する惣作遺跡の発掘調査を行いました。その結果、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての竪穴建物や土器棺、河道、平安時代の掘立柱建物や大型土坑などが見つかかり、弥生土器や石器、平安時代の灰釉陶器や瓦・木器などが出土しています。特に墨書が施された陶器や木簡、瓦の存在は、鹿乗川を挟んで立地する寺領廃寺との関連を伺わせるものとして注目されました。

本書はこれらの成果をまとめたものであり、今後学術的な資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に対して御理解、御協力を賜った関係諸機関並びに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

平成21年3月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 林 良三

例 言

1 惣作（そうさく）遺跡（遺跡番号 540132：『愛知県遺跡分布地図Ⅱ（知多・西三河地区）』1995 による）は、愛知県安城市木戸町惣作に所在する遺跡である。

2 本書は、愛知県建設部河川課が計画する中小河川改良工事（鹿乗川）に伴う事前調査にかかる発掘調査報告書である。発掘調査は愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター（当時、現愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。調査対象面積は 3295 m²である。

3 発掘調査及び遺物水洗作業は平成 16 年 10 月から平成 17 年 3 月にかけて行われ、その後報告書のための整理作業を平成 19 年 8 月から平成 20 年 3 月の期間実施している。なお出土遺物は、コンテナ 89 箱を数える。

4 現地における発掘調査は朝日航洋株式会社の業務支援を受けて行っている。調査スタッフについては下記のとおりである。

愛知県埋蔵文化財センター 宮腰健司、鈴木正貴

朝日航洋株式会社 現場代理人：大岩隆（途中交代）、浅田良治

調査補助員：水野聡哉

測量技師：伊藤隆（途中交代）、北畠誠司

5 調査にあたっては本センター理事・専門員をはじめ次の各関係機関のご指導とご協力を得た。

愛知県教育委員会文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、安城市教育委員会、安城市埋蔵文化財センター、愛知県建設部河川課

6 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標 VII 系に準拠した。表記は世界測地系を用いている。

7 遺構は以下の分類記号を用い、原則調査時に使用した表記をそのまま使用した。

S B：建物、S K：土坑、P：ピット、S D：溝、S T：水田、S X：その他の遺構、S Z：墓、N R：自然落ち込み、S U：遺物集積

調査区表示は調査時には 04 A 区～04 H 区としているが、本文中では該当年度を表す 04 を省略し A 区～H 区とした。

8 本書の執筆は下記のとおりである。

第 3 章第 6 節 鈴木正貴

第 4 章第 1 節 鬼頭剛

第 4 章第 2 節・第 3 節 株式会社パレオ・ラボ

その他は宮腰が執筆している。

また、本書の編集・図版作成については有限会社アルケアーリサーチの協力を得た。

9 墨書の解説については本センター専門委員の福岡猛志氏（日本福祉大学）に、D 区 SB36 出土土器については田崎博之氏（愛媛大学）のご教示を得た。また、石材同定については堀木真美子（本センター）、瓦については永井邦仁（本センター）の協力を得た。

10 樹種同定・種実同定・AMS 年代測定については株式会社パレオ・ラボに、遺物の実測・トレースについては国際航業株式会社に、写真撮影については写真工房 遊に委託した。

11 発掘調査及び整理については、多数の発掘作業員・整理補助員の皆様のご協力を得た。記して感謝する次第である。

12 調査記録（図面・写真資料・日誌等）は、本センターにて保管している。

13 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

第1章 序章	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の概要	1
第3節 遺跡の概要	5
第2章 遺構	6
第1節 時期区分	6
第2節 A・B区	6
1 建物	6
2 土坑・溝	6
3 その他	11
第3節 C・D・E区	12
1 建物	13
(1)C区1面検出	13
(2)D区検出	14
(4)E区2面検出	26
2 土坑・溝	29
(1)C区1面検出	29
(2)D区検出	33
(3)C・D区3面検出	38
(4)E区1面検出	39
3 方形周溝墓	39
(1)C区2面検出	39
4 土器棺・土器集積	40
(1)C・D区2面検出	40
5 その他	43
第4節 F区	47
1 建物	47
第5節 G・H区	47
1 溝	49
2 河道・落ち込み	49
第3章 遺物	55
第1節 土器・土製品	55
1 A・B区	55
2 C・D・E区	55
(1)D区建物	55
(2)E区建物	55
(3)C区土坑・溝	57
(4)D区土坑・溝	65
(5)E区土坑・溝	69
(6)検出	69
(7)C・D区3面	69
(8)土器棺・土器集積	79
(9)その他	82
3 F区	83
4 G・H区	83
(1)G区	83
(2)H区	83
第2節 墨書土器	86
第3節 瓦	90
第4節 石器	98
第5節 木器	103
第6節 鋳造関連遺物	104
1 遺物の概要と分析	104
2 小結	107
第4章 自然科学分析	108
第1節 岡崎平野中央部、惣作遺跡における堆積環境	108
1 はじめに	108
2 分析結果	108
(1)深掘層序	108
(2)放射性炭素年代測定	109
(3)調査地周辺の表層地形解析	110
3 考察	110
(1)惣作遺跡の地下層序	110
(2)惣作遺跡周辺に現われる表層地形構造	111
第2節 放射性炭素年代測定:D区SB36出土試料	116
1 はじめに	116
2 試料と方法	116
3 結果	116
第3節 惣作遺跡C区SX09出土種実の同定	118
1 はじめに	118
2 試料と方法	118
3 結果	118
5 考察	119
6 おわりに	119
第5章 総括	120
第1節 遺構変遷	120
第2節 SB36・SU04出土の土器焼成失敗品	123
1 焼成破裂痕土器	123
2 焼成破裂土器片	124
3 焼成時破損土器	126
4 まとめ	127
図版	1～9 →リンク 図版1へ
写真図版	1～24 →リンク 写真図版1へ

挿 図

第1図	惣作遺跡位置図	1
第2図	惣作遺跡と周辺の遺跡	3
第3図	惣作遺跡調査区位置図	4
第4図	A区北壁、B区南壁土層断面図	7
第5図	A区東壁、B区東壁土層断面図(1)	8
第6図	A区東壁、B区東壁土層断面図(2)	9
第7図	B区NR01下層土層断面図	9
第8図	A区SB02平面図・土層断面図	10
第9図	A区柱穴土層断面図	11
第10図	A区SK05平面図・土層断面図	12
第11図	B区SD27、SK20平面図・土層断面図	13
第12図	A区SD07、SD03・18、SD09平面図・土層断面図	14
第13図	C区北壁・東壁、D区東壁土層断面図(1)	15
第14図	C区北壁・東壁、D区東壁土層断面図(2)	16
第15図	C区北壁・東壁、D区東壁土層断面図(3)	17
第16図	D区南壁、E区南壁土層断面図(1)	18
第17図	D区南壁、E区南壁土層断面図(2)	19
第18図	C区SB14(P155～P158)平面図・土層断面図	20
第19図	C区SD55平面図・土層断面図	21
第20図	D区SB35・39、SK68、P290平面図・土層断面図(1)	22
第21図	D区SB35・39、SK68、P290平面図・土層断面図(2)	23
第22図	D区SB36平面図・土層断面図	24
第23図	D区SB43(P347～P352)平面図・土層断面図(1)	25
第24図	D区SB43(P347～P352)平面図・土層断面図(2)	26
第25図	E区SB07平面図・土層断面図	27
第26図	E区SB08・09・10平面図・土層断面図(1)	28
第27図	E区SB08・09・10平面図・土層断面図(2)	29
第28図	E区SB15平面図・土層断面図	30
第29図	E区SB21・23平面図・土層断面図	31
第30図	E区SB24平面図・土層断面図	32
第31図	C区SK39・35平面図・土層断面図	33
第32図	C区SX02平面図 土層断面図(1)	34
第33図	C区SX02平面図 土層断面図(2)	35
第34図	D区SK62・63平面図・土層断面図	36
第35図	D区SX10・11平面図・土層断面図	37
第36図	C区SX09平面図・土層断面図	38
第37図	E区SK56・58平面図・土層断面図	39
第38図	E区P113平面図・土層断面図	38
第39図	C区SD56・57(SZ01)平面図・土層断面図(1)	41
第40図	C区SD56・57(SZ01)平面図・土層断面図(2)	42
第41図	C区SX04平面図・土層断面図	43
第42図	C区P163、SU03・02、SX06・07平面図・土層断面図(1)	44
第43図	C区P163、SU03・02、SX06・07平面図・土層断面図(2)	45
第44図	D区SK13・14平面図・土層断面図	46
第45図	F区北壁・東壁・深掘土層断面図(1)	47
第46図	F区北壁・東壁・深掘土層断面図(2)	48
第47図	F区SB46・50平面図・土層断面図	49
第48図	G区・H区西壁土層断面図(1)	50
第49図	G区・H区西壁土層断面図(2)	51
第50図	G区北壁・H区南壁土層断面図	52
第51図	G区トレンチ、H区T1・T2平面図・土層断面図	53
第52図	H区SD73・74平面図・土層断面図	54
第53図	A区・B区出土遺物	56

第54図	D区SB36出土遺物	57
第55図	D・E区建物出土遺物	58
第56図	E区建物出土遺物	59
第57図	C区土坑・溝出土遺物	60
第58図	C区土坑・溝・その他出土遺物	61
第59図	C区SX02・03出土遺物(1)	63
第60図	C区SX02・03出土遺物(2)	64
第61図	C区SX02・03出土遺物(3)	65
第62図	D区土坑・溝・その他出土遺物	66
第63図	D区土坑・溝出土遺物	67
第64図	C・D・E区土坑・溝・その他出土遺物	68
第65図	D区SD59出土遺物(1)	72
第66図	D区SD59出土遺物(2)	73
第67図	D区SD59出土遺物(3)	74
第68図	D区SD59出土遺物(4)	75
第69図	D区SD59出土遺物(5)	76
第70図	D区SD59出土遺物(6)	77
第71図	D区SD59出土遺物(7)	78
第72図	C区SX08、D区SU05出土遺物	80
第73図	C・D区土器棺・土器集積出土遺物	81
第74図	E区NR02出土遺物	82
第75図	C区NR03出土遺物	84
第76図	F区・G区出土遺物	85
第77図	H区SX12出土遺物	86
第78図	墨書土器(1)	87
第79図	墨書土器(2)	88
第80図	墨書土器(3)	89
第81図	瓦(1)	91
第82図	瓦(2)	92
第83図	瓦(3)	93
第84図	瓦(4)	94
第85図	石器(1)	95
第86図	石器(2)	96
第87図	石器(3)	97
第88図	石器(4)	98
第89図	木器(1)	99
第90図	木器(2)	100
第91図	木器(3)	101
第92図	木器(4)	102
第93図	木器(5)	103
第94図	銅バリの重量・長径別頻度分布	105
第95図	銅滴の重量・長径別頻度分布	105
第96図	銅滓	106
第97図	惣作遺跡における深堀調査地点	112
第98図	地点1(A区)における深堀層序断面	112
第99図	地点2(B区)における深堀層序断面	112
第100図	地点3(C区)における深堀層序断面	113
第101図	地点3(H区)における深堀層序断面	113
第102図	惣作遺跡調査地点周辺の等高線図	115
第103図	暦年較正結果	117
第104図	惣作遺跡遺構変遷図(1)	121
第105図	惣作遺跡遺構変遷図(2)	122
第106図	D区SB36・SU04出土焼成破裂土器片	126
第107図	D区SB36・SU04出土土器	127

表

表1	銅滓の重量・特徴別出土量一覧	105
表2	地点1(A区)における放射性炭素年代測定結果	113
表3	地点2(B区)における放射性炭素年代測定結果	114
表4	地点3(C区)における放射性炭素年代測定結果	114
表5	地点4(H区)における放射性炭素年代測定結果	114
表6	測定試料及び処理	117
表7	放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果	117
表8	SX09出土種実一覧表	119

挿図写真

写真1	D区SB36SU04調査風景	2
写真2	D区SD59調査風景	2
写真3	地元説明会(1)	5
写真4	地元説明会(2)	5
写真5	惣作遺跡SX09出土種実	119
写真6	D区SB36・SU04出土焼成破裂土器片	124
写真7	D区SB36・SU04出土焼成破裂痕土器・焼成時破損土器	125

図 版

図版1	04A区遺構平面図
図版2	04B区遺構平面図
図版3	04C・D区遺構平面図(1)
図版4	04C・D区遺構平面図(2)
図版5	04C・D区遺構平面図(3)
図版6	04E区遺構平面図(1)
図版7	04E区遺構平面図(2)
図版8	04F・G・H区遺構平面図
図版9	04G・H区遺構平面図

第1章 序 章

第1節 調査の経緯

今回の惣作遺跡の調査は、中小河川改良工事（鹿乗川）に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として行ったものである。鹿乗川河川改良工事予定地には『愛知県遺跡分布地図Ⅱ（知多・西三河地区）』（愛知県教育委員会 1995）に記載された惣作遺跡が所在することが認識されていたが、さらに詳細に遺跡の範囲を決定することを目的に、平成12年3月に愛知県埋蔵文化財センターによって予定地内の範囲確認調査が行われた。この結果、調査範囲を3295㎡の面積に設定した。調査期間は平成16年10月から平成17年3月にかけてである。その後、平成19年度に報告書のための整理作業を行っている。

第2節 調査の概要

調査は廃土置き場や現道の関係で、A～G区の8調査区に分けて行った（第3図）。調査開始の順番はA→B→E→C→D→H→F→Gであるが、補足調査・測量・重機作業などの関係からいくつかの調査区を同時進行している。また、平成17年1月22日に地元説明会を行い、50名の参加を得た。

A区（調査期間：平成16年10月7日～11月5日）

北東—南西方向に走る標高約640cmの微高地の北肩と北側に広がるゆるやかな落ち込みを検出した。微高地上では、平行する溝や竪穴建物を確認している。落ち込み部分では遺構は希薄になる。

B区（調査期間：平成16年11月6日～11月26日）

A区で調査した微高地の南肩と南に広がる落ち込みを検出し、微高地幅が約23mであることが判明した。微高地上ではA区から続く溝群を検出している。また南の落ち込み部分の上層では戦国時代から江戸時代の大型土坑・溝・水田跡がみつき、下層では平安時代前半の竪杵・横槌・曲げ物底などの木器集積が出土している。



第1図 惣作遺跡位置図

C区（調査期間：平成16年11月25日～12月24日）

わずかな高低差であるが、標高約660cm前後で平安時代と弥生時代の2面確認された。平安時代の遺構としては、掘立柱建物とそれを囲む溝、大型土坑などが検出され、墨書土器が多数出土している。弥生時代の遺構としては、方形周溝墓を形成すると思われる溝や方形土坑、土器棺、土器集積がみついている。さらに下位では3面としてSD59の肩が検出され、肩から斜面にかけて炭化物層SX08や、炭化物層を含むSX09がみついている。SD59の上層は重機で掘削したが、下層で弥生時代中期土器が出土したため、人力で掘削している。

D区（調査期間：平成17年1月5日～3月7日）

C区のように2面に区分することができなかつたため、1面で江戸時代・平安時代～弥生時代の遺構を検出している。平安時代の遺構としては掘立柱建物や土坑が、弥生時代の遺構としては竪穴建物がある。竪穴建物のうちSB36では、炭化物や焼成失敗品を含む土器集積SU04が出土している。

E区（調査期間：平成16年11月18日～平成17年3月7日）

東西に細長い調査区で、大部分が微高地になり、東端部分に落ち込みがみられる。微高地には弥生時代から古墳時代初頭にかけての竪穴建物が重複して検出された。検出面は2面設定して遺構を確認していったが、土層断面を観察するとさらに重なり合っている。東端部は弥生時代中期前半と平安時代は何らかの落ち込みがあり、古墳時代初頭前後の時期には一時竪穴建物が作られている。平安時代の落ち込みNR02から銅滓が出土している。

F区（調査期間：平成17年1月25日～2月12日）

調査区の大部分が高压電線建設時に掘削されており、旧地形は部分的にしか残存していなかった。調査は上位の溝を中心とした面と下位の竪穴建物を中心とした遺構群に分けて行った。また西部の深堀の結果、遺構検出面の下位に河川堆積があることを確認している

G区（調査期間：平成17年2月9日～2月12日）

調査区全域にわたって河川堆積がみられる。上部の近世以降の堆積を重機で除去した後、下面で検出された大型の落ち込みSX12・16を掘削した。SX12・16とも上位から中位にかけては遺物が出土しなかつたため重機で掘削し、弥生時代中期の遺物が出土した下位については人力で掘削している。

H区（調査期間：平成17年1月24日～2月12日）

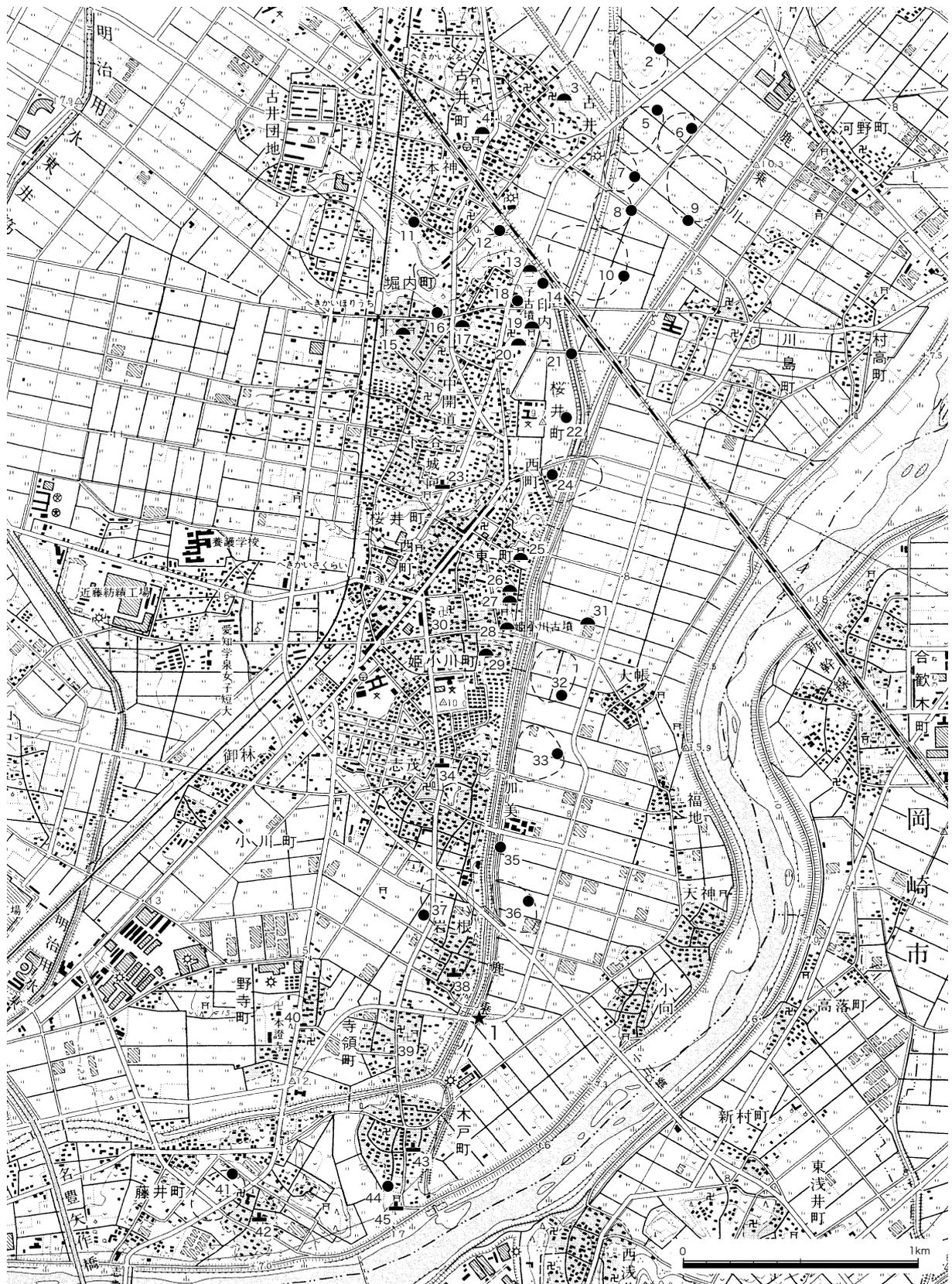
G区と同じく全域にわたって河川堆積がみられる。上部の近世以降の堆積を重機で除去した標高約620cmで溝が検出され、ややまとまった江戸時代後期以降の木器が出土した。さらに下層の河川堆積についてはトレンチによって確認している。



写真1 D区 SB36SU04 調査風景



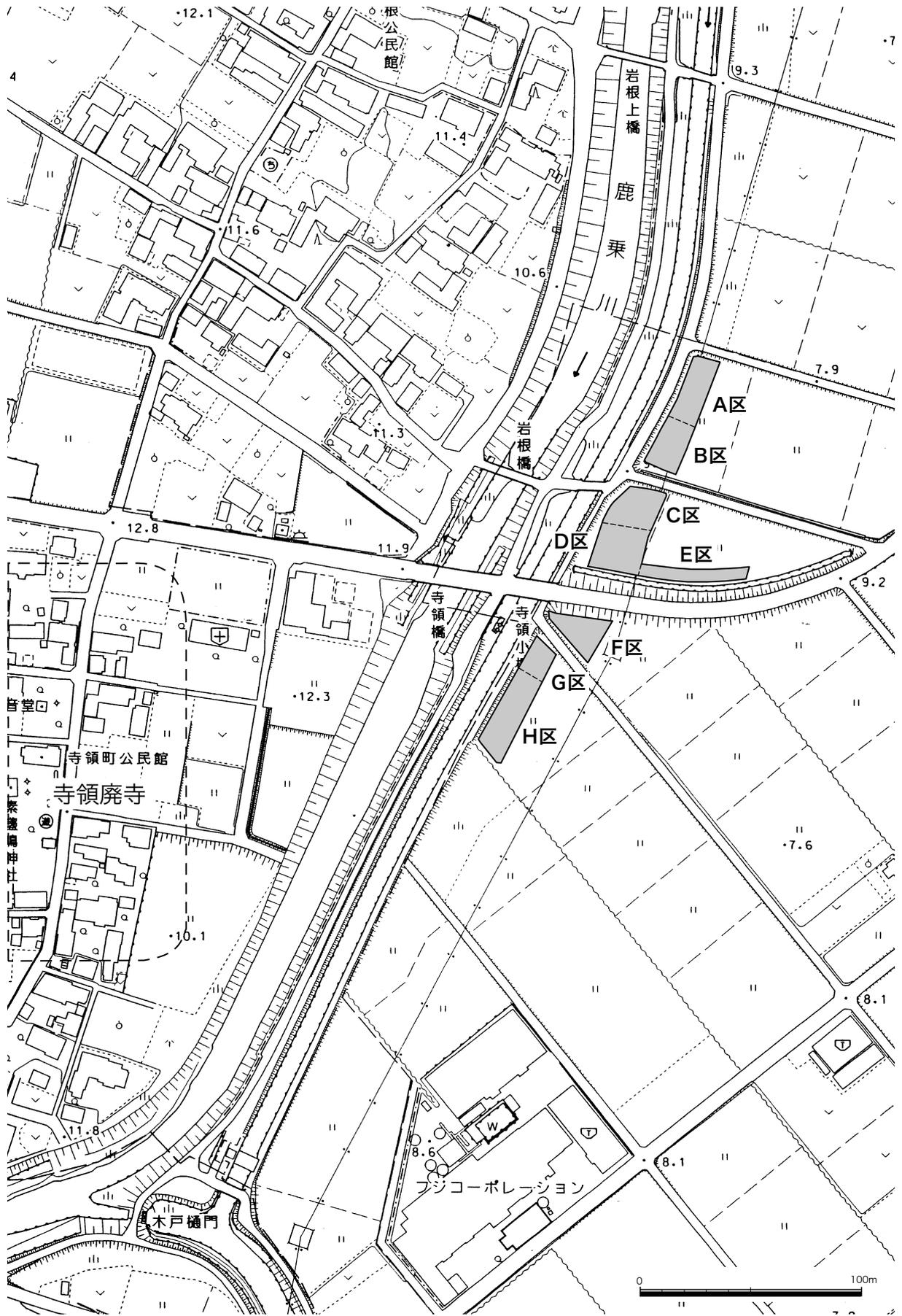
写真2 D区 SD59 調査風景



※国土地理院発行 1/25000 地形図
「安城」「西尾」(H15年発行)を使用

- | | | | | |
|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 惣作遺跡 | 11 本神遺跡 | 21 宮下遺跡 | 31 八ツ塚古墳 | 39 寺領廃寺 |
| 2 神ノ木遺跡 | 12 釈迦山遺跡 | 22 中狭間遺跡 | 32 姫下遺跡 | 40 本證寺境内地 |
| 3 塚越古墳 | 13 二子古墳 | 23 桜井城跡 | 33 寄島遺跡 | 41 大畑遺跡 |
| 4 愛宕古墳 | 14 二夕子遺跡 | 24 亀塚遺跡 | 34 小川志茂城跡 | 42 藤井城跡 |
| 5 竹ノ花遺跡 | 15 堀内古墳 | 25 獅子塚古墳 | 35 下懸遺跡 | 43 木戸古城遺跡 |
| 6 上橋下遺跡 | 16 堀内貝塚 | 26 姫塚古墳 | 36 五反田遺跡 | 44 木戸城遺跡 |
| 7 野辺遺跡 | 17 碧海山古墳 | 27 崖古墳 | 37 加美遺跡 | 35 木戸城跡 |
| 8 彼岸田遺跡 | 18 桜林遺跡 | 28 姫小川古墳 | 38 岩根城跡 | |
| 9 下橋下遺跡 | 19 山伏塚古墳 | 29 王塚古墳 | | |
| 10 古井堤遺跡 | 20 比蘇山古墳 | 30 誓願寺境内地 | | |

第2図 惣作遺跡と周辺の遺跡 (S=1/25000)



※安城市都市計画基本図(H14年測量)

第3図 惣作遺跡調査区位置図 (S=1/2500)

第3節 遺跡の概要

惣作遺跡は、碧海台地の縁辺に沿って流れる鹿乗川左岸の微高地上に立地する。この微高地は矢作川及びその支流によって形成されたと考えられ、砂層・シルト層が基盤となる。遺構検出面の標高は6～7mを測り、碧海台地とは3～4mの比高がある。現在鹿乗川は直線的に改良されているが、それ以前は矢作川の浸食や堆積などの影響で、かなり入り組んだ地形であったことが、発掘調査などから判っている。

今回の調査区では、C・D・E・F区部分が最も高く安定しており、その周辺が低地部になる。この安定した微高地の北から西、さらに南にかけては河道が走り、時期によってその形状を変えている。微高地の北側では古代の河道NR01・03が東西に走り、A・B間に中州状の微高地も形成されている。また西側及び南側には河道が走るが、弥生時代中期後葉の一時期のみ機能していたようで、その前後の時期にはみられない。東側についても、ゆるやかに落ち込む低地部となるが、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては一時期居住域にもなっており、古代には再び低地状の地形になる。このように惣作遺跡は、基盤形成を含め、河川の影響を強く受けて立地していることが判る。

鹿乗川に沿った碧海台地縁辺部には、多くの遺跡が集中する(第2図)。最も古い時期の遺跡としては、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土坑墓・土器棺墓・貝塚が出土した堀内貝塚がある。さらに遺構ははっきりしないがこの時期の遺物が出土している遺跡として、釈迦山遺跡、桜林遺跡、亀塚遺跡があげられる。弥生時代になって遺跡が集中するのは、古井堤遺跡や上橋下遺跡、下橋下遺跡などが近接して存在する一帯で、これらの遺跡を総称して古井遺跡群と呼ばれる場合もある。古井遺跡群は弥生時代から古墳時代初頭まで地点を変えながら連続して営まれる集落遺跡で、弥生時代中期後半期に最盛期を迎える。また弥生時代中期後半の遺跡としては中狭間遺跡や加美遺跡・下懸遺跡がある。さらに弥生時代後期から古墳時代初頭になると、人面文土器が出土した亀塚遺跡、環濠と思われる溝が検出されている本神遺跡や中狭間遺跡、遺物が大量に出土した桜林遺跡・下懸遺跡など多くの遺跡が出現する。この地域の古墳で時期が判明しているものはわずかであるが、全長69mを測る前方後方墳である二子古墳を中心とした塚越古墳・比蘇山古墳・碧海山古墳などと、全長69mの前方後円墳を中心とした獅子塚古墳・姫塚古墳・八ツ塚古墳などのグループに分かれる。奈良時代には惣作遺跡の西約300mのところ寺領廃寺が建立され、下懸遺跡では習書木簡が出土している。



写真3 地元説明会(1)



写真4 地元説明会(2)

第2章 遺 構

第1節 時期区分

遺構・遺物の消長をもとに下記のような時期区分を設け、記述もそれに従って行っている。

- ・ A期 弥生時代から古墳時代初頭
 - A—1期 弥生時代前期後半～中期前葉 水神平式期～岩滑式期・朝日式期
 - A—2期 弥生時代中期後半 古井式期～凹線文期
 - A—3期 弥生時代後期～古墳時代初頭 山中式期～廻間式期
- ・ B期 平安時代前半
 - B—1期 井ヶ谷78号窯式期～黒笹90号窯式期
 - B—2期 折戸53号窯式期
- ・ C期 戦国時代から江戸時代
 - C—1期 鎌倉時代
 - C—2期 戦国時代～江戸時代
 - C—3期 江戸時代後期以降

第2節 A・B区（図版1・2）

A・B区は、北半をA区、南半をB区として調査を行った。

調査区中央部には、灰黄色砂を基盤とする幅約23mの微高地が北東から南西方向に走り、北側はゆるやかに落ち込み、南側はやや急に下がっている。

遺構は、中央の微高地部分では竪穴建物・溝・土坑が検出されるが、斜面部分ではわずかな土坑が確認されたのみである。またB区では、南側の落ち込み（NR01）の埋没後に、土坑・溝・水田などの遺構が作られており、前者を2面、後者を1面として調査した。

1 建物

SB02・SB04 SB02は微高地部分の北東端で検出された方形の竪穴建物で、長径617cm、短径598cm、深さ3cmを測り、柱穴（P26、P27、P28、P32）も確認されている。時期については、遺物が出土しておらず不明である（第8・9図）。SB04はSB02の南西で検出された深さ6cmの段状の落ち込みで、方形を呈すると推定される。埋土中より3の壺口縁部や土師質土器片が出土しており、A—3期になると思われるが、竪穴建物であるかは判然としなかった。

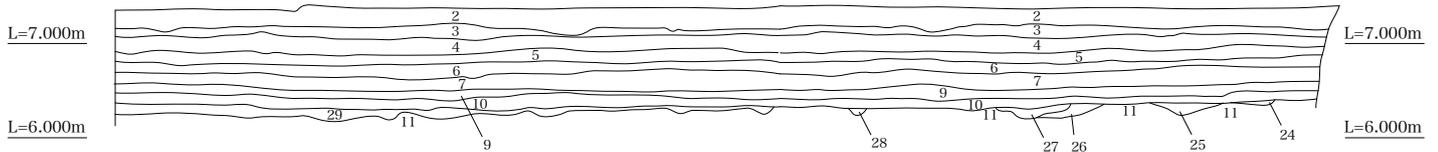
2 土坑・溝

SK05 SD04を切る長径140cm、短径117cm、深さ60cmの楕円形の土坑で、暗灰黄色と黒褐色砂質シルトの斑土の中に黒褐色砂質シルトを主とする埋土が袋状に堆積する。遺物は出土していない（第10図）。

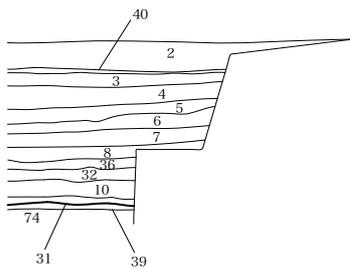
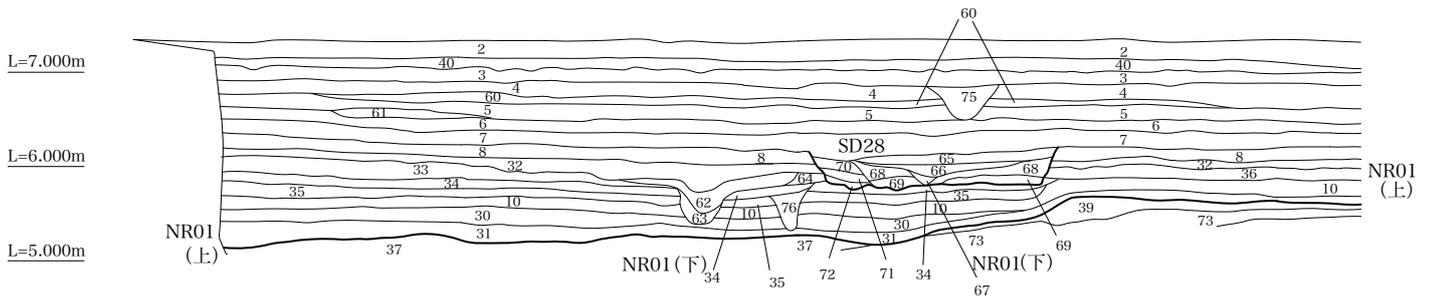
SK13 SB02を切る長径150cm、短径137cm、深さ44cmの楕円形の土坑で、下位2/3程が灰黄色砂と黒褐色粘質シルト、上位にオリーブ褐色粘質シルトが堆積する。遺物は出土していない（第8・9図）。

SK20・SD27・SD28 上面（1面）で検出された遺構群となる。SK20は長径431cm、短径246cm、深さ47cmの長方形の土坑、その北東隅から延びて東に折れるSD27は幅64cm、南西隅から続くSD28は幅188cmで、共に断面はU字形を呈する。SK20、SD27、SD28の関係は、基本的には一連の遺構と考えてよさそうであるが、SK20の土層断面（第11図）をみると、溝部分のみ再

A区北壁



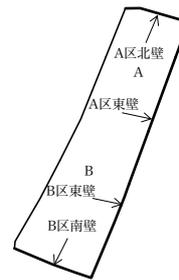
B区南壁



L=7.000m

L=6.000m

L=5.000m



A区北壁

2. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む(現代水田 作土)
3. 2.5Y5/3	黄褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり強い(現代水田 田床)
4. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり強い(現代水田 田床)
5. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり強い(現代水田 田床)
6. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり弱い 洪水層?明和年間か?
7. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり弱い 洪水層?明和年間か?
9. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
10. 2.5Y3/2	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
11. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む炭化物を微量に含む 包含層(平安)
24. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む砂粒を多く含む 包含層(平安)
25. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む(基盤層)
26. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む
27. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトを多量に含む
28. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む
29. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む

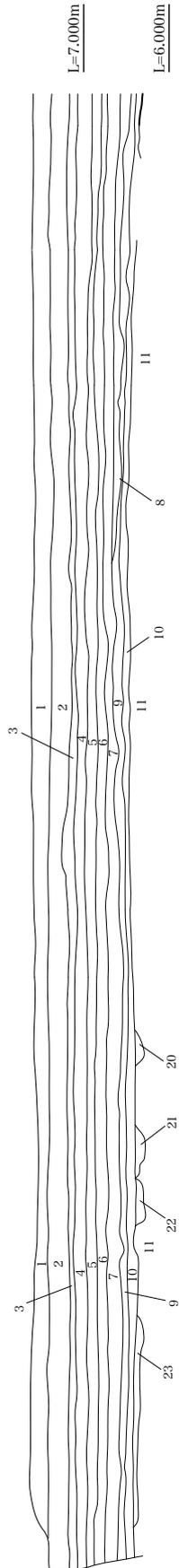
B区南壁

2. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む(作土)
3. 2.5Y5/3	黄褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり強い(田床)
4. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり強い(田床)
5. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり強い(田床)
6. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり弱い(田床)
7. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり弱い(田床)
8. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む しまり弱い(田床)
10. 2.5Y3/2	暗灰黄色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
30. 2.5Y3/2	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
31. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む砂粒を多く含む包含層(奈良・平安)
32. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
33. 2.5Y2/1	黒色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
34. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む 炭化物を多量に含む
35. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
36. 2.5Y3/1	黄灰色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
37. 2.5Y3/2	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
39. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
40. 2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色)の混合土 (NR01古墳)
60. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
61. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
62. 2.5Y2/1	黒色	シルト	2.5Y3/1	(黄灰色) 粘質シルトを少量含む 木質を多量に含む
63. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y4/1	(黄灰色) 粘質シルトを含む
64. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y4/1	(黄灰色) 粘質シルトφ2~3cmブロックを含む
65. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y4/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む
66. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y4/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む
67. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	2.5Y3/1	(黄灰色) 粘質シルトφ1cmブロックを少量含む
68. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黄灰色) 粘質シルトφ1cmブロックを含む
69. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黄灰色) 粘質シルトφ1~4cmブロックを多量に含む
70. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y3/1	(黄灰色) 粘質シルト
71. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む
72. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む
73. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトを含む
74. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトに混合土
75. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5Y3/1	(オリーブ黒色) 細粒砂木質を多量に含む
76. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む

第4図 A区北壁、B区南壁土層断面図 (S=1/80)

A区東壁

L=8,000m SP1



B区東壁

L=8,000m SP1

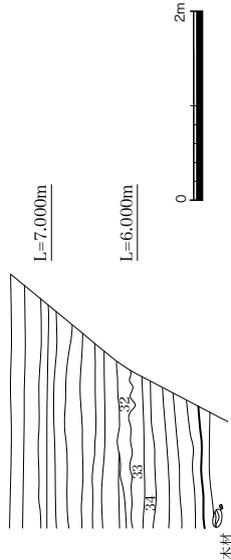
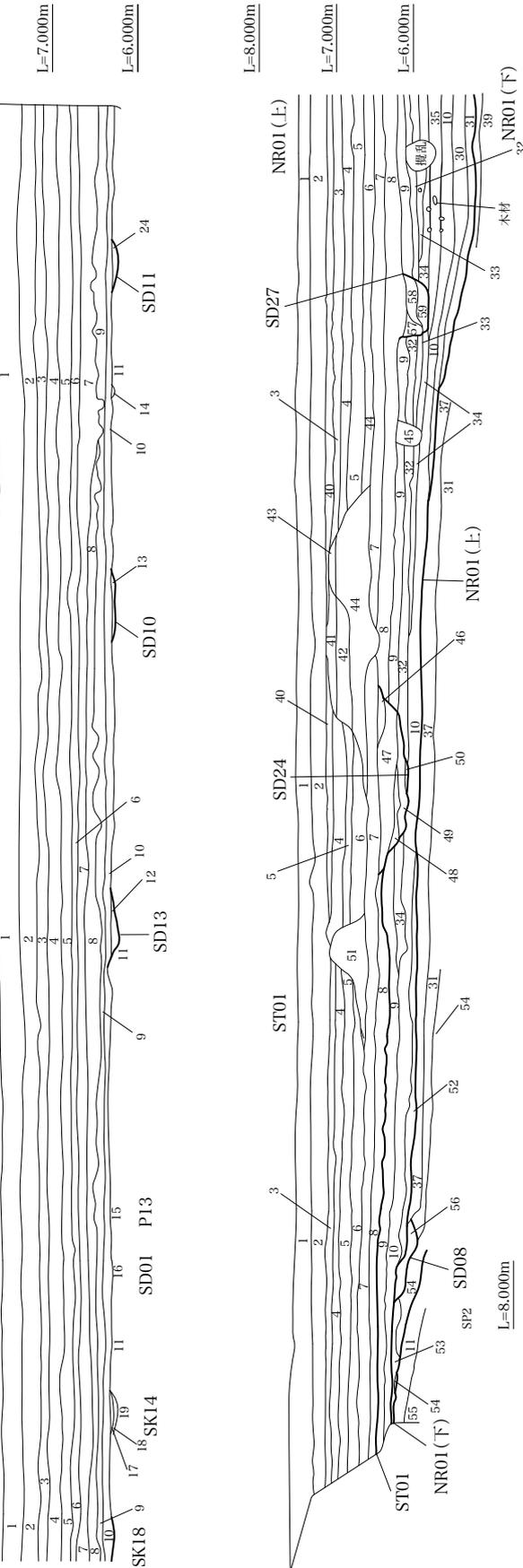


图5 图 A区東壁、B区東壁土層断面图(1) (S=1/80)

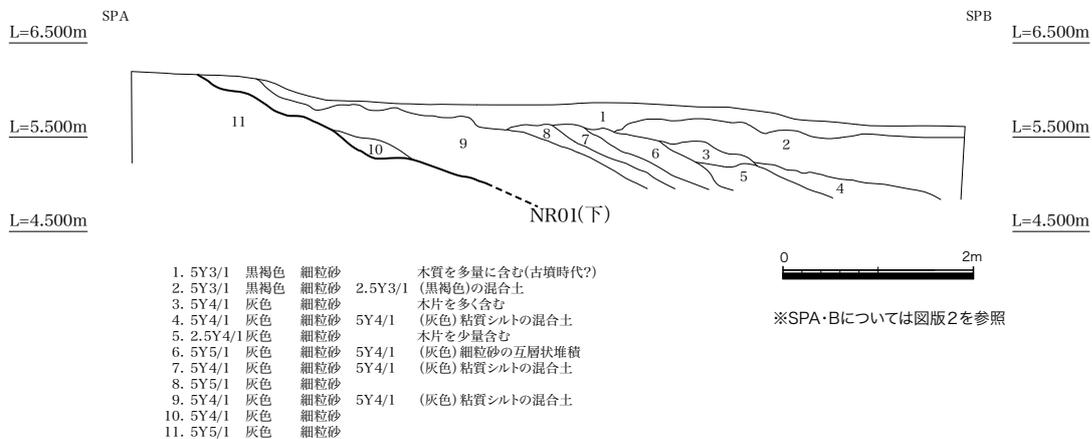
A区東壁

1. 盛土					
2. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	(現代水田 作土)
3. 2.5Y5/3	黄褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	しまり強い(現代水田 田床)
4. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	しまり弱い 洪水層?明和年間か?
5. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	しまり弱い 洪水層?明和年間か?
6. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	
7. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	
8. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	
9. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	炭化物を微量に含む 包含層(平安)
10. 2.5Y3/2	暗灰黄色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	砂粒を多く含む包含層(平安)
11. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	(基盤層)
12. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む	
13. 2.5Y3/1	黒褐色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトブロックを含む	
14. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトの混合土	
15. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂の混合土	
16. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂を含む	
17. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂を含む	
18. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y4/3	(オリーブ褐色) 粘質シルトを微量に含む	
19. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	(基盤層)
20. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトブロックを含む	
21. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	2.5Y5/2	(黒褐色) 粘質シルトブロックを含む	
22. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトブロックを含む	
23. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトブロックを含む	
24. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y3/1	(暗灰黄色) 砂質シルトの混合土	

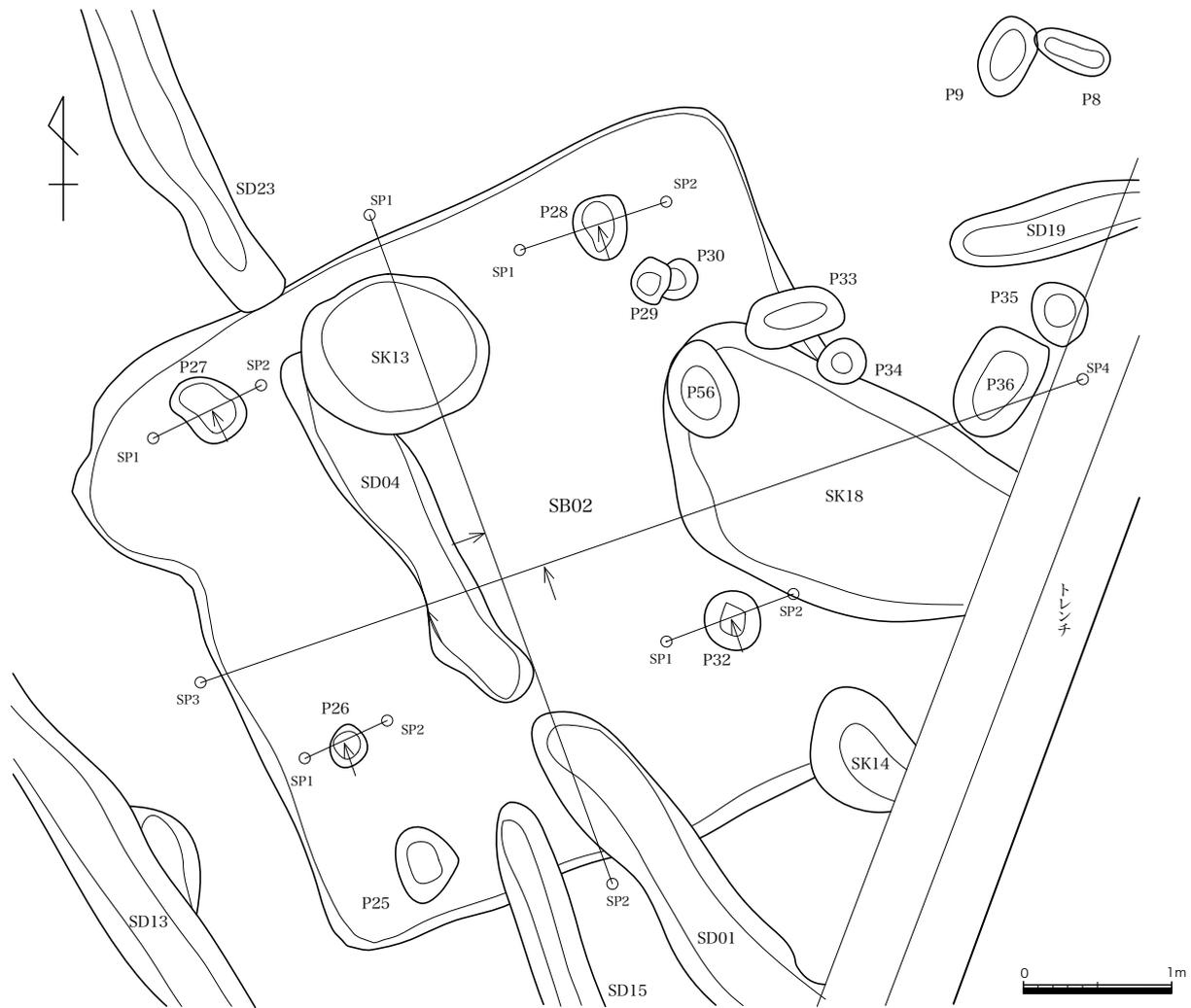
B区東壁

1. 盛土					
2. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	(作土)
3. 2.5Y5/3	黄褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	しまり強い(田床)
4. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	しまり弱い 洪水層?明和年間か?
5. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	しまり弱い 洪水層?明和年間か?
6. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	
7. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	
8. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	
9. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	炭化物を微量に含む 包含層(平安)
10. 2.5Y3/2	暗灰黄色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	砂粒を多く含む 包含層(平安)
30. 2.5Y3/2	黒褐色	粘質シルト		材木質を多量に含む	砂粒を多く含む
31. 5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂		木質を多量に含む(平安時代?)	
32. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト		炭化物・木質を多量に含む	包含層
33. 2.5Y2/1	黒色	粘質シルト		木質を多量に含む	包含層
34. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを含む	炭化物を多量に含む 包含層
35. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト		砂粒を多く含む	木質を多く含む 包含層
37. 2.5Y3/2	黒褐色	粘質シルト		木質を多量に含む	
39. 5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 粘質シルトの混合土	
40. 2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂		(田床)	
41. 2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト		しまり強 (近世畦畔)	
42. 5Y5/2	灰オリーブ色	シルト		(近世畦畔)	
43. 2.5Y5/3	黄褐色	シルト		しまり強 (近世畦畔)	
44. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト		(近世畦畔)	
45. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y4/1	(黄灰色)シルトを少量含む	
46. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	2.5Y3/1	(黒褐色)シルトを少量含む	
47. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト			
48. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂			
49. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト			
50. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト			
51. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト		(近世畦畔)	
52. 2.5Y2/1	黒色	砂質シルト		木質を多量に含む 包含層 ※特に3層との境は木片が面的に検出できる	
53. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色)シルトブロックを少量含む	
54. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色)シルトブロックを微量に含む	
55. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂			
56. 2.5Y3/1	黒褐色	シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色)シルトの混合土	
57. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	5Y4/1	(灰色)粘質シルトを含む	
58. 5Y4/1	灰色	粘質シルト			
59. 5Y4/1	灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色)粘質シルトの混合土	

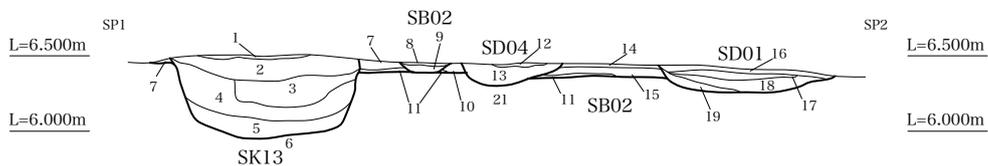
第6図 A区東壁、B区東壁土層断面図(2) (S=1/80)



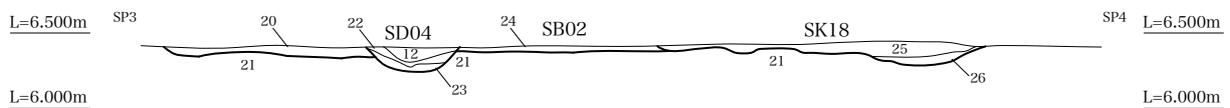
第7図 B区 NR01 下層土層断面図 (S=1/80)



南北断面



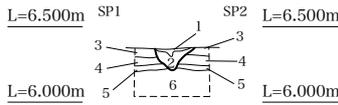
東西断面



1. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	
2. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘質シルト	
3. 2.5Y6/2	灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 粘質シルトブロックを含む
4. 2.5Y6/2	灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 粘質シルトブロックを多量に含む
5. 2.5Y6/2	灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 粘質シルトの混合土
6. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	
7. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む
8. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	
9. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土
10. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む
11. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	
12. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	
13. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土
14. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	
15. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 粘質シルトブロックを少量含む
16. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 粘質シルトブロックを含む
17. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	
18. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を多く含む
19. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	
20. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 粘質シルトを少量含む
21. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	
22. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	
23. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを含む
24. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を多く含む
25. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	
26. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を含む

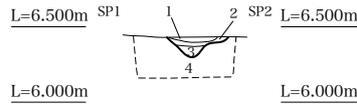
第 8 図 A 区 SB02 平面図・土層断面図 (S=50)

P26



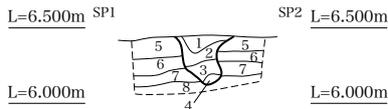
- | | | | | |
|------------|------|-------|---------|-------------------|
| 1. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 | (暗灰黄色) 細粒砂 |
| 2. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 | (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む |
| 3. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | しまり強 |
| 4. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | しまり弱 |
| 5. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | しまり強 |
| 6. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | しまり弱 |

P27



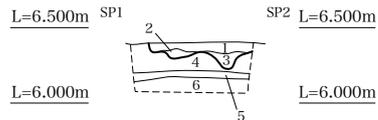
- | | | | | |
|------------|------|-------|---------|----------------------|
| 1. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 5YR3/6 | (暗赤褐色) 酸化ブロックを含む |
| 2. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 | (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 3. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 | (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量含む |
| 4. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | |

P28



- | | | | | |
|------------|------|-----|---------|----------------------|
| 1. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 | (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 2. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 | (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量含む |
| 3. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y7/2 | (灰黄色) 中粒砂 |
| 4. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y7/2 | (灰黄色) 中粒砂を微量含む |
| 5. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | |
| 6. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | しまり弱 |
| 7. 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 中粒砂 | | |
| 8. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | |

P32



- | | | | | |
|------------|------|-------|---------|-------------------|
| 1. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 | (暗灰黄色) 細粒砂を含む |
| 2. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 | (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む |
| 3. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | |
| 4. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | |
| 5. 2.5Y5/1 | 灰黄色 | 細粒砂 | | |
| 6. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | | |

第9図 A区柱穴土層断面図 (S=1/50)

掘削された可能性がある。SK20より須恵器や土師質土器片が少数出土したのみであるので、遺物から時期は決定できないが、土層断面(第5・6図)の観察により南側にあるB期のNR01の埋没後で、C-2期のST01以前に掘削されと考えられた。

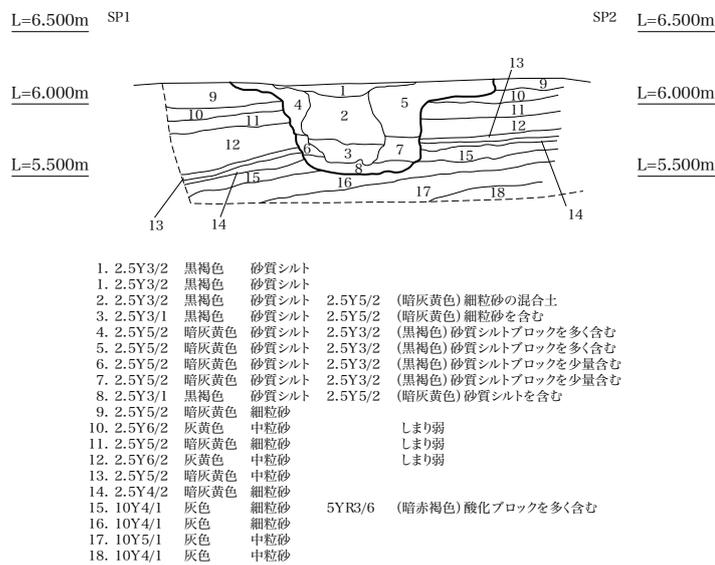
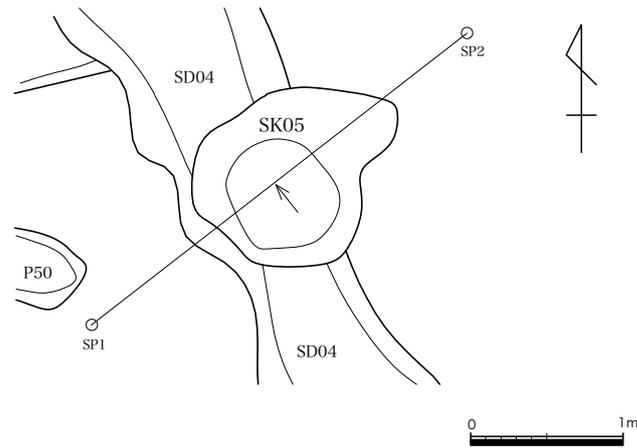
溝群 中央の微高地部分にみられた溝群で、北西-南東方向に220cm~260cmの間隔をもって規則的に並列する。多くは幅40cm前後、深さ6cm~20cmを測るが、西側のSD03~05、SD07、SD09は幅100cm前後とやや大きい。またこの西側のSD03~05は、直交するSD07や南東に延びるSD06と区分なく連続している。これらの溝の方向には、北側にあるSD01、SD09、SD12、SD18、SD20~23の一群と、それ以外のやや西に傾く一群の2種類があり、後者が前者より後に掘削されている。所属時期は、小片の遺物しか出土していないため不明であるが、土層断面の観察によりB期以前になると考えられる。

3 その他

NR01 南側で検出された東西からやや北に振れた方向に走る河道で、北肩部分と斜面が検出されている。調査では遺物の出土がみられなくなり、埋土が粘質・シルト質から砂質に変わる境界面での検出を行ったが、斜面は南東に向かって100cm程ゆるやかに落ち込み、南東隅で急に40cm程深くなる。埋土中よりB期の土器・木器が出土する。さらにこの下層については、湧水により人力での掘削が不可能であったので、重機によって可能な限り確認したが、底面まだ到達していない(第7図)。また下層埋土中ではA-3期の甕上半部(19)や木質片が出土した。

木器集積 NR01の下層においてほぼ同じ高さで出土した木器群で、調査区壁沿いに西側(木器集積1)と東側(木器集積2)に分かれる(写真図版3)。集積内には木筒や加工品、杭、加工材などが含まれる。また木器集積には含めなかったが、2つの集積の間には同じ高さで堅杵、横槌が出土している(写真図版3)。時期はB-2期。

ST01 上面(1面)で検出された遺構。約17cmの比高をもつ段状の落ち込みで、埋土は黄灰色粘質シルトで、水田跡と推定した。鉄軸の播鉢(6)が出土している。時期はC-2期。またこのST01と並行、直交するSD24、SD25、土坑SK22もST01に関連する遺構の可能性はある。



(基本平面図のSK05のラインは1.2.3層の堆積を中心に検出したため、西肩部などで一致しない部分がある。)

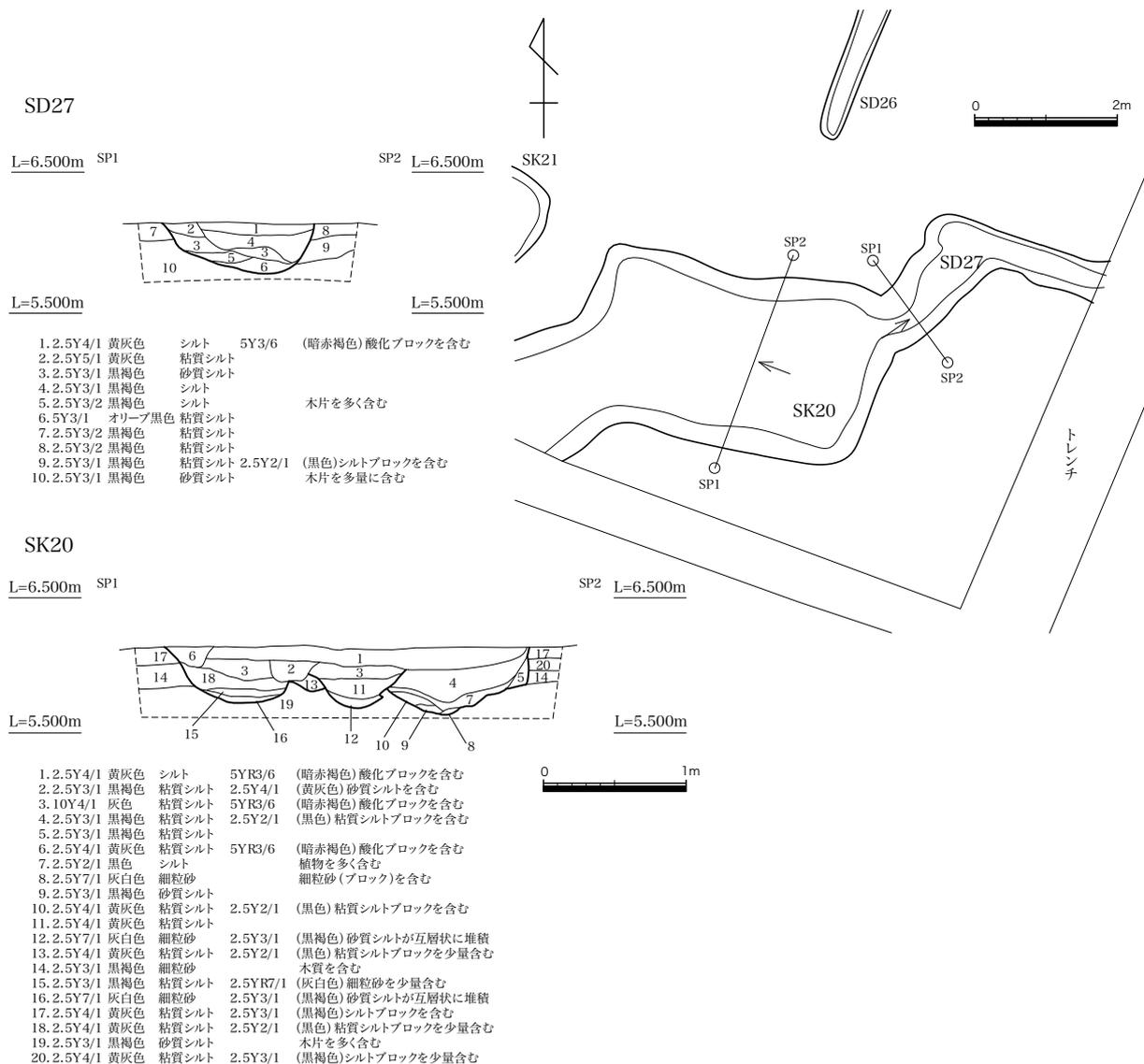
第 10 図 A 区 SK05 平面図・土層断面図 (S=1/50)

第 3 節 C・D・E 区 (図版 3～7)

C・D・E 区は北半を C 区、南半を D 区、D 区南東隅から細長く延びる調査区を E 区とした。

C 区北西端には B 区の南側にあった NR01 の南肩 (NR03) がわずかにかかっており、北側に落ち込んでいくと推定された。また E 区東端でもゆるやかな落ち込み SD65、NR02 が確認され東側に向かって落ち込んでいく。これ以外の大部分の調査区は微高地となり、B-3 期以降の遺構 SD42 が C 区と D 区の境界部分に東西に走り、B-2 期の大型土坑 SX10、SX11 が D 区南西にみられる。

遺構検出は黒褐色・暗灰黄色粘質シルト・砂質シルトと暗灰黄色砂の境界面で行ったが、C 区ではわずかな高低差で古代以降の B 期遺構が検出される面と弥生時代の A 期遺構が検出される面があり、上下面 (1 面・2 面) として調査した。D 区では、上下面の区別が困難であったため、1 面で遺構検出を行っている。また C・D 区には、さらに下位に北東—南西方向に走る A-1 期の溝 SD59 が確認



第 11 図 B 区 SD27、SK20 平面図・土層断面図 (S=1/50)

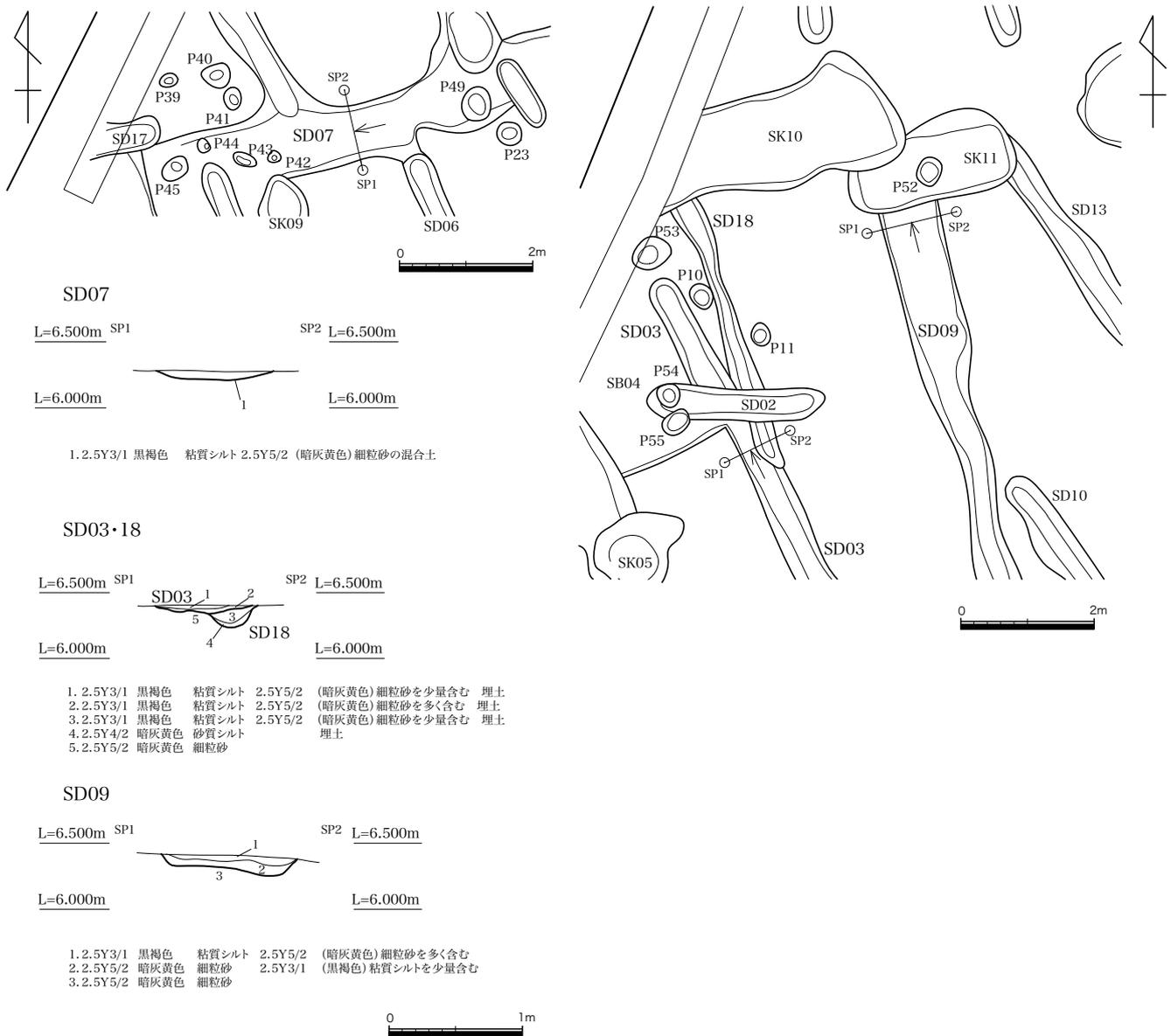
されており、3面として調査した。E区では住居の重複が激しいため2面(1面・2面)に分けて検出したが、土層断面をみると2面では捉えきれなかった遺構がさらに重なっていることが判った。また東端部分のみSD65(3面)→SB18・22等(2面)→NR02(1面)という遺構変遷がみられる。

1 建物

(1) C区1面検出

SB13 南東隅の一部分のみが検出された深さ約4cmの方形の堅穴状遺構で、灰釉陶器片が出土しており、堅穴建物では無い可能性もある。

SB14 (P155～158)・SD55 200cmの間隔をおいて4基、ほぼ東西に3間並ぶ柱穴列又は柵で、南はSD42、西はSX03に切られて不明である。柱穴は、径38～69cm、深さ1～24cmを測り、楕円形から円形を呈する。この柱穴列SB14から300cm程の間隔をおいて、北東側を囲むようにSD55が巡る(第18図)。SD55は断面がU字形を呈し、深さ24cmを測り、SB14と関連のある遺構と考えられる(第19図)。SD55の時期はB-2期か。



第 12 図 A 区 SD07、SD03・18、SD09 平面図・土層断面図 (S=1/50、1/100)

(2) D区検出

SB35 南北径 586cm、東西径 737cm、深さ約 15cm を測る大型の竪穴建物で、西辺が不明である。各辺に沿って深さ 5～25cm の壁周溝が巡るが、南側が幅 35cm、東側が 50cm、北側が 215cm と幅広くなっている。特に北側のものは極めて大きく、土層断面観察によると溝内には暗灰黄色・灰黄色砂を多く含んだ黒褐色砂質シルトや黒褐色砂質シルトを含んだ暗灰黄色砂が堆積し、溝上位から建物全域にわたり炭化物・黒褐色砂質シルトを含む暗灰黄色砂が覆っている。また北と東壁部分には、100～160cm の間隔をもって並ぶピット列が検出されている (第 20・21 図)。時期は A-3 期。

SB36、SU04 SB35 に切られる竪穴建物で、東西 380cm、南北 480cm 以上、深さ約 32cm を測る竪穴建物。径 33～35cm、深さが 10～20cm を測る柱穴 (P354～357) が確認されている。埋土最下層には、厚さ 7cm 程の黒褐色砂を含む暗灰黄色砂がみられ、堆積状況より貼床と考えられた。その上層には 7cm 程の炭化物を多く含む暗灰黄色砂が堆積し、さらにその上に 15cm 程暗灰黄色砂

C区北壁・東壁

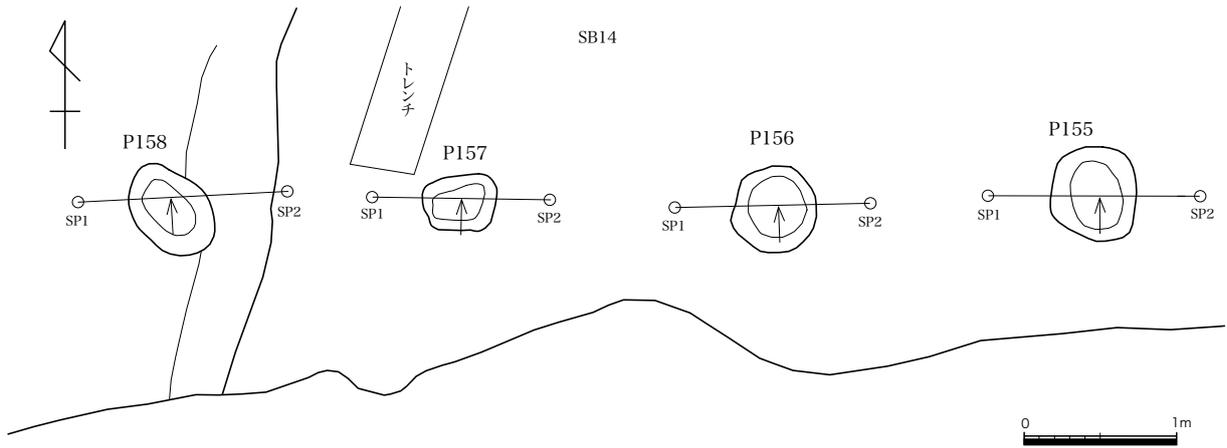
1. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y4/3	灰オリーブ色	2.5Y3/1	(黒褐色)シルトブロック少量を含む
2. 2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	76. 2.5Y4/2	灰オリーブ色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を多く含む
3. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	77. 2.5Y4/1	灰色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を多く含む
4. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	78. 5Y4/1	黒色	7.5Y7/1	(灰色)細砂の互層状堆積
5. 5YR3/6	暗赤褐色	細砂	79. 5Y3/2	オリーブ黒色		炭化物を少量含む
6. 2.5Y6/3	にぶい黄色	細砂	80. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/1	(黒褐色)粘質シルトの混合
7. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	81. 2.5Y4/1	灰色	2.5Y6/2	(灰黄色)中粒砂を多く含む
8. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	82. 10Y4/2	暗灰黄色	7.5Y7/1	(灰色)中粒砂を多く含む
9. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	83. 10Y4/1	灰色	7.5Y7/1	(灰色)中粒砂の互層状堆積
10. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	84. 2.5Y4/3	オリーブ褐色		φ3-2mmの礫を多く含む
11. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	85. 2.5Y4/3	オリーブ褐色		φ3-2mmの礫を多く含む
12. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	86. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/3	(暗赤褐色)粘土 (暗オリーブ色)シルトを多量に含む
13. 2.5Y6/2	暗灰黄色	シルト	87. 2.5Y5/2	暗灰黄色	2.5Y6/8	(暗赤褐色)粘土 (暗オリーブ色)シルトを多量に含む
14. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	88. 2.5Y3/2	暗灰黄色		74層のブロックを少量含む
15. 2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	89. 5Y4/2	暗オリーブ色		81層の土を少量含む
16. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	90. 2.5Y5/2	暗灰黄色	2.5Y3/3	(暗オリーブ褐色)シルトブロック少量含む
17. 2.5Y4/1	暗赤褐色	砂質シルト	91. 2.5Y5/2	暗灰黄色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂の互層状堆積
18. 2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	92. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/3	(暗オリーブ褐色)シルトブロック少量含む
19. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	93. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y5/2	(暗赤褐色)中粒砂の混合
20. 2.5Y4/1	灰色	細砂	94. 2.5Y5/2	暗灰黄色	2.5Y3/3	(暗オリーブ褐色)シルトブロックを含む
21. 2.5Y4/1	灰色	細砂	95. 5Y4/1	灰色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を少量含む
22. 5Y4/1	灰色	細砂	96. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を少量含む
23. 5Y4/1	灰色	細砂	97. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を少量含む
24. 2.5Y4/1	灰色	細砂	98. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を少量含む
25. 5Y4/1	灰色	細砂	99. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を少量含む
26. 5Y4/1	灰色	細砂	100. 5Y3/2	オリーブ黒色	2.5Y6/2	(灰黄色)細砂を少量含む
27. 5Y4/1	灰色	細砂	101. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/1	(黒褐色)砂質シルト多く含む
28. 5YR3/6	暗赤褐色	中粒砂	102. 2.5Y3/1	黒褐色		シルト
29. 2.5Y6/3	にぶい黄色	細砂	103. 2.5Y3/1	黒褐色		シルト
30. 2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	104. 2.5Y3/1	黒褐色		シルト
31. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	105. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/1	炭化物を含む
32. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	106. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/3	(黒褐色)砂質シルトの混合
33. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	107. 2.5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y3/3	(暗オリーブ褐色)砂質シルトブロックを含む(φ3cm)
34. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	108. 2.5Y5/2	暗灰黄色	2.5Y7/2	(暗オリーブ褐色)砂質シルトブロックを含む(φ4cm)
35. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	109. 10Y4/1	灰色		シルト
36. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	110. 2.5Y7/2	暗灰黄色		細砂
37. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	111. 2.5Y7/2	暗灰黄色		細砂
38. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	112. 2.5Y4/2	暗灰黄色		細砂
39. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	113. 2.5Y4/3	オリーブ褐色		細砂
40. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	114. 5Y4/2	オリーブ褐色		細砂
41. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	115. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	2.5Y3/3	φ2-3mmの礫を多く含む
42. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	116. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	2.5Y3/3	φ2-3mmの礫を多く含む
43. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	117. 5Y4/3	灰黄色		(暗オリーブ褐色)シルトブロックを多く含む
44. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	118. 2.5Y4/3	オリーブ褐色		シルト
45. 5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	119. 2.5Y4/4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	(オリーブ褐色)中粒砂ブロックを少量含む
46. 5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	120. 2.5Y4/4	オリーブ褐色	2.5Y6/2	(灰黄色)砂質シルトを少量含む
47. 2.5Y7/1	灰白色	砂質シルト	121. 2.5Y4/6	オリーブ褐色	7.5Y7/2	(灰色)中粒砂ブロックを多く含む
48. 2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	122. 2.5Y4/1	灰色	7.5Y7/2	(灰色)粘質シルトブロックを多く含む
49. 2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	123. 2.5Y4/1	灰色	7.5Y7/2	(暗灰黄色)粘質シルトの混合
50. 2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	124. 2.5Y3/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)中粒砂ブロックを多く含む
51. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	125. 2.5Y4/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)中粒砂ブロックを多く含む
52. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	126. 5Y4/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)中粒砂ブロックを多く含む
53. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	127. 10Y4/1	暗灰黄色	7.5Y7/2	(暗灰黄色)粘質シルトの混合
54. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	128. 5Y4/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)中粒砂ブロックを多く含む
55. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	129. 5Y3/1	黒褐色	7.5Y7/2	(灰白色)中粒砂ブロックを多く含む
56. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	130. 2.5Y3/1	黒褐色	2.5Y5/2	(暗灰黄色)粘質シルト
57. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	131. 5Y4/2	暗灰黄色	2.5Y5/2	(暗赤褐色)粘質シルト
58. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	132. 10Y4/1	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)シルトブロック少量を含む
59. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	133. 5Y4/2	暗灰黄色	5Y4/1	(灰色)細砂の混合
60. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	134. 5Y4/2	暗灰黄色		(暗赤褐色)粘質シルトの混合
61. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	135. 5Y3/2	暗灰黄色	5Y3/2	(オリーブ褐色)細砂の互層状堆積
62. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	136. 5Y3/2	暗灰黄色	5Y3/2	φ2-3mmの礫を多く含む
63. 2.5Y4/1	暗灰黄色	粗砂	137. 5Y3/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)細砂の互層状堆積
64. 5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	138. 5Y4/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)細砂の互層状堆積
65. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	139. 5Y4/2	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)細砂の互層状堆積
66. 2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	140. 10Y4/1	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)細砂の互層状堆積
67. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	141. 2.5Y4/1	暗灰黄色	7.5Y7/2	(灰白色)細砂を少量含む
68. 2.5Y4/1	暗灰黄色	砂質シルト	142. 2.5Y4/1	暗灰黄色	2.5Y3/3	(灰白色)細砂を少量含む
69. 2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	143. 2.5Y5/3	暗灰黄色	2.5Y3/3	(暗赤褐色)粘質シルトを多く含む
70. 2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	144. 2.5Y4/1	暗灰黄色	2.5Y4/2	(暗赤褐色)粘質シルトを多く含む
71. 2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	145. 2.5Y4/1	暗灰黄色		(暗赤褐色)粘質シルトを多く含む
72. 2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	146. 2.5Y4/1	暗灰黄色		(暗赤褐色)粘質シルトを多く含む
73. 2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	147. 2.5Y4/1	暗灰黄色		(暗赤褐色)粘質シルトを多く含む
74. 5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	148. 2.5Y4/2	暗灰黄色		(暗赤褐色)粘質シルトを多く含む
			149. .			(04D)東壁159層,160層,161層,163層,164層に対応

第14図 C区北壁・東壁、D区東壁土層断面図(2)(S=1/80)

D区東壁

3. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	(作上)
114. 5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	φ2~3mmの礫を含む
134. 5Y4/2	灰オリーブ色	粘質シルト	
144. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y4/2 (暗灰黄色) 砂質シルトブロックを少量含む(田床)
145. 2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	
146. 2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y4/4 (オリーブ褐色)シルトと 2.5Y4/2 (暗灰黄色)の混合土 木片を含む(攪乱土)
147. 2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	
148. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む
149. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを含む
150. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	
151. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	
152. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む φ1~2mmを含む 5YR3/6 (暗赤褐色) 酸化ブロックを多く含む
153. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
154. 10Y4/1	灰色	粘質シルト	
155. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	10Y4/1 (灰色) 粘質シルトブロックを少量含む 2.5Y6/2 (灰黄色) 中粒砂ブロックを少量含む
156. 2.5Y4/1	灰色	中粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 粗粒砂のブロックを多く含む
157. 2.5Y5/2	暗灰黄色	中粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 中粒砂を多く含む
158. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
159. 10Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む
160. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	7.5Y4/1 (灰色) 細粒砂の互層状堆積(厚さ3cm程度の互層)
161. 10Y4/1	灰色	砂質シルト	7.5Y4/1 (灰色) 細粒砂の互層状堆積(厚さ5mm程度の互層)
162. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	
163. 5Y5/1	灰色	中粒砂	10Y4/1 (灰色) 細粒砂の互層状堆積 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
164. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	10Y4/1 (灰色) 細粒砂の互層状堆積
165. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	
166. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	
167. 2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	
168. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	
169. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	
170. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	
171. 2.5Y6/2	灰色	粗粒砂	7.5Y5/1 (灰色) 細粒砂の層を含む
172. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	7.5Y5/1 (灰色) 細粒砂の層を含む
173. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土
174. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
175. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む 炭化物を微量に含む
176. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	炭化物の混合土
177. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	
178. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	炭化物を多く含む
179. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを多量に含む
180. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む 炭化物を微量に含む
181. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	
182. 2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂	φ1mm程度を含む
183. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む
183. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (灰黄色) 中粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
185. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを含む 炭化物を少量含む
186. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む
187. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
188. 5Y5/2	灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む
189. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む
190. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 中粒砂の混合土
191. 10Y4/1	灰色	中粒砂	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 粗粒砂の混合土
192. 10Y4/1	灰色	中粒砂	2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土
193. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 粗粒砂の互層状堆積
194. 2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	7.5Y5/1 (灰色) 細粒砂の層を含む
195. 5Y5/1	灰色	粘土	2.5Y7/3 (浅黄色) 粘土 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
196. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む しまり弱
197. 2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土

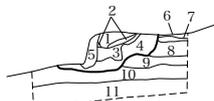
第15図 C区北壁・東壁、D区東壁土層断面図(3) (S=1/80)



P158

L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m

L=6.500m



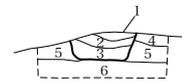
L=6.500m

1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
3. 2.5Y3/1 黒褐色 細粒砂 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂質シルト 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロック(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
5. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト
6. 2.5Y3/2 黒褐色 細粒砂
7. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂
9. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土
10. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂
11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積

P157

L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m

L=6.500m



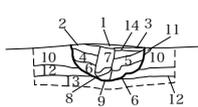
L=6.500m

1. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト
2. 2.5Y5/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y5/2 (灰黄色) 砂質シルトブロックを少量含む
3. 2.5Y5/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む
4. 2.5Y5/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) と砂質シルトブロックを含む
5. 2.5Y5/2 灰黄色 細粒砂
6. 2.5Y5/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を互層状に含む

P156

L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m

L=6.500m



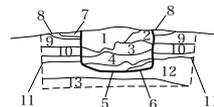
L=6.500m

1. 2.5Y3/3 灰オリーブ色 砂質シルト
2. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト
3. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト
4. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を含む
5. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土
6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
7. 2.5Y3/3 灰オリーブ色 砂質シルト 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を含む
8. 2.5Y3/3 灰オリーブ色 砂質シルト
9. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/3 (灰オリーブ色) 砂質シルト
10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
11. 2.5Y3/2 黒褐色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む
12. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
13. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を微量に含む
14. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト

P155

L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m

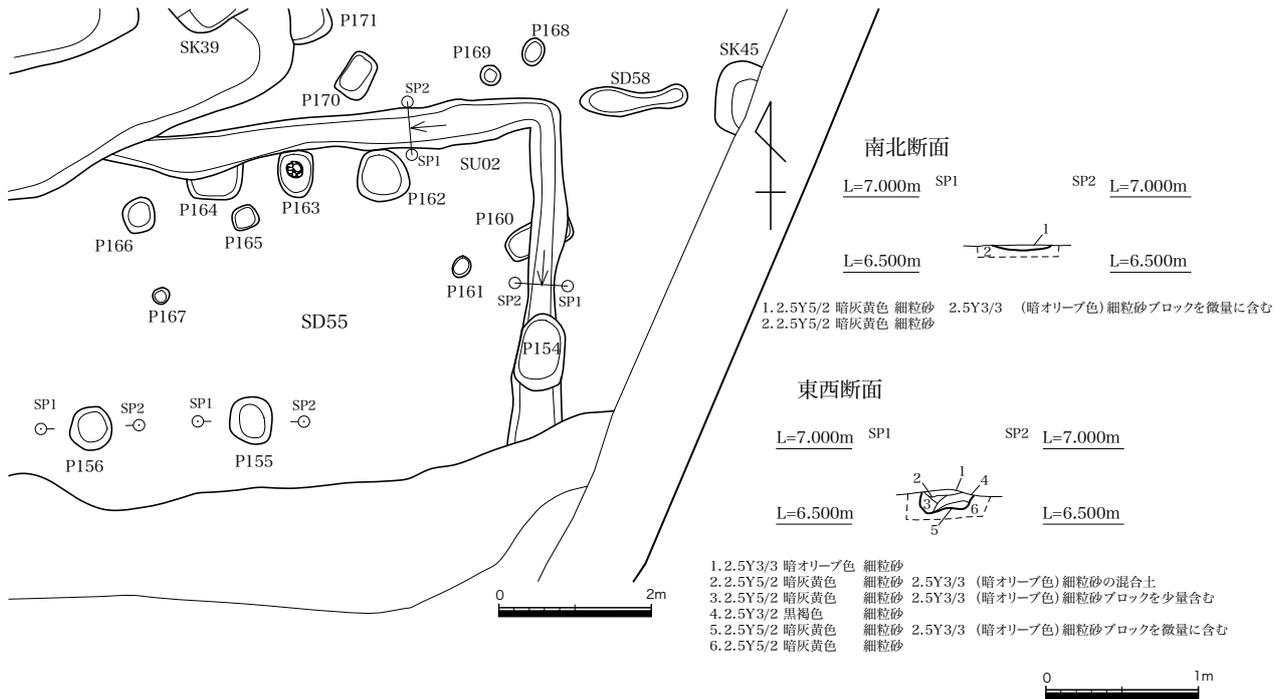
L=6.500m



L=6.500m

1. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土
3. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む
4. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土
5. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む
6. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックφ1cmを含む
7. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む
8. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土
9. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む
10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む
12. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂
13. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む

第 18 図 C 区 SB14 (P155 ~ P158) 平面図・土層断面図 (S=1/50)



第 19 図 C 区 SD55 平面図・土層断面図 (S=1/50、1/100)

が堆積する。土器集積 SU04 は建物北側の柱穴間で、炭化物を多く含む埋土中層の最上位より出土している。土器は 160cm 程の範囲一面に広がっており、焼成失敗品と思われる小片・細片・剥片や、炭化物を多く含んでいる (第 22 図、写真図版 9)。時期は A-1 期。

SB38 南北辺と西辺の一部が検出された深さ約 11cm の竪穴建物で、SB36 に切られる。

SB39 南西隅部分のみが SB35 に切られている。規模は長径 373cm、短径 316cm、深さ 11cm とやや小型の竪穴建物になる (第 20・21 図)。建物内より A-2 期の古井式甕 (31) が出土しているが、下位の遺構 SX13・14 と関連する遺物の混入とも考えられる。

SB40 東辺の一部分のみが検出されている、深さ約 19cm の竪穴状の落ち込み。SB36・38 に切られる。

SB43 (掘立柱建物 P347～352) 南北に 2 間、東西に 3 間並ぶ柱穴列で、北西側は SX11 によって切られている。柱穴は径 38～53cm、深さ 9～69cm を測り、円形および楕円形を呈する。柱穴列の方位は南北よりやや東に振れている (第 23・24 図)。時期は B 期か。

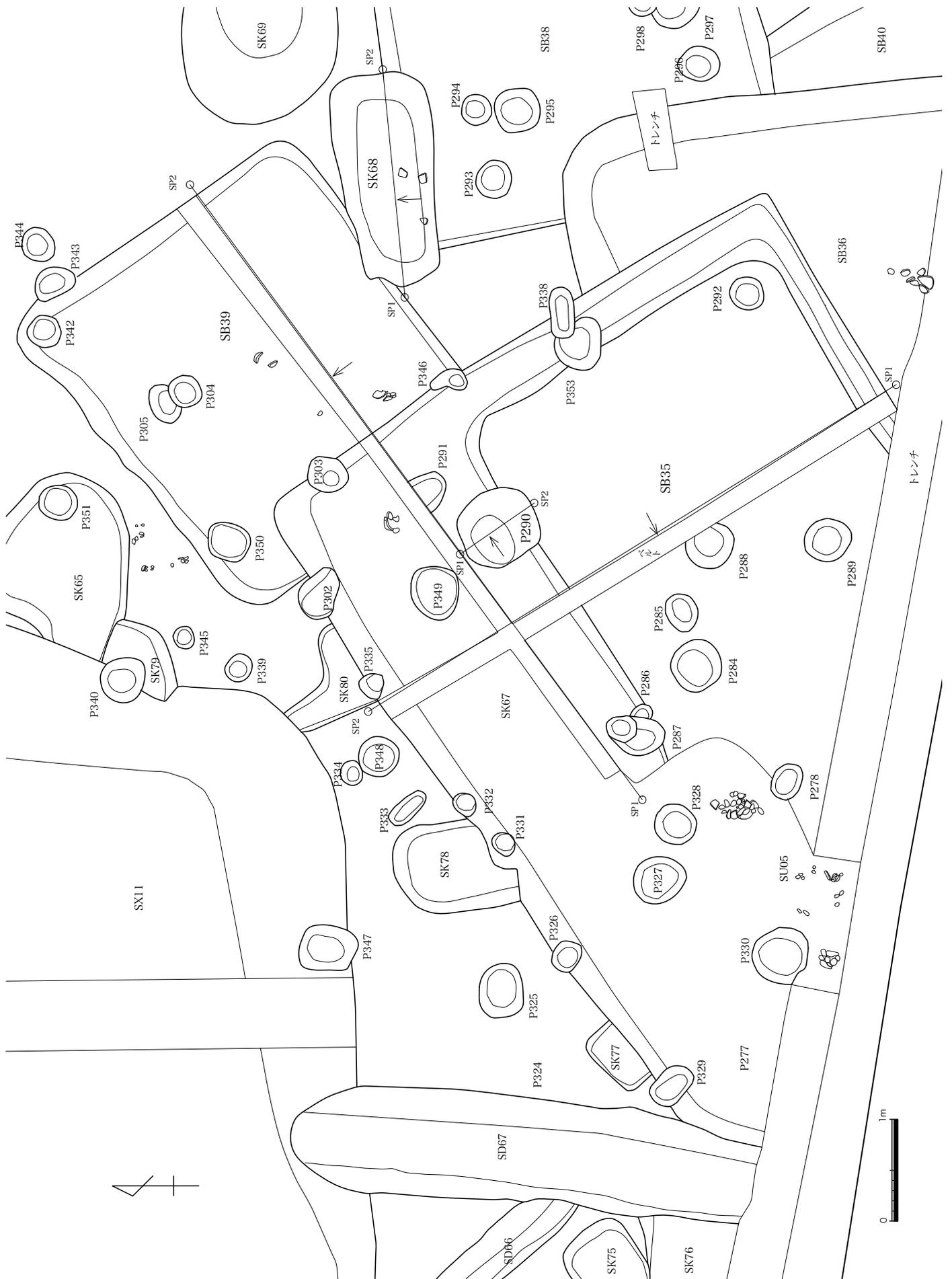
(3) E 区 1 面検出

SB07・SU01 深さ約 13cm の竪穴建物で、西辺のみが確認された (第 25 図)。中央部? の上位では、ややまとまって遺物 (36・37) が出土している (SU01)。時期は A-3 期。SB11 に切られる。

SB08 04 E 区 1 面目で検出された深さ約 4cm の竪穴建物で、東辺のみが確認されている (第 26・27 図)。時期は A-2 期か。SB09・12 に切られている。

SB09 径 699cm、深さ約 10cm の竪穴建物で、東西辺が確認された。中央やや東よりに長径 215cm、短径 150cm、厚さ約 0.5cm を測る焼土と炭化物の広がりが出土している (第 26・27 図)。時期は A-3 期。SB12 に切られている。

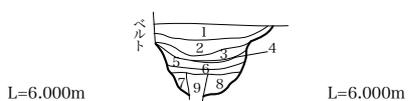
SB10 深さ約 8cm の竪穴建物で、西辺のみが確認された。確認部分の東側では、東西 200cm、南北 150cm の範囲で薄い炭化物の広がりが出土した。また炭化物・焼土を埋土とする、南辺の一部分



第20図 D区SB35・39、SK68、P290平面図・土層断面図(1) (S=1/50)

P290

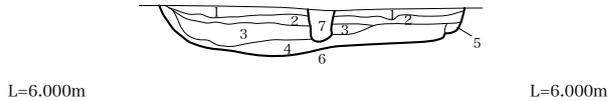
L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m



- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを含む |
| 2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂質シルト | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 4. 炭化物層 | |
| 5. 2.5Y3/1 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 炭化物層を含む |
| 6. 2.5Y3/1 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 8. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 9. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを多く含む |

SK68セクション

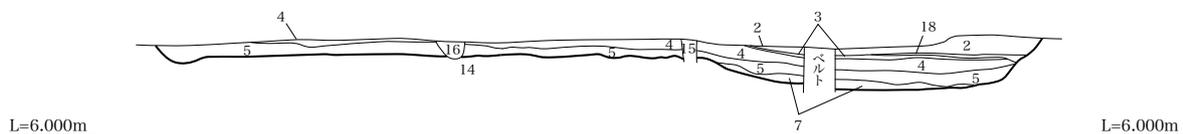
L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m



- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 2. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを含む |
| 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 4. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを含む |
| 5. 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト | |
| 6. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土(ベース) |
| 7. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを含む |

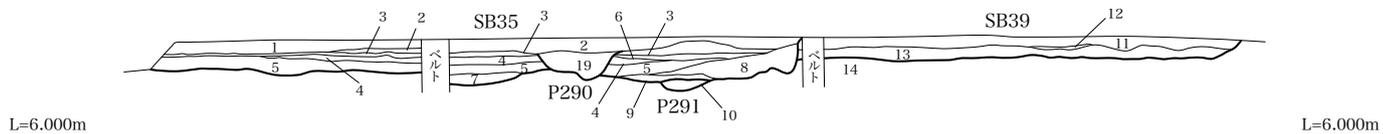
SB35・SB39南北断面

L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m



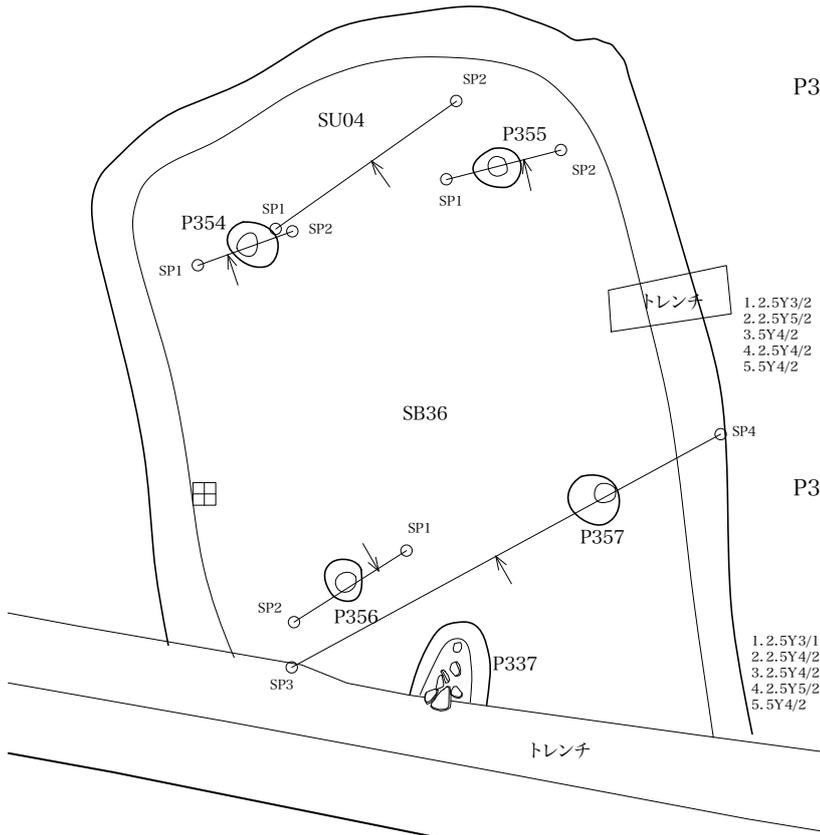
SB35・SB39東西断面

L=7.000m SP1 SP2 L=7.000m

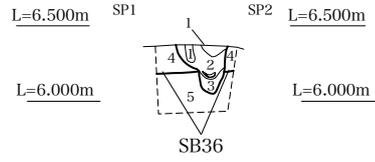


- | | | |
|----------------------|--|------------------------|
| 1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を多く含む | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 2. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | 炭化物を多く含む | |
| 3. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂と 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む | |
| 4. 2.5Y5/2 黒褐色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む | |
| 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む | 炭化物を含む |
| 6. 2.5Y6/2 灰黄色 細粒砂 | 炭化物を含む | |
| 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む | |
| 8. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂と 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多量に含む | |
| 9. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む | 炭化物を少量含む |
| 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む | |
| 11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む | |
| 12. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 13. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む | |
| 14. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む | |
| 15. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 炭化物を多く含む | |
| 16. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 炭化物を少量含む | |
| 17. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | | |
| 18. 炭化物層 | | |
| 19. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを含む | |

第 21 図 D 区 SB35・39、SK68、P290 平面図・土層断面図 (2) (S=1/50)

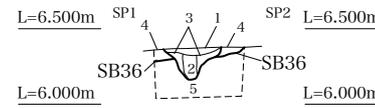


P354



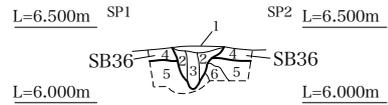
- | | | | |
|------------|--------|-------|-------------------------------|
| 1. 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 2. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 3. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | |
| 4. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む |
| 5. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | |

P355



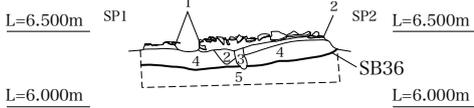
- | | | | |
|------------|--------|-------|-------------------------------|
| 1. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を含む |
| 2. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 3. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 4. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む |
| 5. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | |

P356



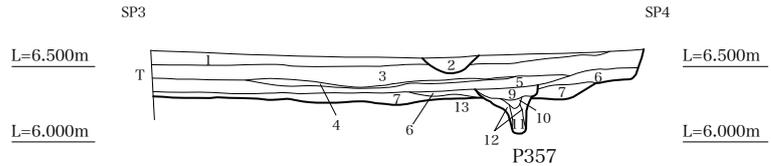
- | | | | |
|------------|--------|-------|----------------------|
| 1. 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト | |
| 2. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 3. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | |
| 4. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 5. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | |
| 6. 2.5Y6/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | |

SU04



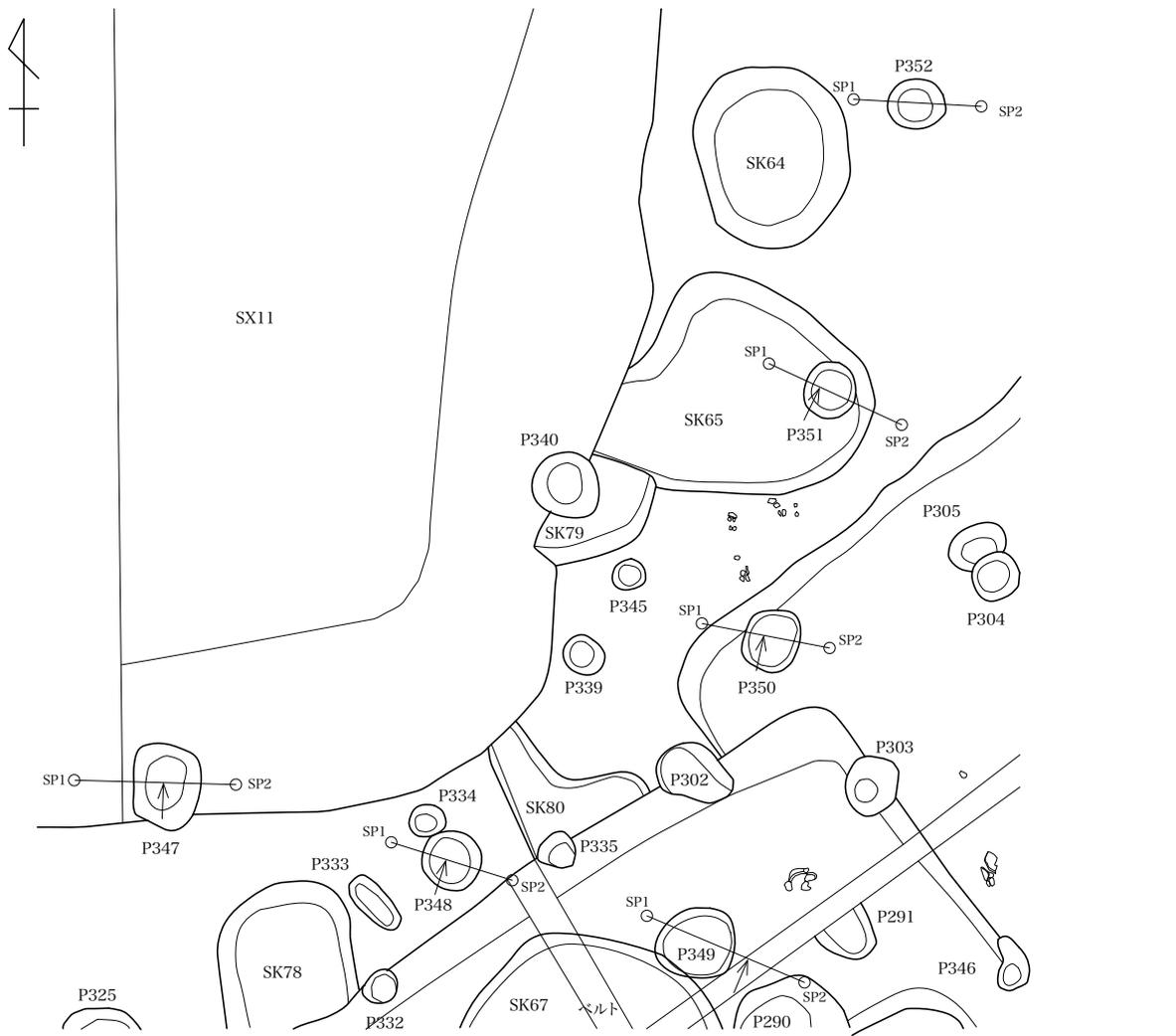
- | | | | | |
|------------|--------|-------|-------------------------|--------|
| 1. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む | 炭化物を含む |
| 2. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 | 炭化物を含む |
| 3. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む | |
| 4. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む | |
| 5. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む | |

SB36

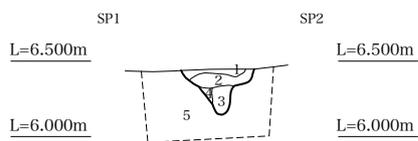


- | | | | |
|-------------|--------|-------|-------------------------------|
| 1. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む |
| 2. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 3. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む |
| 4. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 炭化物を多く含む |
| 5. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 炭化物を多く含む |
| 6. 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物を多く含む |
| 7. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 8. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 9. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 10. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 11. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 12. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 13. 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 | |

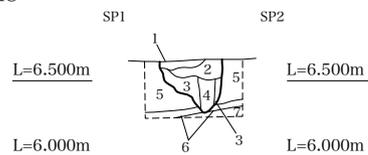
第 22 図 D 区 SB36 平面図・土層断面図 (S=1/50)



P347



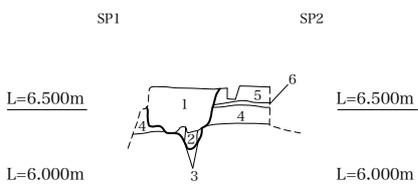
P348



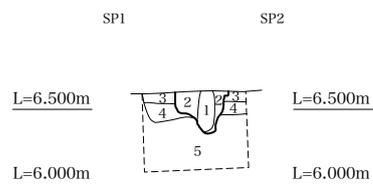
- 1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
- 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 3. 5Y4/2 灰オリーブ色 細粒砂
- 4. 5Y4/2 灰オリーブ色 細粒砂
- 5. 5Y4/2 灰オリーブ色 細粒砂
- 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
- 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
- 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
- しまり強

- 1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
- 2. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
- 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 5. 2.5Y6/2 暗灰黄色 細粒砂
- 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混入土
- 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
- 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを含む

P349



P350

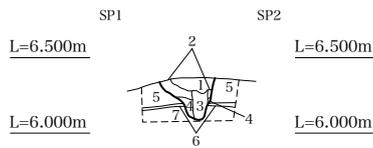


- 1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
- 2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂
- 3. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂
- 4. SB35 東西ベルトに対応
- 5. SB35 東西ベルトに対応
- 6. SB35 東西ベルトに対応
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロック径5cmを多く含む
- 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む
- 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む

- 1. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
- 2. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト
- 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 5. 5Y4/2 灰オリーブ色 細粒砂
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロック径5~10mmを少量含む
- 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロック径3mmを少量含む
- 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂
- 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む (SB39埋土)
- 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む (SB39埋土)

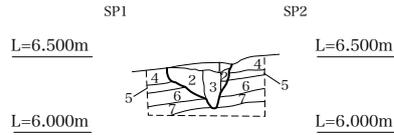
第 23 図 D 区 SB43 (P347 ~ P352) 平面図・土層断面図 (1) (S=1/50)

P352



1. 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	
3. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む
4. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
6. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混泥土
7. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積

P351



1. 2.5Y5/2 黒褐色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロック径3~5cmを含む
2. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む
3. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を微量に含む
5. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む
6. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
7. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む

第 24 図 D 区 SB43 (P347 ~ P352) 平面図・土層断面図 (2) (S=1/50)

が突出する円形の土坑 (SX18) も検出されている。SB09 に切られる (第 26・27 図)。時期は A-3 期か。

SB11 深さ約 12cm の竪穴建物で、北辺の一部が確認されたのみである。

SB12 深さ約 22cm の竪穴建物で、南西隅部分が確認されたのみである。

(4) E 区 2 面検出

SB15 南・北・東辺が検出されている。南北は 308cm、東西は推定で 475cm の長方形を呈し、深さは約 16cm を測る (第 28 図)。時期は A-2 期か。

SB16 深さ約 22cm の竪穴建物で、西辺と壁周溝が検出された。東辺は SD64 によって切られている。時期は A-2 期か。

SB17 北西隅部分が検出された、深さ約 12cm の竪穴建物で、NR02 によって東側が削られている。

SB18 SD65 の埋没後に掘削された竪穴建物で、北東隅部分とそれに沿って屈折する壁周溝が検出されている。深さは約 11cm。太頸壺 (53) が出土する。時期は A-3 期か。

SB19 深さ約 7cm の竪穴建物で、西辺のみが確認されている。SB16 に切られる。A-1 期の遺物が出土するが、時期ははっきりとしない。

SB20 深さ約 1cm の浅い竪穴建物で、北・西辺が確認された。北辺では円形に突出する部分がみられる。

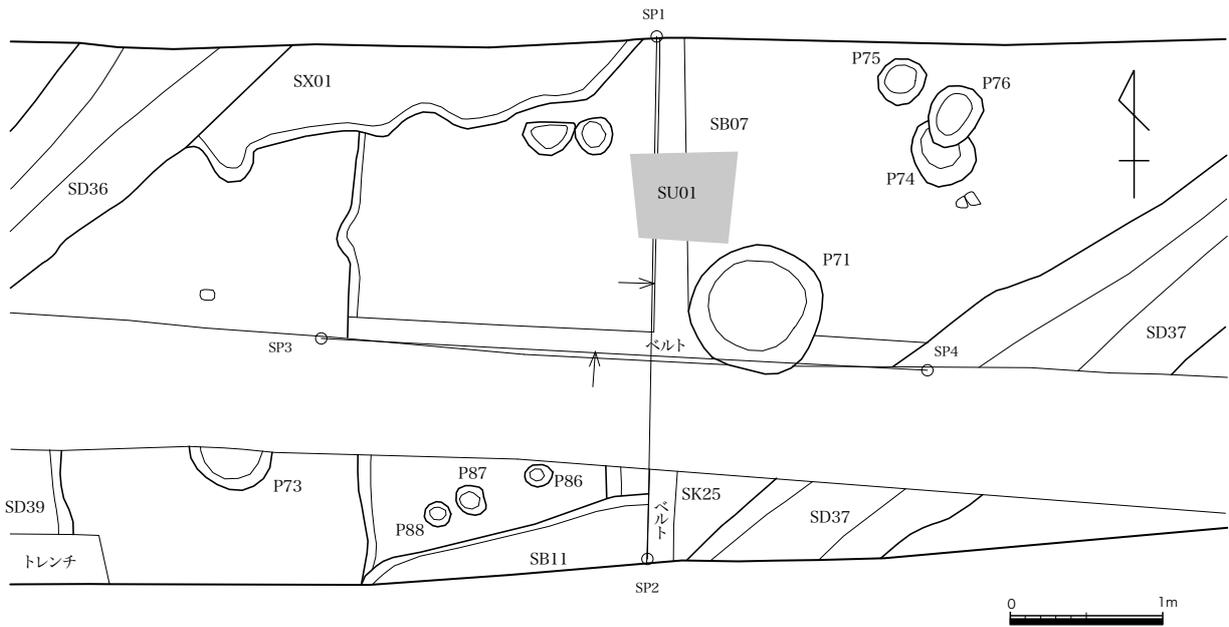
SB21 北東隅部分が検出された、深さ約 10cm の竪穴建物で、北辺と東辺の一部で壁周溝が検出された (第 29 図)。SB23 に切られる。

SB22 SD65 の埋没後に掘削された、深さ約 6cm 竪穴建物。南西隅部分とそれに沿って屈折する壁周溝が検出されている。SB15 に切られる。

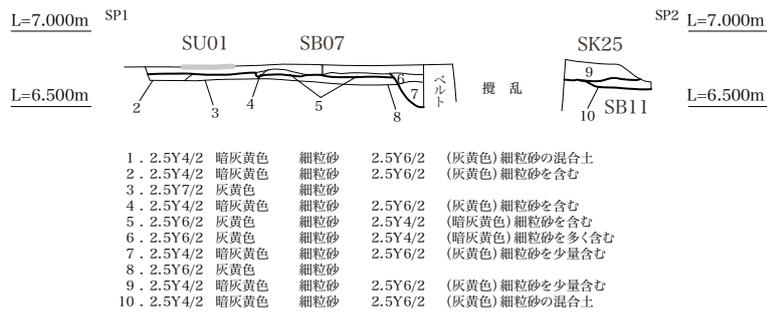
SB23 東西辺のみが検出された、幅 483cm、深さ約 5cm の竪穴建物。東辺には部分的に壁周溝がみられる (第 29 図)。SB21・23・30 を切る。時期は A-3 期か。

SB24 北・東・西辺が検出された、幅 548cm、深さ約 19cm の竪穴建物で、北西隅付近で焼土・炭化物の広がりを確認した。この焼土・炭化物の広がり、径 30cm、厚さ 3~5cm を測る円形の焼土層の広がり外側に焼土を含む炭化物層があり、さらにその北~北西側に炭化物層が広がっている。またこの焼土層の南東辺では、長径 18cm・短径 8cm・厚さ 2cm の楕円形を呈する扁平な石が長辺を向けて斜めに置かれたような状態で出土し、さらにその石の下に、直交するように長径 15cm・短径 10cm・厚さ 1.5cm の長方形を呈する扁平な石が、短辺を焼土に向けて出土している (第 30 図)。SB31 に切られ、SB26 を切る。時期は A-1 期。

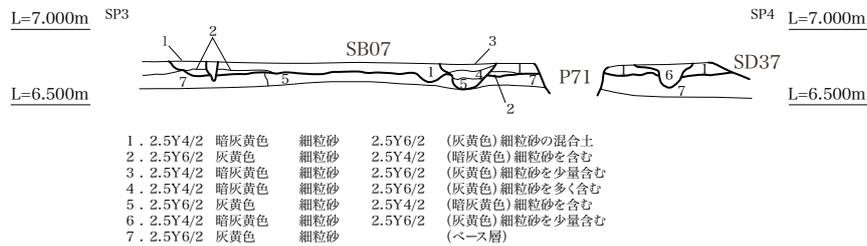
SB25 北東隅部分のみが検出されている。深さは約 1cm と極めて浅く、壁周溝のみが残存している状況である。SB23 に切られる。



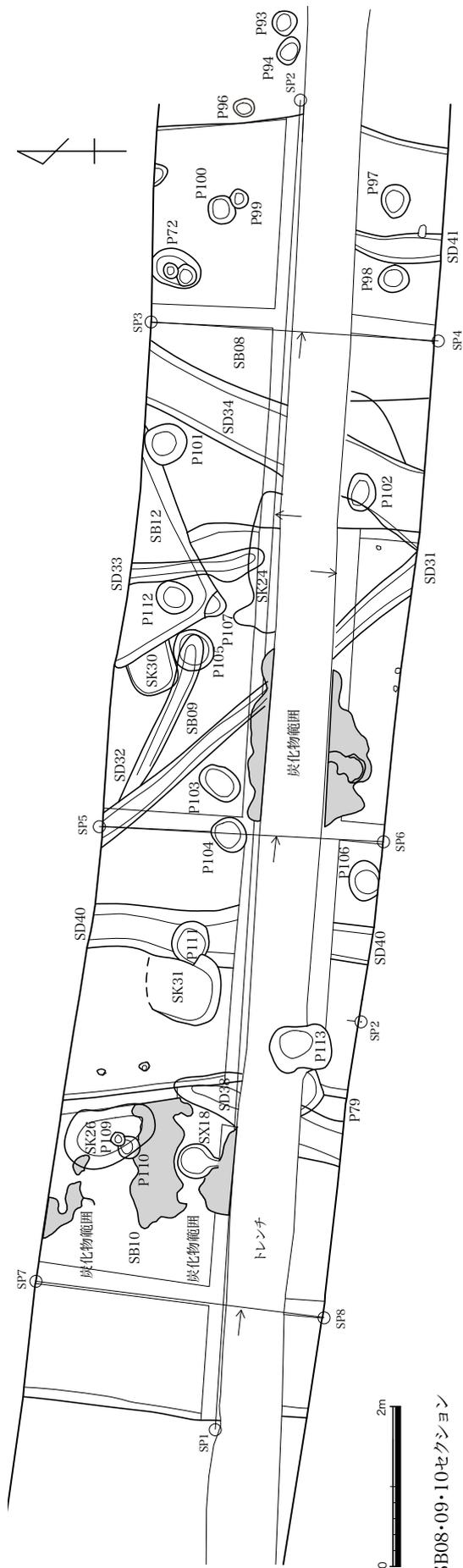
SB07南北断面



SB07東西断面



第 25 図 E 区 SB07 平面図・土層断面図 (S=1/50)



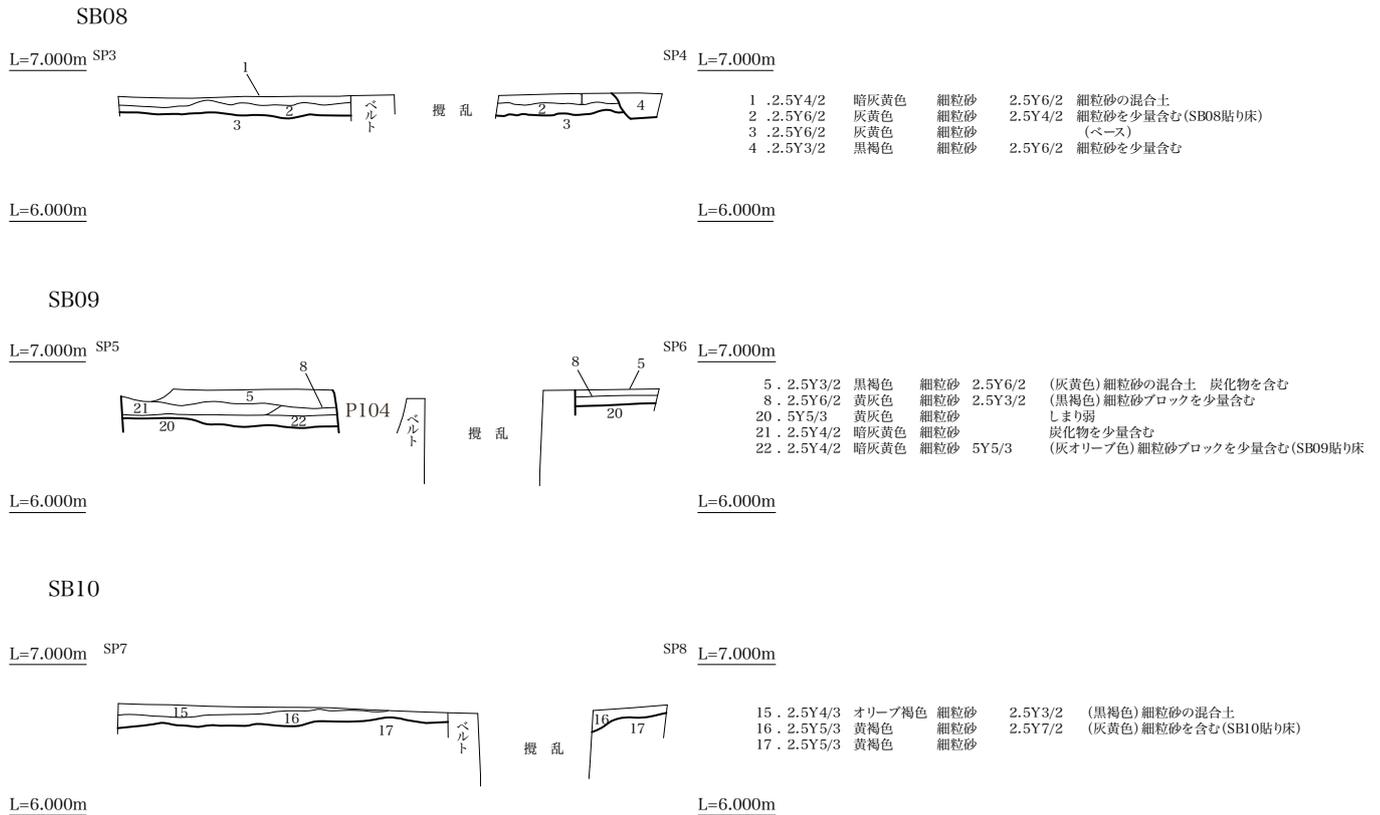
SB08・09・10セクション



- 1. 2.5X5/2 暗灰褐色 細粒砂
- 2. 2.5X4/2 暗灰褐色 細粒砂
- 3. 2.5X7/2 灰褐色 細粒砂
- 4. 2.5X4/1 灰褐色 細粒砂
- 5. 2.5X3/2 黒褐色 細粒砂
- 6. 2.5X3/2 黒褐色 細粒砂
- 7. 2.5X4/1 新灰褐色 細粒砂
- 8. 2.5X6/2 灰褐色 細粒砂
- 9. 2.5X3/1 暗灰褐色 細粒砂
- 10. 2.5X4/2 暗灰褐色 細粒砂
- 11. 2.5X3/1 暗灰褐色 細粒砂
- 12. 2.5X4/2 暗灰褐色 細粒砂
- 13. 2.5X3/1 暗灰褐色 細粒砂
- 14. 2.5X3/3 赤褐色 細粒砂
- 15. 2.5X3/3 赤褐色 細粒砂
- 16. 2.5X5/3 赤褐色 細粒砂
- 17. 2.5X5/3 赤褐色 細粒砂
- 18. 2.5X7/2 灰褐色 細粒砂
- 19. 2.5X5/3 灰褐色 細粒砂
- 20. 5Y5/3 灰褐色 細粒砂
- 21. 2.5X4/2 暗灰褐色 細粒砂
- 22. 2.5X6/2 灰褐色 細粒砂
- 23. 2.5X6/2 灰褐色 細粒砂
- 24. 2.5X3/2 黒褐色 細粒砂
- 25. 2.5X3/2 黒褐色 細粒砂
- 26. 2.5X6/2 灰褐色 細粒砂

- (黒褐色) 細粒砂ブロックを少量含む
- (黒褐色) 細粒砂ブロック L1以下
- (黒褐色) 細粒砂の混合土
- (灰褐色) 細粒砂の混合土 (SP09)付近
- (黒褐色) 細粒砂の混合土 (SP09)付近
- (黒褐色) 細粒砂ブロックを少量含む
- (黒褐色) 細粒砂ブロックを少量含む
- (黒褐色) 細粒砂ブロックを少量含む (SB09)付近
- (黒褐色) 細粒砂ブロックを少量含む (SB09)付近
- (灰褐色) 細粒砂を多く含む 炭化物を含む
- (灰褐色) 細粒砂ブロックを少量含む
- (灰褐色) 細粒砂の混合土 炭化物層が薄く堆積する
- (灰褐色) 細粒砂を含む (SB10)付近
- 細粒砂ブロック
- L1以下 (ベース)
- (灰褐色) 細粒砂の混合土
- (暗灰褐色) 細粒砂を少量含む (SB08)付近
- (灰褐色) 細粒砂の混合土
- 2.5Y7/2 (黒褐色) 細粒砂ブロックを含む
- 2.5Y6/2 細粒砂 (ベース)

第26図 E区 SB08・09・10平面図・土層断面図(1) (S=1/50)



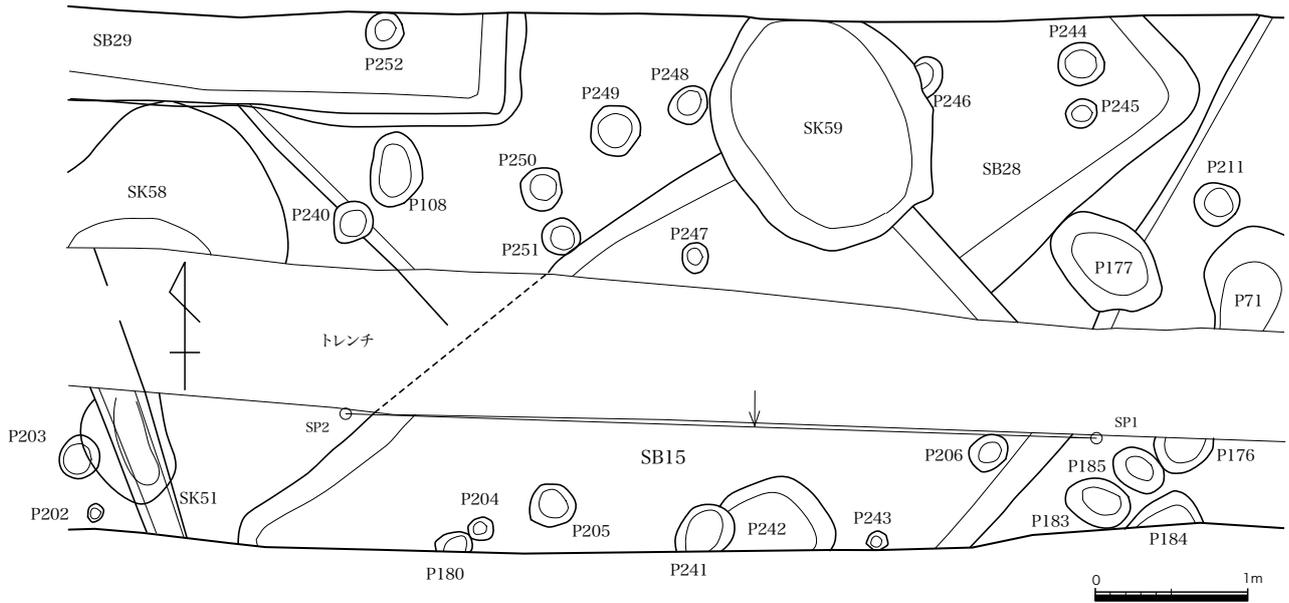
第 27 図 E 区 SB08・09・10 平面図・土層断面図 (2) (S=1/50)

- SB26 南西隅部分のみが検出されている。深さは4cmで、SB24に切られ、SB32を切る。
- SB27 西辺のわずかな部分のみが検出された、深さ約11cmの竪穴建物。2面で確認されたが、土層観察によってSB07・16・19を切っており、上面から掘り込まれたものであることが判かった。
- SB28 南・東・西辺が検出された深さ約14cmの竪穴建物で、SB15・29に切られる。
- SB29 南辺と東辺の一部が検出された深さ約12cmの竪穴建物で、SB30に切られる。
- SB30 南東隅部分が検出された深さ約13cmの竪穴建物で、北東部が竪穴状にさらに9cm程落ち込む。SB23に切られる。時期はA-1期か。
- SB31 SB24を切る幅449cm、深さ約27cmの竪穴建物で、南辺と東西辺の一部が検出されている。時期はA-1期か。
- SB32 南西隅部分が検出された深さ約21cmの竪穴建物で、SB23・26に切られる。
- SB33 北辺の極一部分のみが検出された深さ約12cmの竪穴建物。
- SB41 南西部分が検出された深さ約13cmの竪穴建物で、SB31に切られる。
- SB42 北辺と東西辺の一部が検出された竪穴建物で、幅349cm、深さ約26cmを測る。

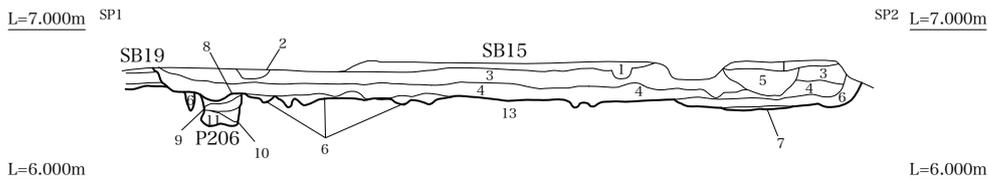
2 土坑・溝

(1) C区I面検出

SK35 径210～220cm、深さ58cmを測る円形の土坑で、下層は黒褐色砂と暗灰黄色砂・黄灰色砂の斑土となる。最上層より灰釉陶器や土師器甕、製塩土器、瓦などが出土している(第31図、写真図版5)。時期はB-2期。



SB15



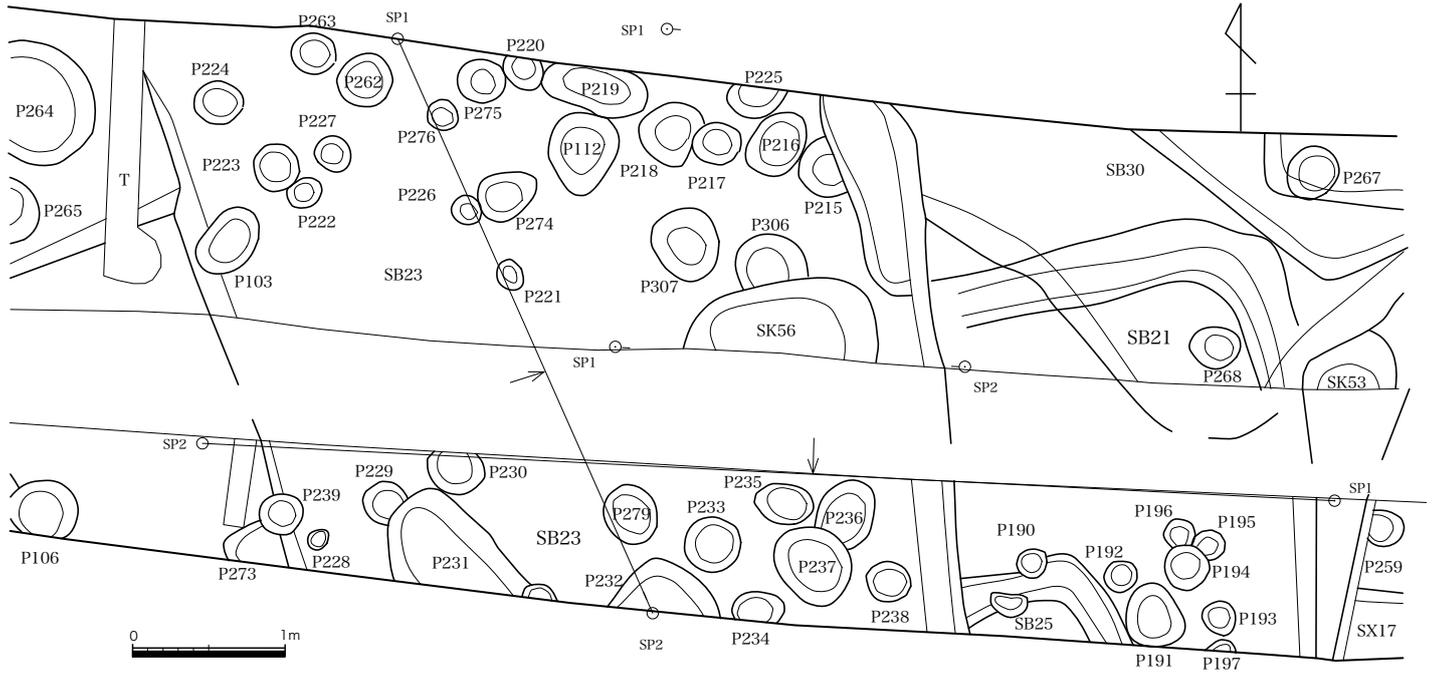
- | | | |
|------------------|-------|-------------------------------------|
| 1. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む(SB15埋土) |
| 2. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | (SB15埋土) |
| 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む(SB15埋土) |
| 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む(SB15埋土) |
| 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトの混合土(SB15埋土) |
| 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) φ2cmのブロックを含む(SB15貼り床) |
| 7. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | (SB15貼り床) |
| 8. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 9. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | |
| 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトを含む |
| 11. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 12. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | (SB15埋土) |
| 13. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | (ベース) |

第 28 図 E 区 SB15 平面図・土層断面図 (S=1/50)

SK39 長径 118cm、短径 100cm、深さ 37cm を測る隅丸方形の土坑で、断面はわずかに漏斗状を呈し、下位 20cm 程壁面が垂直になる。この垂直になる壁面に沿って木質が確認されている。灰釉陶器や土器器甕、製塩土器、瓦などの遺物は上層より出土しており、そのうち何点かは南西側にある SX02・03 のものと接合した (第 31 図)。時期は B-2 期。

SD42 ほぼ東西に走る幅 920cm、深さ約 93cm を測る大型の溝で、C 区で北肩、D 区で南肩が検出されている。溝内には下層が灰色シルト、上層がオリーブ褐色シルトを主とした埋土が堆積しており、比較的ゆるやかに埋没していったと考えられる。出土遺物が小片なため時期決定が難しいが、SX10 を切っていることから、C-3 期以降になると考えられる。

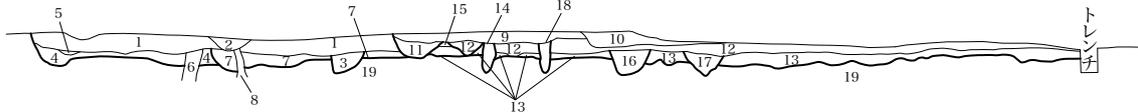
溝群 調査区北部で検出された深さ 2~6 cm の浅い溝群で、50cm 程の間隔で並列する SD43~49 とそれらに直交する SD51~53 がある。また SK37 も同様な遺構の可能性はある。これらの溝群については、形状からみると A・B 区で検出された溝群と類似するが、方位は A・B 区のものより東に振れている。むしろ方位は、南にある SB14 と SD55 の向きと一致する。



SB21・23

L=7.000m SP1

SP2 L=7.000m



L=6.000m

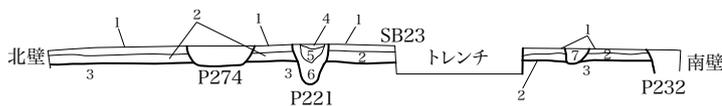
L=6.000m

- | | | |
|------------------|-------|---|
| 1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | 砂質シルト | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む(SB21埋土) |
| 2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 3. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックφ2cmを含む(SB21埋土) |
| 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | (SB21埋土) |
| 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックφ1cmを含む(SB21埋土) |
| 8. 2.5Y6/2 灰黄色 | 細粒砂 | (填砂) |
| 9. 2.5Y3/2 黒褐色 | 砂質シルト | (SB23埋土) |
| 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 砂質シルト | (SB23埋土) |
| 11. 2.5Y3/1 黒褐色 | 砂質シルト | (SB23埋土) |
| 12. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを多量に含む(SB23埋土) |
| 13. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックφ1cmを含む(SB23貼り床) |
| 14. 2.5Y3/1 黒褐色 | 砂質シルト | |
| 15. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを少量含む |
| 16. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 17. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 18. 2.5Y3/1 黒褐色 | 砂質シルト | |
| 19. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | (ベース) |

SB23南北セクション

L=7.000m SP1

SP2 L=7.000m

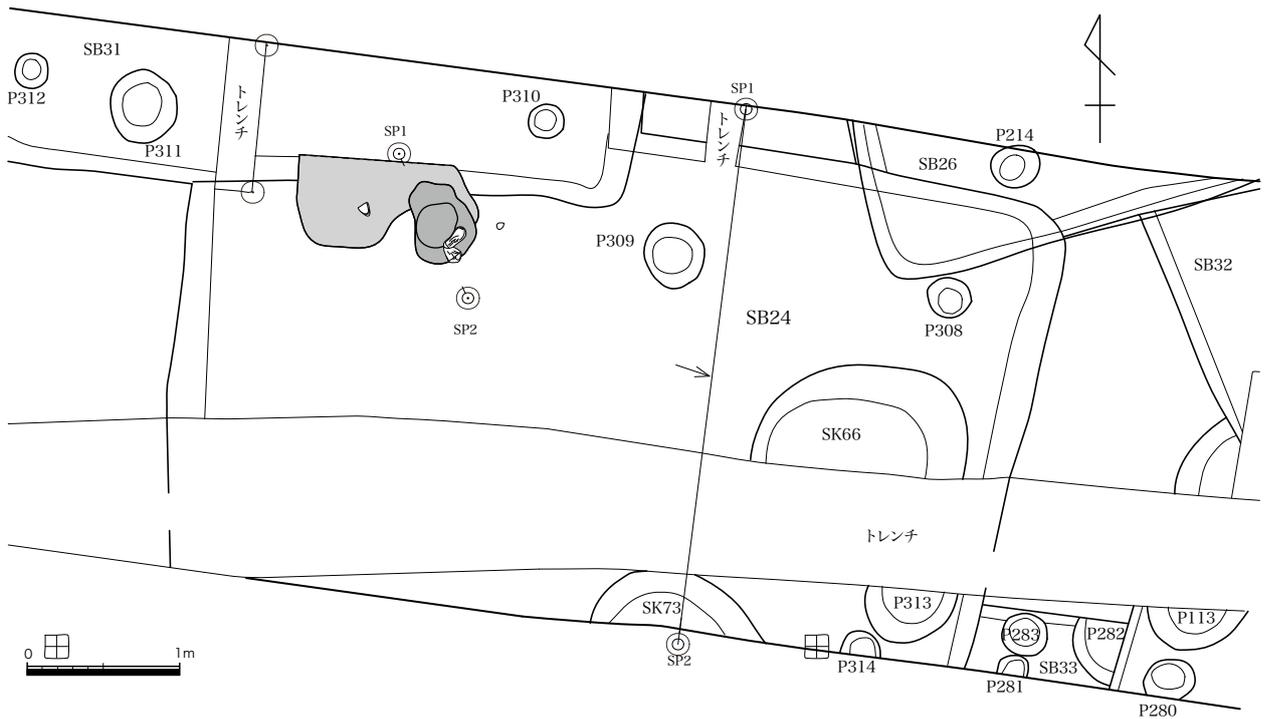


L=6.000m

L=6.000m

- | | | |
|-------------------|-------|--|
| 1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを含む |
| 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む |
| 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 4. 2.5Y3/1 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む |
| 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 7. 2.5Y3/1 黒褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む色) 砂質シルトブロックを少量含む(SB21埋土) |

第 29 図 E 区 SB21・23 平面図・土層断面図 (S=1/50)



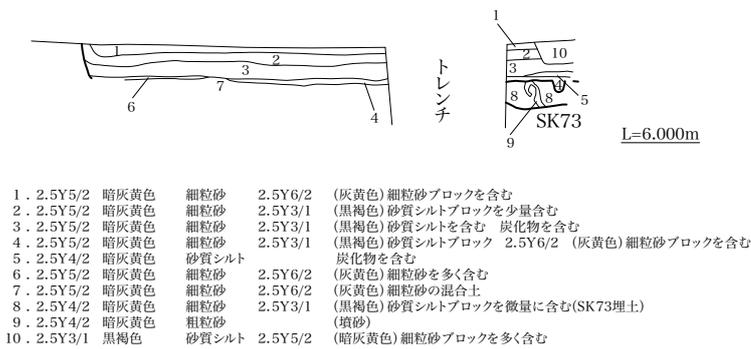
SB24

L=7.000m SP1

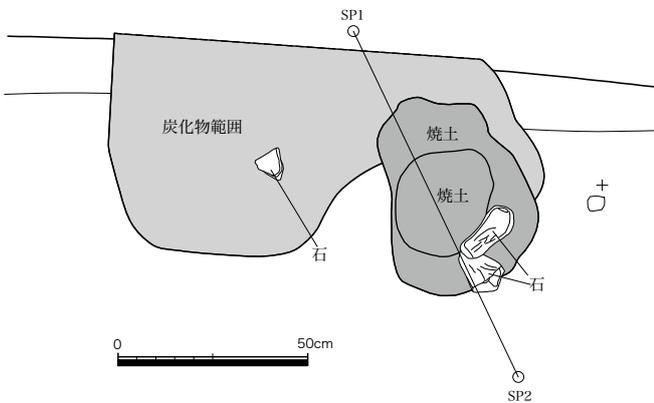
SP2 L=7.000m

L=6.000m

L=6.000m



1. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを含む 炭化物を含む
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロック 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物を含む
6. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む
7. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む(SK73埋土)
9. 2.5Y4/2 暗灰黄色	粗粒砂	(填砂)
10. 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む



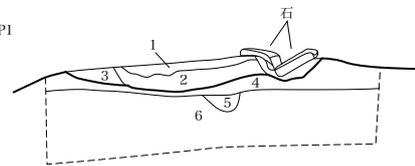
SB24焼土

L=6.500m SP1

SP2 L=6.500m

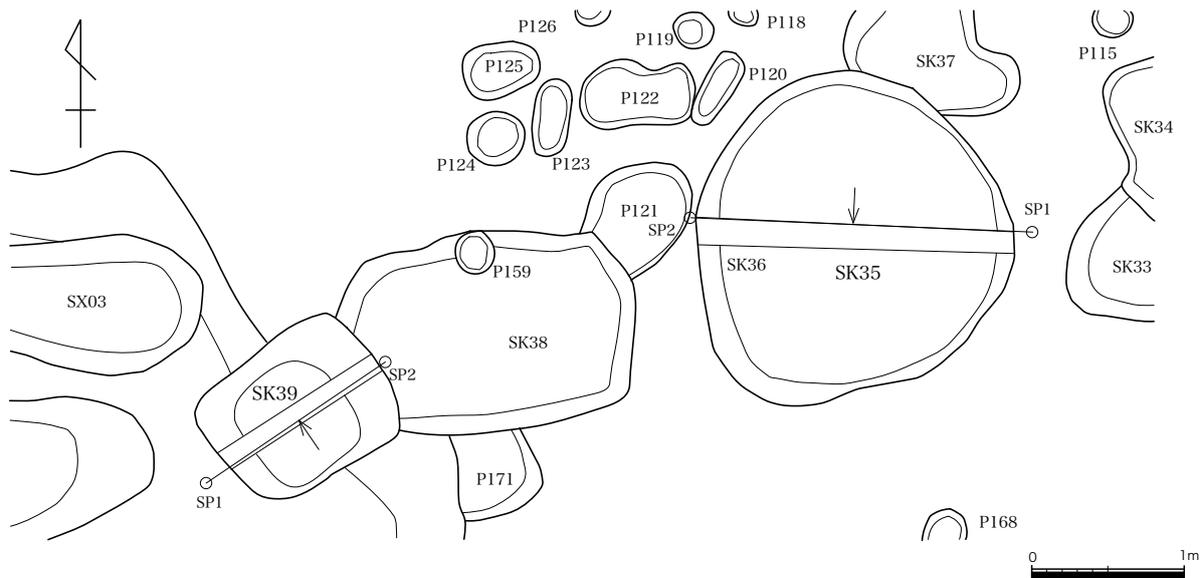
L=6.000m

L=6.000m

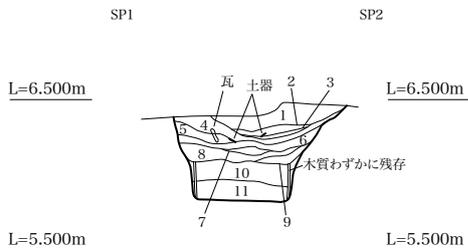


1. 5YR3/6 暗赤褐色	焼土	(強酸化面)
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐色	細粒砂	(弱酸化面)
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	炭化物を少量含む
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む
5. 2.5Y4/3 暗灰黄色	細粒砂	
6. 5Y4/2 灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 中粒砂ブロックを含む

第30図 E区SB24平面図・土層断面図 (S=1/20、1/50)

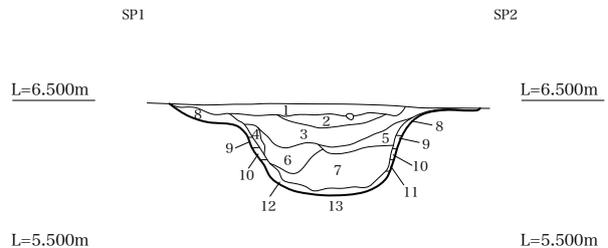


SK39



- | | | | |
|-------------|--------|-------|---------------|
| 1. 2.5Y3/3 | 暗オリーブ色 | 砂質シルト | 炭化物を少量含む |
| 2. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | |
| 3. 2.5Y3/3 | 暗オリーブ色 | シルト | 炭化物を少量含む |
| 4. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 5. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | 炭化物を含む |
| 6. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | (灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 7. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 8. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | |
| 9. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 砂質シルト | (灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 10. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 11. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | |

SK35



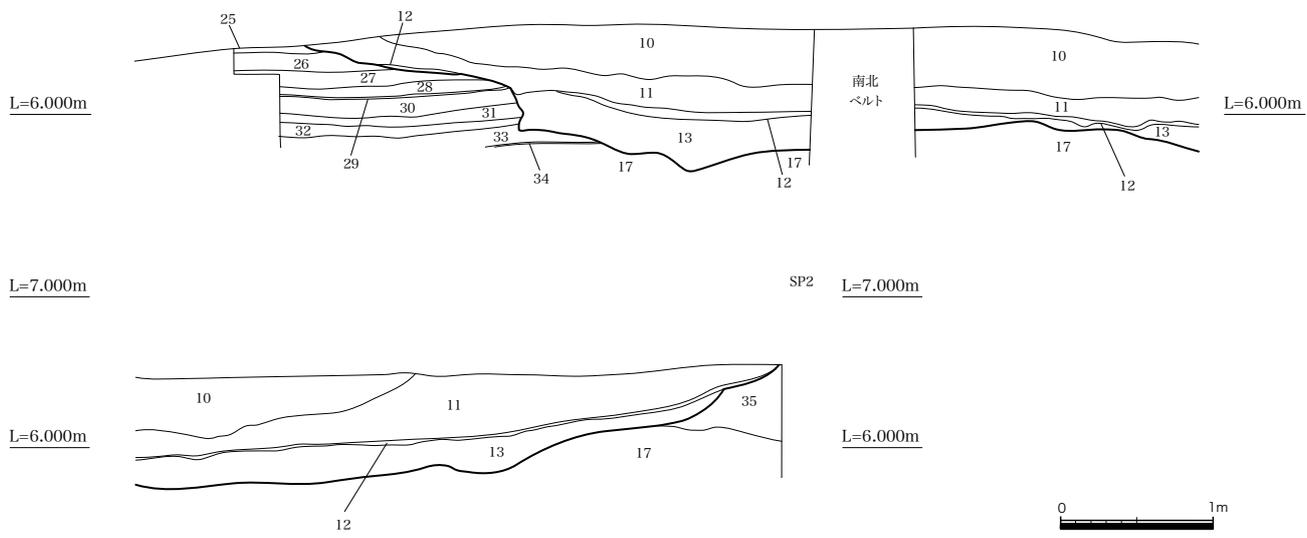
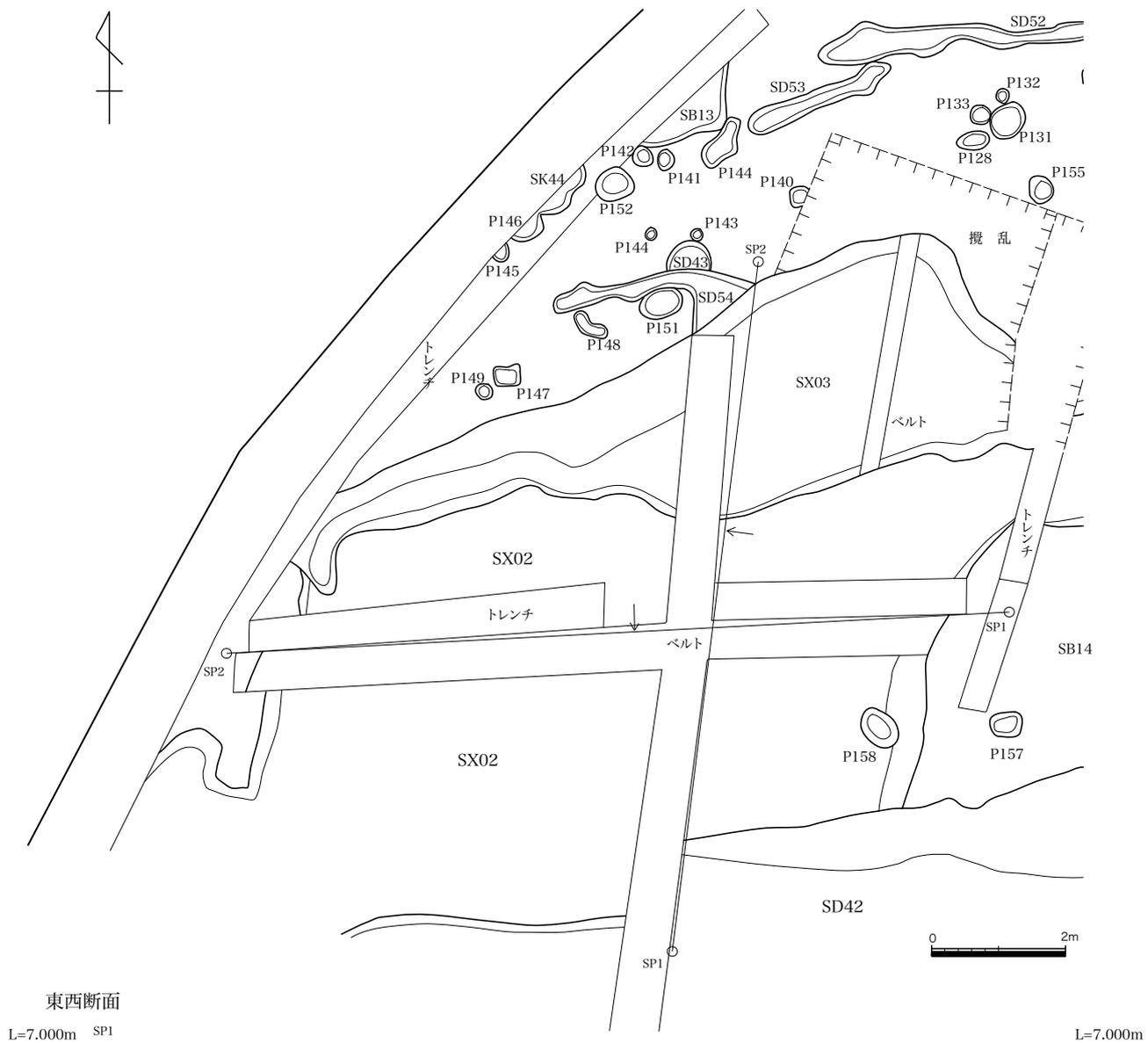
- | | | | |
|-------------|--------|-------|-------------------------------------|
| 1. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂 |
| 2. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 3. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 4. 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 細粒砂 | |
| 5. 2.5Y3/3 | 暗オリーブ色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 6. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | シルト | 2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 7. 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 細粒砂 | 2.5Y4/1 (黄灰色) 細粒砂の混合土 |
| 8. 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 細粒砂 | 2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂の幅3mmの互層状堆積 |
| 9. 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 細粒砂 | 2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 10. 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 細粒砂 | 2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂の幅0.5~1.5cmの互層状堆積 |
| 11. 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 細粒砂 | 2.5Y4/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 12. 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 細粒砂 | |
| 13. 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 細粒砂 | |

第 31 図 C 区 SK39・35 平面図・土層断面図 (S=1/50)

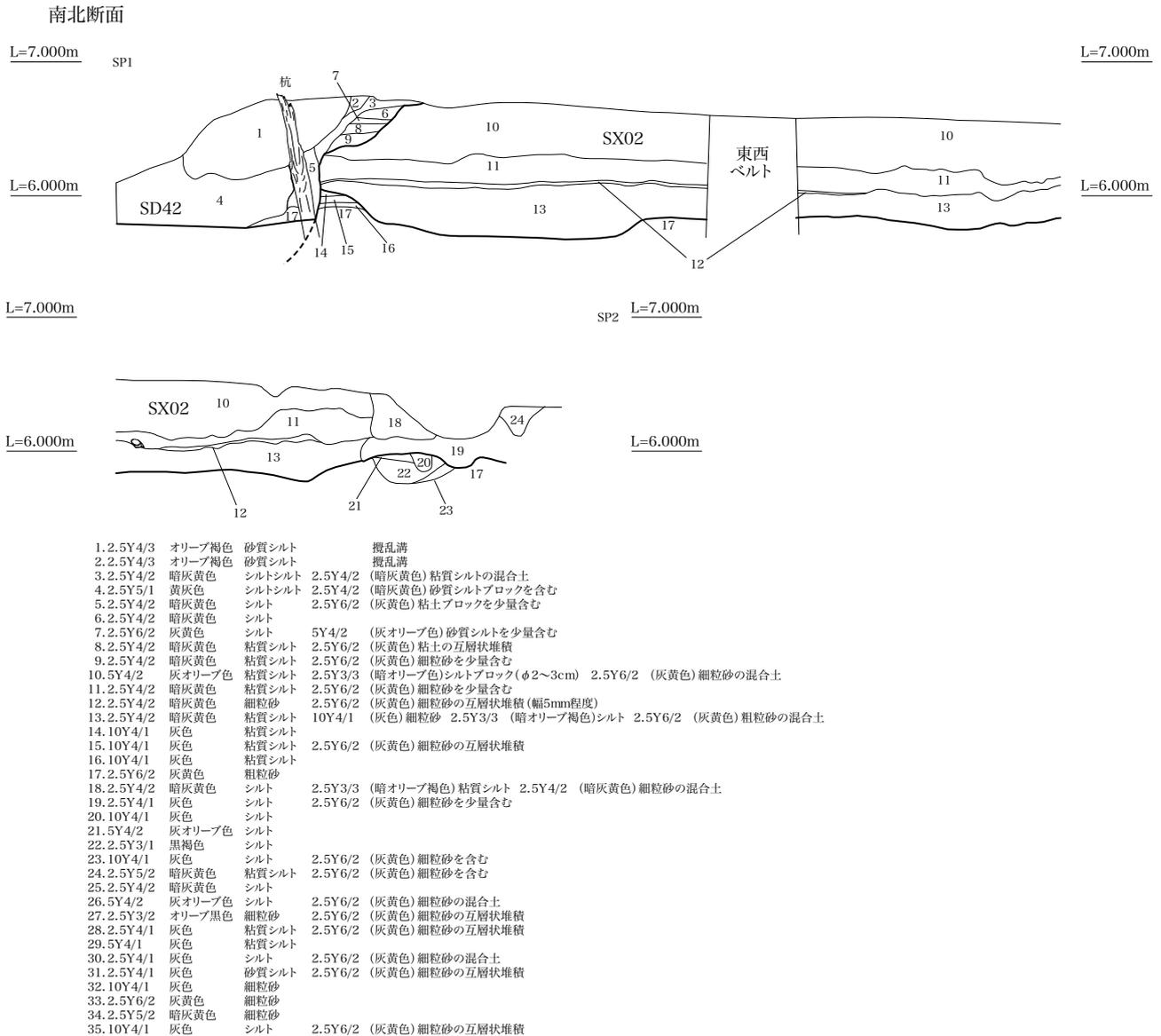
SX02・03 SB14・SD55の西側を切って掘削される不定形な大型土坑である。当初SX02とそれを切るSX03があると想定して調査を行ったが、土層観察の結果SX03はSX02の埋土上層にあると判断した。規模はSX02が長径1895cm、短径980cm、深さ約94cmを測り、そのうち上層であるSX03部分は長径1342cm、短径324cm、深さ約42cmを測る。埋土は上層のSX03部分が、灰オリーブ粘質シルトと暗オリーブシルト、灰黄色砂の斑土、下層は灰黄色砂(細砂・粗砂)が混じる暗灰黄色粘質シルトになる。墨書土器を含む灰釉陶器や瓦などの遺物が出土するが、特にSX03から多数出土している。また北辺から東辺にかけて上部の攪乱跡がかかっているが、この攪乱の掘削時にも灰釉陶器類が出土しており、SX02・03の遺物である可能性が高いと考えられた(第32・33図)。時期はB-2期。

(2) D区検出

SK60・61 調査区南壁際で検出された、幅396cm、深さ41cmの大型土坑で、南半は調査区外となる。検出時点ではSK60・61を別遺構として認識して掘削したが、その後の土層観察ではSK61はSK60



第 32 図 C 区 SX02 平面図 土層断面図 (1) (S=1/50)



第 33 図 C 区 SX02 平面図 土層断面図 (2) (S=1/50)

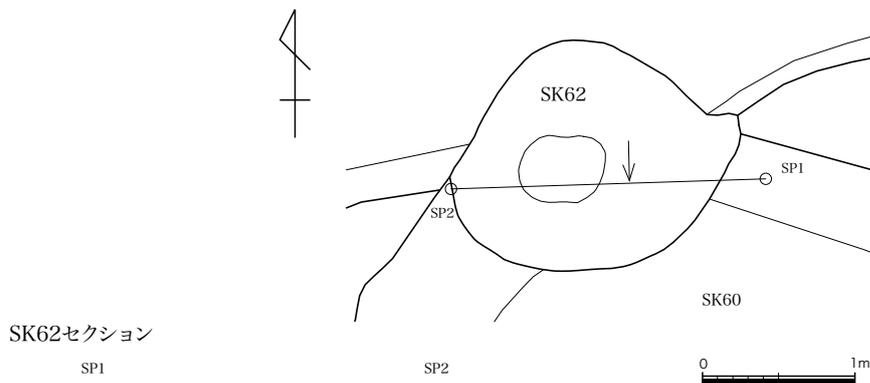
の埋土上層部にあたり、同一遺構の堆積の違いと判断した。ただ出土遺物をみると、灰釉陶器以前の遺物しか含まないSK60に対し、SK61部分では山茶碗と小皿がみられ、やはり当初の見解どおり別遺構の可能性が高い(第16・17図)。時期はSK60がB-1期、SK61がC-1期か。

SK62 SK60を切る長径195cm、短径147cm、深さ55cmの円形の土坑。埋土は暗灰黄色砂と黒褐色砂質シルト、及びその混合土が堆積する(第34図)。時期はB-2期か。

SK63 調査区東壁際で検出された円または不定形な大型土坑で、長径643cm以上、短径476cm、深さ63cmを測る。埋土は上層が黄褐色砂質シルト、下層には灰色砂が堆積する(第34図)。

SK68 SB38・39を切る長径213cm、短径91cm、深さ38cmの長方形を呈する土坑で、黒褐色砂質シルトと灰黄色砂、暗灰黄色砂がほぼ平行堆積する。

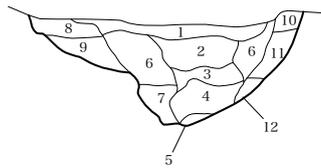
P290 SB35の底面で検出された長径77cm、短径74cm、深さ60cmを測る、円形を呈する土坑。土層観察によると、下層では柱痕と思われる堆積を確認しており、SB35の柱穴になる可能性がある(第20・21図)。



SK62セクション

L=6.500m

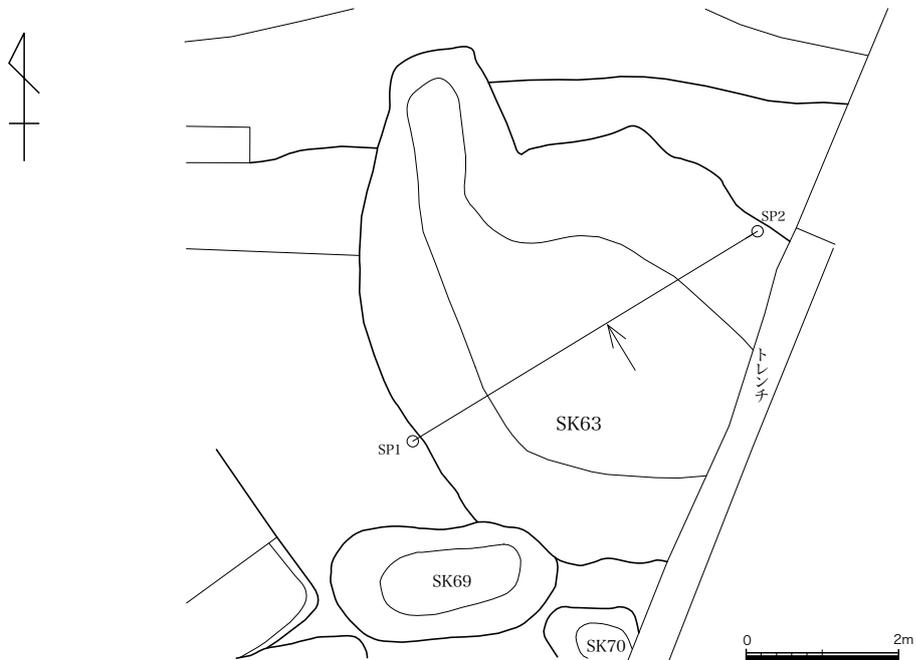
L=6.000m



L=6.500m

L=6.000m

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 2. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | 2.5Y4/2 (暗灰黄色) 砂質シルトブロックを含む |
| 3. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト | |
| 4. 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト | |
| 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | |
| 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトを微量に含む |
| 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 8. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 粗粒砂を含む |
| 9. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ褐色) 砂質シルトを微量に含む |
| 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | |
| 11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | |
| 12. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 2.5Y3/3 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |



SK63

SP1

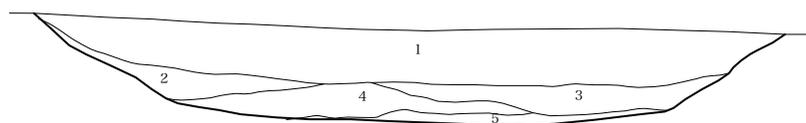
SP2

L=6.500m

L=6.500m

L=6.000m

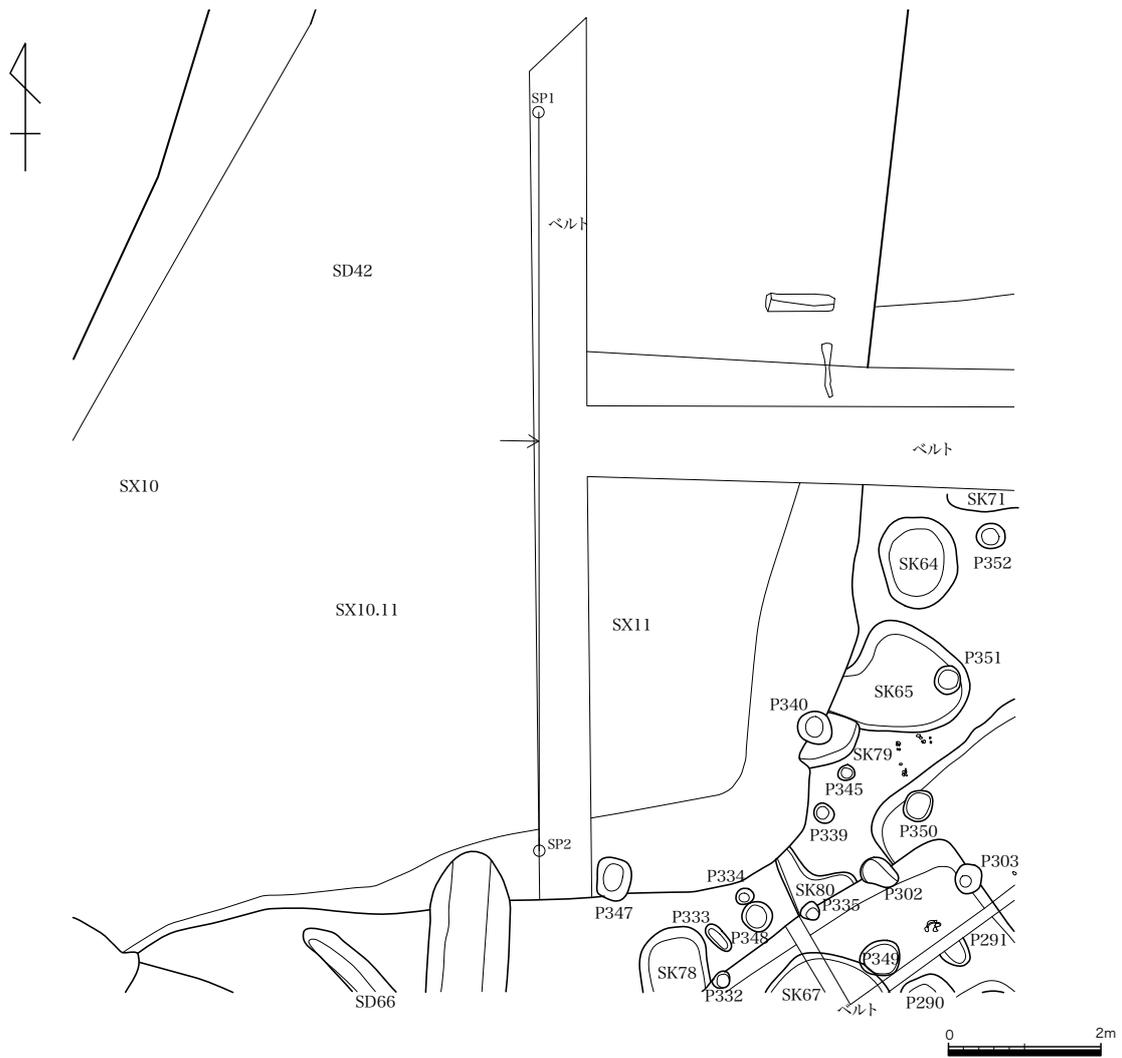
L=6.000m



- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 2.5Y5/3 黄褐色 砂質シルト | |
| 2. 2.5Y4/1 灰色 細粒砂 | 5Y7/1 (灰色) 中粒砂ブロックを少量含む |
| 3. 2.5Y4/1 灰色 細粒砂 | |
| 4. 2.5Y4/1 灰色 細粒砂 | 5Y7/1 (灰色) 中粒砂の混合土 |
| 5. 2.5Y4/1 灰色 細粒砂 | 5Y7/1 (灰色) 細粒砂の互層状堆積 |

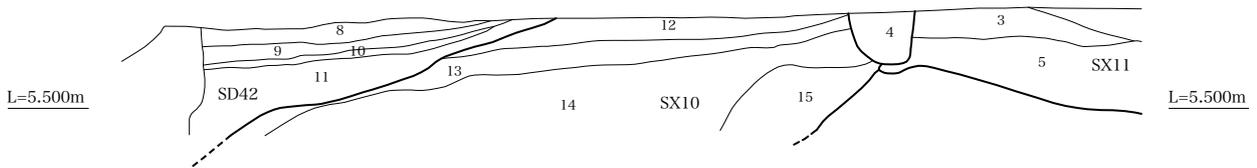


第 34 図 D 区 SK62・63 平面図・土層断面図 (S=1/50、1/100)



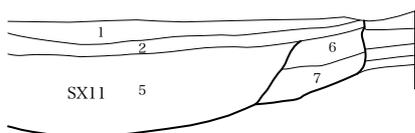
L=6.500m SP1

L=6.500m



L=6.500m

SP2 L=6.500m



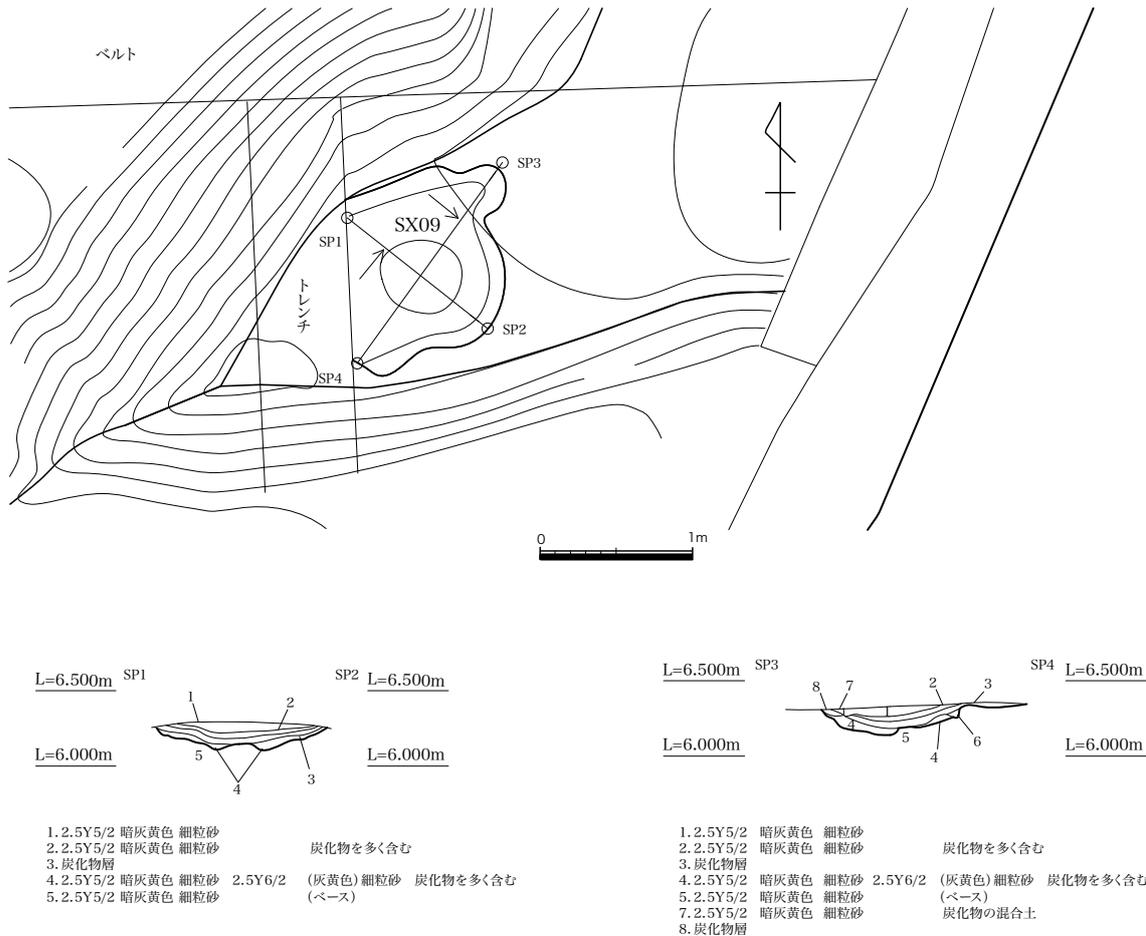
L=5.500m

L=5.500m

1. 10Y4/2	オリブ灰色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
2. 2.5Y4/2	灰オリブ色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
3. 2.5Y3/2	オリブ黒色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
4. 10Y3/2	オリブ黒色	砂質シルト		
5. 10Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 粗粒砂ブロックを多量に含む φ1~2mmを多量に含む
6. 5Y4/1	灰色	砂質シルト		
7. 5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを多量に含む
8. 5Y3/2	オリブ黒色	シルト		植物を多く含む
9. 2.5Y3/2	オリブ黒色	シルト		
10. 2.5Y6/2	灰黄色	細粒砂		
11. 10Y4/1	灰色	シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 粗粒砂ブロックを少量含む
12. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	2.5Y4/1	(黄灰色) 細粒砂の互層状堆積
13. 2.5Y4/1	灰色	シルト	2.5Y4/1	(黄灰色) 細粒砂の薄い層を含む
14. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	2.5Y4/1	(黄灰色) 細粒砂ブロックを多量に含む
15. 2.5Y4/1	灰色	シルト	2.5Y4/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む

0 1m

第 35 図 D 区 SX10・11 平面図・土層断面図 (S=1/100)



第36図 C区SX09平面図・土層断面図 (S=1/50)

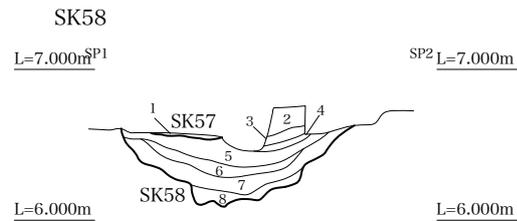
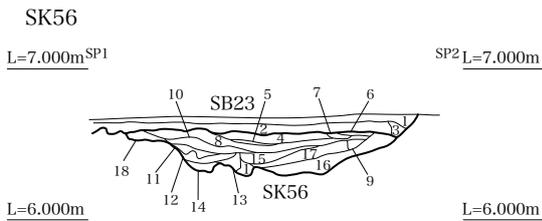
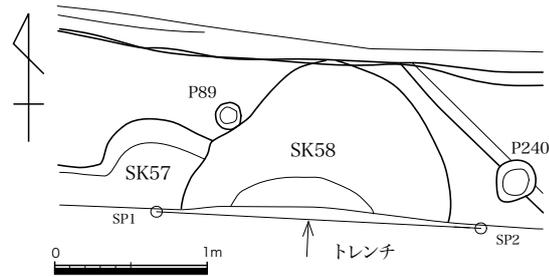
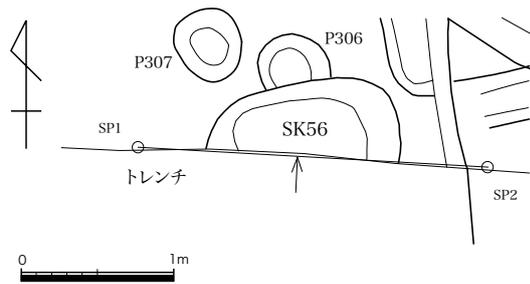
SX10・11 調査区西側で検出された深さ約80cmの大型土坑で、南西にあたるやや浅いSX11とそれ以外のSX10部分に区分して掘削したが、本来は同一遺構と思われる(第35図)。時期はC-3期で、SD42に切られる。

(3) C・D区3面検出

SD59 C区2面、D区1面の下で検出された河道。上層は重機により慎重に掘削を行い、検出面より下位に80cm程、標高約550cmの灰黄色粗砂層に達したところで遺物が出土し始めたため人力により掘削を行ったが、湧水のためさらに20~30cm下げるにとどまった。さらにその下位についても部分的に重機掘削を行ったが、まとまった遺物は出土していない(写真図版7)。時期はA-2期。

SX08 04 C区のSD59の肩から斜面にかけて検出された炭化物層で、長径352cm、短径234cmの範囲に広がる。厚さは、厚いところで約7cmを測り、部分的には木片の形状が残る(写真図版7)。時期はSD59と同時期。

SX09 04 C区のSD59肩部分で、SD42と交差する北側で検出された。規模は長径161cm以上、短径120cm、深さ21cmを測り、中位に厚さ約3cmの炭化物層がみられる(第36図、写真図版7)。時期はA-1期か。



1. SB23の9層に対応	(SB23埋土)			
2. SB23の12層に対応	(SB23貼り床)			
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトを微量に含む(SB23貼り床)	
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトの混合土	
5. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトの混合土	炭化物を多く含む
6. 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト			
7. 2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む	
8. 2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂			
9. 2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂			
10. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトの混合土	炭化物を含む
11. 2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトの混合土	炭化物を含む
12. 2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂			
13. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂			炭化物を含む
14. 2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂			焼土ブロックを含む
15. 5YR3/6 暗赤褐色	焼土ブロック			炭化物を少量含む
16. 2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂			炭化物を少量含む
17. 5YR3/6 暗赤褐色	焼土			炭化物の混合土
18. 2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2	(黒褐色) 砂質シルトブロックを含む	

1. 2.5Y6/2 灰黄色	中粒砂	2.5Y4/2	(暗灰黄色) 砂質シルトブロックを含む
2. 2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト		φ1~5mmを含む
3. 2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト		炭化物を多く含む
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト		
5. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト		炭化物を含む
6. 2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 砂質シルトの混合土
7. 2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 砂質シルトブロックと炭化物を少量含む
8. 2.5Y5/2 暗灰黄色	中粒砂	2.5Y4/2	(暗灰黄色) 砂質シルトブロックを含む

第 37 図 E 区 SK56・58 平面図・土層断面図 (S=1/50)

(4) E 区 1 面検出

SD36・37 ほぼ平行して北東—南西方向に走る溝で、SD36 が幅 80cm、深さ 21cm、SD37 が幅 109cm、深さ 25cm と同規模になる。遺物が細片で時期の特定が難しいが、SD37 からは灰釉陶器・須恵器片が出土する。

(5) E 区 2 面検出

SK56 SB23 の底面で検出された、径 160cm、深さ 29cm、円形または長方形を呈する土坑。埋土には炭化物を多く含む (第 37 図)。時期は A-2 期。

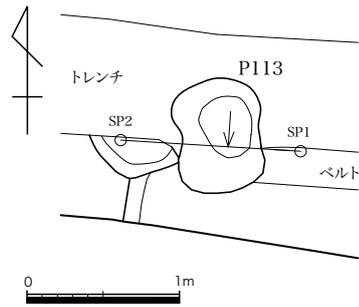
SK57・58 径 126cm、深さ 66cm を測る土坑で、西側の上位の一部分が SK57 によって切られる (第 37 図)。時期は A-2 期か。

P113 長径 74cm、短径 50cm、深さ 84cm を測る円形の土坑で、断面は V 字形を呈する。埋土中位より径 18cm 程の粘土塊が出土する (第 38 図、写真図版 11)。SB09 を切る。

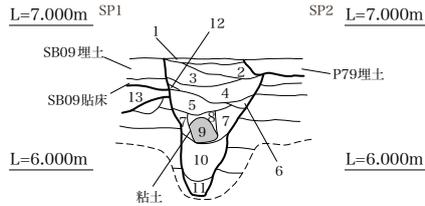
3 方形周溝墓

(1) C 区 2 面検出

SD56・57 (SZ01) ほぼ東西・南北方向を向く溝で、幅 205cm、深さ 68cm を測る SD56 は南側を SD42 に、幅 157cm、深さ 55cm を測る SD57 は東側が調査区外になる。両者とも断面は U 字形を呈する。溝埋土は暗灰黄色細粒砂・砂質シルトが堆積しているが、これらの土層は遺構が掘り込まれている地層とかなり類似しており、遺構の形状を検出するにあたっては困難を伴っている。そのため何らかの落ち込みがあることは間違いないが、図化されたようなきれいな遺構の形状をなすかについては明瞭ではない。ただ溝が直交するように走ることや土器棺があることなどから方形周溝墓と考



P113セクション



- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 2.5Y3/3 暗オリーブ色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 砂質シルトを含む |
| 2. 2.5Y3/3 暗オリーブ色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 砂質シルトと 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトを含む |
| 3. 2.5Y3/3 暗オリーブ色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 砂質シルトを多く含む |
| 4. 2.5Y3/3 暗オリーブ色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 砂質シルトと 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトと 2.5Y2/1 (黒色) 砂質シルトブロックを含む |
| 5. 2.5Y3/3 暗オリーブ色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 砂質シルトと 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトと 2.5Y2/1 (黒色) 砂質シルトブロックを含む |
| 6. 2.5Y5/3 黄褐色 細粒砂 | |
| 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂質シルト | 2.5Y6/2 (灰黄色) 砂質シルトと 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトと 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を含む |
| 8. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | |
| 9. 2.5Y7/2 灰黄色 粘土 | |
| 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 | 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) の混合土に 2.5Y2/1 (黒色) 砂質シルトブロックを含む |
| 11. 2.5Y4/2 黄灰色 中粒砂 | |
| 12. 2.5Y7/1 灰白色 砂質シルト | |
| 13. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト | |

第 38 図 E 区 P113 平面図・土層断面図 (S=1/50)

えた (第 39・40 図、写真図版 5)。SD56 底面で、A-2 期の古井式壺 (117) が出土している。SX04・05 C 区の東壁際で検出された長方形の土坑で、SX04 (第 41 図) は長径 220cm、短径 140cm、深さ 11cm、SX05 (第 13～15 図) は長径 275cm 以上、短径 110cm、深さ 6cm を測る。両土坑とも同じような形状をしているため、関連性のある遺構と考えられるが、さらに SX04 は SD56・57 と同じ方向を示しており、溝と土坑を含めた遺構群が想定される (第 41 図)。SD56・57 を方形周溝墓とした場合には、埋葬施設と想定するのが妥当であろう。また SX05 から出土した土器片が、北西約 300cm で検出された SU02 の壺 (404) と接合した。

4 土器棺・土器集積

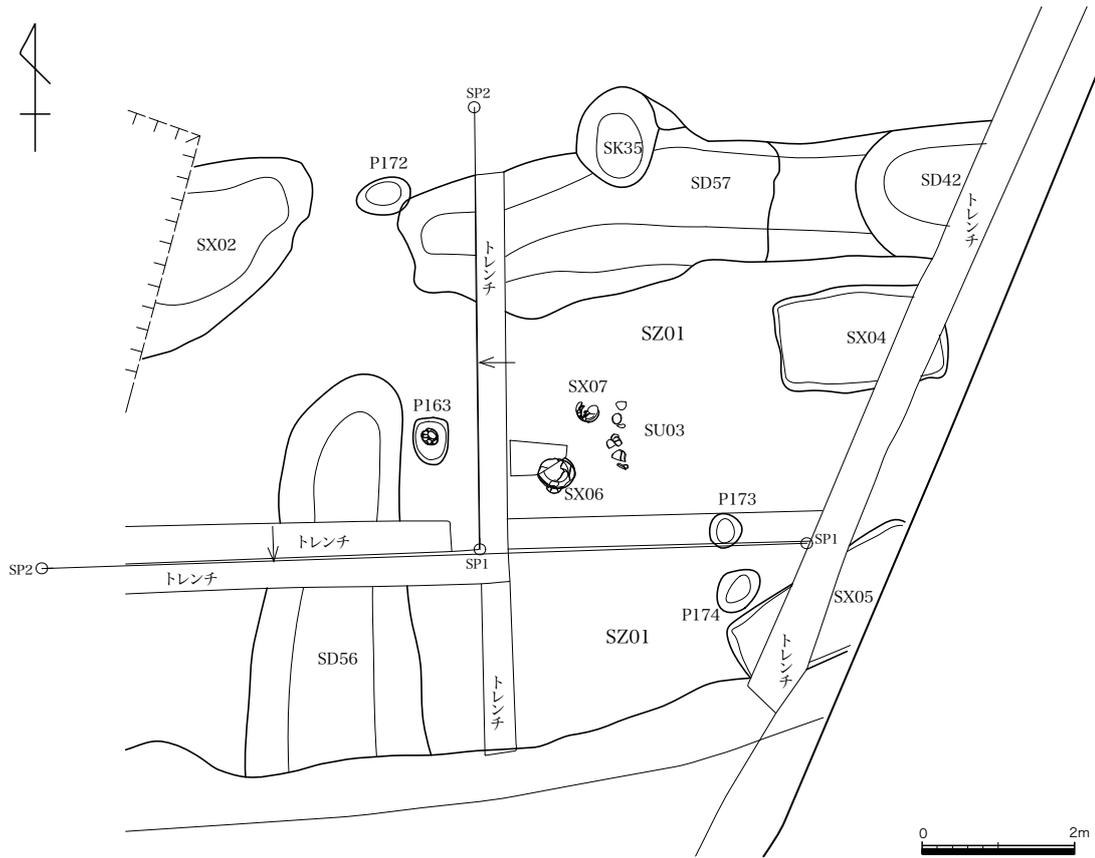
(1) C・D 区 2 面検出

P163・SU02・SU03・SX07・SX06 は近接した地点で検出されている (第 42・43 図)。

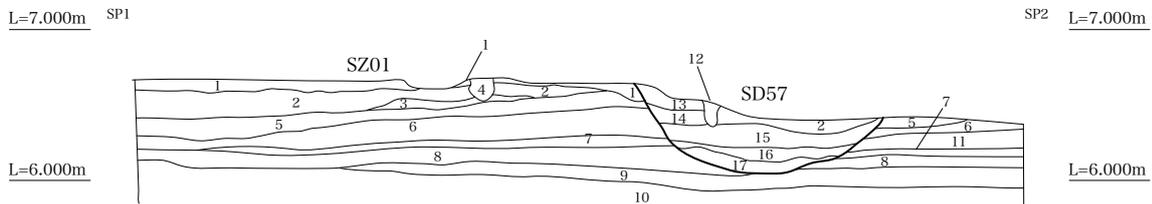
P163 C 区 1 面調査時に確認されたものであるが、遺物から下面遺構と認定した。長径 63cm、短径 46cm、深さ 14cm の楕円形また隅丸長方形を呈する土坑の中位で、正立した状態の A-2 期の凹線文壺の体部下半部 (403) が出土している。

SU02 P163 の東約 200cm のところにある土器集積で、C 区 1 面調査時に確認されている。土器片は北東から南西に向かって 160cm 程の細長い範囲にみられるが、細片が多い。

SU03・SX07 SU02 の下約 20cm のところで SU03 が、さらに約 20cm 下で SX07 が検出されている。SU03 はやや大きめの破片が 90cm 程の列をなしており、SX07 は脚部が欠損した A-2 期の甕 (407) がやや斜位な状態で倒立している。土層観察によって、これらの遺物は大きな掘り込みの底面にあたる位置で出土していることが判ったが、落ち込みの肩は検出できなかった。



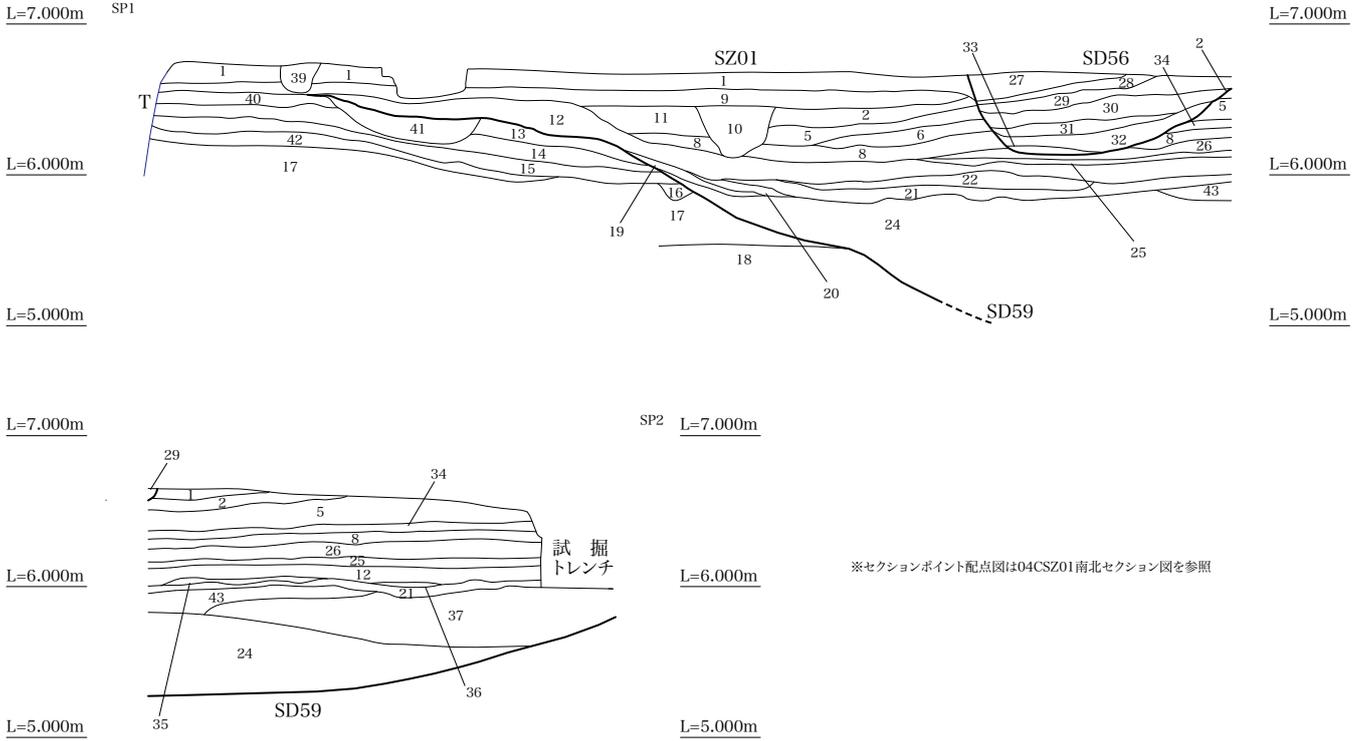
南北セクション



- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------------------|
| 1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトの混合土 |
| 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルト少量含む |
| 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 4. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂互層堆積 (厚さ5mm) |
| 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 8. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | |
| 9. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 10. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 10Y4/1 (灰色) 細粒砂の混合土 |
| 11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |
| 12. 2.5Y3/2 黒褐色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土 |
| 13. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y3/3 (暗オリーブ褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む |
| 14. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積 (厚さ2mm) |
| 15. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 互層状堆積であるが部分的に(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む |
| 16. 2.5Y5/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む |
| 17. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | 細粒砂 | 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む |

第 39 図 C 区 SD56・57 (SZ01) 平面図・土層断面図 (1) (S=1/100)

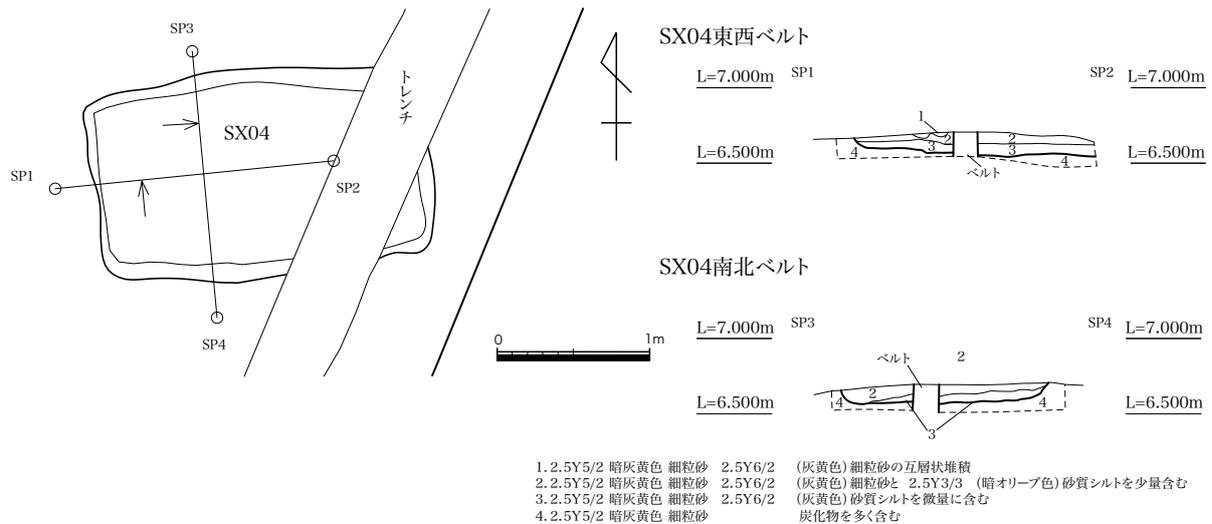
東西セクション



※セクションポイント配点図は04CSZ01南北セクション図を参照

1.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2	(黒褐色) 砂質シルトの混合土
2.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2	(黒褐色) 砂質シルト少量含む
5.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂を含む
6.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂互層堆積 (厚さ5mm)
8.	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
9.	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂を含む
10.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
11.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の薄い層を含む
12.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを微量に含む
13.	5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の薄い層を含む
14.	5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の互層状堆積土
15.	5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の互層状堆積土
16.	5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂		
17.	2.5Y4/1	灰色	細粒砂		
18.	2.5Y7/2	灰黄色	細粒砂		
19.	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂		
20.	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂		
21.	2.5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y4/2	(暗黄灰色) 粘質シルトの混合土
22.	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(黄灰色) 細粒砂の互層状堆積
23.	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	7.5Y4/1	(灰色) 細粒砂の薄い層を部分的に含む
24.	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	7.5Y4/1	(灰色) 細粒砂の薄い層を含む
25.	5Y4/1	灰色	砂質シルト		
26.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(黄灰色) 細粒砂の互層状堆積 (6/2は部分的に含まれるのみ)
27.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(黄灰色) 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトの混合土
28.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(黄灰色) 細粒砂の互層状堆積に 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを含む
29.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(黄灰色) 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを含む
30.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(黄灰色) 細粒砂の互層状堆積に 2.5Y3/3(暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを含む
31.	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の薄い層を含む
32.	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む
33.	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 互層状堆積
34.	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト		
35.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5YR3/6	(暗赤褐色) 粗粒砂(酸化層)の混合土
36.	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂		
37.	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	7.5Y4/1	(灰色) 細粒砂の互層状堆積
39.	2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/3	(暗オリーブ色) 砂質シルトブロックφ3cmを含む
40.	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
41.	5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
42.	10Y4/1	灰色	砂質シルト		
43.	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	7.5Y4/1	(灰色) 細粒砂の薄い層を含む

第40図 C区SD56・57(SZ01)平面図・土層断面図(2)(S=1/100)



第 41 図 C 区 SX04 平面図・土層断面図 (S=1/50)

SX06 SX07 の南西約 60cm の位置で検出された A-2 期の古井式壺 (406) で、体部に焼成後の穿孔がみられる。壺は、掘り込まれた土坑の底面に斜位な状態で倒立して出土した。高さは SX07 より約 50cm 高く、SU02 や P163 出土壺に近い。

SX13・14 D 区の SB39 の下位で SD59 の肩付近で検出されている。SX13 は A-2 期の古井式壺 (408) が倒立した状態で、SX14 は体部に焼成後穿孔された A-2 期の古井式壺 (409) が、口縁部を下にやや斜めに横位の状態で出土している。両者とも掘り込みは確認されていない (第 44 図)。

SU05 D 区の調査区南壁際で、SD59 の肩にあたる場所で検出された土器集積。土器がまとまっている部分は 3ヶ所に分かれ、最も西にある倒立した A-2 期の古井式甕 (400) は他の地点より 20cm 程低く、SD59 の斜面にあたる位置で出土している。どの部分でも明瞭な掘り込みは確認できなかった (写真図版 6)。

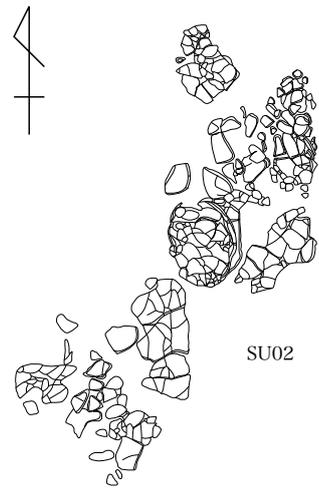
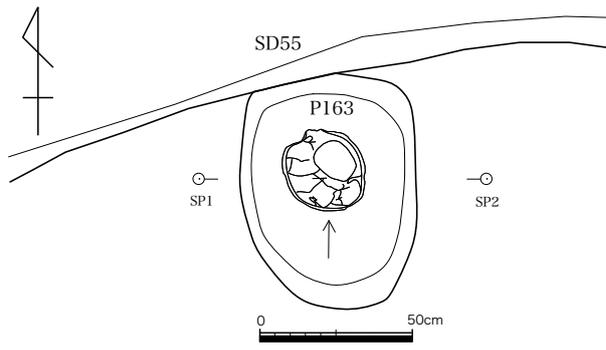
5 その他

NR02 E 区 1 面の東端で検出された落ち込み。調査時点では自然河道と認識して掘削したが、土層観察などにより、自然の落ち込みまたは低地部分という結論に至った。下層には、炭化物・灰黄色砂を含む黒褐色細粒砂が約 20cm 堆積し、その上層には約 8 cm の厚さで暗赤褐色酸化物を多量に含む黒褐色シルト、さらにその上層には約 8 cm の厚さで暗赤褐色酸化物を含む暗オリーブシルト層が堆積する。各層から灰釉陶器・須恵器が出土しており、下層では銅鏝等 (第 3 章第 6 節) が出土した。

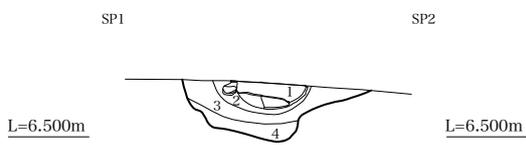
SD65 E 区の東端で検出された落ち込みで、検出面としては 3 面目になる。湧水のため完掘できなかったが、中位から上位層で 3~5 cm の厚さの炭化物層がみられる。下位層より A-1 期の条痕文土器などが出土している。

NR03 C 区の北西端で確認された落ち込み。陵線をなすような明瞭な肩部は検出されず、ごくゆるやかな傾斜面が確認されたのみであるが、土層断面によりかなり大規模な落ち込みであると判明した。この北西部分では多くの灰釉陶器・須恵器などが出土しており、NR03 と別名にしたが、B 区で検出された NR01 の南岸にあたる可能性が高い。

噴砂 C 区と D 区の境界部分の南壁から北北西に 8 m 程延びる幅約 60cm の噴砂痕で、そこから派生する細い噴砂痕列や平行する細い噴砂痕列もみられる。この噴砂が起きた時期は、土層断面により、SB42 以降で SB40 以前と考えられる。

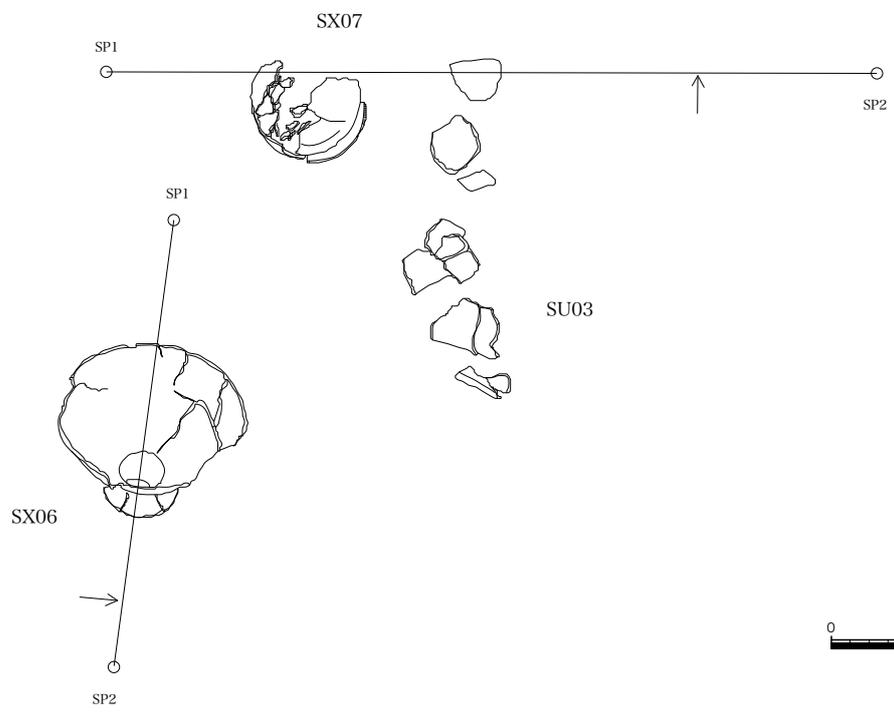


L=7.000m P163 L=7.000m



0 50cm
SU02

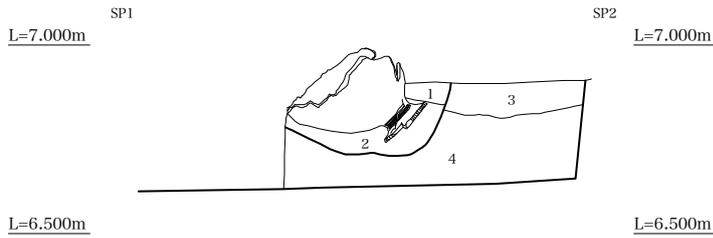
- 1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを少量含む
- 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 細粒砂ブロックを微量に含む
- 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂



SU03・SX06・SX07

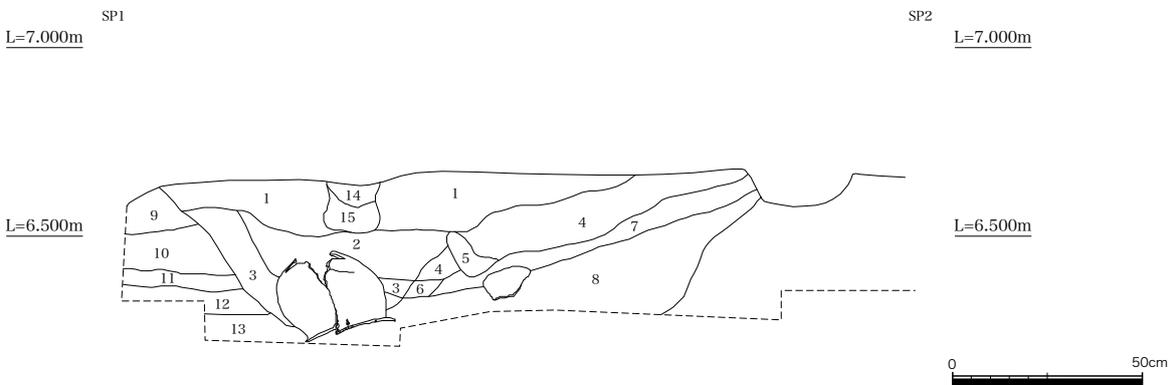
第 42 図 C 区 P163、SU03・02、SX06・07 平面図・土層断面図 (1) (S=1/20)

SX06



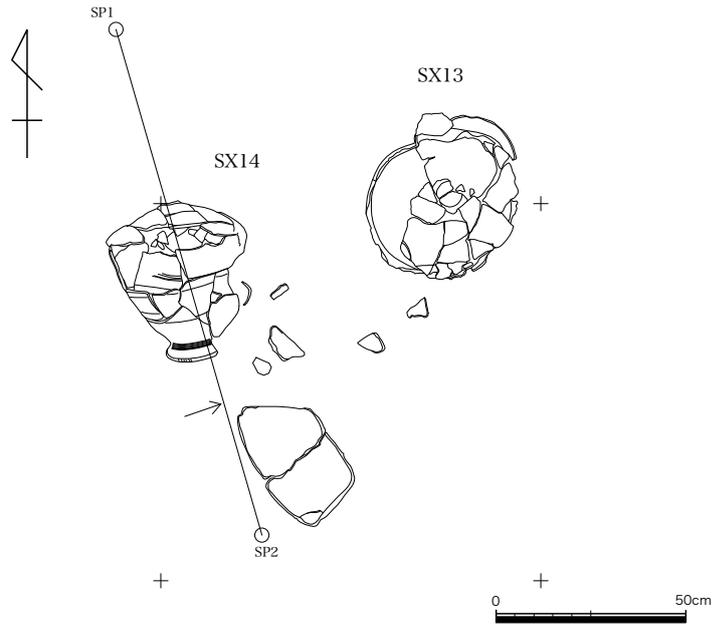
- 1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂
- 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトを微量に含む
- 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを含む
- 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む

SX07

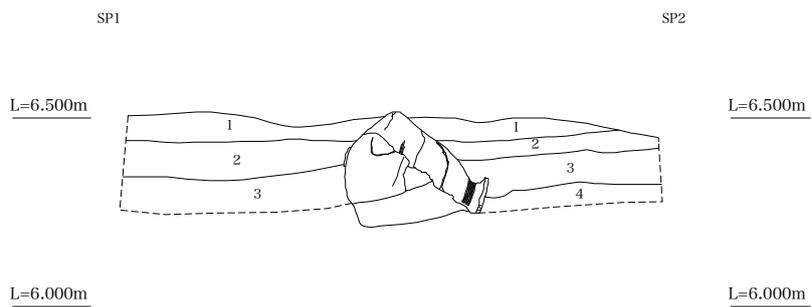


- 1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土
- 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む
- 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を多く含む
- 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを含む
- 5. 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂質シルトブロック
- 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂と 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土 炭化物を含む
- 7. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土
- 8. 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを少量含む
- 9. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を含む
- 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
- 11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
- 12. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の方が多い
- 13. 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 砂質シルトブロックを少量含む
- 14. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂 2.5Y3/3 (暗オリーブ色) 細粒砂の混合土
- 15. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の互層状堆積

第 43 図 C 区 P163、SU03・02、SX06・07 平面図・土層断面図 (2) (S=1/20)



SX13・SX14



- 1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロック径2cmを少量含む
- 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロック径2cmを微量に含む 2.5Y6/2(灰黄色) 細粒砂を少量含む
- 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を微量に含む
- 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂を少量含む

第 44 図 D 区 SK13・14 平面図・土層断面図 (S=1/20)

F区北壁・東壁

1. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ2mm程度を多く含む(作土)	51. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂の混合土
2. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト		52. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む
3. 5Y4/2	灰オリーブ褐色	砂質シルト	5YR3/6 (暗赤褐色) 酸化ブロックを多く含む(田床)	53. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト		
4. 5YR3/6	暗赤褐色	粗粒砂	2.5Y4/1 (黄灰色) 砂質シルトの混合土	54. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
5. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘質シルト	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む	55. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂を多く含む
6. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘質シルト		56. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂を少量含む
7. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト		57. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
8. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロック径2cmを多く含む	58. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
9. 2.5Y3/3	砂オリーブ褐色	砂質シルト		59. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
10. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂を少量含む	60. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂の混合土
11. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む	61. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂		
12. 2.5Y5/3	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土	62. 2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
13. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む	63. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト		
14. 5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む	64. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂		
15. 5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む	65. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂		
16. 2.5Y6/2	灰黄色	細粒砂		66. 5Y4/1	灰色	細粒砂		
17. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む	67. 5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂を多く含む
18. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土	68. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂		
19. 2.5Y5/2	暗灰黄色	中粒砂		69. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2	(黒褐色) 砂質シルトの混合土
20. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2 (灰黄色) 細粒砂の混合土	70. 2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂		
21. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む	71. 2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 中粒砂を少量含む
22. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む	72. 5Y4/1	灰色	砂質シルト		
23. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	径5cmの2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを含む	73. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 中粒砂の混合土
24. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂		74. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト		
25. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト		75. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の混合土(攪乱)
26. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂		76. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y5/2	(暗灰黄色) 細粒砂の混合土φ2mmを多く含む(攪乱)
27. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む	77. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを多く含む
28. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/2 (黒褐色) 砂質シルトブロックを多く含む	78. 5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂		
29. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂		79. 5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
30. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	2.5Y4/2 (暗灰黄色) 砂質シルトを含む	80. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む
31. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト		81. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂		
32. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト		82. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む
33. 2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト		83. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂		
34. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂の混合土	84. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
35. 2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト		85. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂		
36. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/2 (暗灰黄色) 細粒砂ブロックを多く含む(SD71埋土)	86. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む
37. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む	87. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト		
38. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂		88. 5YR3/6	暗赤褐色	砂質シルト		
39. 2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト		89. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト		
40. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂		90. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の混合土
41. 2.5Y6/2	黒褐色	中粒砂	(攪乱)	91. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂		
42. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト		92. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y3/2	(黒褐色) 砂質シルトの混合土
43. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む					
44. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト						
45. 2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	2.5Y4/1 (黄灰色) 細粒砂の混合土					
46. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む					
47. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む					
48. 2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂						
49. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを微量に含む					
50. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを少量含む					

第45図 F区北壁・東壁・深掘土層断面図(1)(S=1/80)

第4節 F区

調査区の大部分が高圧電線建設時に掘削されており、旧地形は部分的にしか残っており、一部では飛び地状に残存していた。調査は上位の溝を中心とした面と下位の堅穴建物を中心とした遺構群に分けて行ったが、図面は1面で作成している。また西部で深堀を行い(第45・46図)、遺構検出面の下位に河道(NR04)があることを確認している。

1 建物

SB45 南東隅部が検出された深さ約24cmの堅穴建物。南辺に沿って壁周溝が巡る。調査時にはSB45に切られるSB44を想定したが、土層断面の観察の結果、はっきりと堅穴建物とは断定できなかった。

SB46 南東隅部が検出された深さ約27cmの堅穴建物。南辺に沿って壁周溝が巡る(第47図)。

SB47・48 一部分のみが検出された堅穴状の落ち込み。建物跡であるかは不明瞭である。

SB49 北西隅部が検出された深さ約22cmの堅穴建物。

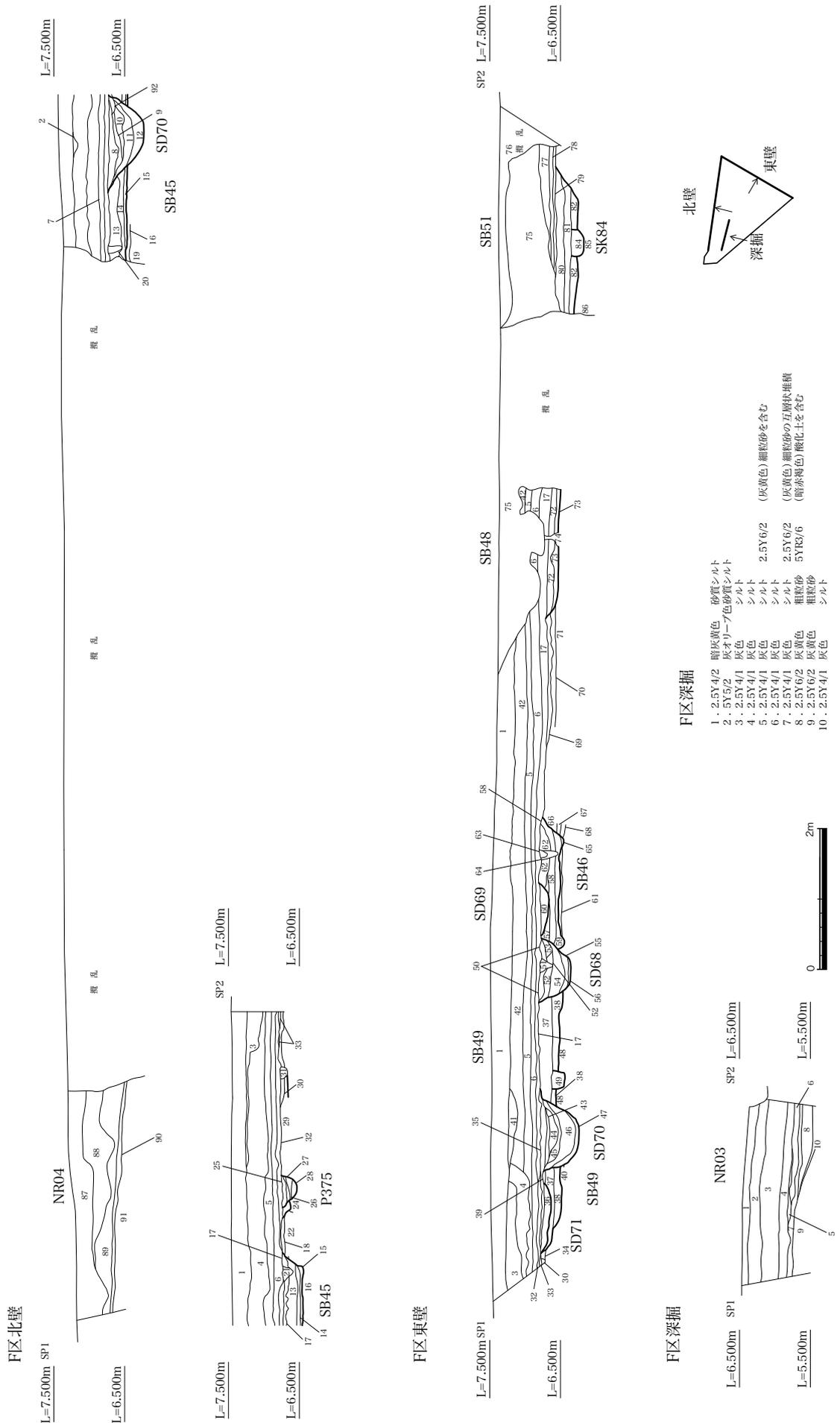
SB50・51 隅部の一部分のみが検出された堅穴状の落ち込み(第47図)。SB51は調査区南端の攪乱で破壊されなかった狭い場所で検出されている。

2 溝

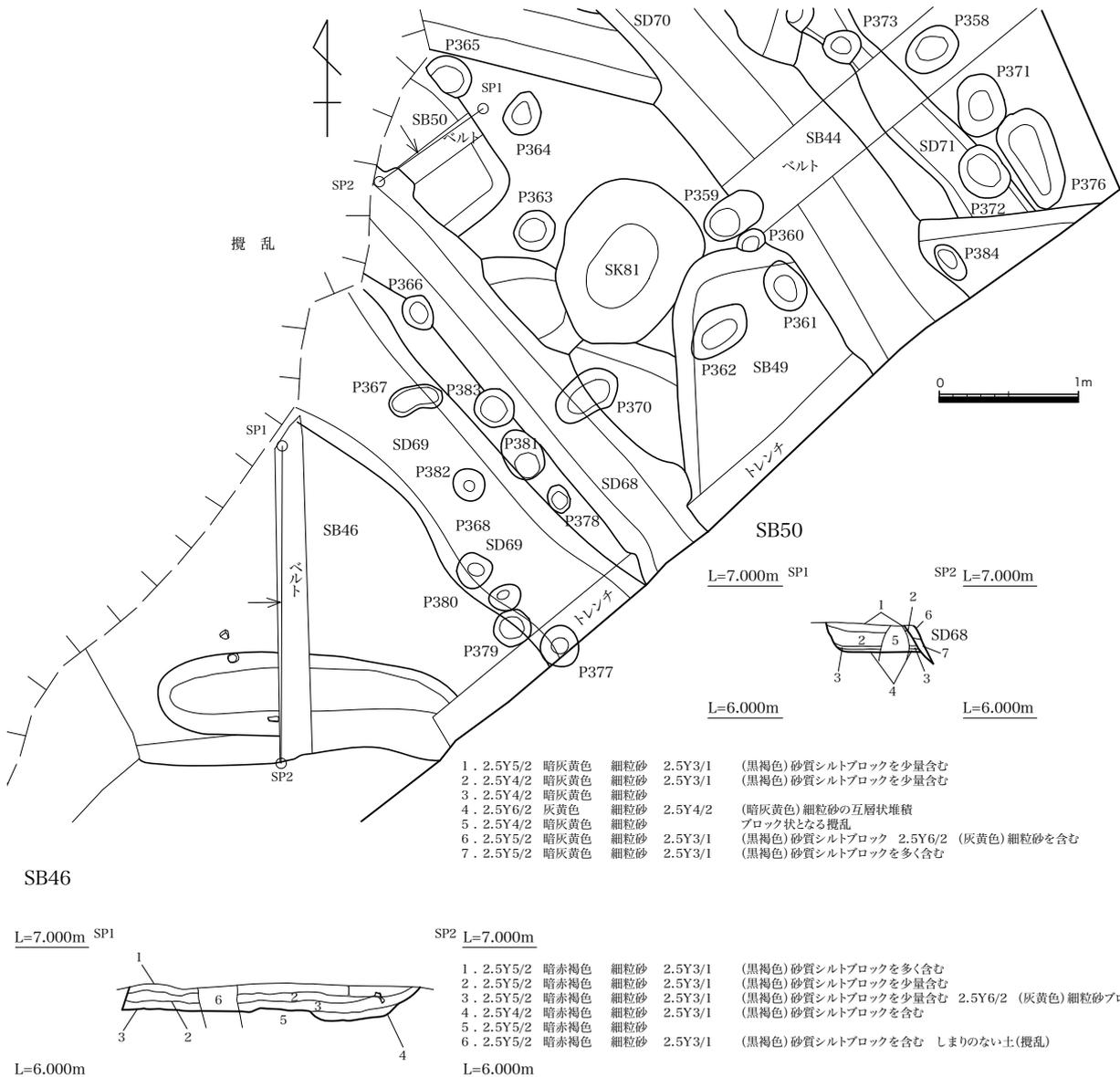
SD68～71 北西—南東方向に走る幅40～97cm、深さ6～45cmの溝群。SD68・69、SD70・71が近接する。時期はB期か。

第5節 G・H区

調査区上層には粘質・砂質シルト、中粒砂・細粒砂の互層が堆積しており、C-3期以降と思われる



第46図 F区北壁・東壁・深掘土層断面図(2) (S=1/80)



第 47 図 F 区 SB46・50 平面図・土層断面図 (S=1/50)

る木器 (21 ~ 30) がややまとまって出土している。この木器群が検出された標高約 620cm の面で溝や落ち込みが確認されたため、遺構検出を行った。またその下位に灰色・灰黄色の中粒砂・粗砂・砂礫が堆積した河道が確認されている。この河道は調査時には C 区にある NR03 と同様なものと考えたが、F・G・H 区の河道については明らかに時期が異なるため、本報告書では別遺構名 NR04 とした。また H 区の西壁・南壁土層断面については、遺構検出面上部のみを図化し (第 48 ~ 50 図)、下層についてはトレンチ (T1、T2) で確認している。

1 溝

SD72 ~ 74 H 区の最高位で検出された溝群で、SD72 と SD73 の間は途切れるが、連続する同一の溝と考えられる。SD72・73 と SD74 は 30 ~ 50cm の間隔をおいて平行し、ほぼ南北に走る。溝幅は 121 ~ 176cm、深さ 6 ~ 14cm を測り、断面は皿形を呈する (第 52 図)。時期は C-3 期以降か。

2 河道・落ち込み

SX12 G 区から H 区の北壁から東壁際で検出された深さ約 80cm の落ち込み。上層には灰色砂質

G区・H区西壁

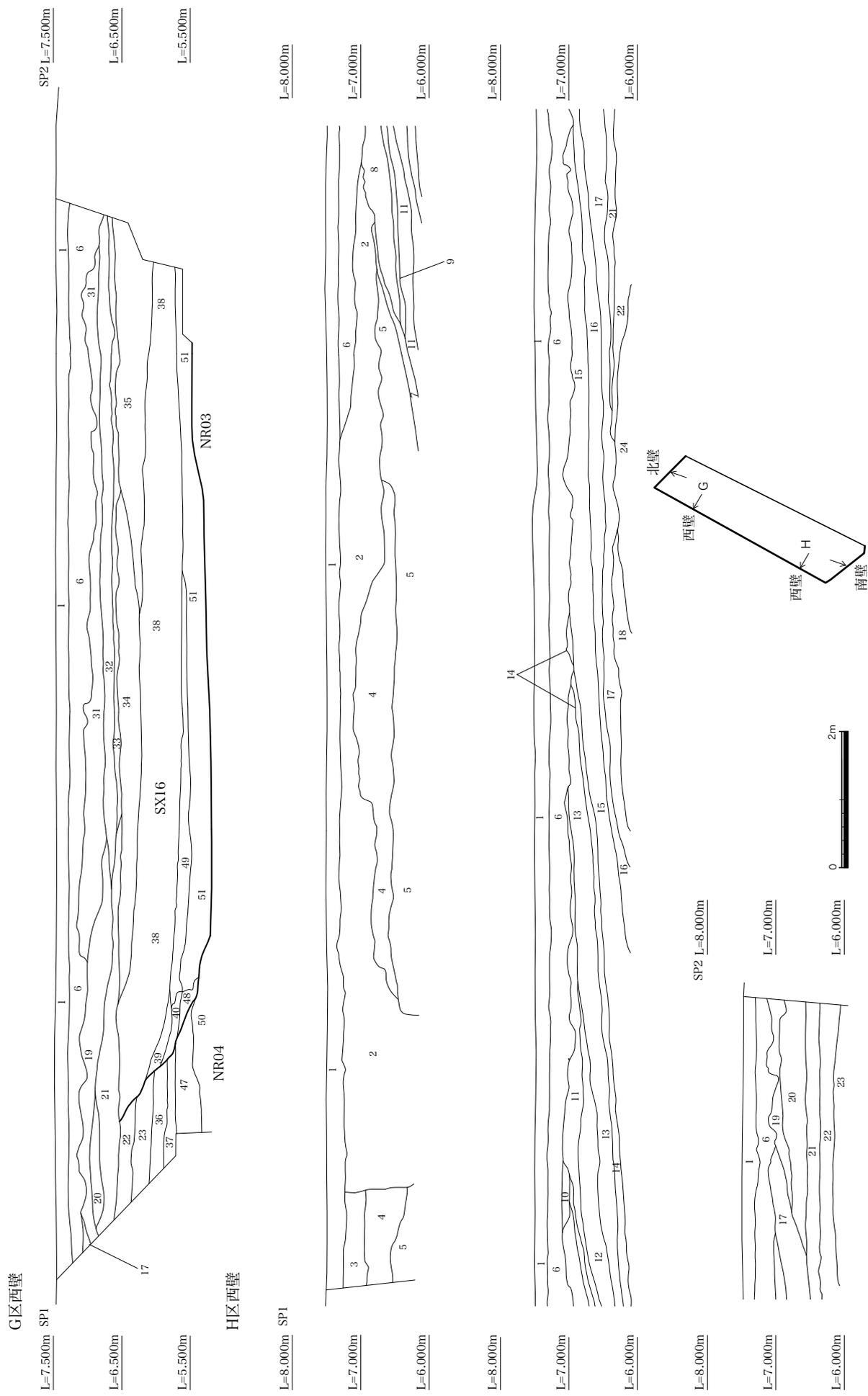
1. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト		2φ~3mm多く含む(作土)
2. 5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色)中粒砂(酸化土)の混合土(作土の整地土か?)
3. 10YR4/6	褐色	粗粒砂	5Y3/2	(オリーブ黒色)φ3cm程の砂質シルトブロックを多く含む
4. 5YR3/6	明赤褐色	粗粒砂	5Y3/2	(オリーブ黒色)φ3cm程の砂質シルトブロックを多く含む(酸化土)
5. 10YR5/6	黄褐色	粗粒砂	5YR5/6	(明赤褐色)粗粒砂(酸化土)を含む 5Y3/2 (オリーブ黒色)砂質シルトブロックを含む
6. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂ブロックを多く含むφ2~3cmを多く含む
7. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色)酸化ブロックを含む
8. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂		
9. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	2.5Y4/1	(黄灰色)砂質シルトの混合土
10. 2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト		
11. 5YR3/6	暗赤褐色	中粒砂		(酸化層)
12. 2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	5YR3/6	(暗赤褐色)酸化ブロックを多く含む
13. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	2.5Y4/2	(暗灰黄色)砂質シルトの互層状堆積
14. 2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色)中粒砂(酸化土)を多く含む
15. 5Y3/2	オリーブ黒色	粘質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)粘土と 2.5Y6/2 (灰黄色)中粒砂の互層状堆積(下駄の出土層)
16. 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂ブロックを含む
17. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色)砂質シルトブロックを少量含む
18. 10Y4/1	灰色	細粒砂	5Y4/1	(灰色)砂質シルトブロックを多く含む
19. 5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	2.5Y4/2	(暗灰黄色)砂質シルトブロックを多く含む
20. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト		
21. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)粘土ブロックを多く含む
22. 5Y4/3	暗オリーブ色	細粒砂		
23. 10Y4/1	灰色	細粒砂		
24. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色)中粒砂(酸化土)を多く含む
25. 2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色)酸化ブロックを多く含む
26. 10YR6/8	明黄褐色	中粒砂	2.5Y4/1	(黄灰色)砂質シルトブロックを多く含むφ3~5mmを多く含む(碧海台地の土か?)
27. 5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト		φ2~3mmを多く含む
28. 5Y4/2	灰褐色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)中粒砂の混合土
29. 2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂		
30. 2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色)酸化ブロックを多く含む
31. 2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	2.5Y7/1	(灰白色)粘土ブロックを少量含む
32. 2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂	2.5Y4/2	(暗灰黄色)砂質シルトブロックを多く含む
33. 2.5Y3/2	暗灰黄色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂の混合土
34. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y7/1	(灰白色)粘土ブロックと 2.5Y3/2 (黒褐色)粘質シルトブロックを少量含む
35. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y7/1	(灰白色)粘土ブロックを少量含む
36. 10Y4/1	灰色	細粒砂		
37. 10Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂を少量含む
38. 2.5Y4/1	灰色	粘質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色)粘質シルトブロック径3cm程度を多く含む
39. 2.5Y4/1	灰色	粘質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂の互層状堆積
40. 2.5Y4/1	灰色	粘質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂と 7.5Y7/1 (灰色)細粒砂を含む
41. 5Y5/2	灰オリーブ色	砂質シルト		
42. 5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト		
43. 2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂		
44. 5Y5/2	灰オリーブ色	砂質シルト		
45. 2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂と 2.5Y3/1 (黒褐色)砂質シルトブロックを含む
46. 2.5Y5/3	黄褐色	シルト		
47. 5Y4/1	灰色	中粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色)中流砂を多く含む
48. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色)細粒砂の薄い層を含む
49. 2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	10Y4/1	(灰色)細粒砂ブロック径20cmを多く含む
50. 2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂		遺物を包含する層(断ち割り12層に対応)
51. 2.5Y6/4	にぶい黄色	砂礫	10Y4/1	(灰色)細粒砂ブロックを多く含む遺物を包含する層(断ち割り12層に対応)

第48図 G区・H区西壁土層断面図(1)(S=1/80)

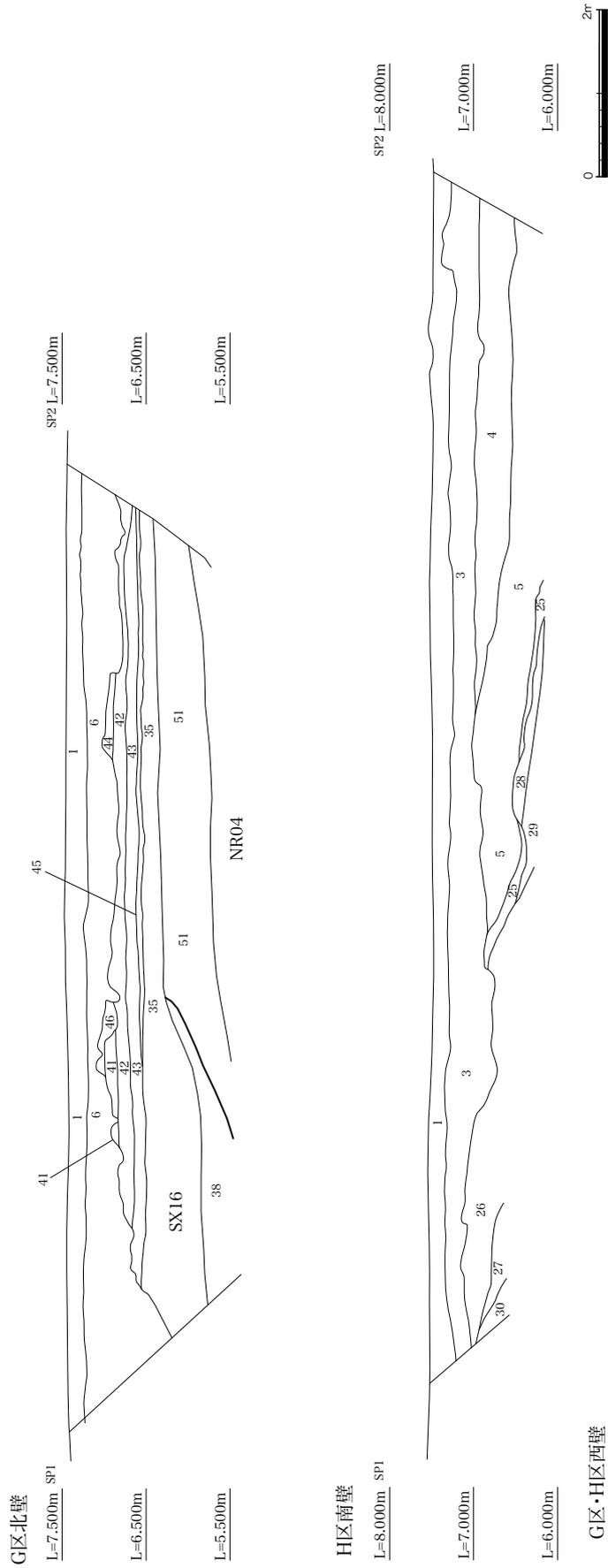
シルト、下層には灰黄色粗砂が堆積し、C-2期の羽釜形鍋(490)やA-2期の遺物(481~488)が出土する。河道NR04を切る。

SX16 G区の西壁際で検出された深さ90~130cmの落ち込みで、上層は暗灰黄色シルト・灰色粘質シルト、下層は黄色砂礫が堆積する。SX12・河道NR04を切る。

NR04 F区からH区にかけて存在する河道。湧水等により全貌は明らかにできなかったが、およそ南北方向に走ると想定され、部分的にSX12やSX16のような落ち込みがみられる。また落ち込みは確認されなかったが、G区の下層にあるにぶい黄色砂礫層よりA-2期の土器が出土している。また上層にあったC-3期以降の堆積も、巨視的にみればこの河道の一部と言える。



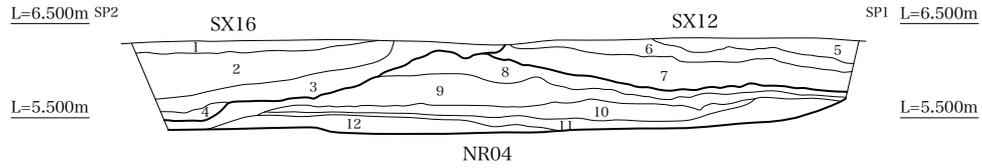
第 49 图 G 区·H 区西壁土层断面图 (2) (S=1/80)



※土層註記は第48図 G区・H区西壁土層断面図(1)の註記を参照

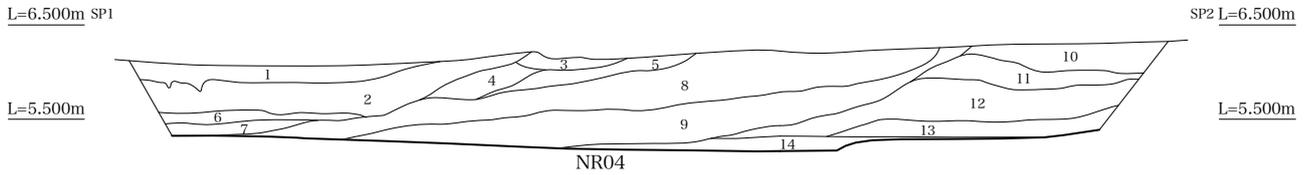
第 50 図 G 区北壁・H 区南壁土層断面図 (S=1/80)

G区トレンチ



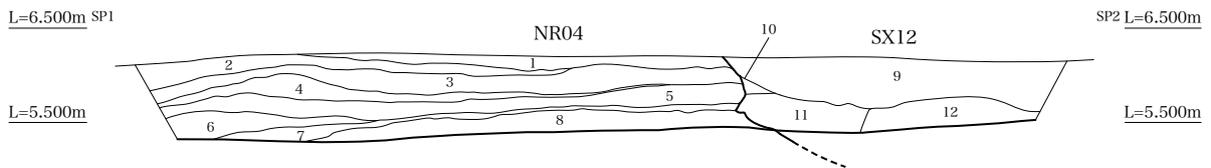
1. 2.5Y5/2	暗灰黄色	細粒砂	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトの混合土
2. 10Y4/1	灰色	粘質シルト	2.5Y3/2	(黒褐色) 粘質シルトの混合土
3. 10Y4/1	灰色	粘質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
4. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	10Y4/1	(灰色) 粘質シルトブロックを多く含む
5. 2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		
6. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	2.5Y4/2	(暗灰黄色) 中粒砂の薄い層を少量含む
7. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂		遺物を多く含む
8. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂		
9. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを多く含む
10. 2.5Y6/4	にぶい黄色	中粒砂		
11. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂		
12. 2.5Y6/2	灰黄色	砂礫層		遺物を多く含む

H区T1



1. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 粗粒砂(酸化土)を多く含む	7.5Y4/2 (灰オリーブ色) 砂質シルトの層を含む
2. 2.5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂			
3. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 中粒砂の互層状堆積	
4. 2.5Y5/1	灰色	中粒砂	7.5Y4/2	(灰オリーブ色) 砂質シルトの互層状堆積	
5. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト			
6. 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	7.5Y4/2	(灰オリーブ色) 砂質シルトを多く含む	
7. 2.5Y6/1	灰色	中粒砂	7.5Y4/2	(灰オリーブ色) 砂質シルトの互層状堆積	
8. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の層を含む	
9. 2.5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	7.5Y7/1	(灰白色) 粘土の層を含む	
10. 2.5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む	2.5Y3/1 (黒褐色) 砂質シルトブロックを含む
11. 2.5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む	
12. 2.5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを少量含む	
13. 2.5Y4/2	灰オリーブ色	中粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂ブロックを含む	
14. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂			

H区T2セクション

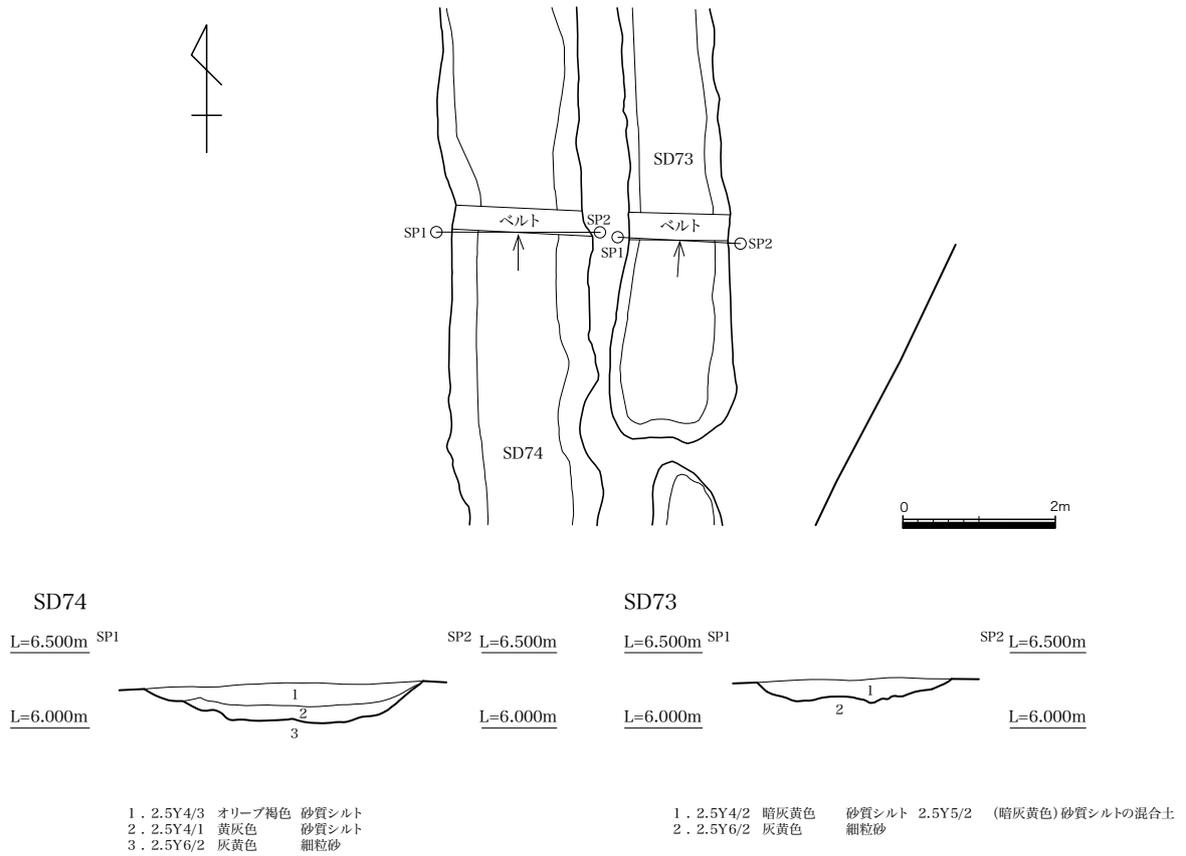


1. 10Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂を少量含む
2. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 中粒砂(酸化土)を多く含む(西壁24層と同一層)
3. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
4. 2.5Y4/1	灰色	中粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 中粒砂の互層状堆積
5. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂		
6. 2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを多く含む
7. 2.5Y4/1	灰色	細粒砂	2.5Y6/2	(灰黄色) 中粒砂を少量含む
8. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	5YR3/6	(暗赤褐色) 酸化ブロックを多く含む
9. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) ブロックを少量含む
10. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y6/2	(灰黄色) 細粒砂の互層状堆積
11. 5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y3/1	(黒褐色) 砂質シルトの混合土
12. 2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂		



※G区トレンチ、H区T1・T2のSP1・2については図版8・9参照

第51図 G区トレンチ、H区T1・T2平面図・土層断面図 (S=1/80)



第 52 図 H 区 SD73・74 平面図・土層断面図 (S=1/50)

第3章 遺物

第1節 土器・土製品

1 A・B区

A区 1はSD18出土の壺底部、2はP11出土の高坏脚部で両者ともA-3期。3はSB04から出土した凹線文系加飾太頸壺の口縁部で、P10とSD18の破片も接合している。時期はA-2期で、斜め下外方に垂下する口縁部外面には細かい不揃いな工具による凹線が、内面端部にはクシまたはイタによる連続扇形文が施されている。4は呉須文様が描かれる磁器。不透明な灰釉が施される。

B区 5はC-1期の南部系山茶碗で内面に薄く有機物・煤が付着している。6~8はC-2期にあたるもので、6はST01から出土した鉄釉のかかる播鉢、7は鍋の口縁部、8は羽釜形鍋の鋳部になる。

9~19はNR01にあたる部分から出土しており、出土位置は9~11が木器集積、13・14が木器集積と同じ層、12・15~17が木器集積層の下層、19がさらにその下位層になる。木器集積及び同層の9は須恵器有台盤、10は碗、11は三河型甕、13が灰釉碗、14が土製鉢になる。木器集積の下層の12は須恵器坏、15は摘みが欠損している須恵器坏蓋、16は須恵器碗、17は灰釉碗になる。18は口縁部がやや内湾する大型の鉢。19はさらにその下層から出土した甕上半部で、口縁部は八字状にわずかに外湾して延び、体部外面に横位のハケ、内面に斜位のケズリがなされる。両者ともA-3期の廻間式土器。

2 C・D・E区

(1) D区建物

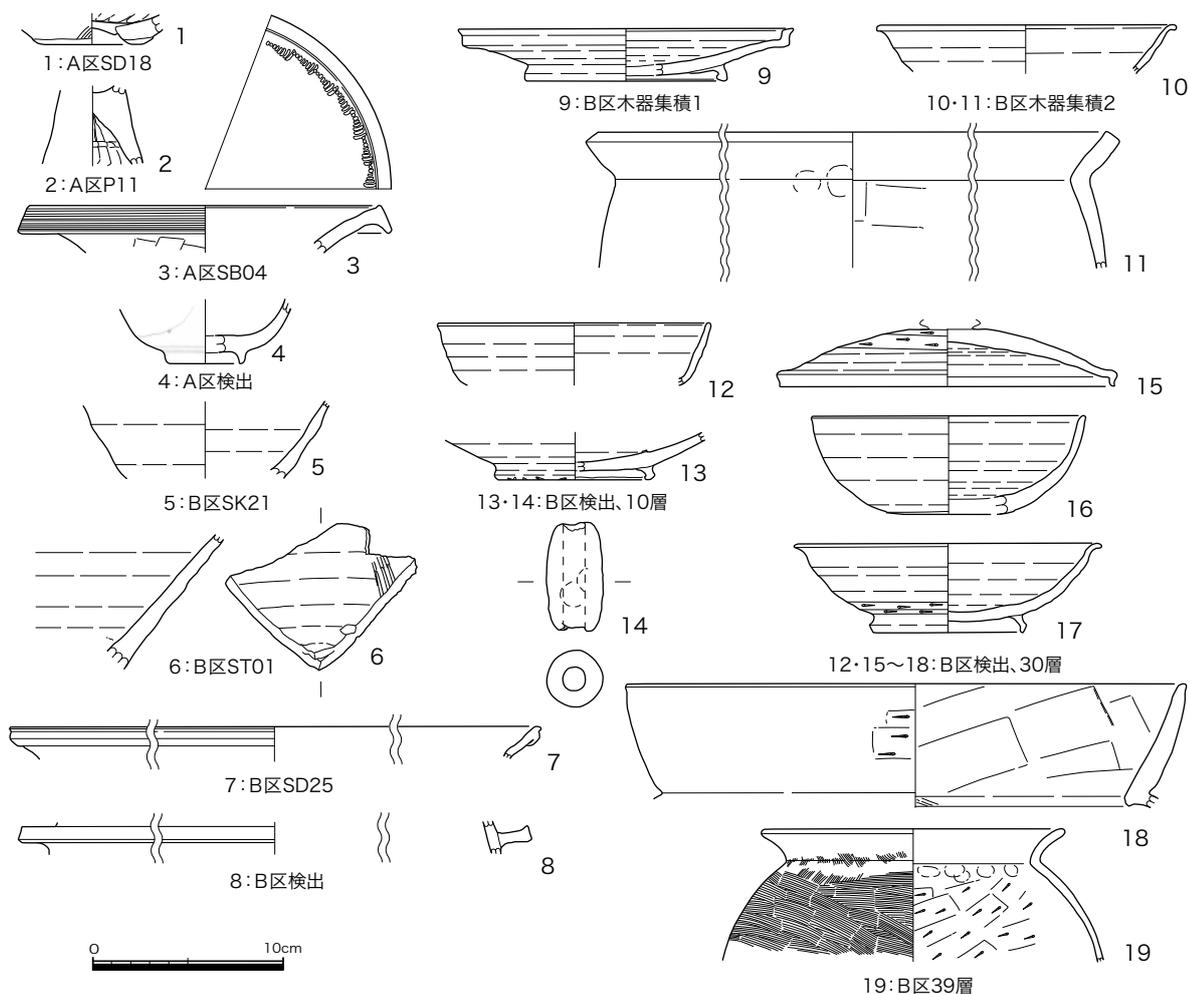
SB36 20~28は竪穴建物の北側でまとまって出土したSU04資料で、A-1期の朝日式土器となる。20は頸部に二枚貝による直線文、体部上半にクシによる横位直線文→縦位直線文(12~13条)→縦位波状文の順に施文される。体部最大径には2条の突帯が巡り、イタによる連続刺突がなされる。頸部文様とクシ直線文の間はナデ調整される。21は頸部と体部下位に不揃いな工具による横位直線文がなされ、その間を繋ぐように8~9条の縦位直線文がつけられる。22は頸部と体部上半に3段の二枚貝による横位直線文が施され、その間に二枚貝による上下動の少ない横位の波状文がつけられる。また頸部の直線文の下には1ヶ所のみ、縦位の二枚貝波状文がみられる。口縁部には4~5個のユビ押圧が、端部外面には二枚貝の横位直線文がなされる。内面はハケ調整。また全体に被熱しており、まだらに煤・炭化物が付着する。23は体部上半部で、22と同様に二枚貝による3段の横位直線文、その間に上下動の少ない横位の波状文がつけられる。24は体部下半で、底部は剥離する。外面はハケ・ミガキ調整、内面はハケ調整される。25~28は底部になる。

SB35 29は手焙り型土器の坏部で、わずかに覆部が残存している。口縁部は内湾して延び、やや粗いハケ調整がなされる。30はく字状口縁の甕。両者ともA-3期の廻間式土器になる。

SB39 31はゆるやかに外湾する口縁部をもつ甕で、端部は丸く磨滅・剥離している。体部はやや縦長で、中位に最大径があり、外面はナデ・イタナデ調整される。A-2期の古井式土器になる。

(2) E区建物

SB07 36・37は上層でまとまって出土したSU01の資料で、A-3期の廻間式土器になる。36は外面に縦位のミガキがなされた有稜高坏の坏部。37はやや粗いハケ調整されるく字状口縁甕で、口縁端部は斜位の面をなす。32は口縁端部外面に二枚貝条痕が施される厚口鉢または内傾口縁土器でA-1期、33はハケ調整されたA-3期の甕脚台部。34は棒状工具による凹線が巡る鉢または高坏、



第53図 A区・B区出土遺物 (S = 1/4)

35 はナデ・イタナデ調整される古井式甕で、両者ともA-2期になる。

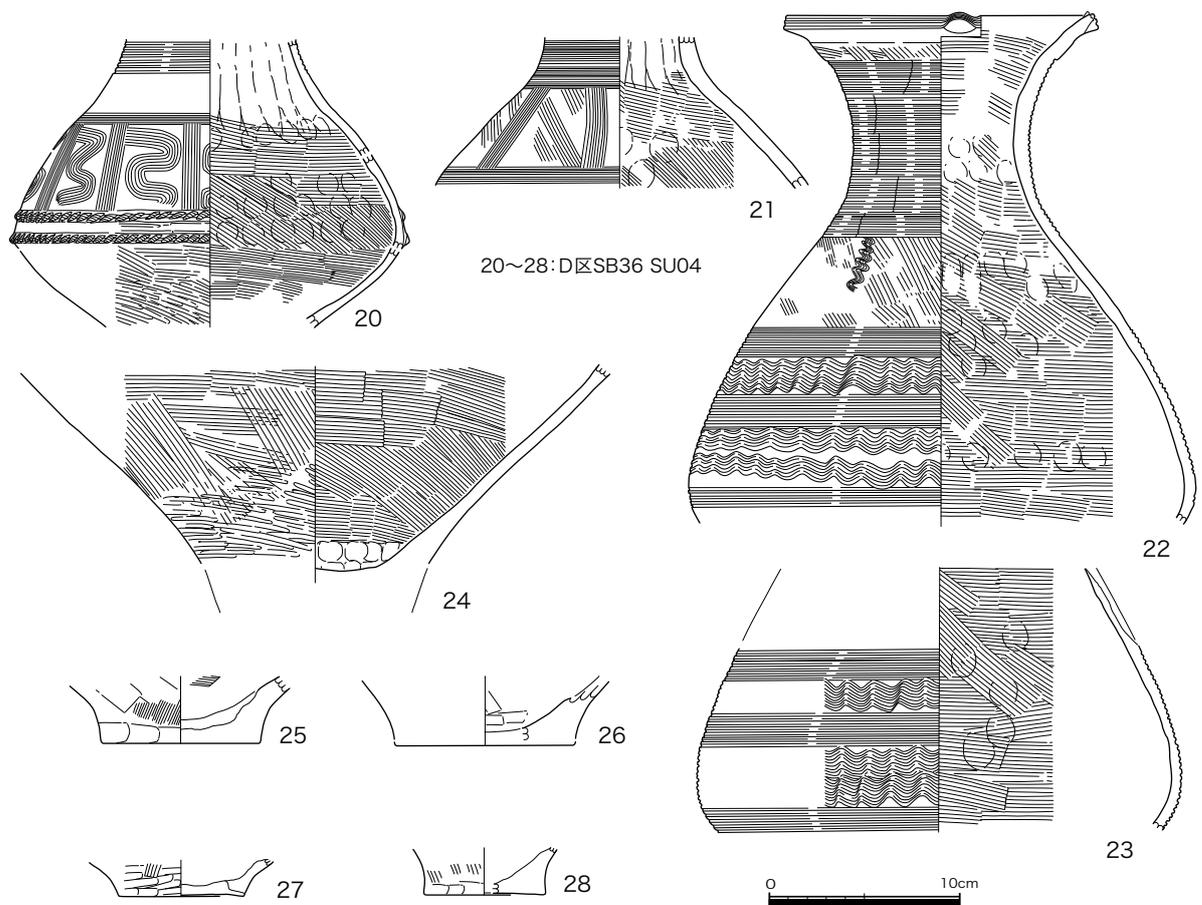
SB09 39 は棒状のものに粘土を巻き付けて成形され、その後ナデ調整される。40 は全体にユビ押圧によって成形された把手状土器。41～47 はA-3期の資料になる。41 は垂下する口縁部をもつ太頸壺で、外面にはイタによる凹線が施される。42 は外面が縦位のミガキ、内面がやや粗いハケ調整がなされた直口壺。43 は内湾口縁をもつ甕、44 は甕脚台部、45 は小型のく字状口縁甕、46・47 は高坏または器台脚部。

SB16 48～51 はA-2期の古井式土器資料。48～50 はナデ調整される甕、51 はクシによる直線文・波状文が施された太頸壺。

SB18 52 は口縁端面にイタによる連続刺突がなされた甕、318 は頸部に2条の突帯が巡る太頸壺で体部にクシ直線文がある。時期はA-3期。

SB19 54 はヘラによる直線文がなされた壺で、調整は不明。55 は条痕調整されたと思われる深鉢。両者の時期はおそらくA-1期になると考えられる。

SB23 56・58 はA-1期資料。56 は壺体部で、ヘラミガキされた体部に2条の突帯が巡り、イタによる連続刺突が施される。58 は口縁端部外面に二枚貝調整された厚口鉢または内傾口縁土器。57 はA-3期の高坏脚部になる。



第 54 図 D区 SB36 出土遺物 (S = 1/4)

SB24 59 は受口状口縁壺で、口縁端面にはユビ押圧による刺突が、外面には半裁竹管による不安定な直線（破線）文、下端にはユビ押圧による連続刺突がなされる。頸部にはイタによる連続刺突が施されるやや幅の広い突帯が巡り、その上下には半裁竹管による不安定な直線（破線）文がある。60・61 は口縁端部にユビ押圧による刺突がなされる深鉢で、外面には斜位から横位の二枚貝条痕が施される。62 は太頸壺体部片で、2 条の二枚貝直線文が描かれる。66・67 は壺体部片で、連続する突帯に連続刺突が施される。外面の調整はミガキ。時期は A-1 期で岩滑式またはその直後の土器になる。

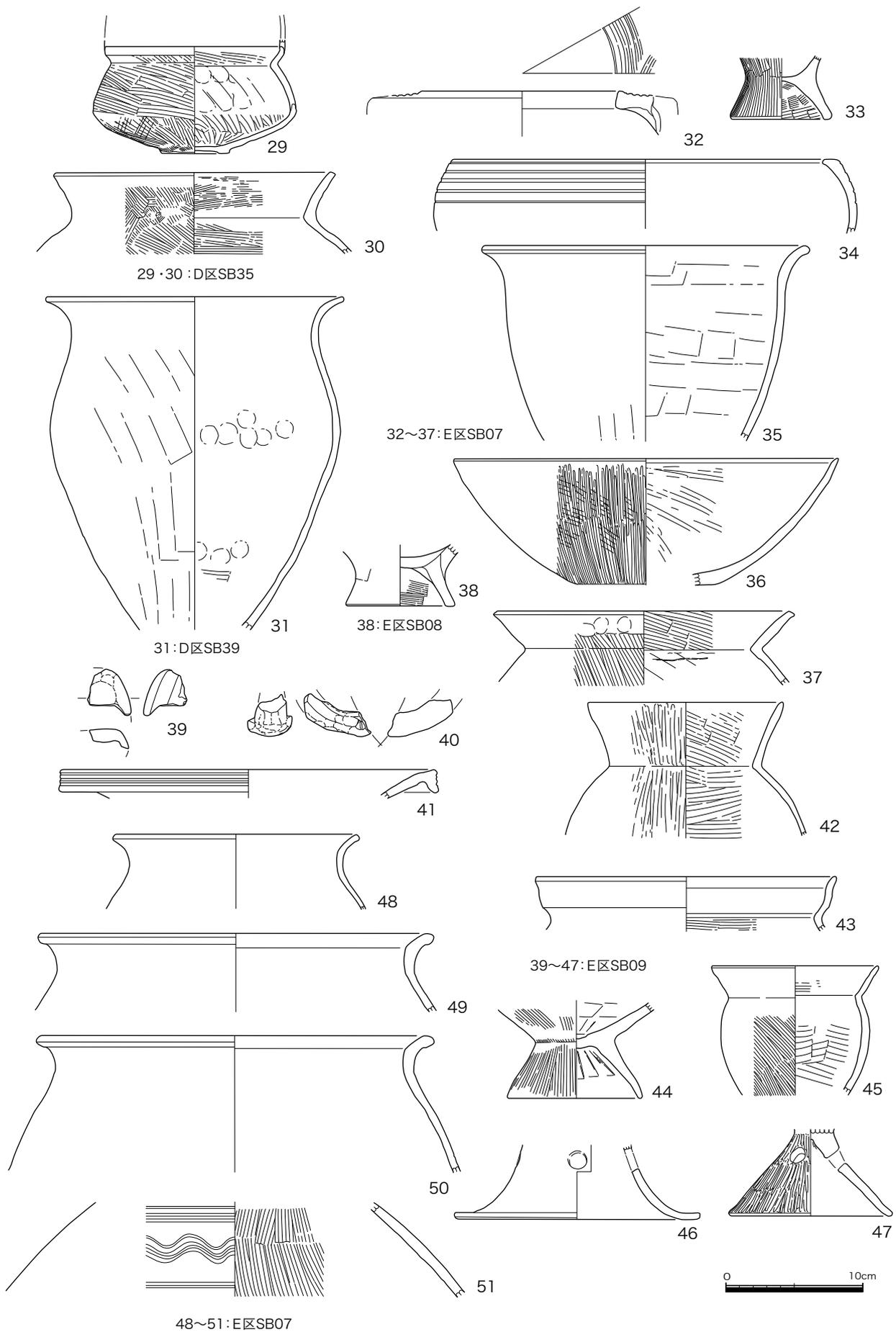
SB29 63 は条痕調整される深鉢で、口縁端部にも条痕が施される。時期は A-1 期。

SB31 64 は太頸壺の体部上半で、幅の広い突帯上にイタによる連続刺突が施され、その下位に半裁竹管による波状文が描かれる。調整はミガキ調整。時期は A-1 期。

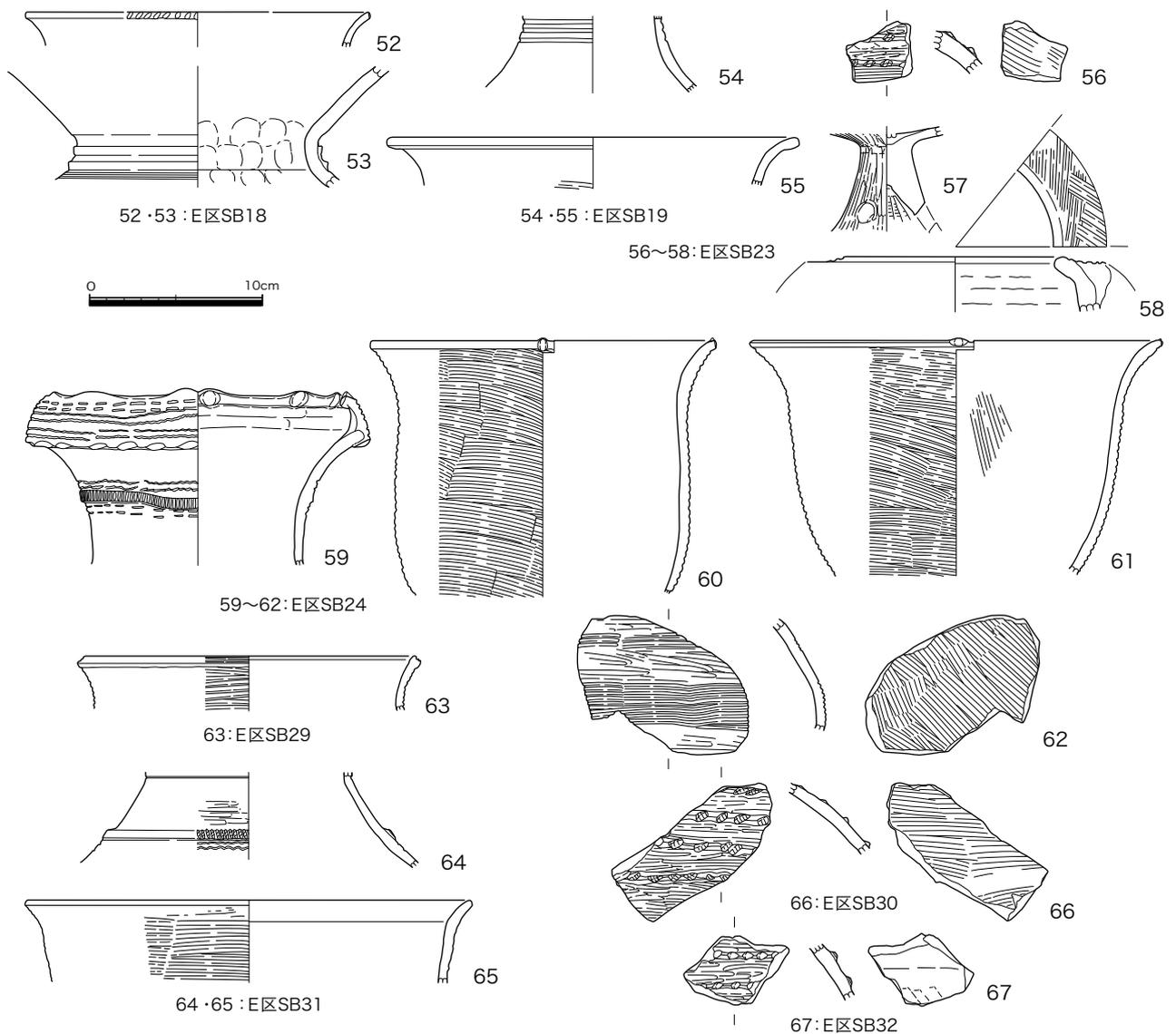
(3) C区土坑・溝

SK33 101 は三河型甕。口縁部はく字状に強く折れ、内面はヨコナデにより平坦にされ、端面は外下方に下がる面をなす。体部は砲弾状を呈しわずかに凹凸があり、ナデ・イタナデ調整がなされる。

SK35 68 は須恵器蓋、69 は須恵器有台坏、70 は須恵器無台坏、71 は須恵器鉢、72・73 は無台碗。74 ~ 77 は灰釉椀、78 ~ 80 は灰釉皿、81 は灰釉段皿。77 は灰釉が浸けがけされ、74・79 は刷毛



第55图 D·E区建物出土遺物 (S = 1/4)

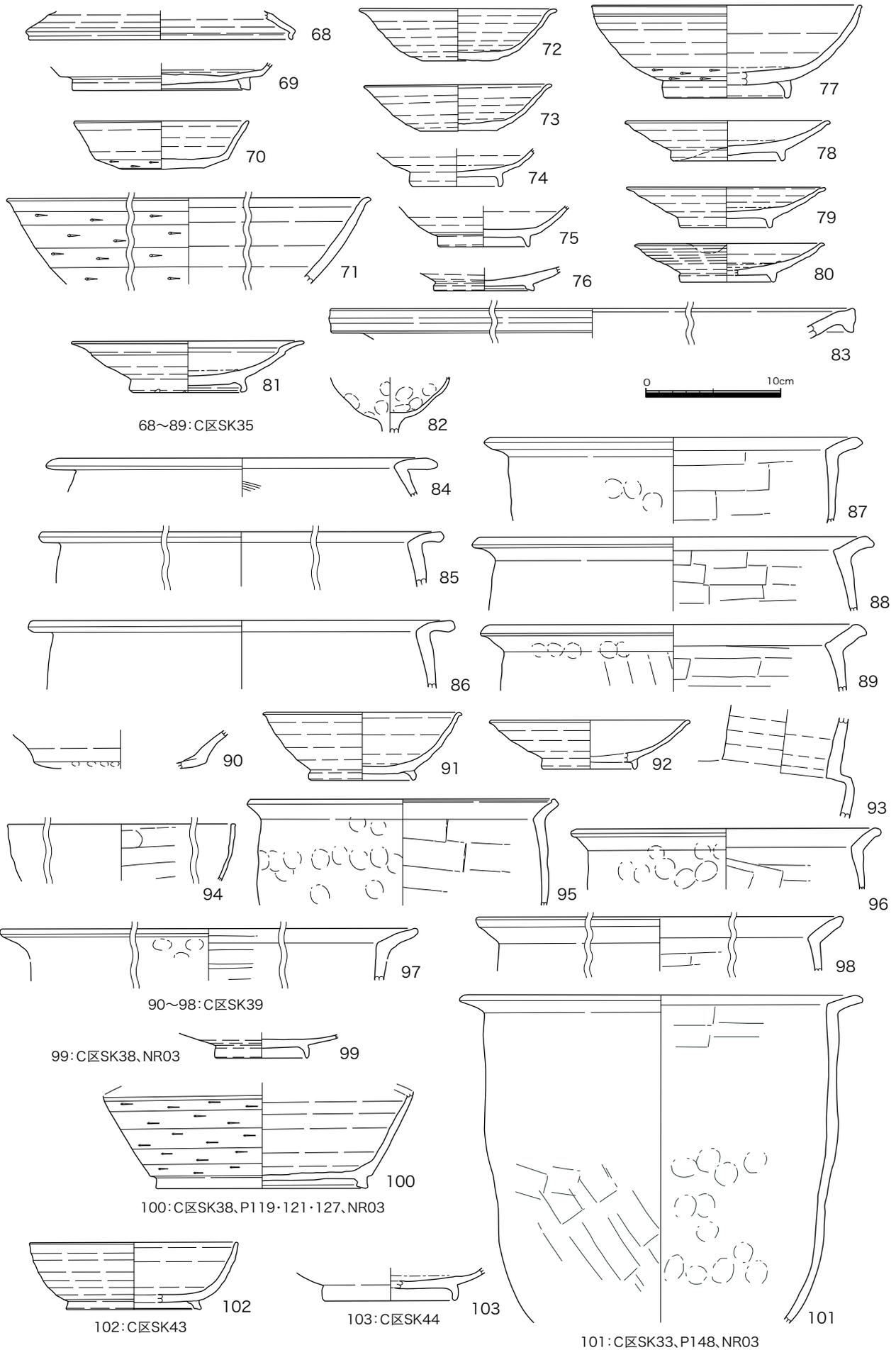


第 56 図 E 区建物出土遺物 (S = 1/4)

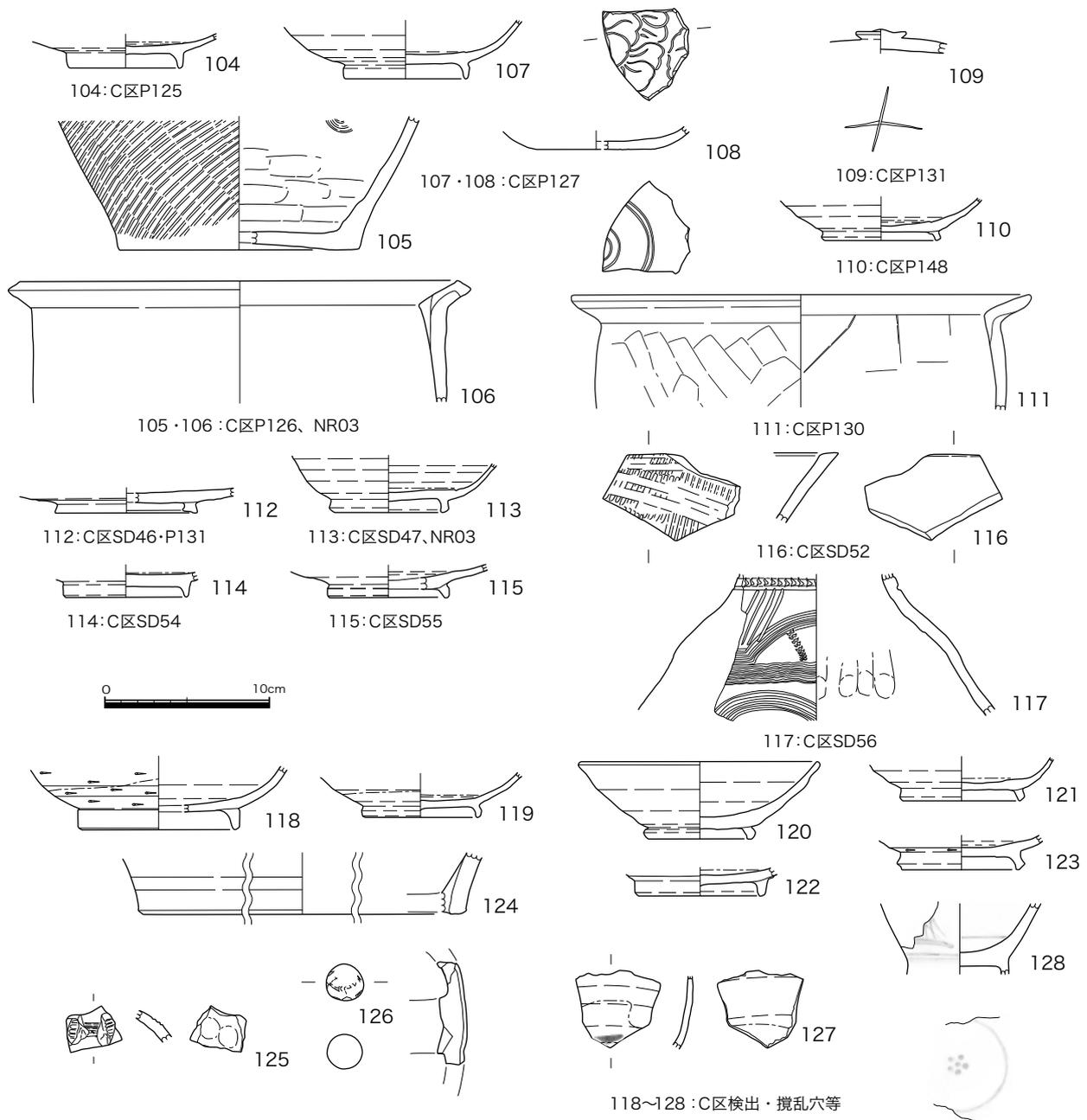
塗りされる。76～81の底部外面には回転ヘラケズリ痕が、74・75には回転糸切り痕がみられる。また81の高台部は重みで潰れたように内側に折れ曲がる。83は須恵器甕の口縁部。82は製塩土器の坏部から脚部。ユビ押圧・ナデで成形・調整され、被熱している。84～89は三河型甕で、ナデ・イタナデ調整される。84～86は外湾して強く折れ曲がり、87～89はく字状に折れ、内面はヨコナデにより平坦になる。

SK38 99は灰釉椀で、底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。NR03出土のものと接合した。100は平瓶で、P119・121・127・NR03のものと接合した。

SK39 90はナデ・回転ナデ調整された土師質の皿で、内面には煤・炭化物が厚く付着している。91・92は灰釉椀で、91の底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。93は平瓶口縁部。94はユビ押圧・ナデで成形・調整された製塩土器坏部で、被熱している。95～98は三河型甕。95の口縁部端は上内方にわずかに延び、96の口縁部端は斜位の面をなし、内面はヨコナデにより平坦になる。97・98



第 57 图 C区土坑·溝出土遺物 (S = 1/4)



第 58 図 C区土坑・溝・その他出土遺物 (S = 1/4)

の口縁端部は丸く収束する。

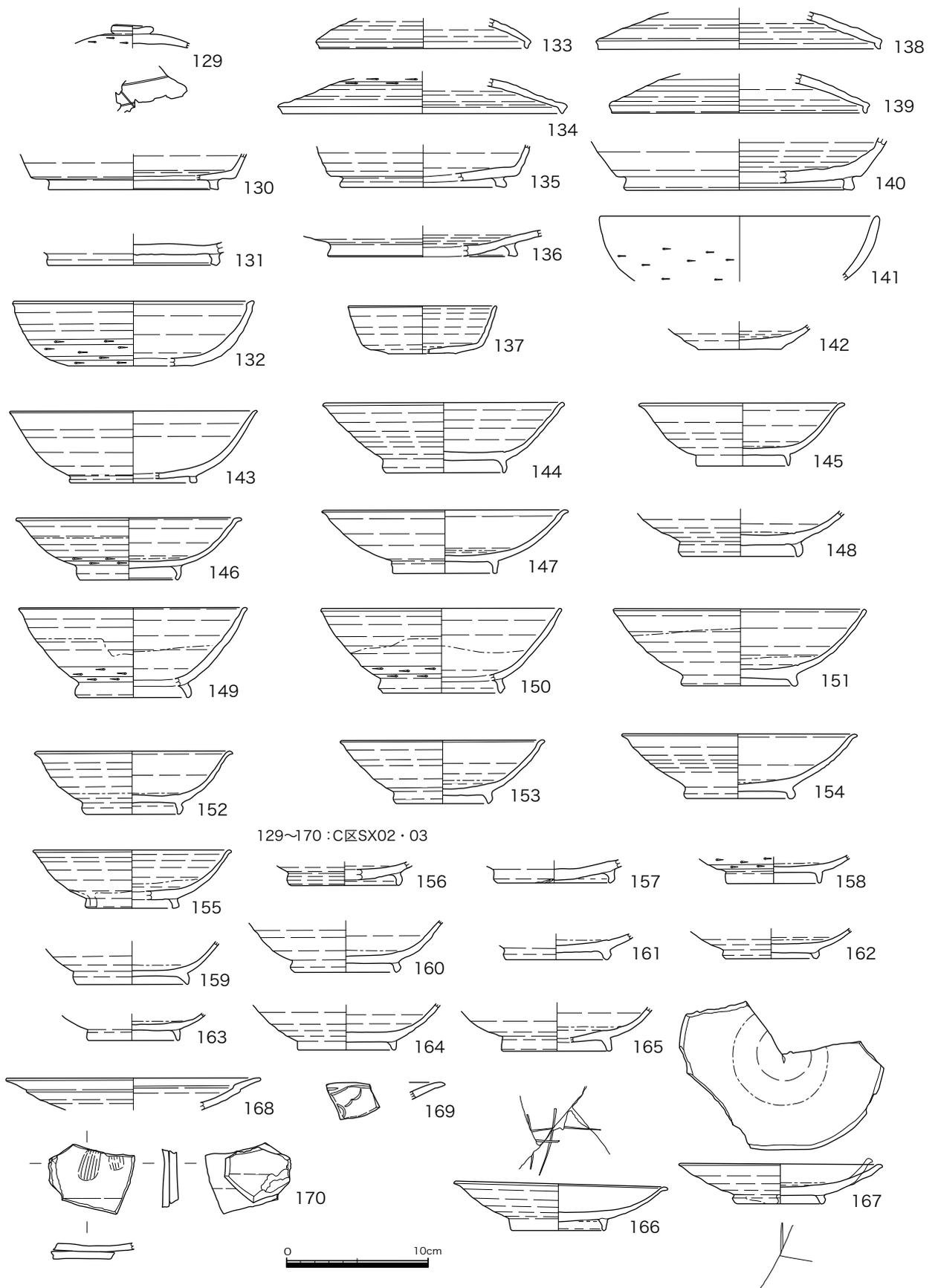
SK43 102 は須恵器有台椀で、内面にはハケまたはクシの痕跡が残る。

SK44 103 は灰釉椀で、底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。

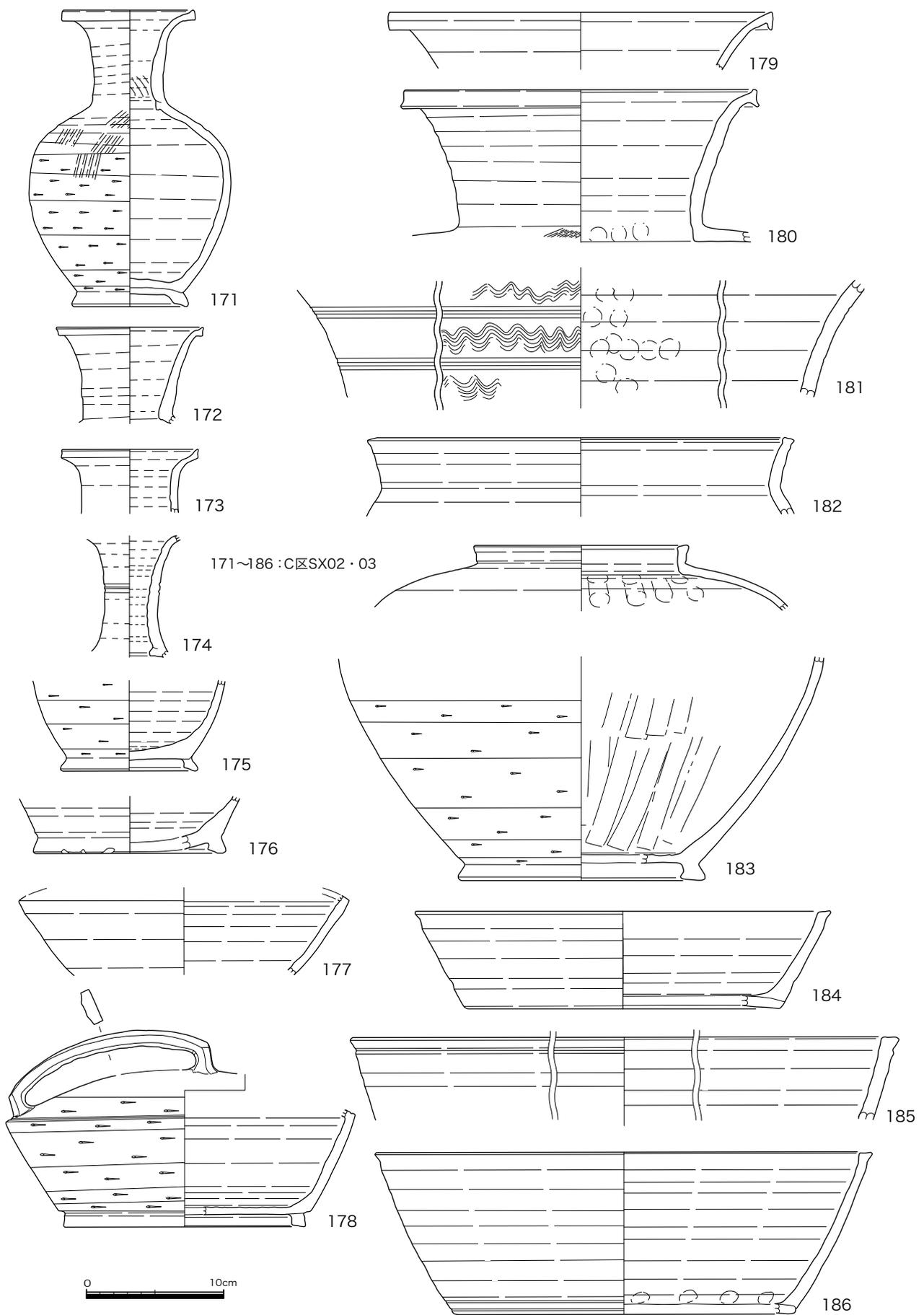
P125 104 は灰釉椀で、破面部は打ち欠かれた可能性がある。底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。

P126 105 は須恵器甕底部で、外面は平行、内面は同心円タタキがなされている。106 は三河型甕で、口縁部内面はヨコナデにより平坦になる。両者とも NR03 出土のものと同接合する。

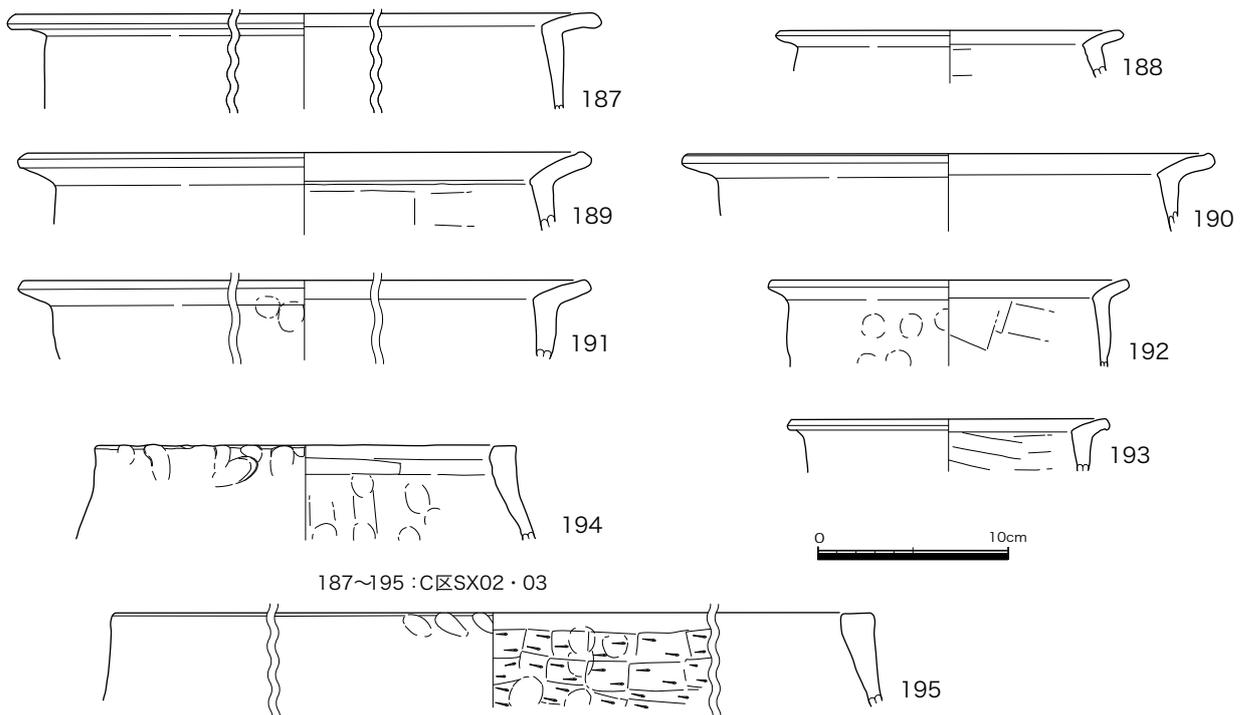
- P127 108 は緑釉碗の底部。ヘラ沈線により内面は花文、外面は同心円文が描かれる。
- P130 111 の三河型甕は口縁端部が丸く収束する。
- P131 109 の須恵器摘み蓋の内面には、ヘラ記号が描かれる。
- P148 110 は灰釉碗。底部外面には回転糸切り痕がみられる。
- SD42 262～264 は A-1 期の壺体部。184 は縦位と横位に突帯が貼付けられ、イタによる連続刺突が施される。調整はハケ。263・264 は複数の横位の突帯が巡り、連続刺突が付けられる。調整はミガキ。
- SD46 112 は須恵器有台坏。P131 出土のものと接合する。
- SD47 113 は灰釉碗で、底部外面には回転ヘラケズリか。NR03 出土のものと接合する。
- SD52 116 は須恵器鉢で、外面には平行タタキがみられる。
- SD54 114 は灰釉碗で、破面部は打ち欠かれた可能性がある。底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。
- SD55 115 は灰釉碗。底部外面には回転糸切り痕がみられる。
- SD56 117 は SD56 の底面から出土した古井式太頸壺。上下動の少ない波状文→連弧文→縦位ヘラ沈線・斜位二枚貝連続刺突の順で施文される。また頸部にも二枚貝連続刺突が施される。
- その他 118～123 は灰釉碗。底部外面は 120 が回転糸切り痕、その他は回転ヘラケズリ痕がみられる。124 は須恵器甕。125 は耳壺の耳部。126 は中世陶丸。127 は灰釉碗の体部片で、外面に炭ではない黒色有機物による横線が描かれている。128 は広東碗で、呉須による笹文・梅文が描かれる。
- SX02・03 129～140・142 は須恵器。129 は坏蓋の摘み部で、内面にヘラ記号が描かれる。133・134・138・139 は蓋、130・131・135・136・140 は有台坏・碗・盤の高台部。132 は底部に回転ヘラケズリ痕がある無台碗、137 も回転ヘラケズリ痕がある坏、142 は回転糸切り痕をもつ坏底部で、やや軟質である。141 は橙色を呈する土師質の坏で外面下半には回転ヘラケズリがなされる。143～165 は灰釉碗。143 は短い台形の高台をもち、底部外面には回転ヘラケズリ痕がある。時期は B-1 期。その他 144・145・147・148 は回転ヘラケズリ痕が、151 は回転糸切り痕がみられる。152～155 はやや小型の碗で、152 は回転ヘラケズリ痕が、153～155 は回転糸切り痕がみられる。156～165 は灰釉碗底部で、156～161 は底部外面に回転ヘラケズリ痕が、162～165 は回転糸切り痕がみられる。149～151・155 は灰釉が浸けがけされる。166・167 は灰釉皿で、166 は底部内面に、167 は外面底部にヘラ記号が付けられている。また 167 は口縁部がやや楕円形を呈し、両者とも底部外面には回転ヘラケズリ痕がある。168 は灰釉段皿。170 は灰釉碗または瓶の釉着した破片で、破面の一部に研磨痕がみられる。
- 171～176 は壺・瓶。171 は回転ナデ成形・調整後、体部に回転ヘラケズリがなされるもので、体部上半にはそれ以前に施された平行タタキ痕がわずかに残る。また体部には部分的に煤・炭化物が付着する。P148・NR03 出土のものと接合する。174 の頸部中位には平行する 2 条のヘラ沈線が巡る。175 は全体に焼き歪みがある。178 は把手が付く平瓶で、NR03 出土のものと接合した。179～181 は甕口縁から頸部。180 は体部に平行タタキが、181 はイタによる 2 条の沈線間にクシによる波状文が描かれる。182 は短頸壺で回転ナデ成形・調整される。183 は同一個体になると思われる薬壺の口縁部から体部と体部から底部。体部下位は外面が回転ヘラケズリ、内面はイタナデ、底部外面は回転ヘラケズリされる。また SK39 出土のものが接合している。184～186 は浅鉢。184 はやや軟質で、外面は磨滅している。186 の体部外面最下位には 2 条の沈線が巡り、ナデ調整される。
- 187～193 は三河型甕。187・188 は口縁部が強く外湾して折れ曲がる。189～193 はヨコナ



第 59 图 C 区 SX02・03 出土遺物 (1) (S = 1/4)



第60图 C区SX02・03出土遺物(2) (S=1/4)



第 61 図 C区 SX02・03 出土遺物 (3) (S = 1/4)

デにより内面が平坦になる。194・195 は甕形土器口縁部。194 は全体に薄く煤・炭化物が付着し、195 は内面がケズリ調整され、煤・炭化物が付着している。

(4) D区土坑・溝

SK60・61・62 196～198 はSK60 から出土している。196 は須恵器有台坏、197 は短頸壺、198 はB期の甕口縁部。203～206 はSK61 から出土している。203 は須恵器壺・鉢底部、204 は長頸壺体部上半、205・206 はC-1期の山茶碗と小皿になる。199～202 はSK60・61・62 出土のものが調査時に混在して区別できなくなったものである。199 はA-3期の加飾太頸壺の口縁部で、内面にはイタによる羽状文が付けられている。201 は手焙り型土器の坏部から覆部。200 は須恵器有台坏、202 は灰釉が刷毛塗りされた灰釉碗。底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。

SK68 207 はA-3期の山中式有稜高坏の坏部下半で、外面下端にはクシ直線文が描かれる。208 は深鉢で、外内面ともナデ調整され、口縁端部にはイタによる連続刺突が施される。209 は口縁部の屈曲がゆるやかな甕で、口縁端部にはイタによる連続刺突が施される。時期はA-2期。

SK79 210 は器台脚部上半で、ミガキ調整される。211 は甕の脚台部。時期はA-3期。

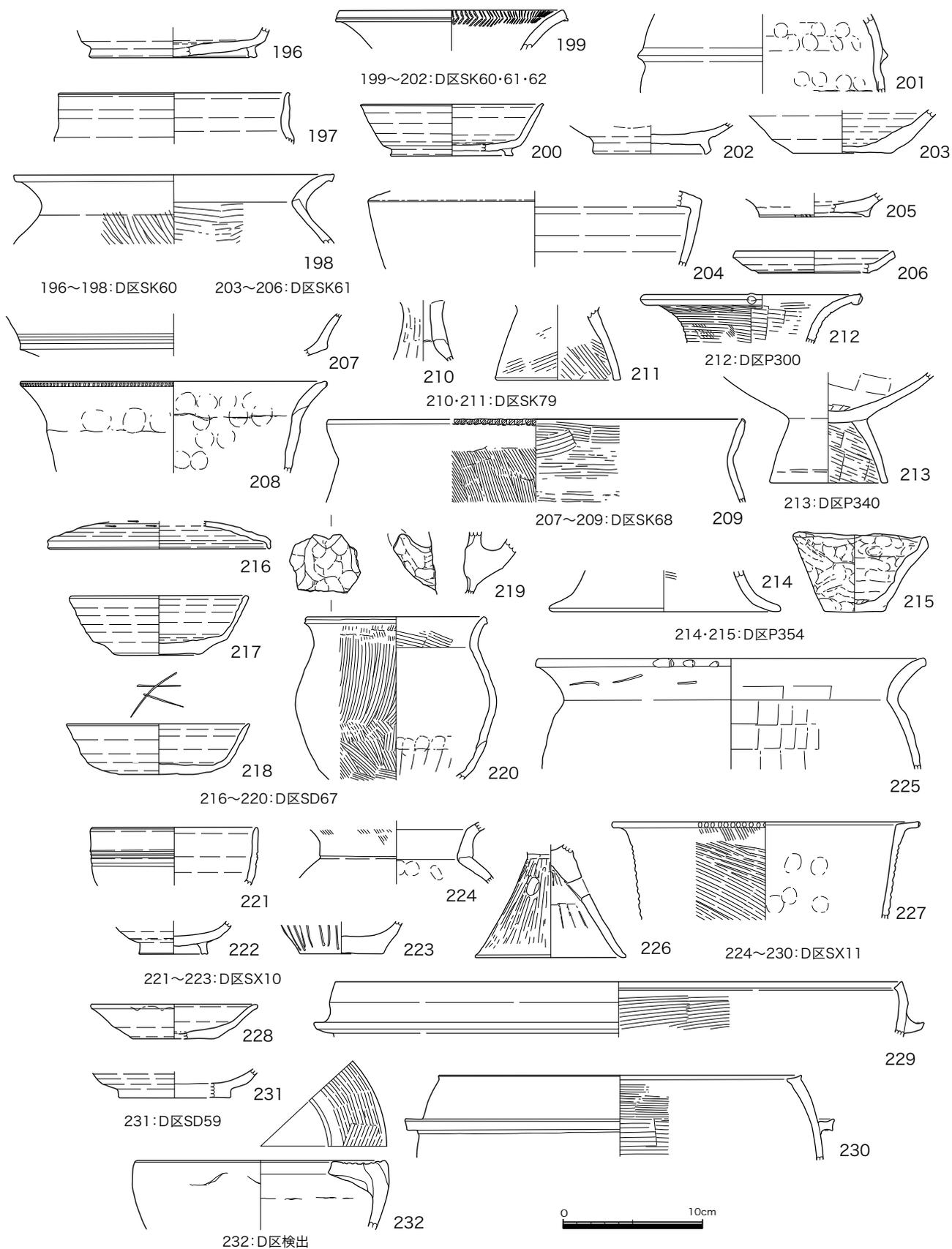
P300 212 はA-1期の太頸壺で、口縁部外面にはユビまたはイタによる押圧、頸部にはハケ→二枚貝条痕調整される。

P340 213 はA-3期の甕の体部から脚台部。

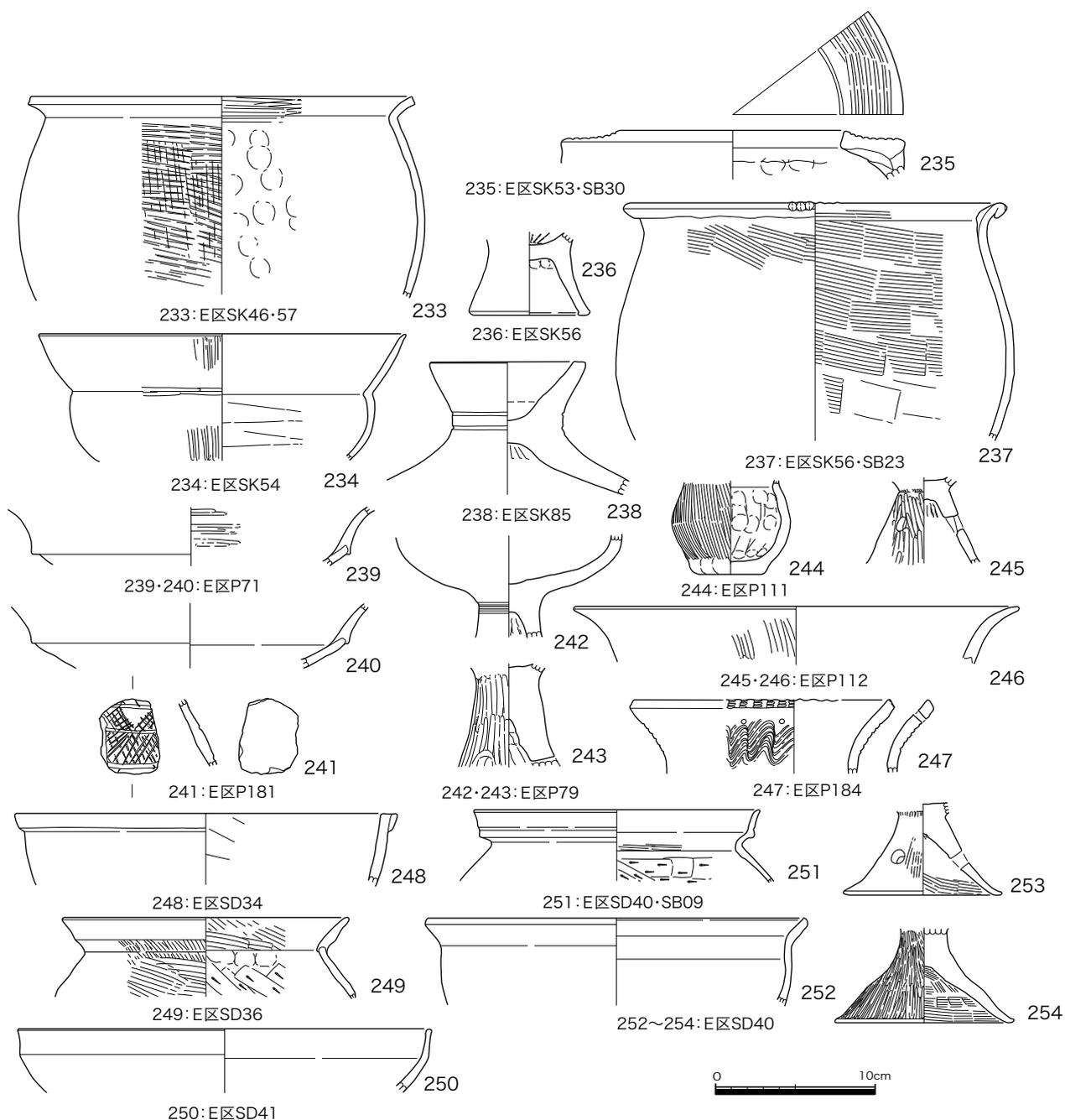
P354 214 は高坏脚部端、215 はユビ押圧・ナデによって成形・調整された鉢で、外面には薄く煤・有機物が付着する。時期はA-3期か。

SD59 231 はB期の緑釉碗で、上層の混入と考えられる。

SD67 216 は須恵器摘み蓋、217・218 は須恵器無台坏で、217の底部外面にはヘラ記号が描かれる。



第 62 図 D区土坑・溝・その他出土遺物 (S = 1/4)

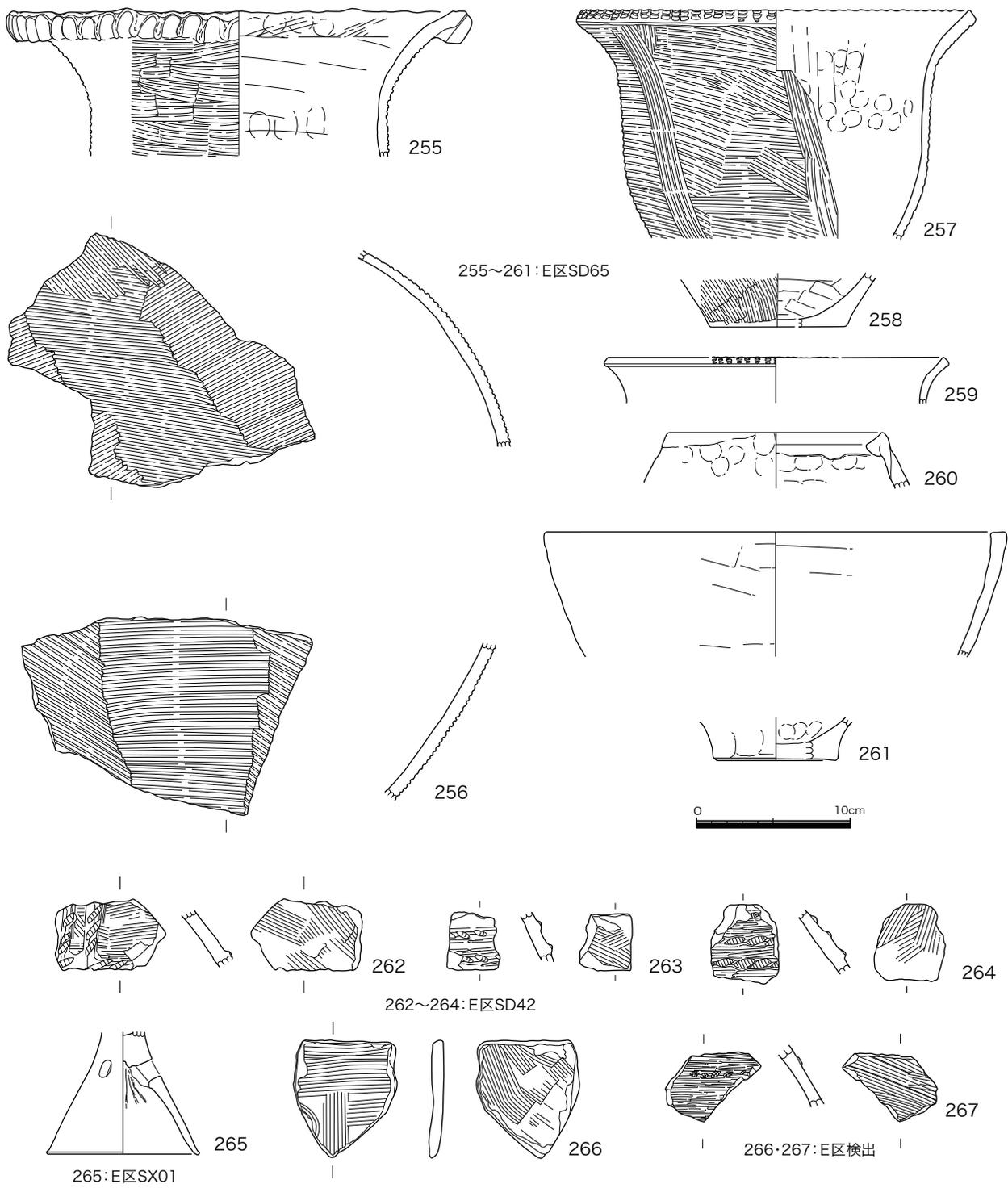


第 63 図 D区土坑・溝出土遺物 (S = 1/4)

219 は土師器の甑把手。220 は小型甕。時期はB期になる。

SX10 221 は体部外面下半が鉄釉、上半から内面に灰釉がかかる腰鍔椀。222 は鉄釉がかかる椀。223 は鉄釉がかかる壺で、外面に縦位の沈線が施される。時期はC-3期。

SX11 224 はハケ・ナデ調整される壺頸部。225 はく字状口縁をもつ甕で、口縁端部に部分的に押圧が施される。226 はミガキ調整された高坏脚部。時期はA-3期。227 は斜位の二枚貝条痕調整されたA-1期の深鉢。228 はC-3期の灰釉が施される皿。229・230はC-2期の羽付鍋。232は検



第 64 図 C・D・E 区土坑・溝・その他出土遺物 (S = 1/4)

出時に出土した厚口鉢または内傾口縁土器で、口縁部外面端は二枚貝条痕調整される。

(5) E区土坑・溝

SK46・57 233はSK46・57出土のものが接合したA-2期の凹線文系甕。体部外面はタタキ後ハケ調整される。

SK53 235はSK53とSB30上層出土のものが接合したA-1期の厚口鉢または内傾口縁土器。口縁部外面端は二枚貝条痕調整される。

SK54 234は口縁部がわずかに内湾して大きく延びる鉢で、外面はミガキ、内面はイタナデ調整される。A-3期の廻間式土器。

SK56 237は口縁端部が折り返されて丸い面を呈する甕で、外面がハケ（イタナデ）・ナデ、内面はハケ（イタナデ）調整される。236は甕脚台部。A-2期の古井式土器。

SK85 238は頸部にヘラによる2条の沈線が巡る。蓋か。

P71 239・240は、A-3期のや間中式有稜高坏の坏部。239の内面には横位のミガキ調整がみられる。

P79 242・243はA-3期の廻間式高坏。242は碗形の坏部をもち、頸部にクシ横線が巡る。243はミガキ調整された脚部。

P111 244はハケ調整される小型壺。

P112 245・246はA-3期の高坏。245はミガキ調整された脚部。246はミガキ調整された坏口縁部。

P181 241はヘラ沈線と鋭い工具によって付けられた斜格子・山形文が描かれた壺体部。

P184 247はA-1期の水神平式太頸壺。口縁端面には二枚貝による押し引き文、体部には波状文が描かれる。また焼成前穿孔が2孔ある。

SD34 248は口縁部端に幅広の粘土帯が貼付けられた鉢。ナデ調整される。時期はA-3期か。

SD36 249はA-3期のく字状口縁甕で、口縁部外面がヨコナデによってわずかに段状を呈する。外面はハケ調整、体部内面は斜位のケズリ成形・調整される。

SD40 251はSB09出土のものと接合する。口縁部は有段状を呈し、体部内面はケズリ成形・調整される。器厚は薄い。282は鉢。253はミガキ調整される高坏脚部。254も高坏脚部であるが、透し孔がなく、細い工具が使用されてミガキ調整される。時期はA-3期。

SD41 250はA-3期の高坏坏部。

SD65 255の太頸壺は、外方に肥厚した口縁部に連続押圧が施され、体部外面は二枚貝条痕調整される。256は二枚貝条痕が羽状に付けられた壺体部。257の深鉢は、内傾する口縁端部面に二枚貝による押し引きが、体部外面には横位・斜位の二枚貝条痕→縦位の二枚貝条痕が施される、縦位の条痕は6方向に付けられる。体部下～中位には煤・炭化物が厚く付着している。258は二枚貝条痕をもつ深鉢底部。259も口縁端面に二枚貝による押し引きがみられる。260は口縁端が折り曲げられて外傾する面をなす内傾口縁土器で、外面から口縁部にかけて薄く煤・炭化物が付着する。261は同一個体と思われる鉢の口縁部と底部で、ナデ・イタナデ調整される。A-1期の水神平土器。

(6) 検出

E区SX01出土の265はA-3期の廻間式高坏脚部、E区の遺構検出中に出土した266はクシによる縦・横位の直線文と弧文が描かれる。C区の遺構検出中に出土した267は横位の突帯が巡る壺体部で、突帯上に貝によると思われる連続刺突が付けられる。421はE区の表土から出土した中世陶丸。

(7) C・D区3面

SD59 268 は受口細頸壺で、口縁部が明瞭な稜をもって屈曲する。外面には、口縁部と頸部にヘラによる斜線文、頸部にはヘラ沈線後に二枚貝連続刺突、体部上半にはヘラによる波状文と二枚貝連続刺突、ヘラによる縦位の波状文、下半にはイタによるナデ調整、内面はナデ・イタナデ調整が施される。269 は口縁部がゆるやかに内湾する細頸壺で、頸部には2段の竹管の連続刺突、体部はハケ→ミガキ調整、内面はナデ・イタナデ調整が施される。270 の細頸壺は、頸部に不揃いな工具による横位の直線文と、それから垂下するように6方向または2組×3方向の縦位の直線文が描かれる。体部最大径部はミガキ、下半はナデ調整、内面はナデ・イタナデ調整が施される。271 の細頸壺は外・内面ともナデ・イタナデ調整が施されており、5～6方向に先が割れた鋭利な工具による縦位の沈線が付けられる。272 の受口太頸壺は、外面がミガキ・ナデ、内面がイタナデ調整される。口縁外面にはヘラによる横位の弧文を連続させた波状文と屈曲部に二枚貝連続刺突、頸部に3条のヘラ沈線と二枚貝連続刺突、体部上半にはヘラによる弧（波）状文と短い直線文、不揃いな工具による縦位直線文と波状文・連続弧文が付けられる。また縦位直線文・波状文・連続弧文間に描かれるヘラによる縦位の波状文は全ての区画にあるわけではない。273 の太頸壺は、外面がミガキ・ナデ、内面がイタナデ調整される。体部上半にはヘラによる弧文と直線文による組み合わせ文と二枚貝連続刺突、その上下には横位のイタ角の連続刺突、その下位に不揃いな工具による縦位と横位の直線文が付けられる。またイタ角による連続刺突の上位にも不揃いな工具による弧文と短い直線文があるが、ナデ消されたようになり不明瞭である。また内面には径2～3cmの円形の剥離痕が5ヶ所程みられた。274 の壺頸部には、ヘラによる横位・斜位の直線文が、下位には横位の弧文が描かれる。275 の壺体部上半には、ヘラによる斜格子とその下位に2条の直線文と二枚貝連続刺突、さらにその下位にはやや太いヘラによる短い横位の直線と垂下するヘラ沈線が描かれる。

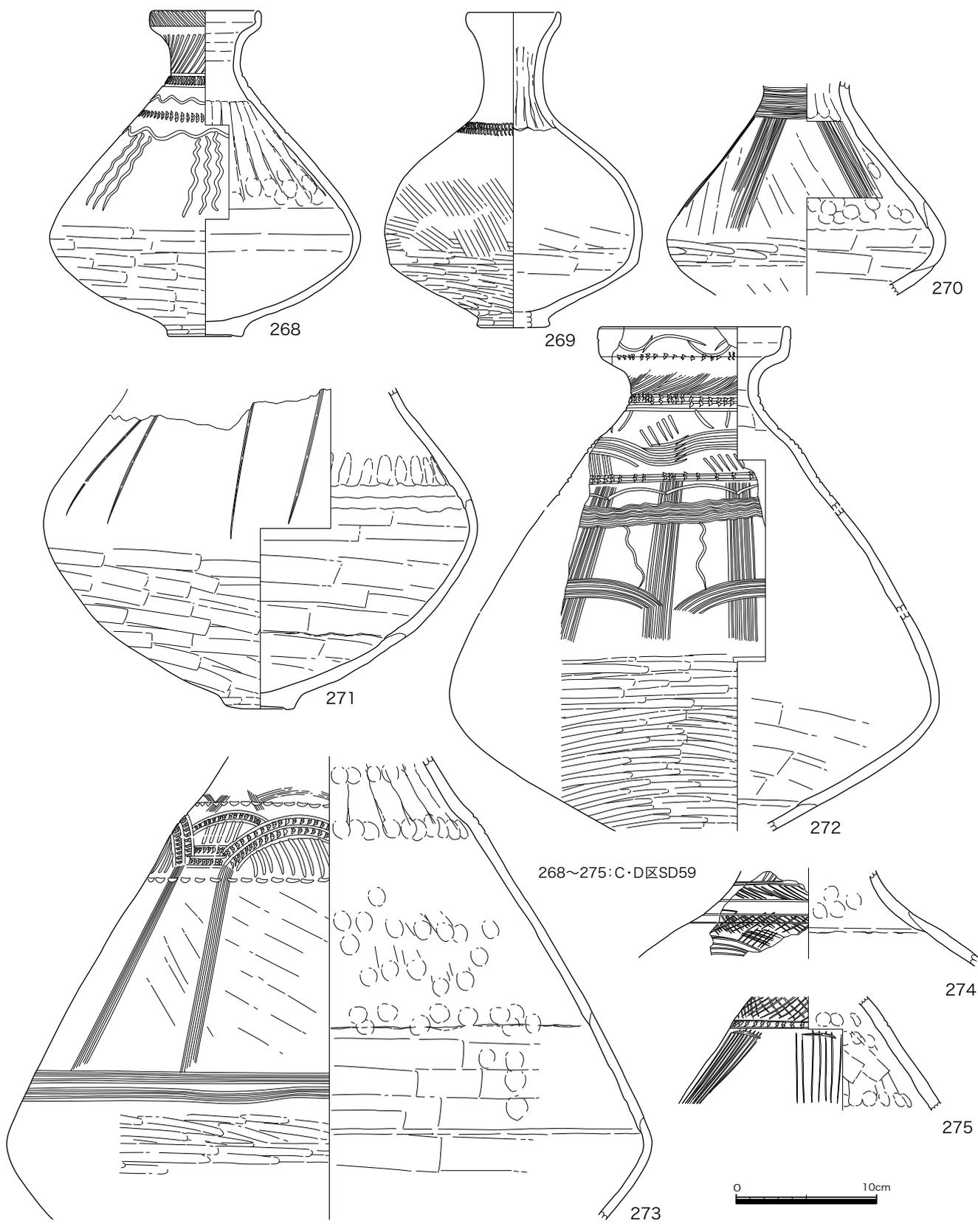
276 の細頸壺は、明瞭な稜をもつ受口状口縁部を呈する。外面には口縁部に斜位のヘラ沈線、頸部にもヘラ沈線、その下位に平行するヘラ直線と二枚貝連続刺突が、体部上半には不揃いな工具による波状文、平行するヘラ直線と二枚貝連続刺突、ヘラ沈線波状文、縦位の平行するヘラ沈線と縦位の二枚貝連続刺突が施される。体部下半はヘラによるナデ調整。内面はナデ・イタナデ調整。277 は頸部が膨れる細頸壺で、平行するヘラ沈線と棒状工具による連続刺突が付けられる。278 の細頸壺は、平行・弧状の沈線と二枚貝連続刺突、縦位の短い直線文と横位ヘラ沈線が描かれる。279 は弧状の沈線と二枚貝連続刺突、縦位と横位のヘラ沈線が組み合わせられた文様描かれる。280 の太頸壺、頸部には不揃いな工具による横位直線文とクシまたは束ねられたヘラによる斜位の沈線、体部上半には2段の不揃いな工具による波状文とクシまたは束ねられたヘラによる斜位の沈線、下半にはミガキ調整がみられる。内面はナデ・木目が確認できるイタナデ調整。281 の壺は、体部上半に不揃いな工具による直線文、波状（弧）文、縦位の直線文が描かれ、中位に帯状に赤彩が施される。赤彩は上下2段に分かれる可能性がある。下半はミガキ調整。内面はナデ・イタナデ調整。282 の壺は、横位のクシ横線とその間にミガキがなされる。内面はイタナデ。283 は肩部が張って体部が方形を呈する壺で、不揃いな工具・半裁竹管？による横直線・波状文と不揃いな工具による縦位直線文が組み合わせられる。外面には厚く煤・炭化物が付着する。284 の太頸壺は、口縁端部に4方向に6個の刺突が押され、頸部には幅の広い縦位のヘラ沈線がなされる。体部上半には上下動の少ない波状文と大きい波状文が、不揃いな工具によって描かれる。下半はミガキ調整。内面はナデ・イタナデ調整。285 の壺も、不揃いな工具によって上下動の少ない波状文と大きい波状文が描かれ、縦位の帯状の赤彩が施される。内面はナデ・イタナデ調整。286 の太頸壺は、口縁端部に4方向に5個の刺突が押され、頸部から体部上半にかけては不揃いな工具による直線文と波状文が描かれる。外面には縦位の帯状の赤彩が、4条

一単位で2または3方向に施される。下半はミガキ調整。内面はナデ・イタナデ調整で、2 cm 程の円形の剥離痕がみられる。

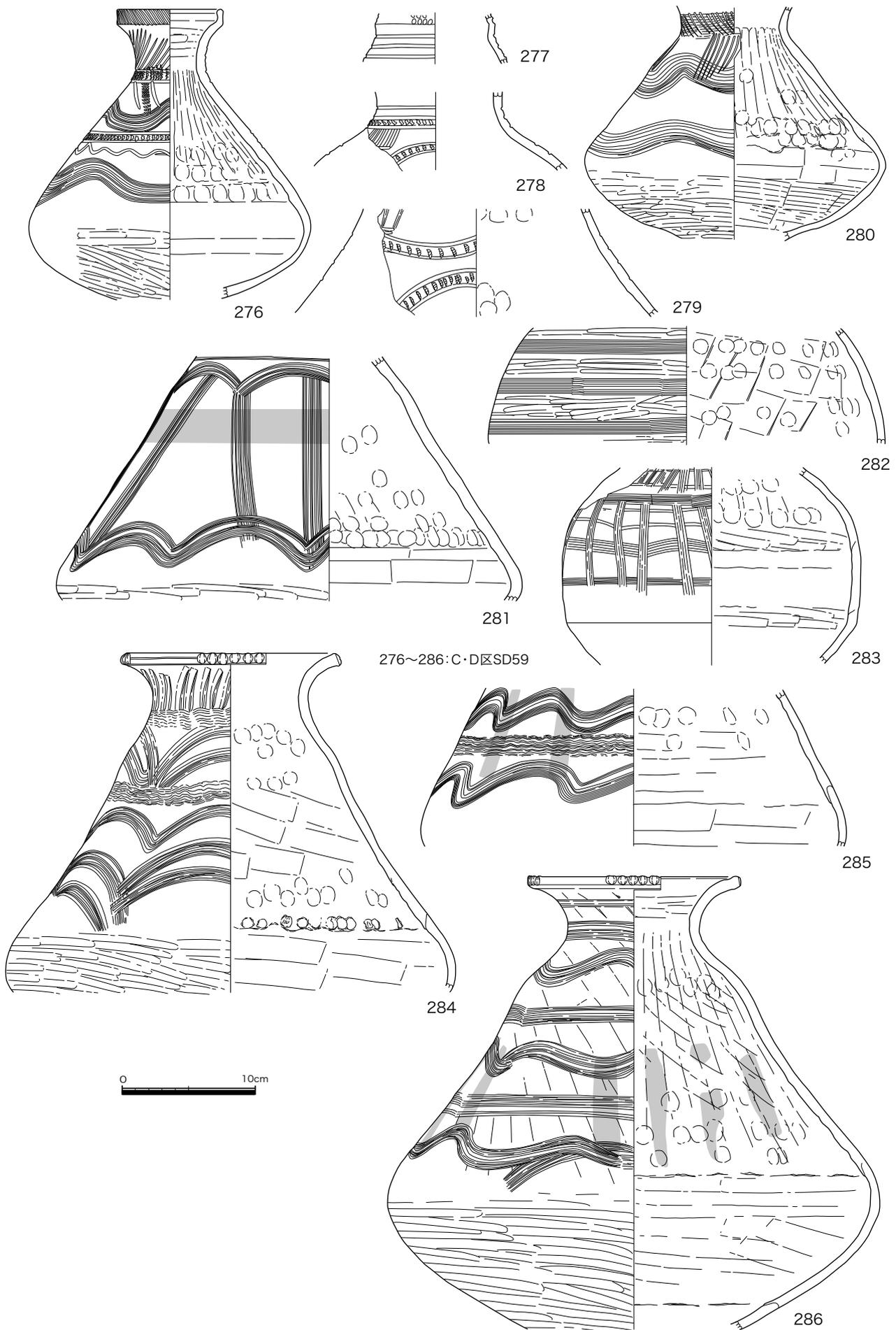
287～300は太頸壺で、295～299は口縁部が受口状を呈する。287は強く外湾する口縁部をもち、頸部には短い単位で描かれたヘラ沈線、体部には不揃いな工具による波状文と八字状のヘラ沈線がみられる。288・290・291は口縁部に刺突、頸～体部には不揃いな工具による直線・波状文が描かれる。289は口縁端部が折り返され、斜位・横位の直線文が不揃いな工具によって描かれる。292は口縁端部に4個の刺突が4方向に付けられ、頸部から体部にかけてヘラによる横位・格子状の直線がみられる。ヘラ沈線痕には太いものと細いものがある。293は口縁端部の3個の刺突が4方向に付けられ、体部はナデ・イタナデ調整され、無文である。294は口縁端部にヨコナデによる沈線が巡り、イタによる連続刺突が施される。頸～体部にかけてはハケ調整され、ナデが施された部分にイタ角による連続刺突が付けられる。また下位のハケまたはクシ直線は文様帯の可能性もある。297は口縁端部に上から刺突が施される。296はヘラにより口縁部外面と頸部に直線文と斜格子文が描かれ、頸部に二枚貝連続刺突が付けられる。297は口縁端部に上から刺突が施される、外面にはヨコナデによる沈線が巡る。頸部には上下動に少ない波状文が、不揃いな工具によって描かれる。298は口縁部外面にヘラによる波状(弧)文、頸部にはやや太いヘラによる縦位沈線、横位のヘラ沈線と二枚貝連続刺突がなされる。この連続刺突では押し引きされた部分がある。また体部には横位のヘラ沈線に挟まれた区画にハケ後に細い斜位のヘラ沈線が、上下に二枚貝連続刺突が施される。この連続刺突もやや押し引きされている。299は不揃いな工具による、上下動の少ない波状文とおおきな波状文、300も同じ工具によるハケ調整?がなされている。301は外面がミガキ、内面がナデ調整された小型壺。302は橙褐色を呈する小型壺。体部上半には、ハケまたはイタナデ調整後横位のクシ直線文と細かい波状文が描かれる。303～310は文様のある壺体部片。303・304は縦・横位の突帯上に二枚貝連続刺突、体部に条痕がある。305は破面の一部が研磨された土器片で、クシと竹管連続刺突による文様が描かれる。306は不揃いな工具による文様が描かれ、赤彩が施されている可能性がある。ヘラ沈線で弧状の文様が描かれた307の一部にも赤彩がみられる。308は不揃いな工具による直線・波状文→斜位のヘラ沈線→横位のヘラ沈線→二枚貝連続刺突の順に文様が施されている。309は細かい二枚貝連続刺突後に不揃いな工具による文様が付けられる。310は細いヘラ沈線と不揃いな工具による文様、311はヘラ沈線とイタ連続刺突、312は細い沈線で文様が描かれ、沈線内に赤彩痕が残る。

313～324・339は深鉢状を呈する甕で、口縁部はゆるやかに外反する。全体に外内面ともナデ・イタナデ調整がなされ、口縁端部は313・316が無文、314・320～322が二枚貝連続刺突、315・317～319・323・324がユビまたはイタによる部分刺突が施される。また320は被熱している。

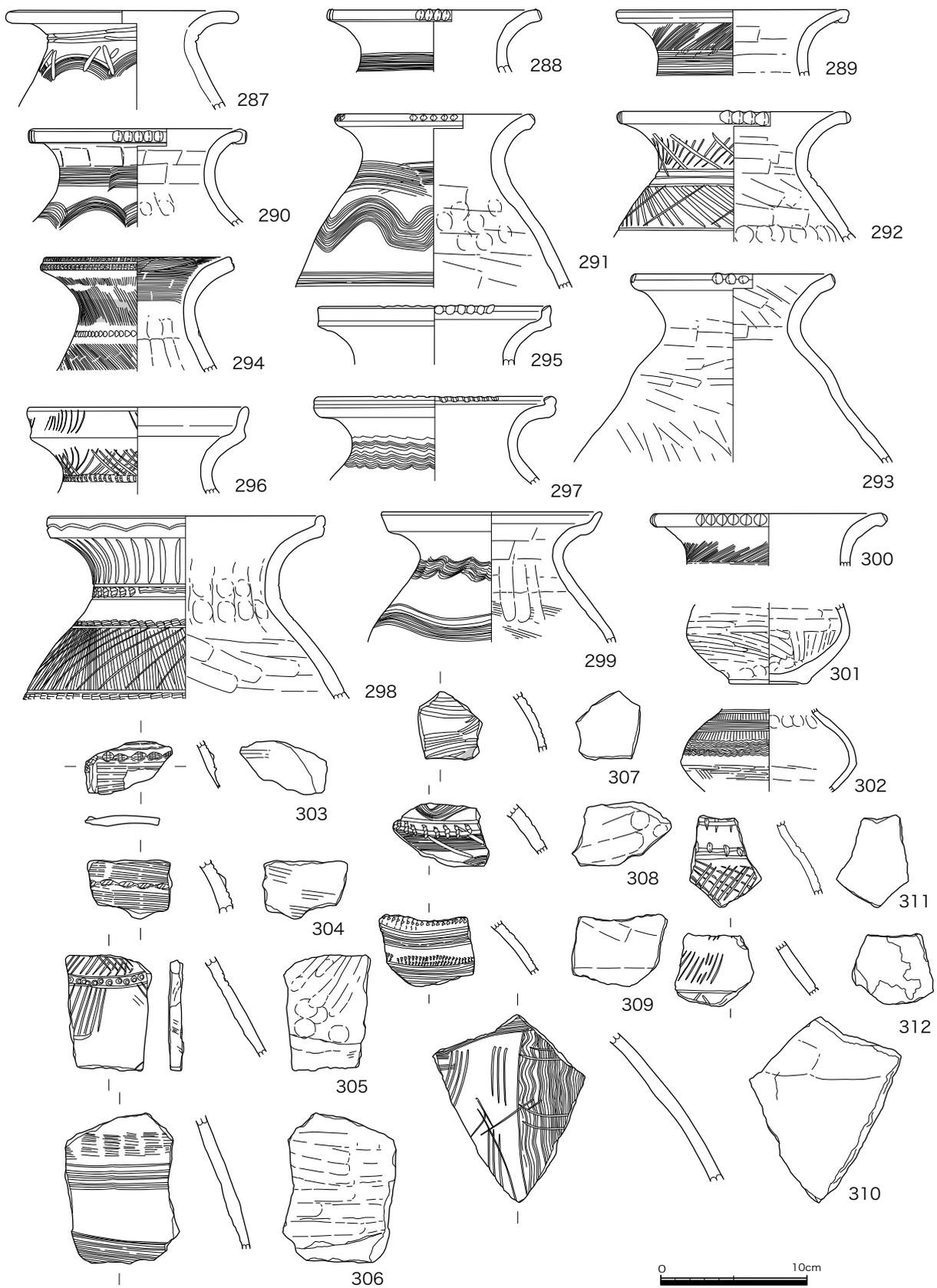
325～334は口縁部が稜をなすように折れ曲がる。328がケズリ、332がハケ成形・調整される。他はナデ・イタナデ調整される。口縁端部は396が無文、325・326が二枚貝連続刺突、328・330がユビまたはイタによる部分刺突、329・333は二枚貝連続刺突とユビまたはイタによる部分刺突が組み合わせられている。また327・332・334はユビまたはイタによる刺突が施されるが、破片のため施文部位は不明である。339はヨコナデにより口縁部が強く屈曲するもので、端部にはユビまたはイタによる部分刺突が施される。調整はナデ・イタナデ。335～338は鉢。335・336は半球状の体部に外上方に延びる短い口縁部が付くもので、口縁部端面にはイタによる連続刺突がみられる。337は丸みを帯びた扁平な体部をもつ鉢で、口縁部は強く折れ曲がり、端面にはイタによる連続刺突がみられる。338は大型鉢で、ゆるやかに外湾する口縁端部にはユビまたはイタによる部分刺突、頸部外面と口縁部内面には不揃いな工具による文様が付けられる。340は口縁部内面にヨコナデによる



第 65 图 D区 SD59 出土遺物 (1) (S = 1/4)

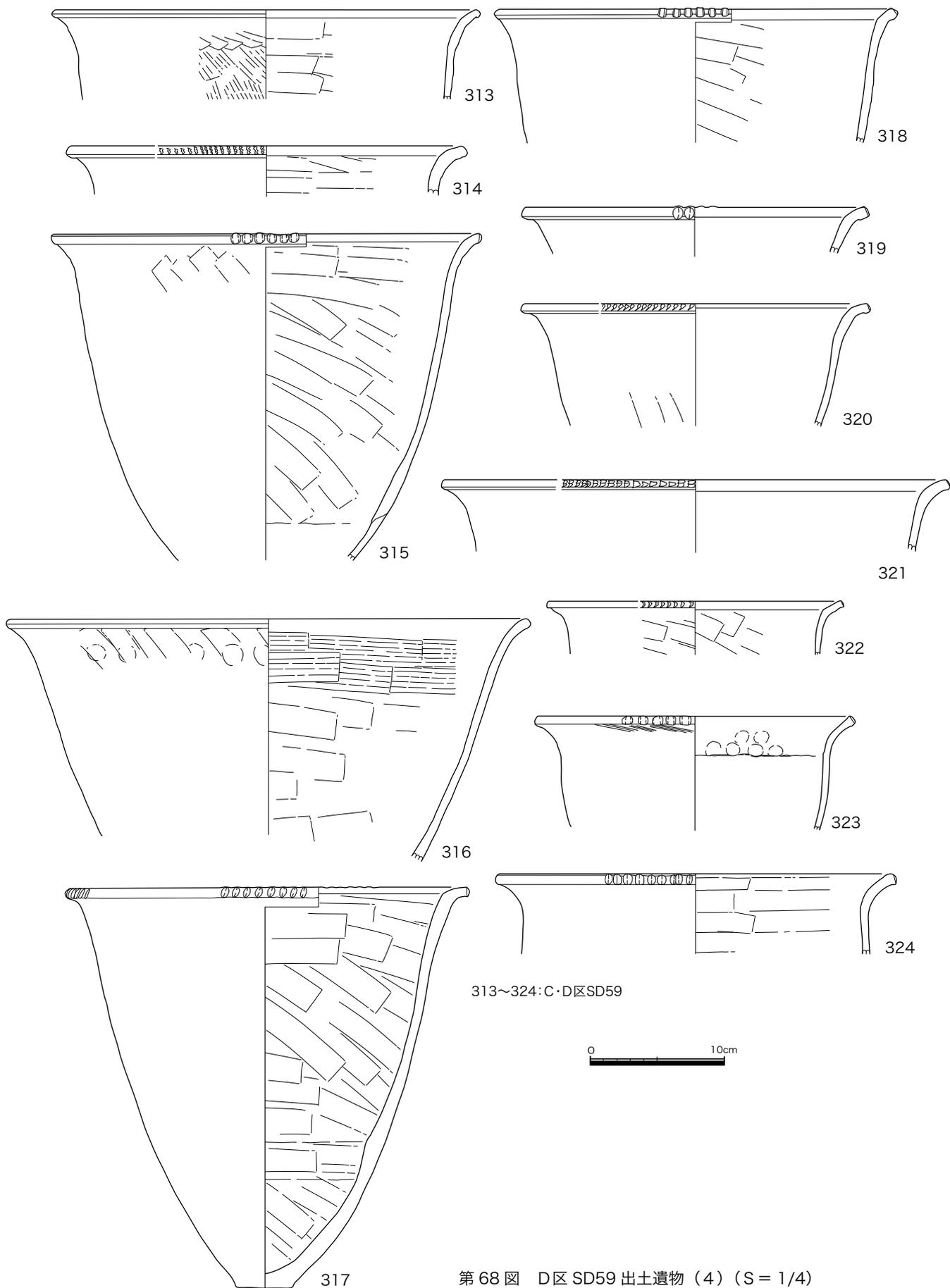


第 66 图 D 区 SD59 出土遗物 (2) (S = 1/4)

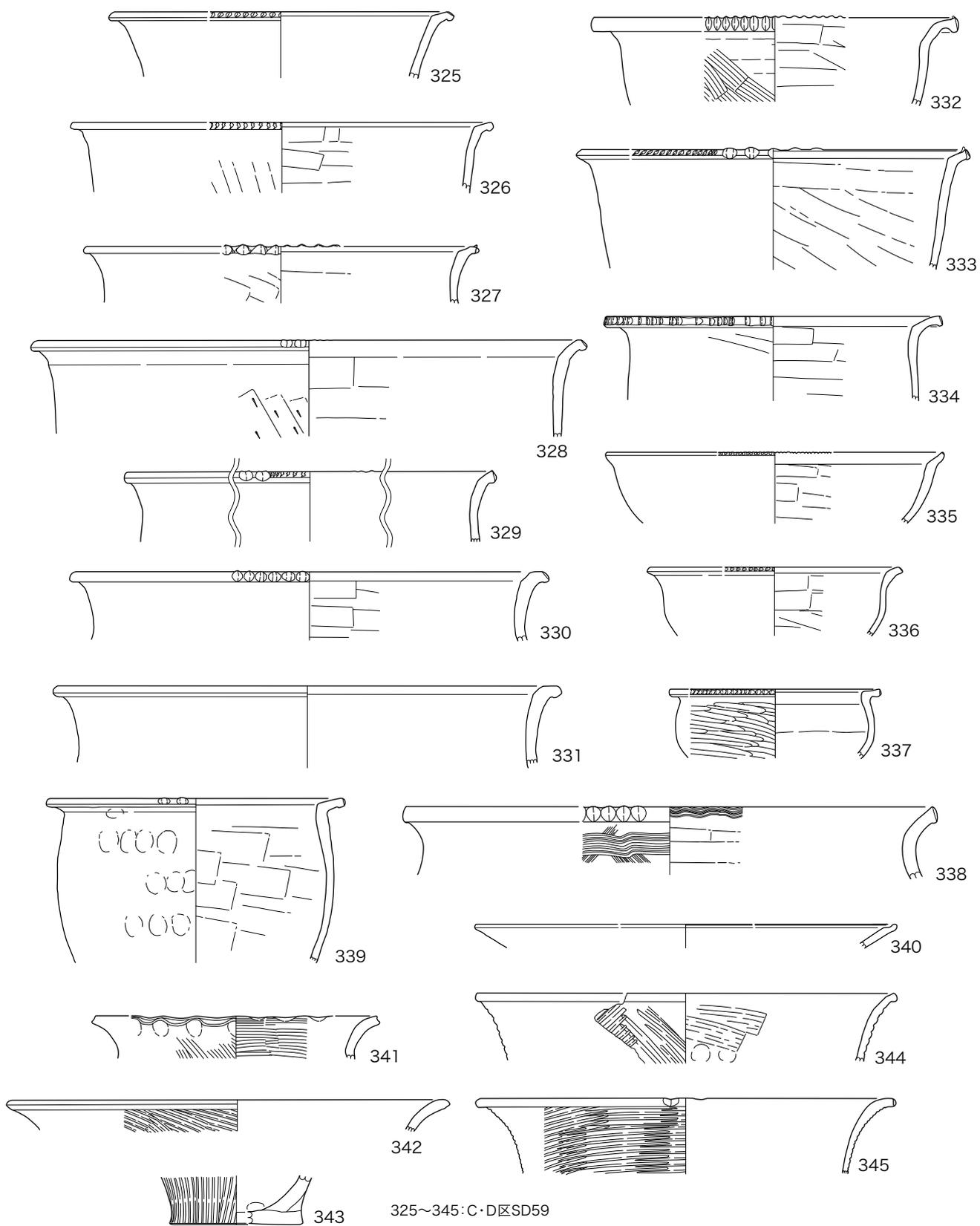


287~312:C·D区SD59

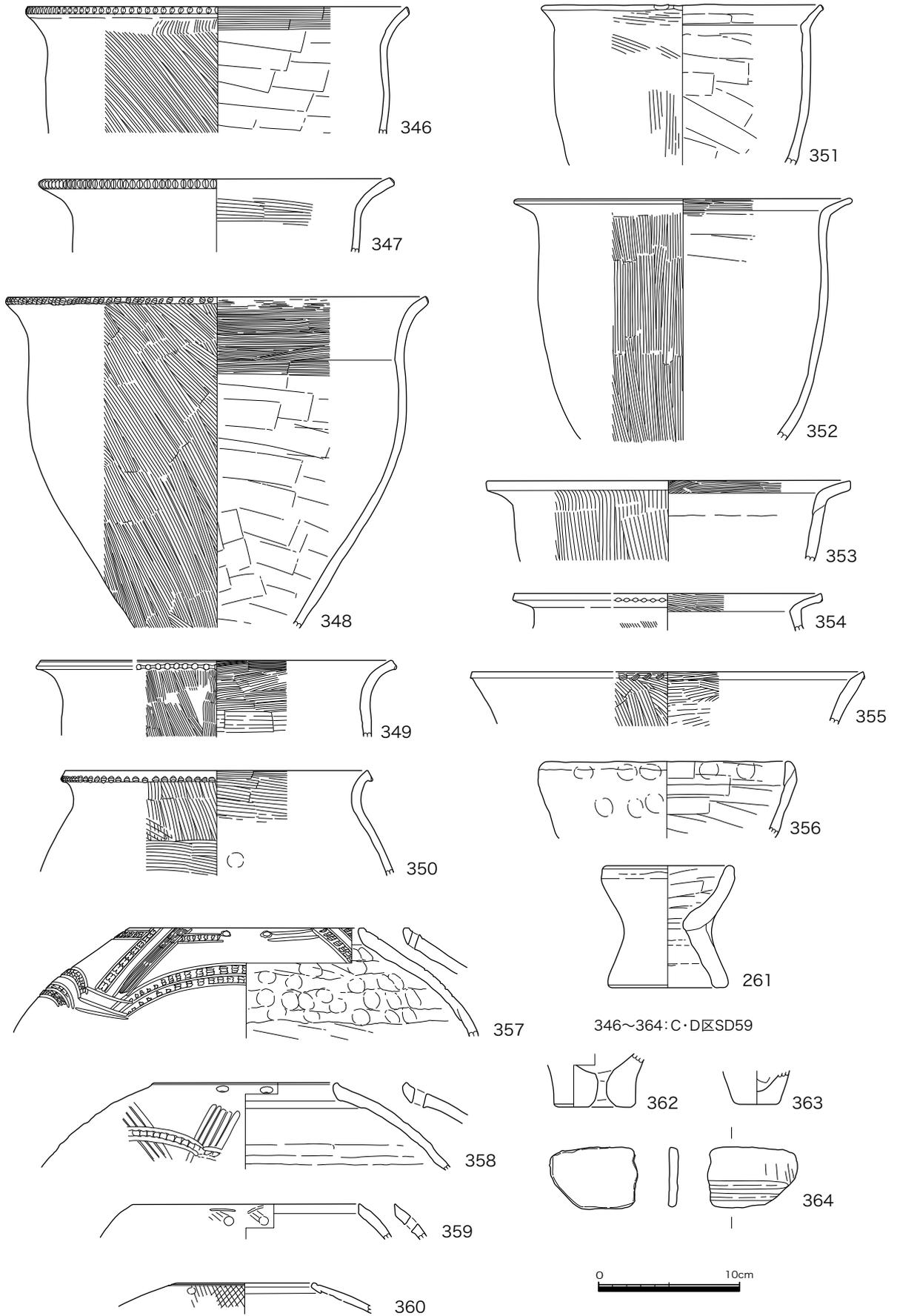
第 67 图 D区 SD59 出土遺物 (3) (S = 1/4)



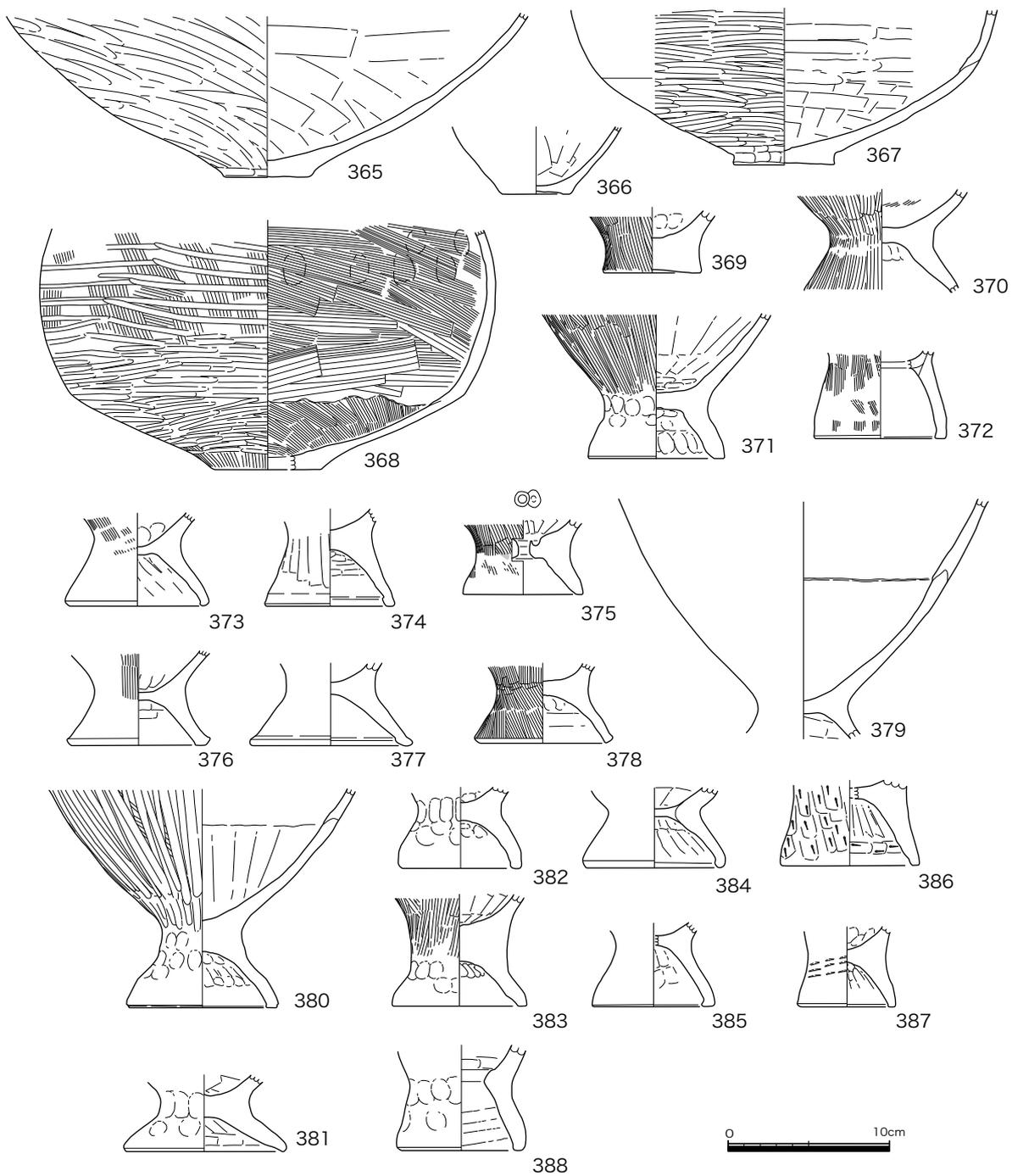
第 68 图 D区 SD59 出土遺物 (4) (S = 1/4)



第 69 图 D区 SD59 出土遺物 (5) (S = 1/4)



第70图 D区SD59出土遗物(6) (S=1/4)



365~388:C·D区SD59

第71图 D区SD59出土遗物(7)(S=1/4)

凹線が巡る。341～345は条痕文系土器で、341はユビ押圧による波状口縁をもつ太頸壺、342～345は二枚貝条痕施された深鉢で、343の底部外面には木葉痕が残る。

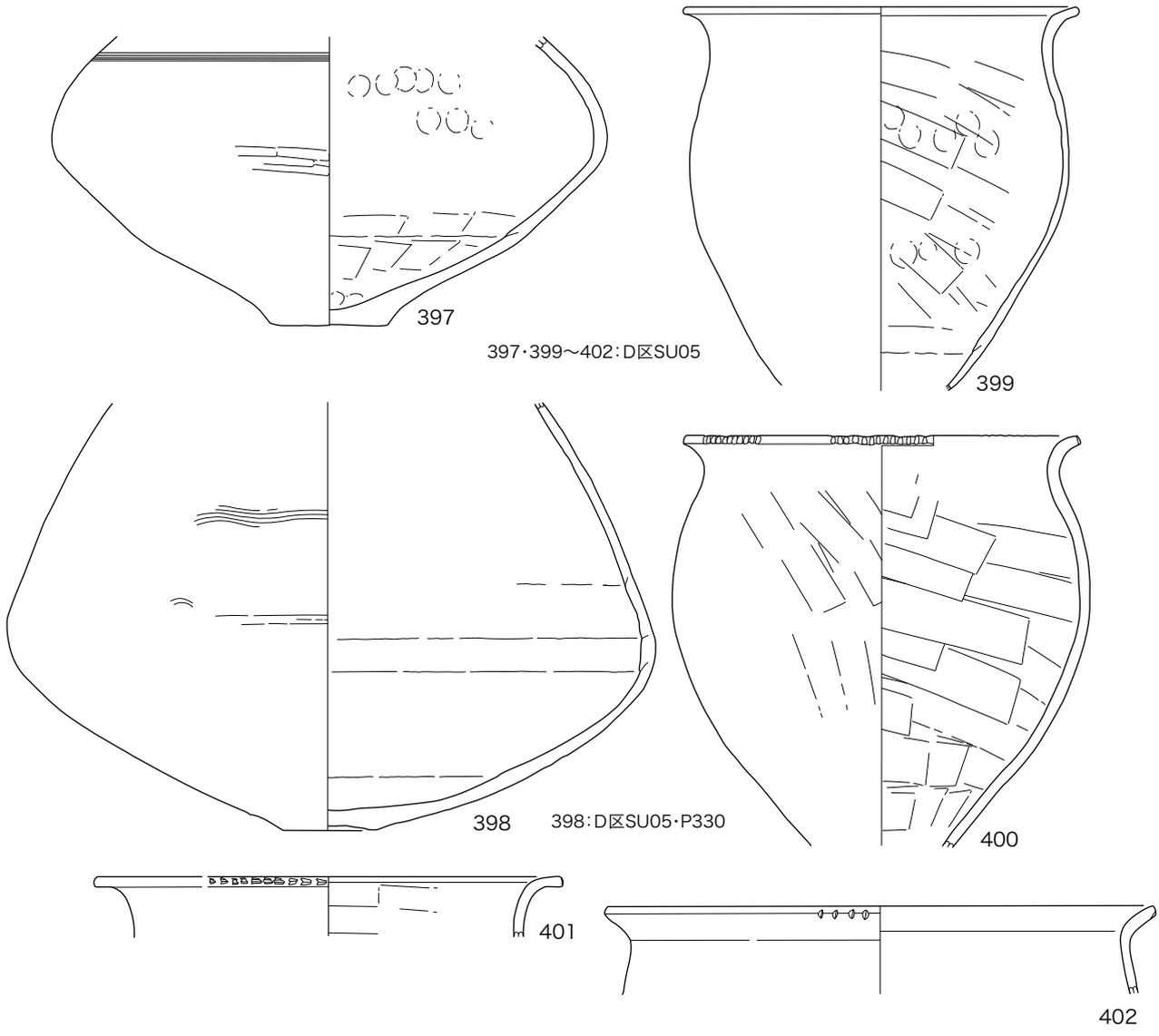
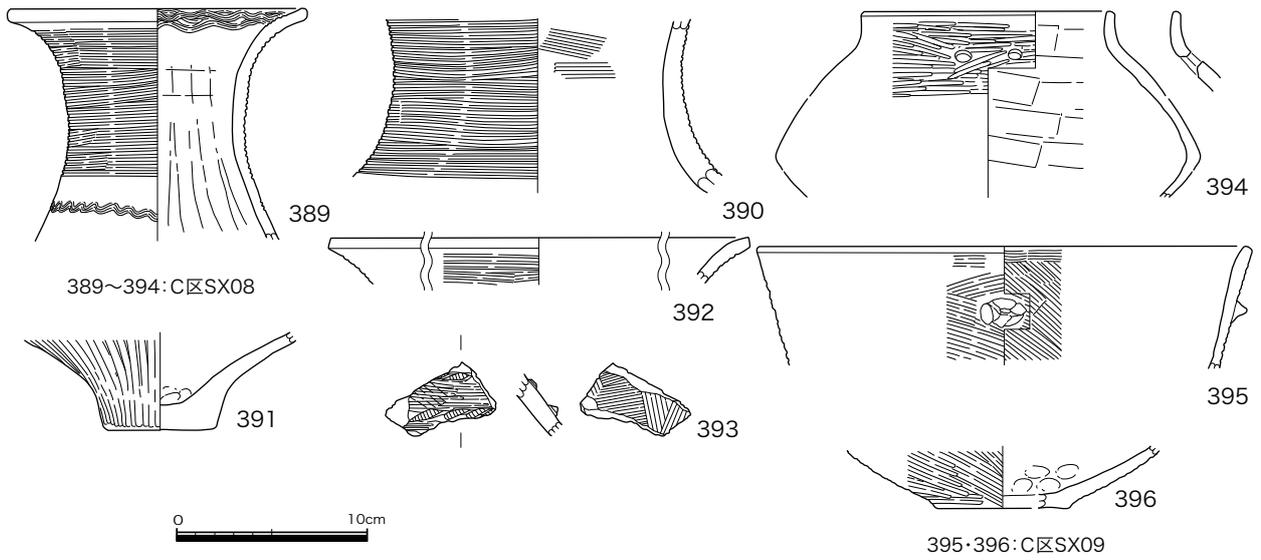
346～354はハケ調整された甕。346～348はゆるやかに外湾する口縁部と倒鐘形の体部をもつもので、口縁部端面にイタによる連続刺突がなされる。349・350は口縁端部下端にイタによる連続刺突が施されるもので、350は口縁部がわずかに外下方に延び、体部は横に張り丸くなる。351～354は口縁部の屈曲が明瞭なもので、351はユビによる部分刺突、354は口縁部下端にイタによる連続刺突がみられる。また348・351・352の外面には厚く煤・炭化物が付着しており、351の体部外面には円形の剥離痕がみられる。355・356は鉢。355はハケ調整がなされ、口縁部外端にイタによる連続刺突がみられる。356はユビ押圧やナデで成形・調整されるもので、外面が被熱している。357～360は無頸壺で、狭い口縁と丸い体部をもち、口縁部下に焼成前の穿孔がなされる。357はへら沈線による直線と弧文によって文様が構成され、沈線間に二枚貝連続刺突が施される。またその連続刺突のうち一部では押し引き状を呈し直線をなす。358もやや太いへら沈線の直線と弧文によって文様が描かれており、沈線間には二枚貝または棒状工具による連続刺突がなされる。359もへらによる文様が描かれるが、磨滅のため詳細は不明である。360は口縁端部に横位のへら沈線が巡り、その下に斜格子文が描かれる。361は鼓状を呈する土器で、中央部には孔が開く。ナデ・イタナデ調整される。362・363は小型土器で、362の底部には焼成後穿孔がみられる。364は表裏面・破面とも研磨された土器で、外面には削られてできた2条の沈線がある。

365～368は壺体部から底部。365は外面ミガキ、内面はイタナデ調整され、内部が剥離する。366は小型壺で、外面ナデ、内面はイタナデ調整され、外面には細かい剥離がみられる。367は外面ミガキ・ナデ、内面はナデ・イタナデ調整され、底部外面はケズリが施される。368はハケ・ミガキ調整がなされ、体部上半にはミガキによる横位に直線文が描かれる。内面はハケ調整。369は平底甕の底部で、外面はハケ調整される。370～388は甕の脚台から体部。370～373・375・376・378・383が外面ハケ調整、374・377・379～382・384・385はナデ調整、386はケズリ成形・調整、387はタタキ成形されている。375は底部に焼成後の穿孔と穿孔途中の孔があり、外面には線状の赤彩痕がみられる。388は底部が剥離したかどうかは不明で、361のような土製品になる可能性がある。これらの土器群の時期はA-2期の古井式の範疇に入るが、277～279の細頸壺・357～369の無頸壺は瓜郷式に、また条痕深鉢の341～345、貝田町式壺282などが遡る可能性がある。

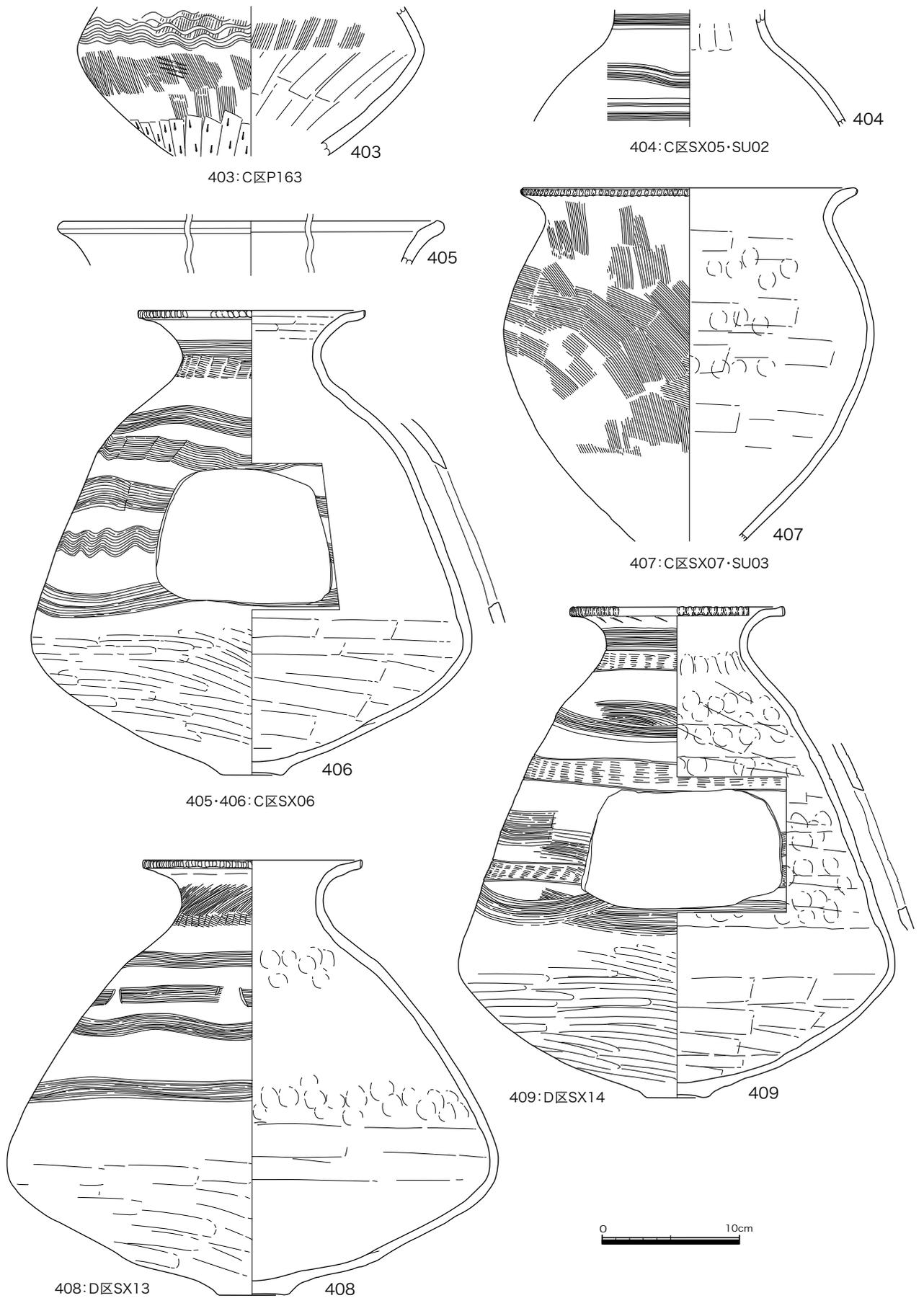
SX08 389の太頸壺は頸部に二枚貝による直線文、体部上位と口縁端部内面に波状文が描かれる。390は大型の太頸壺頸部で、二枚貝による直線文が施される。394は外面がミガキ、内面がイタナデ調整された短頸壺で、口縁屈曲部に焼成前の穿孔がある。391はミガキ調整された壺底部。392は二枚貝調整された深鉢。393はミガキ調整された壺体部で、突帯上にイタによる連続刺突が施される。SX09 395はユビ押圧・ナデで成形された把手状の突起が付く鉢で、外面に二枚貝、内面にハケ調整がなされる。396は壺底部で、二枚貝調整がなされる。A-1期の朝日式土器。

(8) 土器棺・土器集積

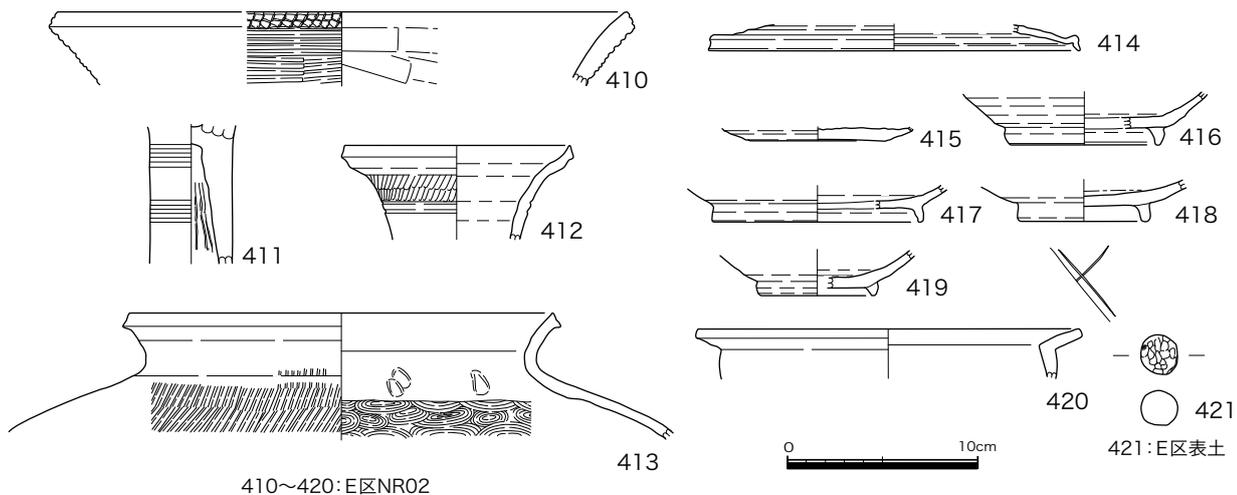
SU05 397・398は壺体部から底部。397は体部上半にクシ直線文が描かれ、外面がナデ・ミガキ、内面がナデ・イタナデ調整される。398は磨滅が激しく詳細は不明であるが、外面にクシによる波状文と直線文？が確認できる。399～402は甕で、外内面ともナデ・イタナデ調整される。399は口縁端部に連続刺突が施されている可能性があるが、磨滅しているため詳細は不明。400はイタによる刺突が5方向に施される。401は二枚貝連続刺突が、402は端部下端にイタによる部分刺突がある。401以外はA-2期古井式土器か。



第 72 图 C区 SX08、D区 SU05 出土遺物 (S = 1/4)



第 73 図 C・D区土器棺・土器集積出土遺物 (S = 1/4)



第 74 図 E 区 NR02 出土遺物 (S = 1/4)

P163 403 は正位の状態で出土した凹線文系壺体部で、外面はタタキ成形→ハケ調整→ケズリ成形・調整、内面はハケ・イタナデ調整され、体部最大形外面に半裁竹管による波状文が施される。時期は A-2 期。

SU02 404 の古井式壺は P163 の東約 200cm のところで出土しており、SX05 出土のものと同接合した。外面には不揃いな工具による直線文・波状文が描かれる。

SX06 406 は土坑に斜位状態で埋められた古井式太頸壺で、焼成後体部中央に方形を呈する孔が開けられる。外内面とも器壁は磨滅・剥離が激しい。口縁端部にはイタ連続刺突、体部上半には不揃いな工具による直線・波状文が描かれる。調整は外面がナデ、内面がナデ・イタナデ。405 の甕口縁部も同じ地点から出土しているが、どのように出土したかは不明である。

SU03・SX07 407 は倒立し斜位の状態で出土した古井式？甕で、外面はハケ・ナデ、内面はナデ・イタナデ調整される。また口縁端部にはイタ連続刺突が施される。

SX13 古井式太頸壺 408 は倒立、409 は横位の状態で出土した。408 は体部が上下に短くやや扁平なるもので、外内面ともナデ・イタナデ調整される。口縁端部にはイタによる連続刺突、体部上半には不揃いな工具による直線・波状文が施される。体部の文様のうち中位のものは、5 方向に付けられたハ字状のヘラ沈線によって直線文が途切れる部分がある。409 は、焼成後体部中央に方形を呈する孔が開けられる。調整は外内面ともナデ・イタナデ調整され、内面には剥離痕がみられる。口縁端部には 4 方向にイタによる刺突が、体部上半には不揃いな工具による直線文・波状（弧）文、ヘラ沈線による区画帯には短い単位で直線文が描かれる。

(9) その他

NR02 410 は二枚貝調整された A-1 期の深鉢口縁部。411 は柱状を呈する A-3 期の山中式高坏で、クシによる直線文が施される。412～415 は須恵器。412 は甕の口縁部で、半裁竹管による直線文とイタ連続刺突が施される。413 は甕の口縁部から体部で、外面には平行タタキ、内面には青海波タタキが施される。414 は蓋、415 は碗底部。416～419 は灰釉碗。416～418 は底部外面には回転ヘラケズリ、419 は回転糸切り痕がみられる。また 418 の底部外面にはヘラ記号が付けられる。353 は三河型甕。

NR03 422～427は須恵器。422～424は蓋、425は底部外面に回転ヘラケズリ痕、426は回転糸切り痕がある椀、427は底部外面に回転糸切り痕がある短頸鉢。428～436は灰釉椀で、底部外面には428～435は回転ヘラケズリ、436は回転糸切り痕がみられる。440は深椀の高台部。437・438・441は段皿、439は皿高台部になる。441はヘラ成形された獣脚が付くが個数は不明である。また内面の口縁部端には縦位の突帯が付くが、これも個数は不明である。442はヘラ成形された獣脚で、足指を現す沈線が施される。443は長頸瓶口縁部、444・445は壺底部から体部、446は緑釉陶器、447は高盤の脚部か。448は平瓶で、ヘラによって成形された把手が付く。底部内面には黒色の有機物が付着する。449は回転ナデ調整された土師質皿で、底部外面は回転糸切り痕がみられる。450は鉢または陶白か。451～459は三河型甕。451はヨコナデにより口縁端が強く屈曲するもの、452～454・457は口縁部内面がヨコナデにより平坦になるもの、455・458は口縁部がやや短く、体部が薄くなるもの、459は口縁端部が拡張するもの、456は口縁部が短くなり端部が横位に錨状に延びるものに分かれる。460は甕形土器の脚（底）部で、外面を中心に煤・炭化物が付着する。

3 F区

SK81 461はA-3期の凹線文細頸壺で、口縁部は袋状をなす。外面上位には不明瞭ながらも凹線が巡り、その下位に2段のイタ連続刺突、クシ直線文が描かれる。

P378 462は須恵器蓋。

SD64 463は太頸壺。頸部外面には、不揃いな工具による波状文とクシ連続刺突が施される。

4 G・H区

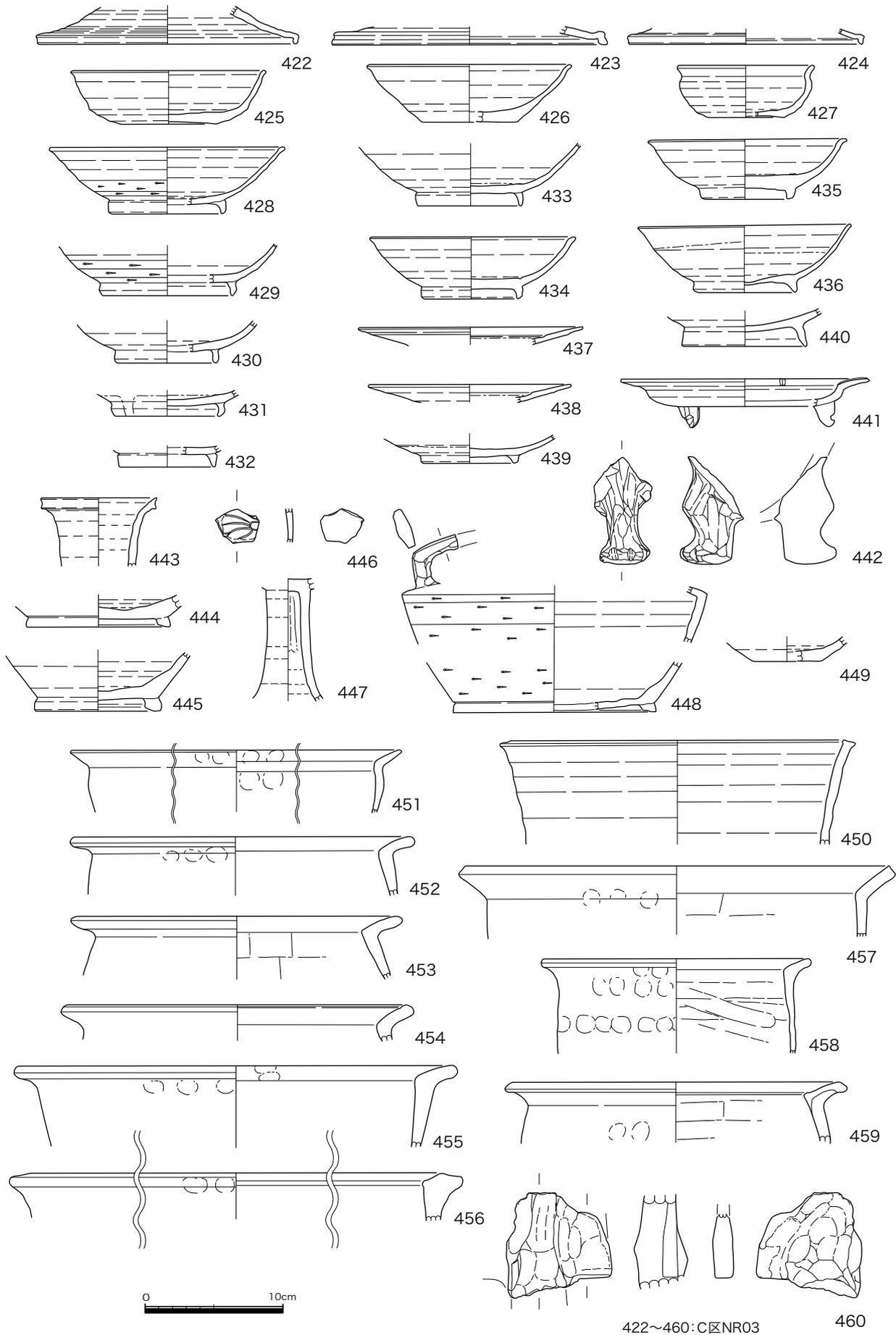
(1) G区

SX16 464は二枚貝条痕による調整がなされた太頸壺で、口縁部下位の突帯には貝殻による連続押圧が施される。口縁端面は二枚貝の押し引き。465は二枚貝直線文・単位の短い直線文が描かれた受口太頸壺で、口縁端内面には貝殻による押圧がある。466は頸部にヘラ沈線と二枚貝条痕による直線文が巡る細頸壺。467～470は口縁端面には二枚貝押し引きがなされ、467・468・470は二枚貝条痕、469はナデ調整される。471は口縁端面にイタ連続刺突と体部に二枚貝条痕調整がなされる。472は口縁部が先に行くに従い細くなり、内面に太いヘラによる縦位の短い沈線とクシ状工具による条痕、体部外面にもクシ状工具による条痕が施される。内面はミガキ調整か。473は無頸壺で、外面にヘラによる弧状線が描かれる。474・475は鉢。474はナデ・イタナデ調整され、475は口縁端部が肥厚してやや丸くなり、ナデ調整される。476は端面に鋭利な工具による沈線が巡る。477は内傾口縁鉢で、ユビ押圧・ナデ成形・調整される。また部分的に破面が研磨されている。478は口縁部が大きく外湾する甕で、やや粗いハケによる調整がなされ、体部には不明瞭ながらヘラ沈線が巡る。口縁端面にはイタによる連続刺突がなされる。479は強いヨコナデにより大きく屈曲し、端面は上下に拡張する。外・内面ともハケ調整。480は不揃いな工具による直線文、短い単位の直線文、波状文が描かれる太頸壺で、外面はイタナデ・ミガキ、内面はナデ・イタナデ調整される。

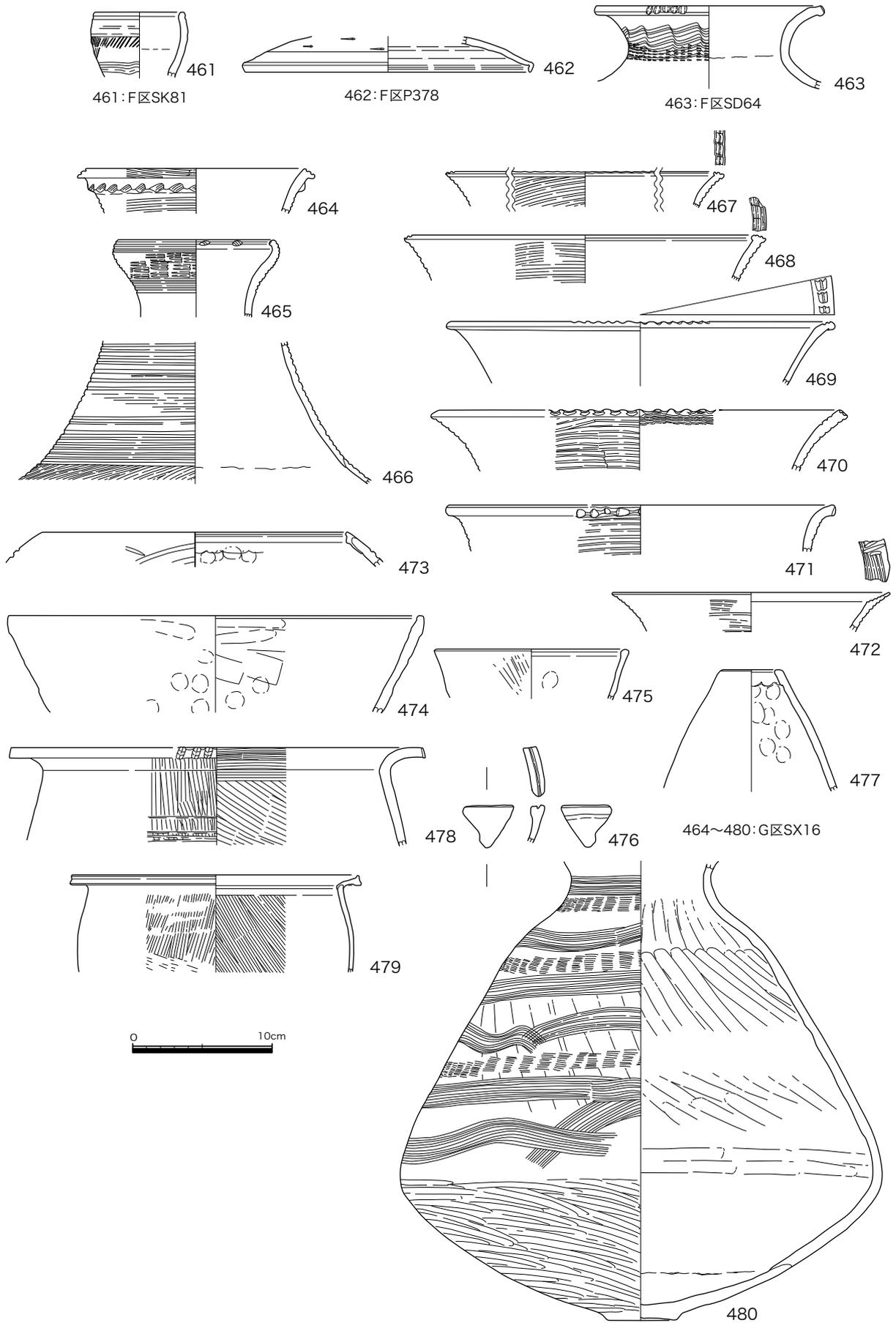
464～472・475・477はA-1期の水神平式から岩滑式土器、473・478～480がA-2期で、473・478が瓜郷式、480が古井式、479が凹線文系になる。

(2) H区

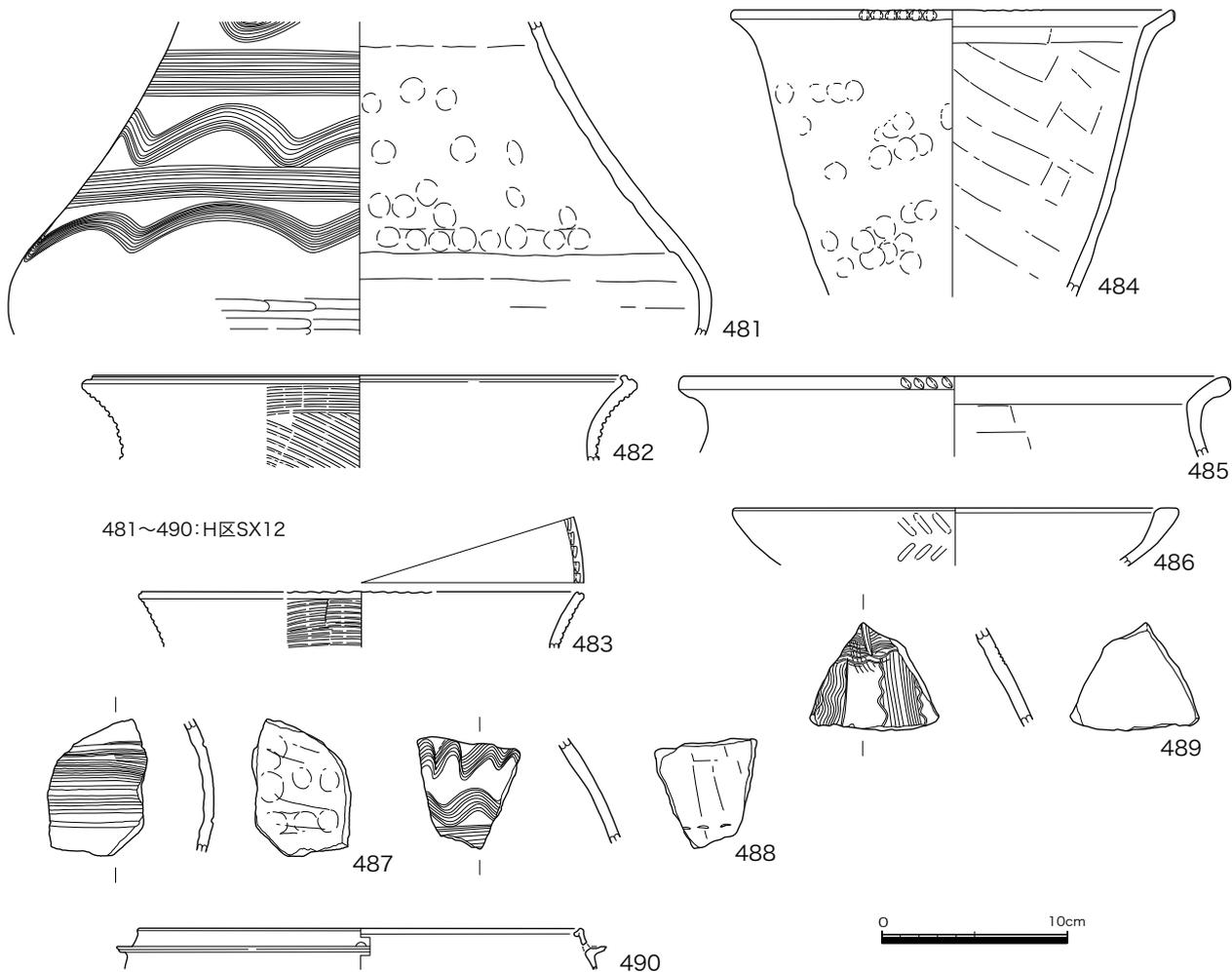
SX12 481は不揃いな工具によって直線文・波状文が描かれた太頸壺体部。482・483は二枚貝条痕調整され、482は口縁端面にヘラ沈線、483は二枚貝押し引きがみられる。484・485の甕はナデ・イタナデ調整される。486は横羽状のイタ刺突がみられる鉢。487・489には沈線と不揃いな工具による直線・波状文、488は不揃いな工具による直線・波状文と内面に爪痕がみられる。490はC-2



第 75 图 C 区 NR03 出土遺物 (S = 1/4)



第 76 图 F 区·G 区出土遺物 (S = 1/4)



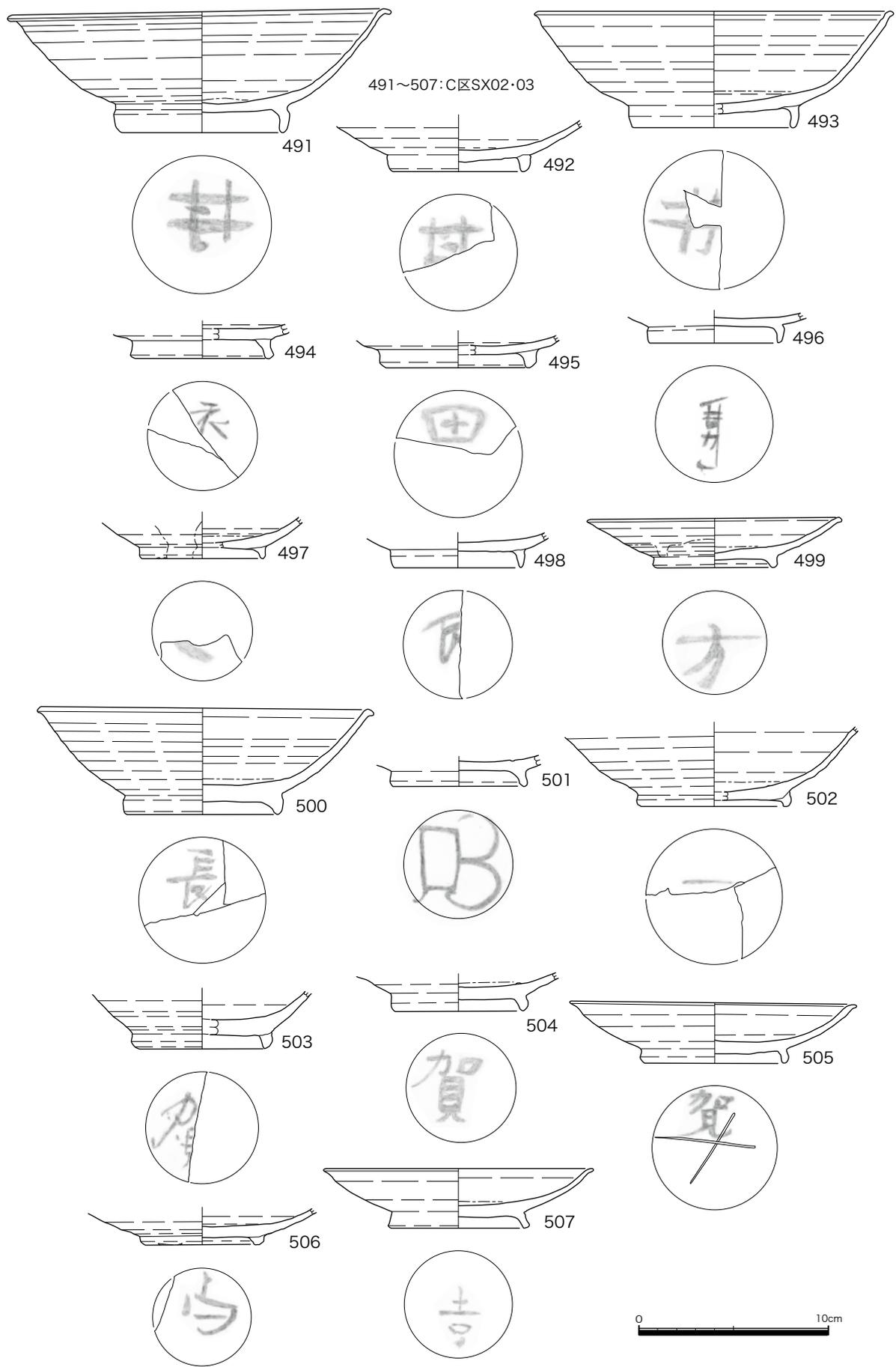
第 77 図 H区 SX12 出土遺物 (S = 1/4)

期の羽釜形鍋で、銜部上には焼成前の穿孔がみられる。

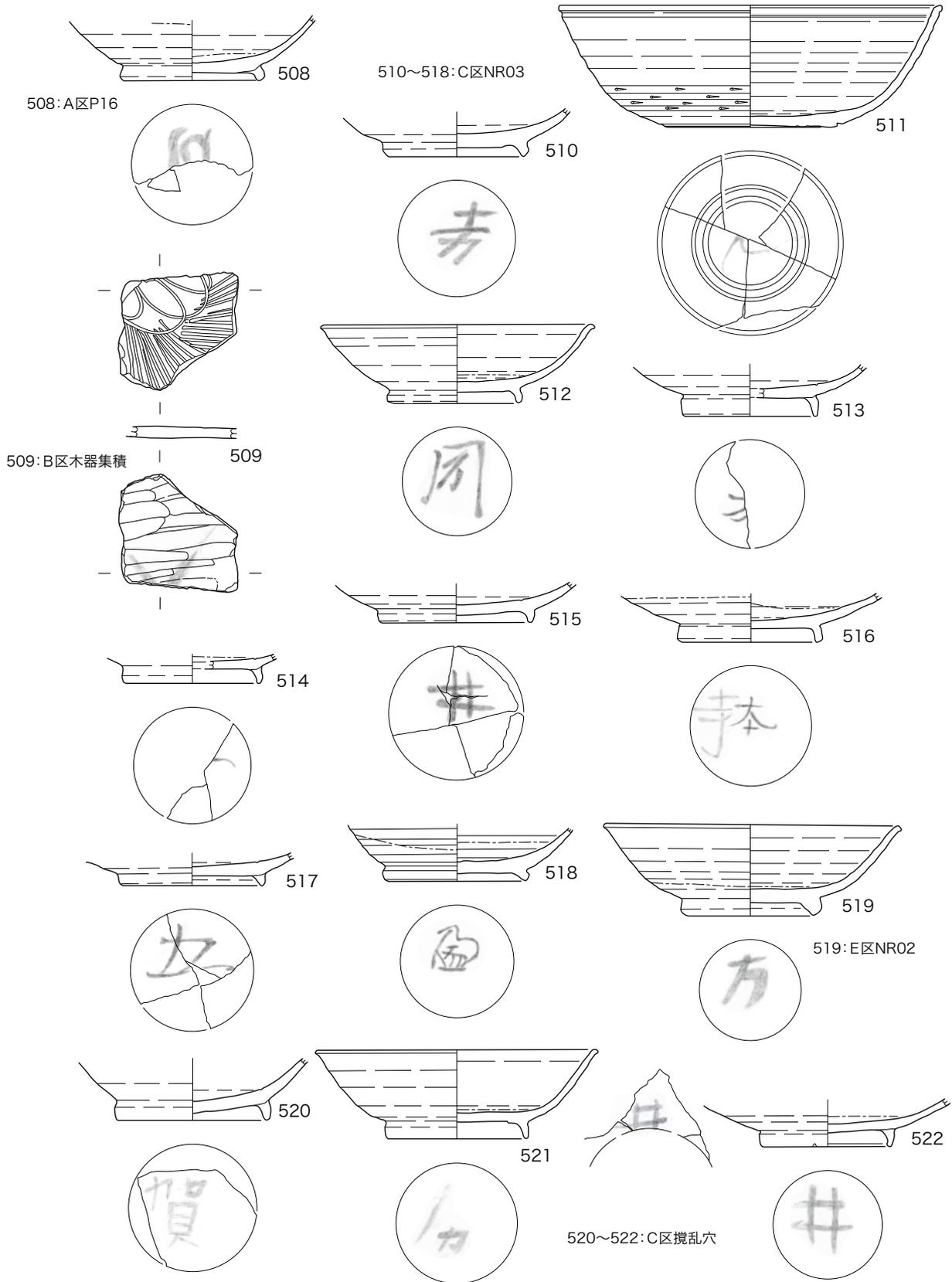
第 2 節 墨書土器

全部で 42 点出土している。491 ~ 507 は C 区 SX02・03 から出土している。491 ~ 498・500 ~ 504 は灰釉椀、499・505 ~ 507 は灰釉皿で全て底部外面に墨書される。また 491・493 ~ 496・498 の底部外面には回転ヘラケズリ痕が、492・497・499・500 ~ 507 回転糸切り痕が残る。491・492 は「井」、491 の内面に灰釉が刷毛塗りされ、「井」または「井」が書かれる。494 は「永」、495 は「田」、496 は不明、497 の内面には灰釉が刷毛塗りされ、底部外面に墨書痕が残る。498 は「尻」か。499 は灰釉が浸けがけされ、「方」が書かれる。500 は内面に灰釉が刷毛塗りされ、「長」が書かれる。501 は底部外面に煤・有機物が付着しており、肉眼では墨書は不明瞭であるが、赤外線カメラを用いて「得」と釈読された。502 は 1 条の墨書痕がある。503 ~ 505 は一部欠損部分もあるが、「賀」が書かれ、505 はヘラ記号も付けられる。506 は釈読不明、507 は「吉」が書かれる。

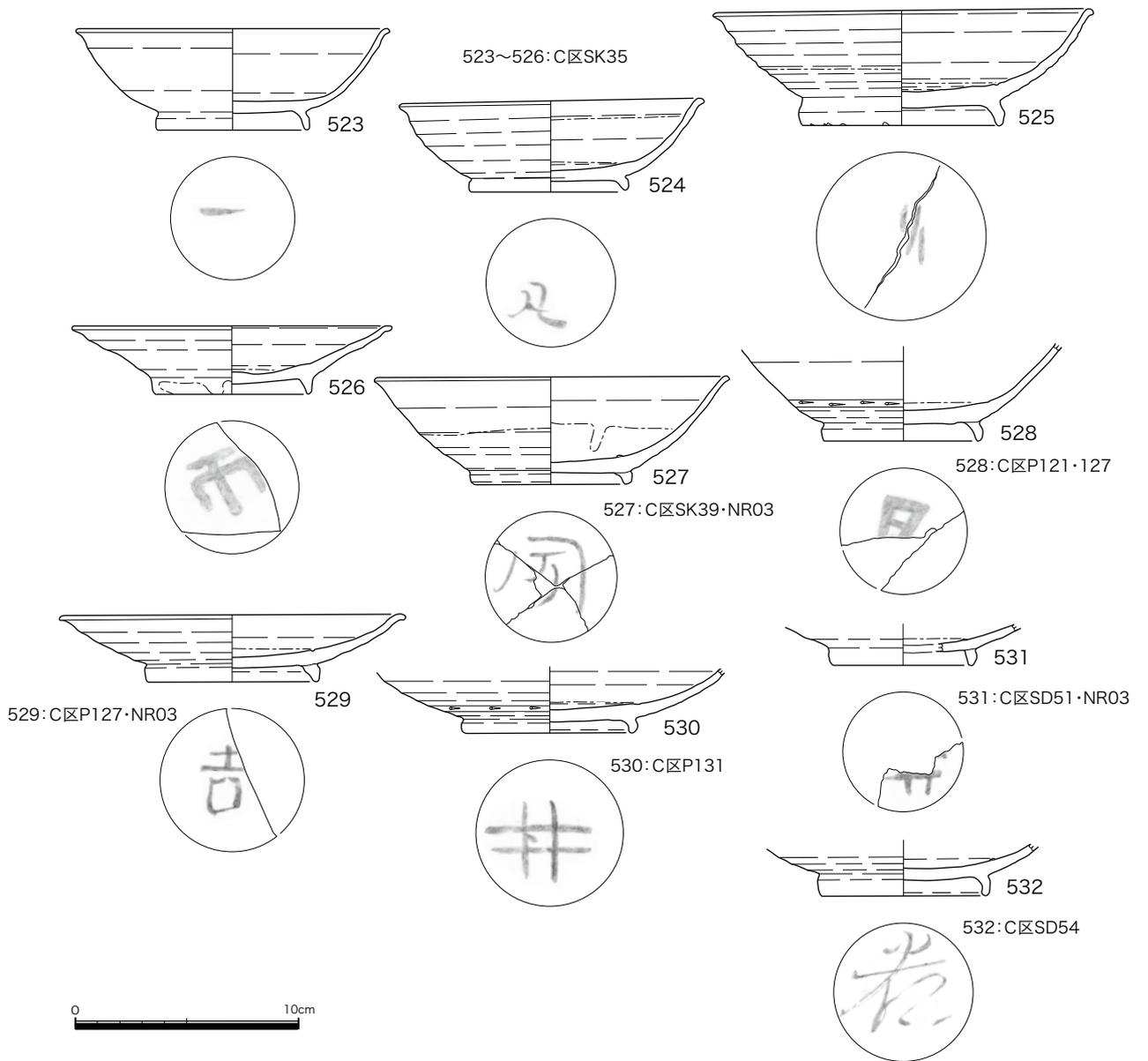
508 は A 区 P16 から出土しているが、釈読は不明。509 は内面に暗文、外面はミガキ調整された



第78図 墨書土器 (1) (S = 1/3)



第79图 墨書土器(2)(S=1/3)



第 80 図 墨書土器 (3) (S = 1/3)

土師質皿で、八字状の墨書痕がある。510～518はC区NR03から出土している灰釉椀、全て底部外面に墨書される。また512・513・515・516・518の底部外面には回転ヘラケズリ痕、510・514・517には回転糸切り痕がみられる。510の墨書は「十万」か。511はやや大型の椀で、底部外面に3条の同心円沈線が巡り、墨書痕がみられる。512は「夙」、513は「万」か、514はわずかに墨書痕が残る。515は「井」。516は灰釉が浸けがけされ、「寺本」と書かれるが、「寺」と「本」は異筆である。517は底部内面に煤・有機物が付着する。墨書は「加」か。518は破面が打ち欠かれている可能性があり、「盈」が書かれる。519はE区NR02から出土し、「万」が書かれる。520～522はC区攪乱穴から出土している。3点とも底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。520は底部外面に「賀」、521も底部外面に積読不明な墨書、522は底部外面と坏部下端の2ヶ所に「井」が書かれる。

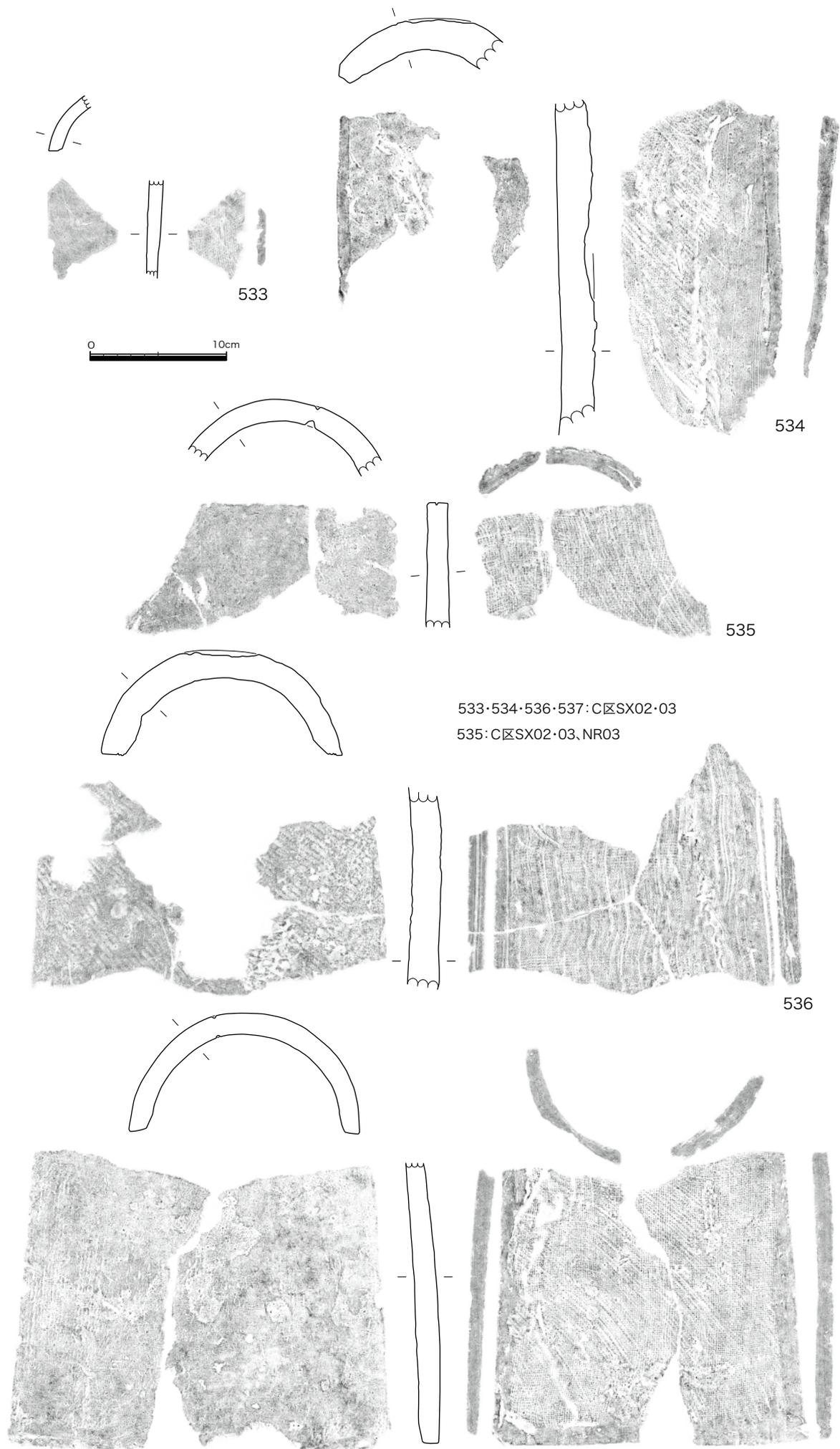
523～526はC区SK35から出土し、全て底部外面に墨書される。また523・524の椀と526の皿の底部外面には回転ヘラケズリ痕が、525の椀には回転糸切り痕がみられる。523は1条の墨書痕、灰釉が刷毛塗りされた524は「凡」、525・526は積読不明である。527はC区SK39とNR03から出土したものが接合した灰釉椀。灰釉が浸けがけされ、底部外面には回転糸切り痕があり、「夙」が書かれる。528はC区P121とP127出土のものが接合した灰釉椀。底部外面には回転ヘラケズリ痕があり、積読不明な墨書が書かれる。529はC区P127とNR03出土のものが接合した灰釉皿。底部外面には回転ヘラケズリ痕があり、「吉」が書かれる。530はC区P131から出土した灰釉皿。底部外面には回転ヘラケズリ痕があり、「井」が書かれる。531はC区SD51とNR03出土のものが接合した灰釉椀。底部外面には回転ヘラケズリ痕があり、「井」または「井」が書かれる。532はC区SD54から出土した灰釉椀で、内面には灰釉が刷毛塗りされ、底部外面には回転ヘラケズリ痕がみられる。墨書は「若」か。

第3節 瓦

全部で147点出土している。接合したものの中にも細片になっているものが多く、小片が同一個体である可能性があるため、個体数はさらに少なくなる。また総重量は24563gになり、残存部位が多い538の平瓦(3360g)で換算すると7枚程の量になる。出土地点はC区が最も多く75点で51%を占める。次にD区44点、E区14点、B区6点、G区5点、F区2点、A区1点の順になる。ただ重量で見ると、C区は個体数が全体の51%に対し、重量が17141gで70%、D区は個体数が30%に対し、重量が4062gで17%となり、D区の方に小片が多いことがわかる。また丸・平瓦を問わず、半数程のものに、凹面を中心に煤・炭化物があり、特に538・545は厚く付着する。さらに遺構では、C区SX02・03が最も多く40点で、SX02・03を切っている攪乱穴で4点、その北にあるNR03で14点、C-3期のD区SX10・11で29点出土している。

533～537は丸瓦。全て粘土板から製作されたと思われるが、536のみ粘土紐の可能性はある。粘土は一本の截頭円錐形の模骨上で成形される。凸部は、536に斜位平行タタキ、537に側縁平行縄タタキ痕が残るが、全てナデ消される。また側縁は、533・535が面取りなし、534・536・537は面取りされる。

538～554は平瓦。全て粘土板から製作される。539・547・550は成形台一枚作り、他は桶巻き作りされる。凸部には、539・547・550は側縁平行縄タタキ、543は縄タタキ、541・542・544は格子タタキがなされ、577は縦方向のナデ、540・545・546・548・549・553は横方向のナデ、552はナデ、543は一部ナデが施される。539・541・542・544・547・550にはナデ痕はない。



533

0 10cm

534

535

533·534·536·537: C区SX02·03

535: C区SX02·03.NR03

536

537

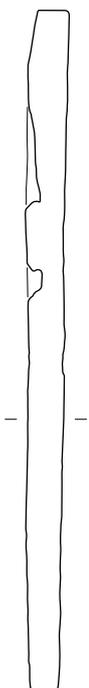
第81图 瓦(1) (S=1/4)



538: C区SX02·03、SK35
P125、NR03、攪乱穴



538



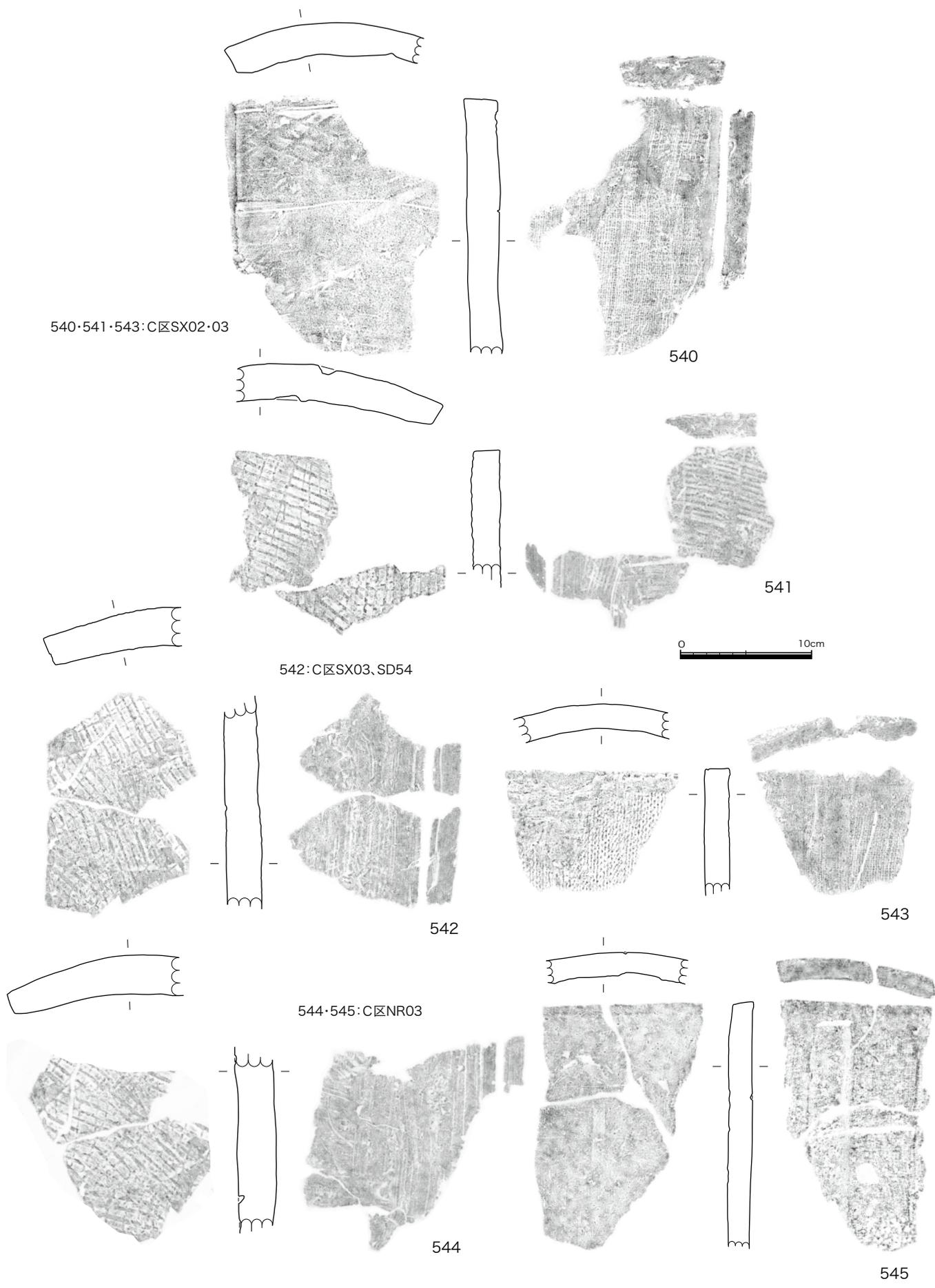
539: C区SX02·03、SK39
SD58、NR03



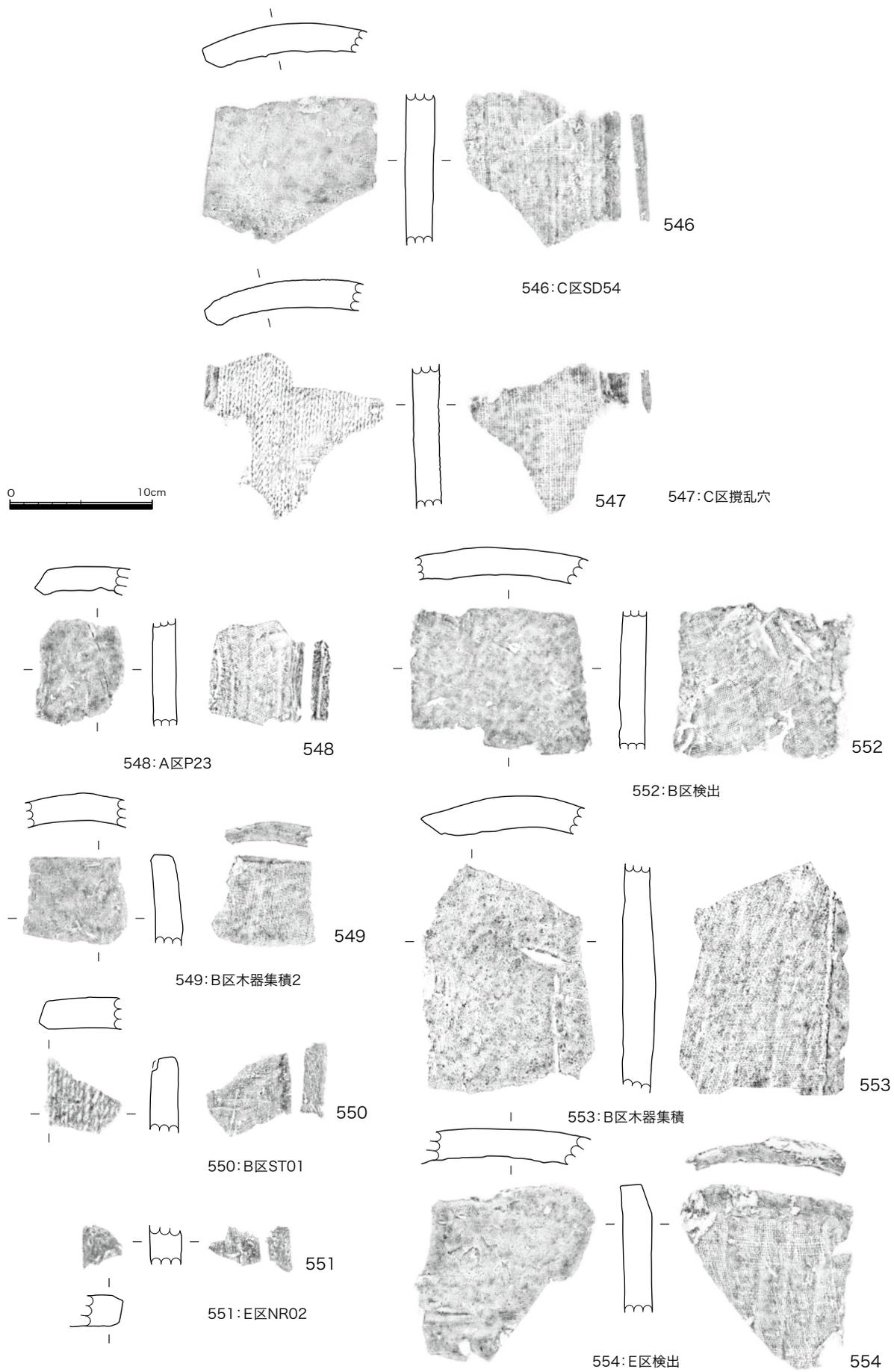
539

0 10cm

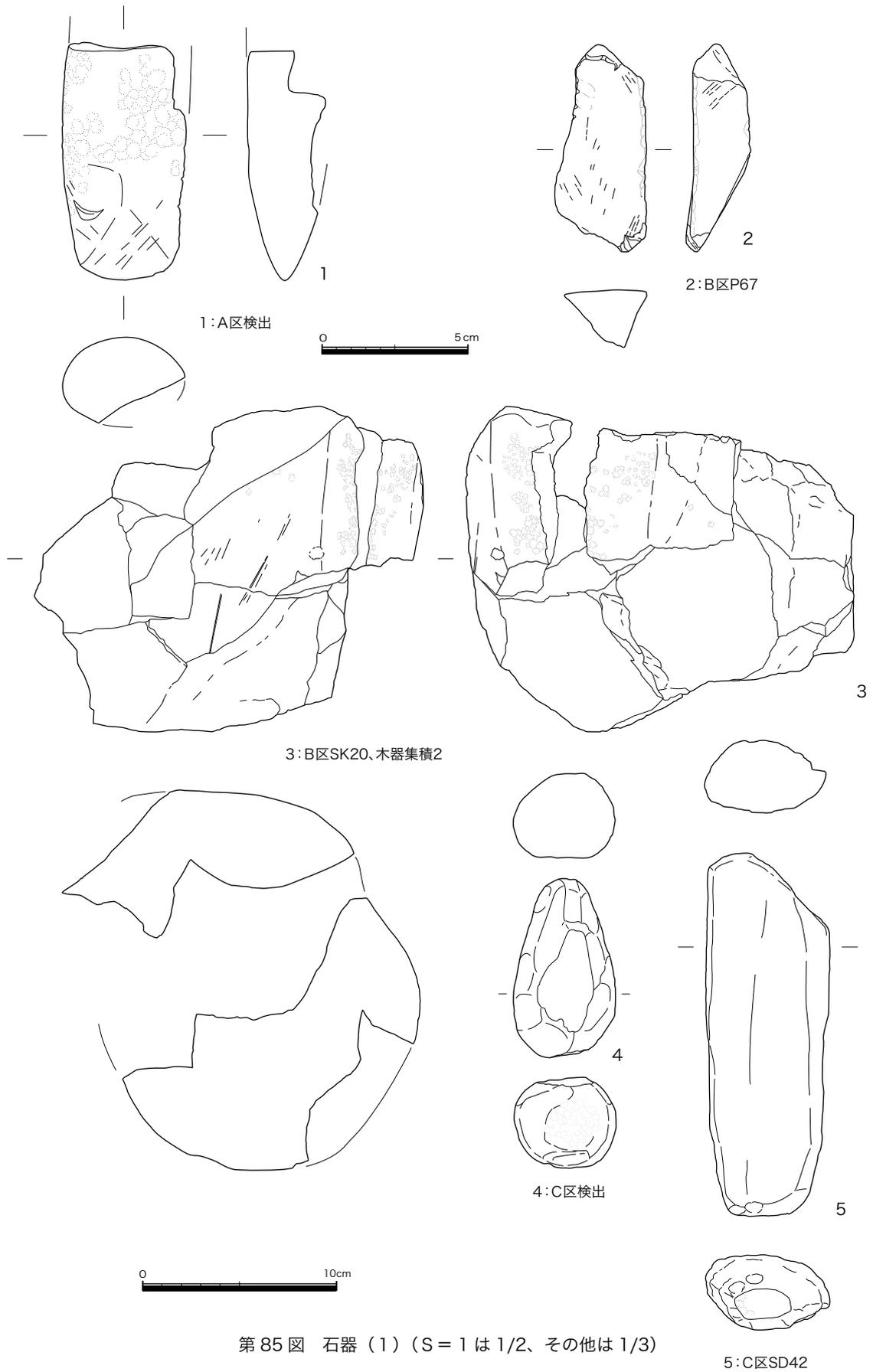
第82图 瓦(2) (S = 1/4)



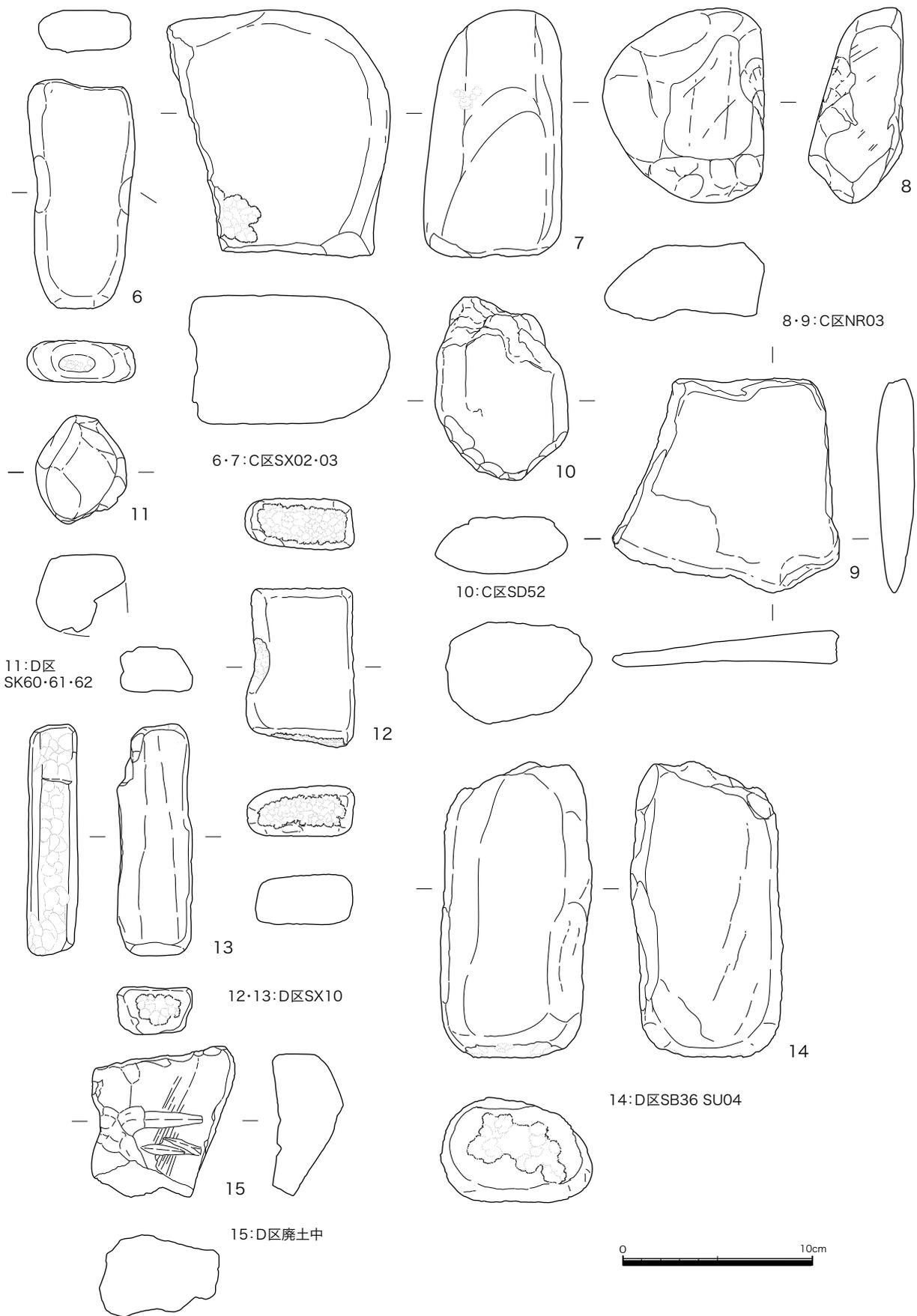
第83图 瓦(3) (S=1/4)



第 84 图 瓦 (1) (S = 1/4)



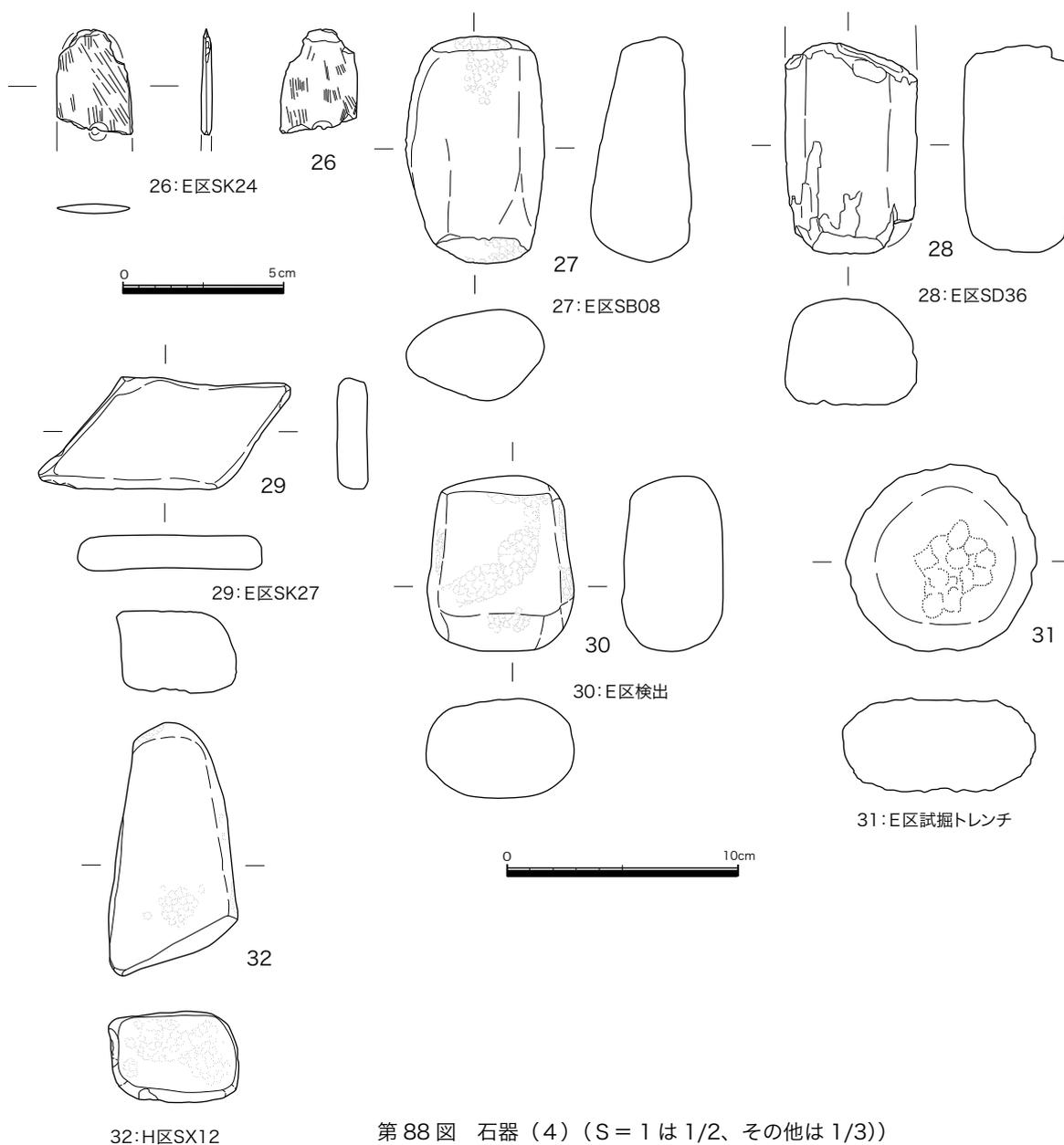
第 85 図 石器 (1) (S = 1 は 1/2、その他は 1/3)



第 86 图 石器 (2) (S = 1/3)



第87图 石器(3) (S=1/3)

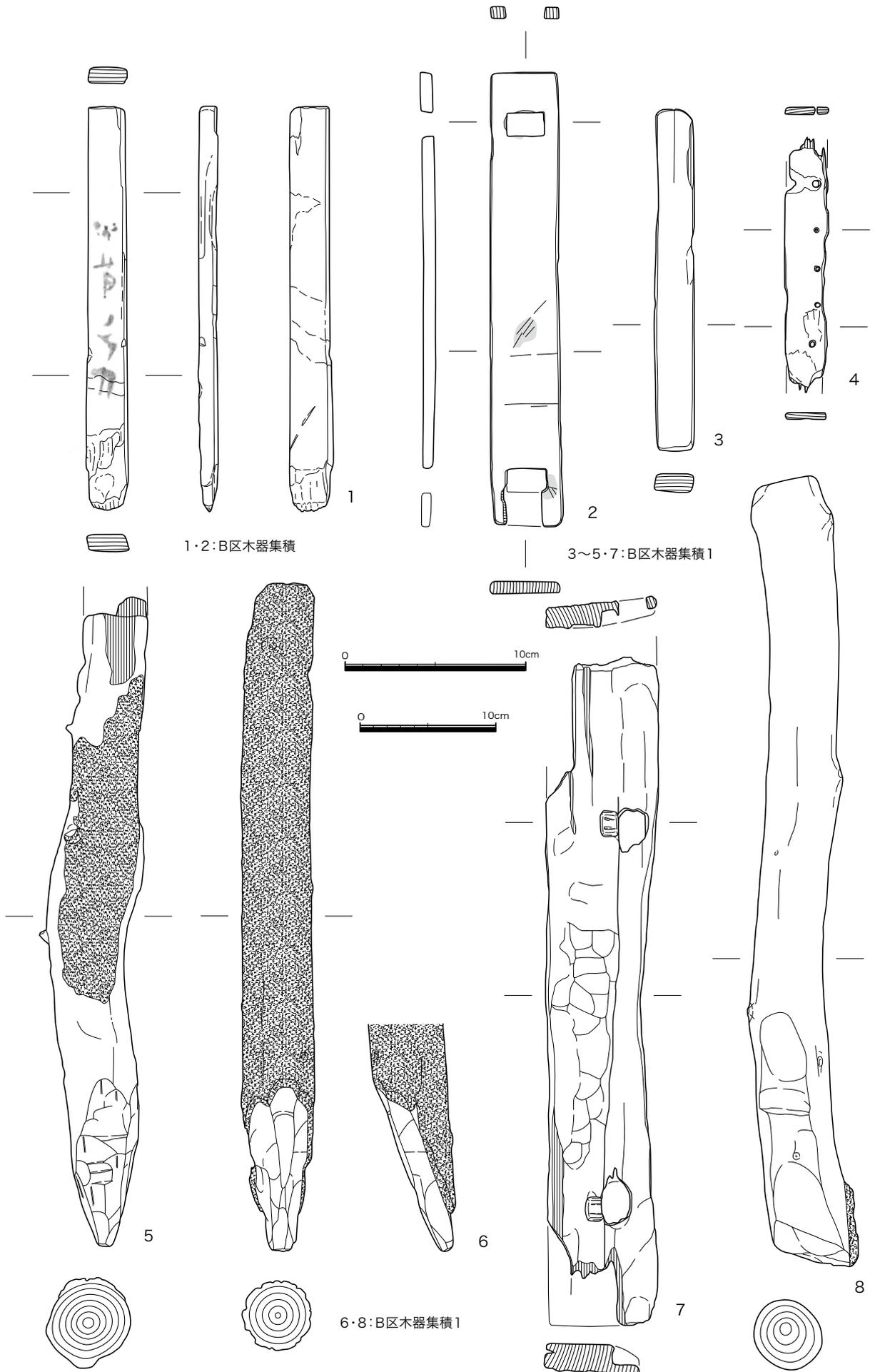


第88図 石器(4) (S=1は1/2、その他は1/3)

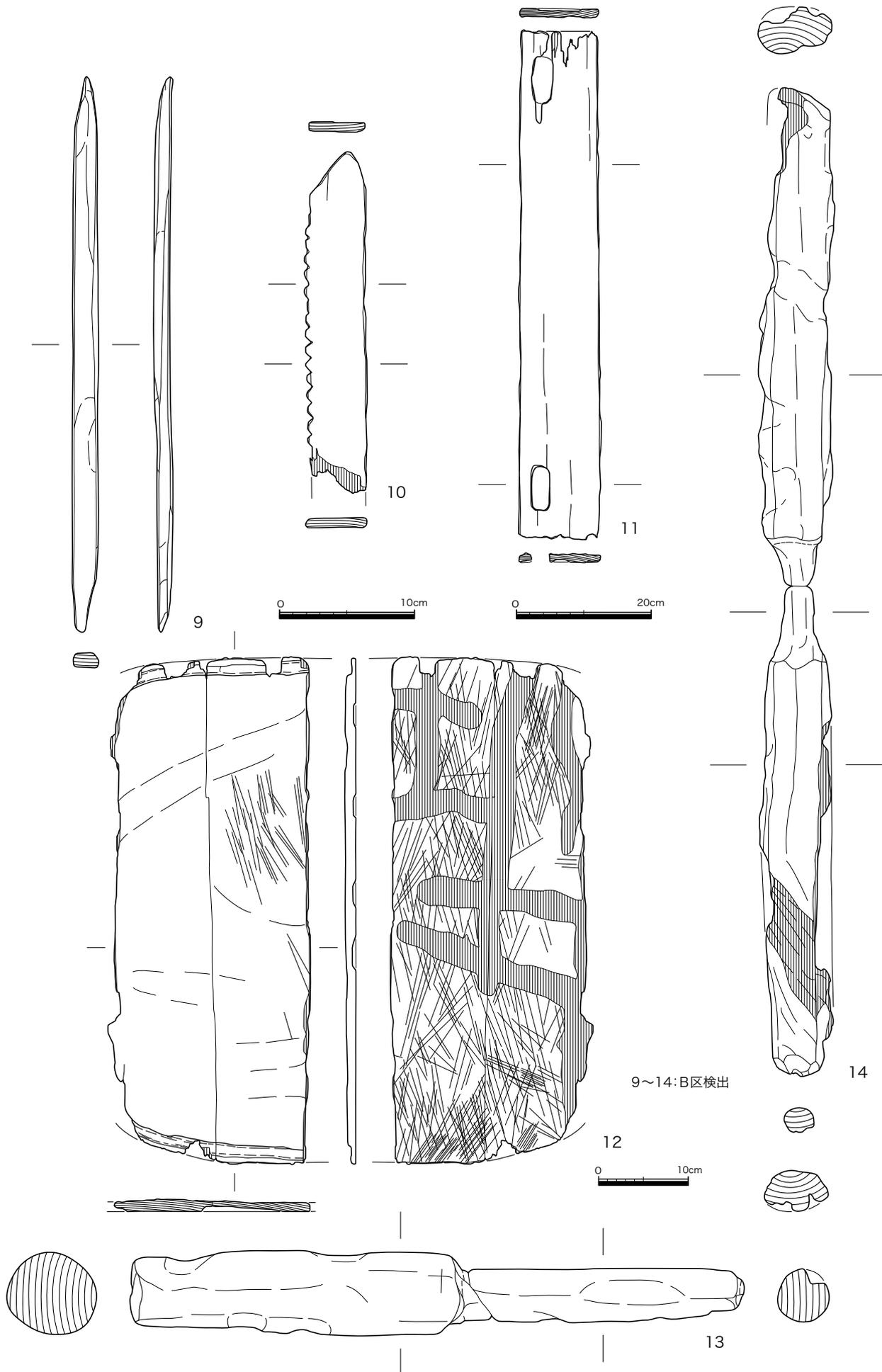
538・539・540・546・547・548・550は側縁面取り、541・542・544は凹面側縁部削りがなされる。553には側縁面取りはみられない。

第4節 石器

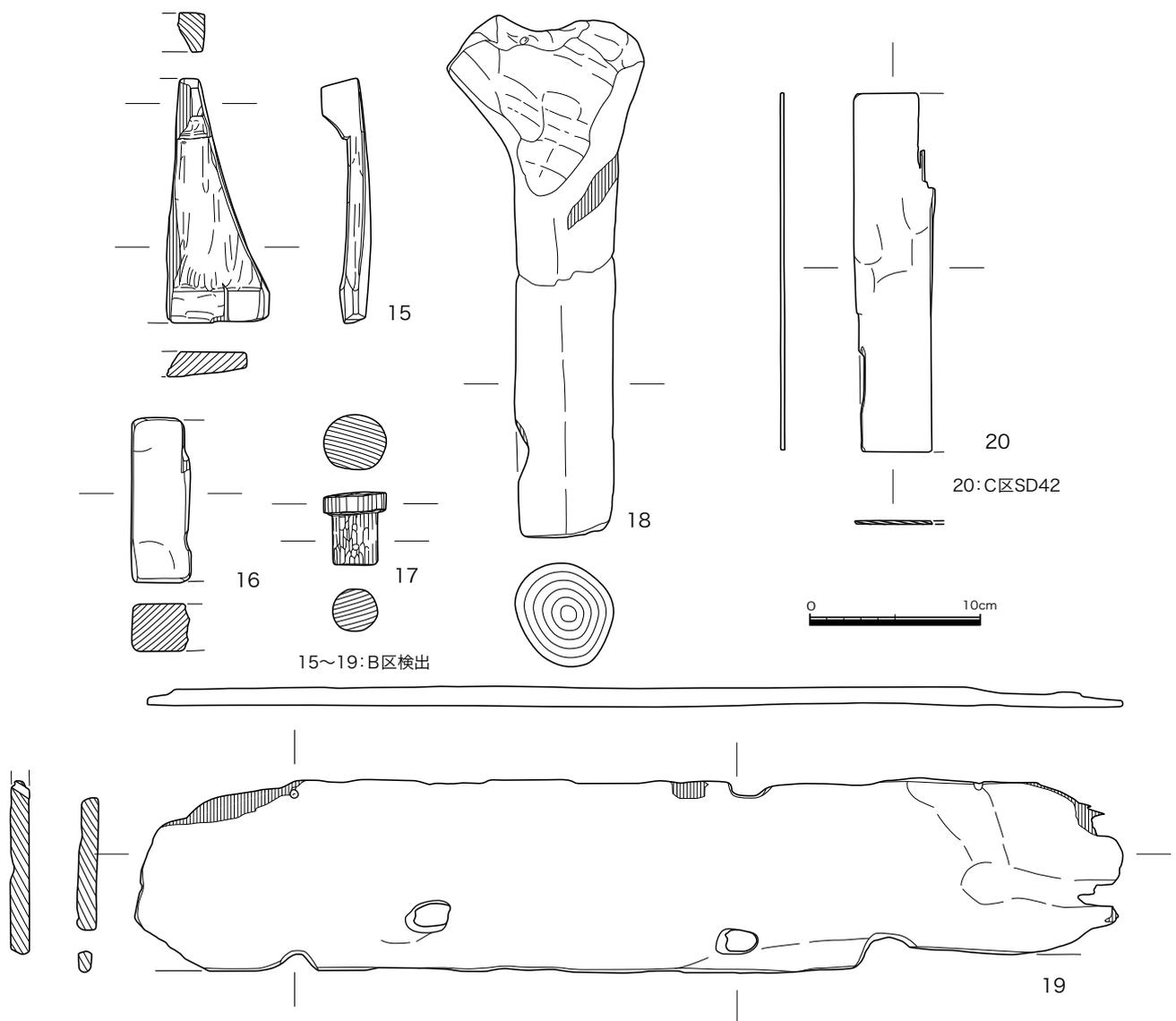
1はA区包含層検出中に出土した磨製両刃石斧で、体部には敲打成形の痕跡がみられる。石材は安山岩。2はB区P67から出土した断面三角形の砥石で、三面とも研磨されるが、特に表面が強く研磨される。また縁部には敲打痕がみられる。石材は泥質凝灰岩。3はB区SK20と木器集積内出土のものが接合した。高さが40cmになる大型石器で、いくつかの面に研磨痕・敲打痕(成形痕か)がある。また破面を含め煤・炭化物が付着している。石材は砂質凝灰岩。4は全体に磨滅していて使用痕などは不明であるが、下面に敲打痕がある。石材は片麻岩。5はC区SD42から出土した柱状の石器で、



第 89 図 木器 (1) (S = 1 は 1/3、その他は 1/4)



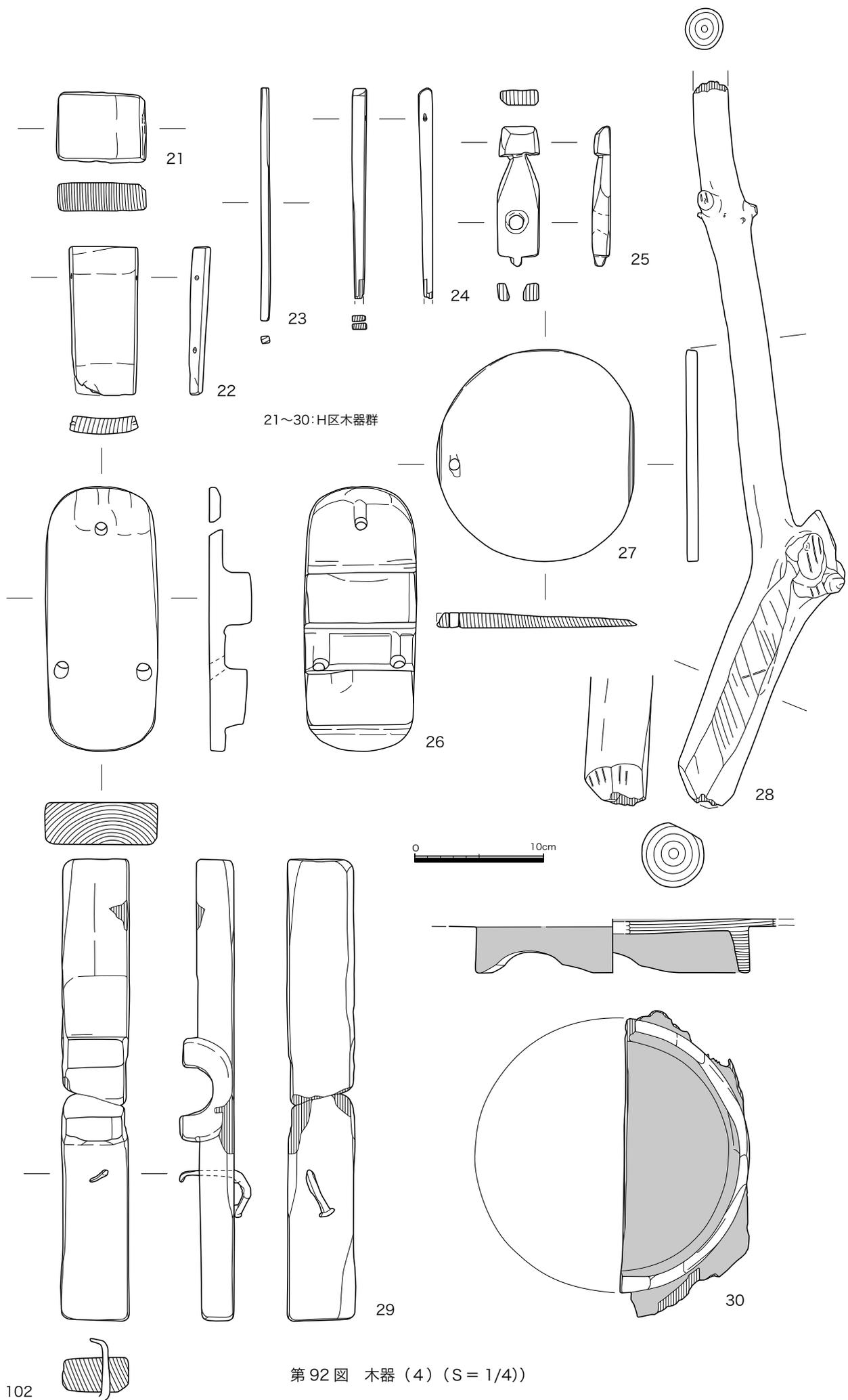
第90図 木器(2) (S=11は1/8、14は1/6、その他は1/4)



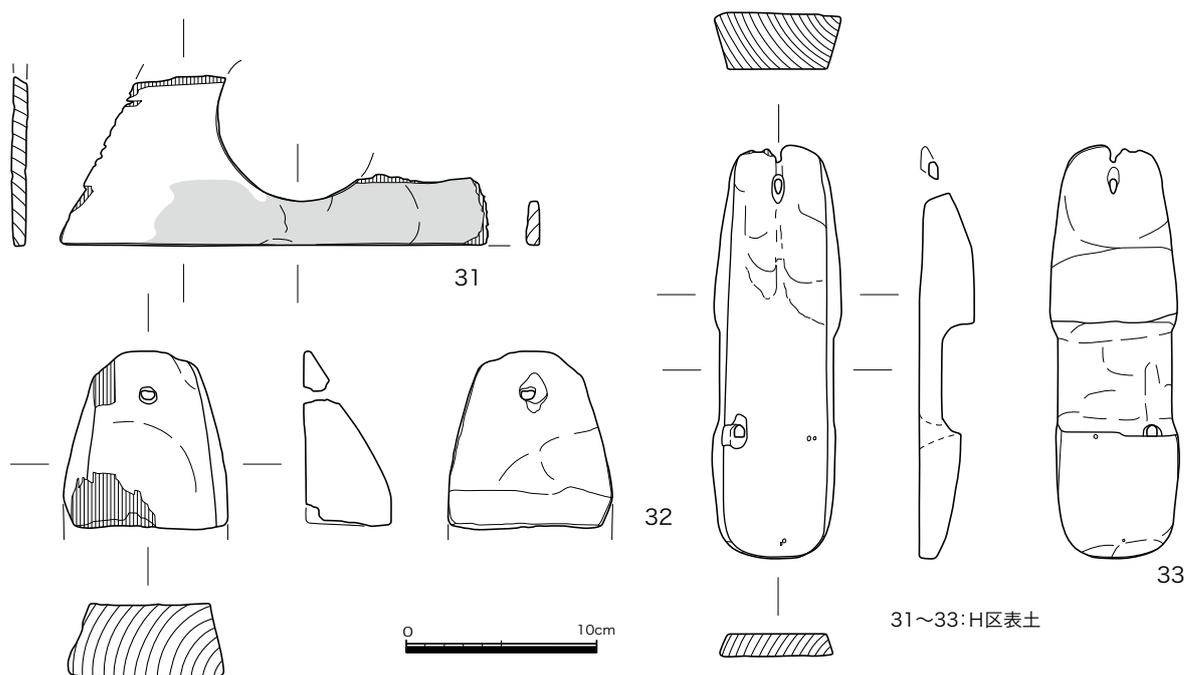
第91図 木器(3) (S=1/4)

下面に研磨痕、また上面にもわずかに研磨痕がある。石材は片麻岩。

6はC区SX02から出土した。側面全体が研磨されるが、中位は特に強く磨られており凹面となる。下面には敲打痕がある。石材は片麻岩。7はC区SX03から出土した。扁平な円柱形を呈し、側面には研磨痕、表面中央部には敲打痕がみられる。また表面を主に煤・炭化物が付着する。石材は花崗岩。8・9はC区NR03から出土した。石材は両者とも片麻岩。8は表面と右側面に研磨痕、下面には敲打痕がある。9は台形状に成形された石器で、下部が刃部になる可能性があるが、光沢はない。10はC区SD52から出土した。下面に敲打痕がみられ、上面も敲打された可能性がある。石材は片麻岩。11はC区SK60・61・62出土のものが調査時に混在して区別できなくなったものである。多面形を呈し、各面に研磨痕がみられる。石材は軽石。12・13はD区SX10から出土している。両者とも石材は片麻岩。12は扁平な長方形を呈し、上面・下面と左側面中位に敲打痕がある。13は方形の柱状



第92図 木器(4) (S=1/4)



第93図 木器(5) (S = 1/4)

の石器で、上面・下面と左側に敲打痕がある。14はD区SB36SU04から出土しており、下面に敲打痕がある。石材は片麻岩。15の表面には研磨痕があり、沈線状に凹んだ部分がある。側面にも研磨痕があるが、裏面は自然面である。石材は凝灰質砂岩。

16～25はD区SD59から出土した。16は柱状の石器で、表面と左側に研磨痕、底面と右側面下位・裏面には敲打痕がある。石材は凝灰質砂岩。17は断面三角形を呈する石器で、上面と裏の2面に研磨痕、表裏面に敲打痕がある。石材は片麻岩。18は表面中央部にやや深い敲打痕が、19も表面中央部にやや広い敲打痕がみられる。石材は18が砂質凝灰岩で、19が花崗岩。20は断面三角形を呈する石器で、上面・下面を中心に表・側面にも敲打痕がある。石材は片麻岩。21は表面・側面に敲打痕がある。石材は花崗岩。22・23は大型の石器で、部分的に敲打痕があり、23には上面に研磨痕がみられる。石材は濃飛流紋岩。24は表面・側面が研磨され、煤・炭化物が付着する。石材は片麻岩。25は表面に敲打痕があり、下面も敲打されている可能性がある。石材は片麻岩。

26はE区SK24から出土した磨製石鏃で、表裏から穿孔された孔がある。石材は頁岩。27はE区SB08から出土した。上面・下面と表面に敲打痕があり、下面が研磨される。石材は斑れい岩。28はE区SD36から出土した。やや剥離するが、全面に研磨痕がある。石材は片麻岩。29はE区SK27から出土した。扁平な平行四辺形を呈し、全面に研磨痕がある。石材は凝灰質砂岩。30は全体に研磨され、部分的に敲打痕がある。石材は安山岩。31は磨滅が進んでいるが、表面・裏面に敲打痕がある。また側面も敲打されている可能性がある。石材は花崗岩。32はH区SX12から出土している。下面が平面となり敲打痕が多くみられる。石材は凝灰質砂岩。

第5節 木器

1～8はB-2期のB区木器集積内から出土したものである。また9～16・18は木器集積が検出

された層から出土したもので、17はそれより上の層で出土する。また19も木器集積層と同じ層の可能性もある。20はC区SD42から出土する。21～30はC-3期のH区木器群から出土したもので、31～33はH区の表土掘削で出土しているが、木器群に含まれる可能性が高い。

1の木筒は上端がほぼ水平に切られ、上面・側面とも平滑になるよう調整される。下端は表裏及び側面が削り込まれ先尖り状を呈する。全体に風化が激しく肉眼では墨書の判読は難しく、赤外線カメラによる観察では、六～七文字が書かれていることが判明したが、内容について判読するまでにはいかなかった。樹種はヒノキ。2は長方形の孔が両端に開けられる板で、表面に一部炭化部分がある樹種はヒノキ。3の板の樹種はヒノキ。4は右側面がわずかに波状を呈し、小孔が連続して開けられる板で、樹種はヒノキ科。5・6の杭は、樹皮が残存している。先端部は5が各周辺から、6は片側から削られており、6の上面は切り離されたままの可能性もある。樹種は5がマツ属複雑管束亜属で、6がコナラ属クヌギ節。7は右側に寄って2孔が開けられた板で、孔の左側には方形の凹みがあり、条痕がみられる。樹種はヒノキ。8はコナラ属クヌギ節の加工材で、一部樹皮が残存する。

9は両端が尖った棒で、樹種はヒノキになる。10は片方の側面が山形に加工された板で、樹種はヒノキ。11は両端左側に長方形の孔が2つ開けられた板で、上下端とも切り離したままになっている。また裏面は激しく腐食・欠損している。樹種はヒノキ。12は折敷の底板で、表裏とも線条痕がみられ、裏面には帯状の腐食痕がある。樹種はヒノキ。13は断面がほぼ円形を呈する横槌で、樹種はコナラ属アカガシ亜属。14は堅杵で、上端がまるく、下端が削られてやや尖る。樹種はコナラ属クヌギ節。

15・16はヒノキ、18はエノキ属の加工材。17は細かい削痕がみられる栓で、樹種はコウヤマキ。19は2孔が開けられた板で、側面にも凹みがある。樹種はヒノキ。20はヒノキの板。

21はスギの板。22は桶板で、両側面に結合のための孔がある。また部分的に黒色を呈しており、黒漆・有機物の可能性がある。樹種はネズコ。23・24はヒノキの棒で、24の端部に孔がある。25はヒノキの桶把手。26は一木の下駄で、樹種はヒノキ。27は曲げ物で、左端に孔がある。樹種はサワラ。28は小枝を切り離したままの鈍角に屈曲する加工材で、先端部や側面には削痕がみられる。樹種はマツ属複雑管束亜属。29はやや突出する半円形の凹みをもつ、断面長方形の板で、鉄釘が打たれている。樹種はケヤキ。30は3方向に挟り込みが入れられた盤の脚台部で、外・内面とも赤漆が塗られている。樹種はクリ。

31は円形の大きな孔をもつ台形の板で、容器の脚台部になると思われる。また表面には黒色を呈する部分があり、黒漆の可能性もある。樹種はスギ。32はスギ、33はヒノキの下駄で、33の右後ろ孔の径は極めて小さい。

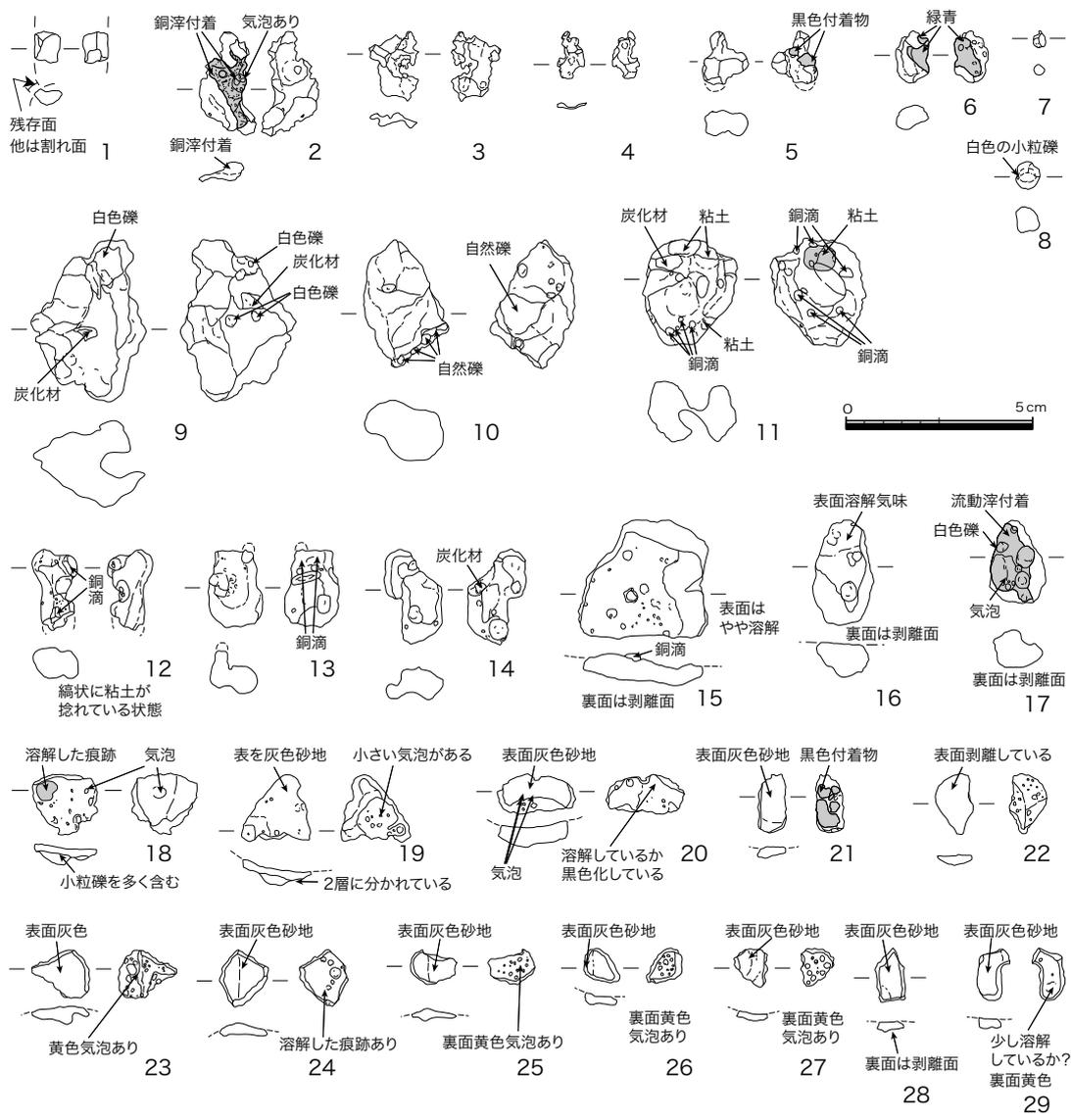
第6節 鑄造関連遺物

1 遺物の概要と分析

E区NR02では多数の鑄造関連資料が出土している。出土地点は、東に向かって落ち込むNR02の傾斜面のうち、中ほどにあるテラスにわずかな溝状のくぼみが認められ、その黒灰色粘土の堆積層である。溝状のくぼみの掘り込み面や共伴する遺物からみて、平安時代の堆積層と考えられる。発掘調査の段階でこの黒灰色粘土の堆積層から銅滓が確認されたことから、周辺の土壌を取り上げて水洗篩別作業(2mmメッシュ)を行った。ここでは、その際に採集された資料を報告する。

鑄造関連資料は総数2411点があり、その形態と表面の特徴や金属反応の有無などから、次の7類に分類した。

銅製品または銅塊：角がある面を持つもので、金属反応があるもの(1)。1点が確認された。



第96図 銅滓 (S = 1/2)

銅バリ：凹凸の激しい不整形な板状のもので、金属反応があるもの（2～4）。表面に緑青が少し浮かぶものや銅滓が付着したものがある。銅バリは铸造した銅製品の周縁部に铸型からはみ出した余分な銅が削られ落ちたものと考えられる。全部で161点存在する。長径は0.3～3.8cmのものまであるが、金属部分の厚さはほとんどが0.1～0.2cmの範囲に収まる。重量は0.5g以下のものが150点あって微細な小片が多いが、2gを超える資料が2点存在することからみて、全体にもう少し大きな破片が存在したものが破碎されたものと思われる（第94図）。

銅滴：水滴状の不整形な塊で金属反応があるもの（5～7）。表面に緑青が少し浮かぶものが散見される。铸造作業に伴い銅が滴状に垂れて固まったものと考えられる。全部で152点存在するが、長径は0.2～2.5cmの範囲に分布する（第95図）。7のように一端が突起状になって滴の形をしているものも認められる。

銅滓：熔解して流動化した滓が溜まり固結したもので、金属反応がないもの（8～11）。緑青が浮かぶものが少量あるが、多くは表面が赤銅色に発色している。小粒な白色石をかみ込むものが多く、気泡も認められる。炭化物が含まれるものも存在する（表1）。銅滓の中で球形のものを粒状滓として細分した（8）。

溶解炉壁：粘土で成形された炉壁が溶解したもの（12～14）。気泡が多くあり金属反応はなく、一部に炉壁の色が残存している。粘土等が滓化して全体に丸みを帯びている。総数で765点存在するが、その大半は0.1g以下の小片であり、計測可能なやや大きめの資料は58点認められた。表面に付着物がつかないものが多いが、大型の資料に銅滴や銅滓が付着するものがある（12・13）。

炉壁：ここでは溶解していない炉壁の小破片を紹介する（15～17）。表面の一部が被熱し気泡が発生しているものが多く、金属反応は認められない。多くの資料で裏面が剥離した痕跡の破面が確認される。

鋳型：炉壁と類似するが、表面に小さい気泡がある黄色粘土素地の上が灰色の砂地（砂っぽい粘土）に覆われて面を形成するものを、ここでは鋳型と推定した（18～29）。全部で12点確認され、いずれも金属反応は認められない。形状は板状で、灰色砂地面は平坦なものが多いが、曲面をなすものも散見される（27など）。

2 小結

今回確認された鋳造関連資料は、明確な鋳型が出土していないため、何を製作したものかは不明であるが、出土した銅塊や銅バリの大きさや量などからみて比較的小型の製品が製作された可能性が高いものである。この資料群は銅製品が鋳造された後に自然流路に廃棄されたものであり、出土地点が銅製品の鋳造工房の位置を直接示すものではない。しかし、平安時代の惣作遺跡かあるいはその付近で銅製品の鋳造が行われた可能性が高いといえる。当時の遺跡周辺において銅製品の生産を必要とする遺跡の一つとして、惣作遺跡の南西に所在する寺領廃寺をあげることができ、寺院に関連する銅製品が鋳造されていた可能性が指摘される。

第4章 自然科学分析

第1節 岡崎平野中央部、惣作遺跡における堆積環境

鬼頭 剛（愛知県埋蔵文化財センター）

1 はじめに

岡崎平野中央部、安城市木戸町惣作の惣作遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、放射性炭素年代測定および表層地形解析の結果を報告する。

試料および分析方法

地下層序解析のため、調査区において地表面や遺構検出面からバックホーにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは放射性炭素年代測定用試料を採取した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。試料は125 μmの篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。¹⁴C年代値の算出には半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。¹⁴C年代の暦年代への較正にはCALIB4.3を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）に依頼した。

調査地周辺における現在の表層地形解析のため等高線図を作成した。作成は愛知県安城市発行の「都市計画基本図（1/2,500）」にプロットされた標高値を用いて筆者が作成した。等高線図上には惣作遺跡の調査地点のほか、三田（2005）を参考にして調査地周辺の主要な遺跡をプロットした。

2 分析結果

(1) 深掘層序

地点1（A区）、地点2（B区）、地点3（C区）、地点4（H区）でそれぞれ1地点の計4地点でバックホーによる掘削を実施した（第97図）。各地点の層序の特徴を以下に述べる。

地点1（A区）では深度約2.6mの層序断面を得た（第98図）。下位層より、標高4.43～4.62mは灰白色を呈するシルト質砂層であった。本層の下底より湧水し、それよりも下位層を確認できなかった。標高4.62～4.93mは褐色の砂混じり腐植層である。本層には木片が含まれる。標高4.93～5.74mはシルト質砂層であり、下部ではシルト成分が優勢で、上部では砂層が優勢である。標高5.74～6.28mはシルト質粘土層である。標高6.28～6.44mは黒褐色を呈する粘土層からなり、地層は全体に塊状・均質である。考古学的には本層の下底が古代～欠山期の遺構検出面にあたる。標高6.44～6.63mは灰色の粘土層である。植物遺体を多く含む。標高6.63～7.05mは灰褐色粘土層からなり、本層もまた植物遺体を多く含む。

地点2（B区）では深度約3.8mの層序断面を得た（第99図）。下位層より、標高3.94～4.53mは灰色を呈し細礫の混じる粗粒～極粗粒砂層である。全体に淘汰不良である。標高4.53～6.19mまでは全体に黒色から褐色を呈する腐植混じりの粘土層からなり、下部でより黒色の程度が高い。堆

積構造は確認できず、未分解の植物の根や茎を含む。砂の粒子が混じるときもある。本層の標高 5.00～5.68m の層準からは古墳時代前期の遺物、標高 5.68～6.19m の層準からは平安時代の遺物が出土する。標高 6.19～6.34m は灰黒色を呈する粘土層からなる。本層からは考古遺物は検出されない。標高 6.34～6.53m は灰褐色粘土層で、本層より鉄の斑紋がめだつようになる。考古学的には戦国時代の考古遺物が出土する。標高 6.53～7.40m は灰褐色の粘土層である。鉄の斑紋がさらに多くなる。標高 7.40～7.78m は暗褐色粘土層で、現世水田の耕作土である。

地点 3 (C 区) では深度約 2.9m の層序断面を得た (第 100 図)。下位層より、標高 4.59～5.19m は細礫の混じる極粗粒砂層である。標高 5.19～5.40m は灰色を呈する砂質シルト層からなり、シルト成分が優勢である。標高 5.40～5.50m は灰色砂質シルト層からなり、下位層よりも砂勝ちになる。標高 5.50～5.56m は粘土質シルト層である。標高 5.56～5.99m は砂質シルト層からなる。標高 5.99～6.07m は灰褐色砂質シルト層である。標高 6.07～6.11m は黒褐色粘土層である。標高 6.11～6.32m は灰褐色粘土層、標高 6.32～7.03m は灰褐色シルト質粘土層である。標高 7.03～7.13m は褐色の砂混じり粘土層である。標高 7.13～7.53m は明灰色のシルト層であり、現世水田の耕作土である。

地点 4 (H 区) では深度約 3.9m の層序断面を得た (第 101 図)。下位層より、標高 3.60～3.87m は細礫の混じる極粗粒砂層からなる。本層の下底から湧水したため、それ以深の堆積物を確認できなかった。標高 3.87～4.29m はシルト質極細粒砂層からなる。標高 4.29～4.32m は褐色を呈する植物片の集積層であり、未分解の植物遺体がラミナ状につみ重なって堆積している。標高 4.32～4.62m は中粒砂層である。基質にはシルト成分が混じり、まれに種実や植物片がみられる。標高 4.62～4.77m は極細粒砂混じりのシルト層である。未分解の植物片を含む。標高 4.77～5.85m は灰色粘土層からなり、塊状・均質で未分解植物片を含む。標高 5.85～6.77m は細礫の混じる極粗粒砂層からなるが、本層下部 (標高 5.85～6.36m) でシルト成分をより多く含むため上部と区別される。標高 6.77～7.50m は現世の水田耕作土となっており、人工的な盛り土である。

(2) 放射性炭素年代測定

地点 1 (A 区) で 10 試料、地点 2 (B 区) で 5 試料、地点 3 (C 区) で 6 試料、地点 4 (H 区) で 5 試料の合計 26 試料の放射性炭素年代値を得た (表 2～5)。数値年代の古い値では、地点 3 (C 区) の最下位層である細礫混じりの極粗粒砂層中の標高 4.60m から採取した木片が 2300, 2245, 2180, 2165, 2160 cal yrs BP (BC 355, 295, 230, 220, 210) (PLD-9940)、同じ砂層中の標高 4.68m の植物遺体が 2310, 2220, 2210 cal yrs BP (BC 360, 270, 260) (PLD-9941) と約 2300 年前から約 2100 年前代を示した。また、最下位層を覆う標高 5.40～5.50m の灰色砂質シルト層中で標高 5.41m から採取した炭化材は 2150 cal yrs BP (BC 200) (PLD-9942) を、さらにその直上を覆う標高 5.50～5.56m の粘土質シルト層の標高 5.55m から採取した炭化材は 2305, 2225, 2205, 2185, 2180 cal yrs BP (BC 355, 275, 260, 240, 235) (PLD-9943) と、最下位層と同様に約 2000 年前代の数値年代が得られている。今回の調査地点の放射性炭素年代測定のうちで約 2000 年前代という古い値が得られたのは地点 3 (C 区) のみである。

いっぽう、調査区全体では約 1900 年前から約 1100 年前代の値が多い。これらのうち地点 4 (H 区) の標高 4.32～4.62m の中粒砂層の標高 4.59m から採取した種実は 280, 170, 155 cal yrs BP (AD 1670, 1780, 1795) (PLD-4580)、その直上を覆う標高 4.62～4.77m の極粗粒砂の混じるシルト層の標高 4.69m から採取した種実は 275, 175, 150, 10, 5 (AD 1670, 1775, 1800, 1940, 1945) (PLD-4581)、このシルト層を覆う標高 4.77～5.85m の灰色粘土層の標高 5.41m から採取した植物遺体

が 255, 225, 135, 100, 90, 35 cal yrs BP(AD 1695, 1725, 1815, 1850, 1860, 1920, 1950)(PLD-4582) と、今回の調査地点の中ではもっとも新しい年代値を示した。

(3) 調査地周辺の表層地形解析

表層地形解析のため愛知県安城市発行の「都市基本図 (1/2,500)」を用いて等高線図を作成した。東西約 1.8km、南北約 2.6km の解析範囲において標高 7.2m から標高 13.0m までの等高線が描ける(第 102 図)。解析範囲を北から南へ流下する鹿乗川よりも西側や、解析範囲の北東から東側にかけて標高 9m を超えて高くなっている。これらのうち西側半分の標高 9m から標高 13m は概ね第四系上部更新統の碧海層が露出する台地となっている(牧野内・小井土, 1988)。現在の矢作川右岸沿いには周りに比べて高い地形が島状に分布し、北側の川島町や東町で標高 9.0～10.0m まで、小川町で標高 9.0～9.6m まで、木戸町では標高 8.8～9.2m まで、南側の小川町では標高 9.0～9.2m までの地形の高まりが捉えられる。それらの地形がつくる面積は北から南に向かいしだいに小さくなる傾向がある。

いっぽう、標高 9m よりも低い等高線では、とくに標高 8.0m 以下の等高線を基準とするとわかりやすいが、北側の姫小川町から南の小川町・木戸町の南北方向にかけて標高 7.2m までの谷状地形がみてとれる。この谷状地形は解析範囲だけでも南北方向約 1.6km、東西の幅は約 0.7km あり、惣作遺跡の調査地点はこの谷状構造の西縁で、地形が舌状に西から東へ張り出したところにあっている。同じような谷状地形は惣作遺跡からさらに約 1.7km 北側の姫小川町で、標高 9m よりも高い尾根状地形に隔てられた標高 9.0～8.2m の南北約 0.7km、東西の最大幅約 0.4km の南北方向に細長い谷地形が確認される。

3 考察

(1) 惣作遺跡の地下層序

惣作遺跡において深掘を実施した。それらの地下層序を観察すると、地層全体では下位層は細礫や砂といった粗粒な堆積物が卓越し、上位層ではシルトや粘土といった細粒な堆積物が卓越した(第 98～101 図)。地点 2 (B 区) から地点 4 (H 区) までの最下位層は細礫の混じる極粗粒砂層が確認された。この砂層の堆積年代について、地点 3 (C 区) の砂層中の標高 4.60m から採取した木片が 2300, 2245, 2180, 2165, 2160 cal yrs BP(BC 355, 295, 230, 220, 210)(PLD-9940)、同じ砂層中の標高 4.68m の植物遺体が 2310, 2220, 2210 cal yrs BP(BC 360, 270, 260)(PLD-9941) と、約 2300 年前から約 2100 年前代の数値年代が得られていることから、約 2100 年前まで調査地点は砂礫を運搬するような河川の活動的流路であったことがわかる。また、この砂礫層を覆う標高 5.40～5.50m の灰色砂質シルト層中の標高 5.41m から採取した炭化材が 2150 cal yrs BP(BC 200)(PLD-9942)、さらにその直上を覆う標高 5.50～5.56m の粘土質シルト層の標高 5.55m から採取した炭化材は 2305, 2225, 2205, 2185, 2180 cal yrs BP(BC 355, 275, 260, 240, 235)(PLD-9943) と、最下位層とほぼ同じ約 2300～2100 年前代の数値年代であった。このように、砂礫層とその直上のシルト層から採取された試料の数値年代に隔たりがないことから、活動的流路は短期間に調査地点から遠ざかったことがわかる。また、その流路の移動方向について、表層地形解析のところで述べたように、現在の鹿乗川の流路よりも西側一帯には標高の高い第四系上部更新統の碧海層からなる台地がひろがっている。惣作遺跡はこの台地のちょうど東側縁辺部で地形の低いところに当たっているため、当時の活動的流路は台地を越えて西側へ移動することはできず、必然的にそれは台地東縁よりも東側への移動となる。約 2300～2100 年前代に流路は砂礫を堆積させた後に東へ移動したものと推定される。

C区・D区の西側には弥生時代中期の考古遺物が出土する河道跡が確認されており、かつ河道跡の陸側縁辺部では弥生時代中期後半の土器が出土している（鈴木，2005）こととも矛盾しない。

調査区全体において標高4m～5mよりも上位にはシルトや粘土の粒子を主体とする細粒な堆積物が卓越する。これらの細粒な堆積物から得られた試料の放射性炭素年代は約1900年前から約1100年前までの数値年代を示す。これは、活動的流路の位置する場所から隔たった場所に調査地点があり、洪水などに伴って間欠的に碎屑物が運ばれ、上方へ累積していったものと思われる。堆積の休止期間には例えば地点2（B区）において古墳時代前期、平安時代、戦国時代の考古遺物が出土するように、ヒトの活動が行なわれていた。

地点4（H区）で標高4.6mよりも上位でみられる砂層や粘土層は約280年前から現在までの新しい年代値を得た。今回の調査区の中でもっとも最後に堆積したのが地点4（H区）であったことがわかる。発掘調査ではH区とその北側のG区までを含めて、出土する遺物から江戸時代の河道跡が推定されており（鈴木，2005）、堆積層序から得られた結果とも整合する。

(2) 惣作遺跡周辺に現われる表層地形構造

表層地形解析では東西約1.8km、南北約2.6kmの解析範囲中央に標高8.0mの等高線を目安として、東西約0.7km、南北約1.6kmの南北方向にのびる谷地形が認められた（第102図）。この谷地形は北側の姫小川町で碧海層からなる台地を開析し、そこを北端として南側の小川町にかけてひろがっている。等高線間隔は地形の傾斜の程度を表わすが、この谷地形は姫小川町から小川町にかけて、現在の鹿乗川が台地の東側縁辺を北から南へ流下する方向に平行して等高線間隔が狭く、傾斜が急であることがわかる。惣作遺跡は台地の東側縁辺部に位置しており、先にのべた南北方向の谷地形が形成する標高の低いところにある。それは谷地形に対して舌状に突きでた地形の上にある。この舌状地形は当初、解析範囲の西側一帯に露出する碧海層がつくる台地がつづくものと思われたが、地下層序を確認した限りでは、最下位層の極粗粒砂層の標高4.5m付近から得られたもっとも古い数値年代は約2300～2100年前代であり、標高4.5mよりも浅い堆積物には上部更新統を伺わせる結果は得られなかった。この舌状地形の北縁の標高7.8m～9.0には西から東へ傾斜する軽微な谷地形が認められる。発掘調査では、この谷地形の場所にあたるB区とC区にかけて、ほぼ東西方向の河道跡が認められたとの考古学的所見がある（鈴木，2005）。それは谷地形の一部を捉えているものと思われる。

謝 辞

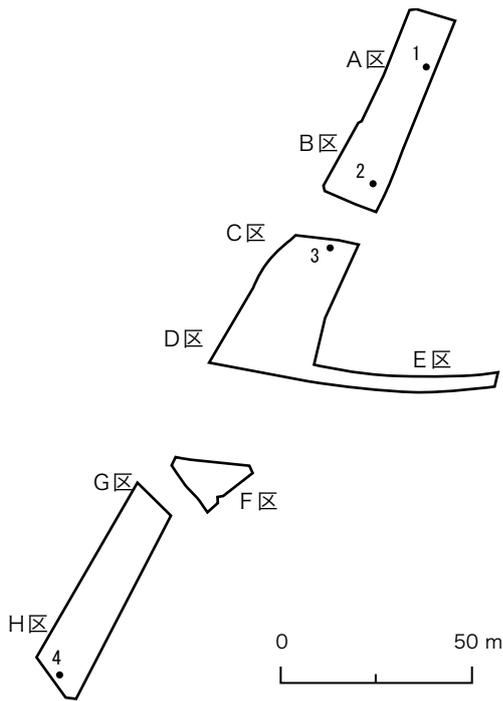
本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS年代測定グループの小林紘一氏・丹生越子氏・伊藤 茂氏・廣田正史氏・瀬谷 薫氏・Zaur Lomatatidze氏・Ineza Jorjoliani氏にお世話になった。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文 献

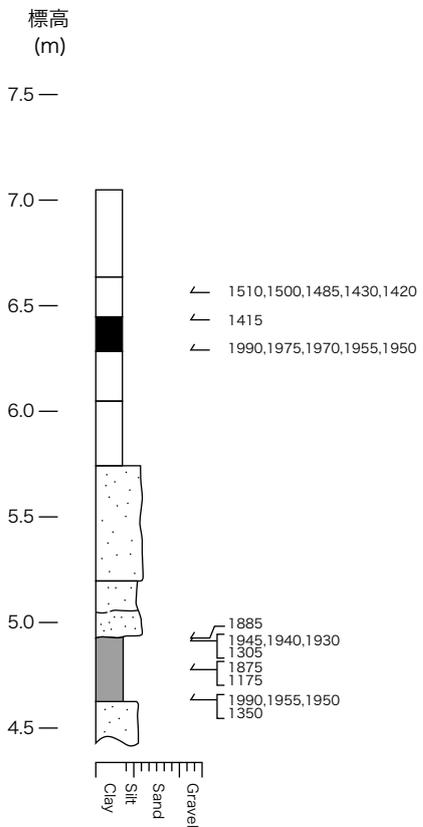
牧野内 猛・小井土由光，1988，第5章 第四系，山下 昇・紺野義夫・糸魚川淳二編日本の地質5「中部地方。」，共立出版，144-177.

三田敦司，2005，古井遺跡群，愛知県史 資料編3「考古3 古墳」，愛知県，534-542.

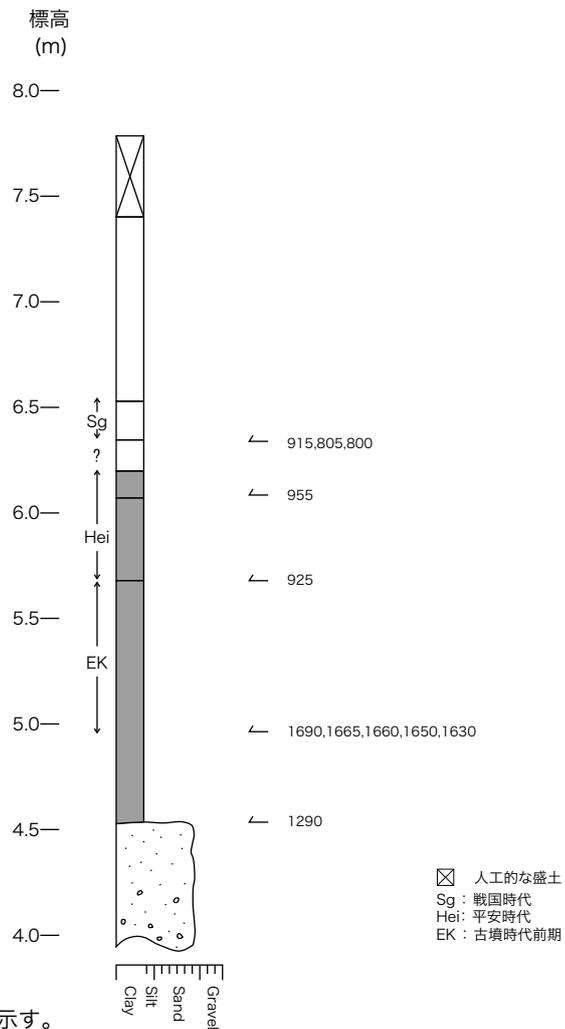
鈴木 正貴，2005，惣作遺跡，愛知県埋蔵文化財センター平成16年度「年報」，愛知県埋蔵文化財センター，41-44



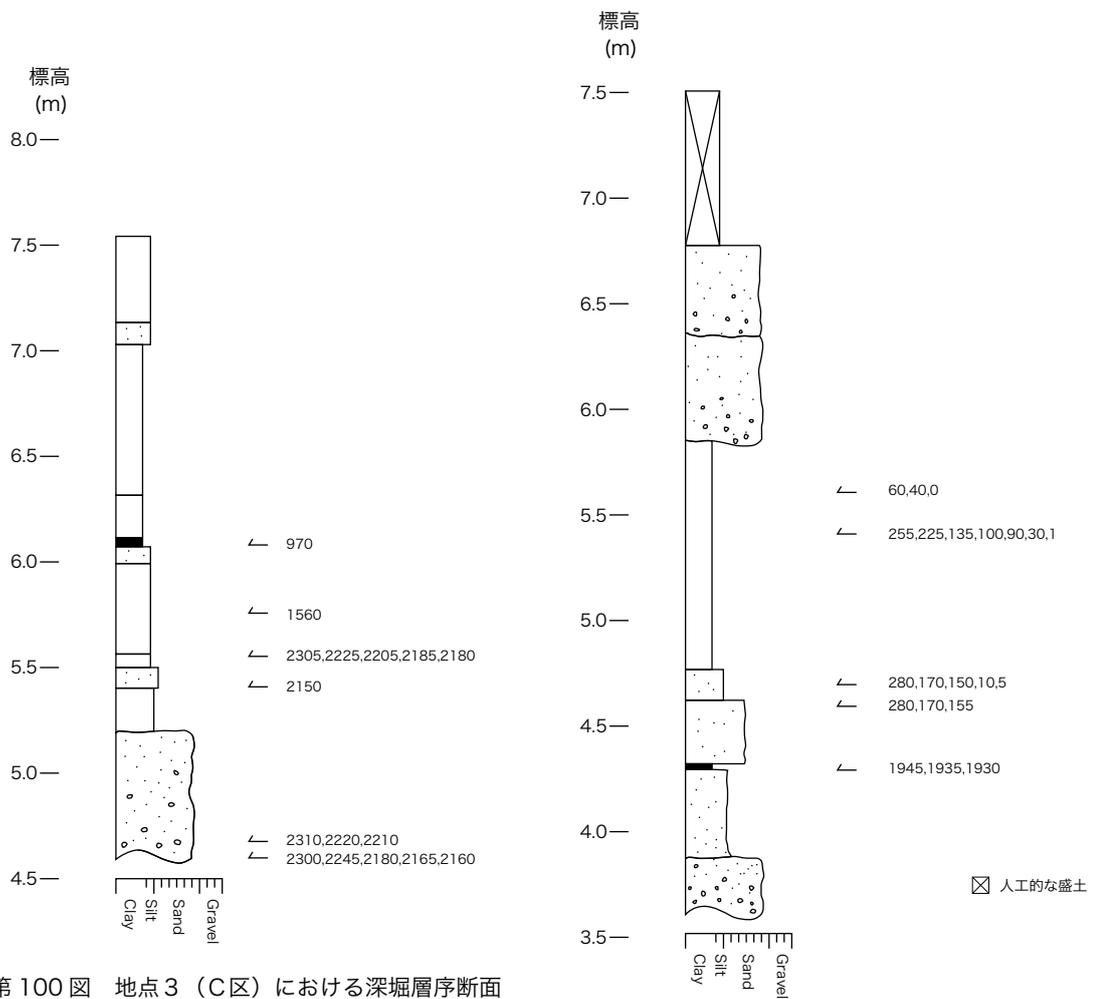
第 97 図 惣作遺跡における深堀調査地点
数字は地点番号を示す。



第 98 図 地点 1 (A 区) における深堀層序断面
柱状図右側の数値は暦年代較正值 (cal yrs BP) を示す。



第 99 図 地点 2 (B 区) における深堀層序断面
柱状図右側の数値は暦年代較正值 (cal yrs BP) を示す。



第 100 図 地点 3 (C区) における深掘層序断面

柱状図右側の数値は暦年代較正值 (cal yrs BP) を示す。

第 101 図 地点 3 (H区) における深掘層序断面

柱状図右側の数値は暦年代較正值 (cal yrs BP) を示す。

表 2 地点 1 (A区) における放射性炭素年代測定結果

標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	暦年代較正值 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正值 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (cal AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code
4.63	褐色砂混じり腐植層	径 1.5cm 木材	2033±22	-29.90±0.15	BC 40, 10, 5	1990, 1955, 1950	BC 50-15(67.9%) BC 15-AD 0(32.1%)	2000-1965(67.9%) 1965-1950(32.1%)	PLD-9488(AMS)
4.63	褐色砂混じり腐植層	草本植物遺体	1470±23	-26.54±0.17	AD 600	1350	AD 595-620(48.1%) AD 575-590(21.7%) AD 565-575(16.8%) AD 630-635(13.4%)	1355-1325(48.1%) 1375-1360(21.7%) 1385-1375(16.8%) 1320-1315(13.4%)	PLD-9489(AMS)
4.77	褐色砂混じり腐植層	枝材	1930±21	-27.64±0.15	AD 75	1875	AD 55-85(64.1%) AD 105-120(27.0%)	1895-1865(64.1%) 1845-1830(27.0%)	PLD-9486(AMS)
4.77	褐色砂混じり腐植層	草本植物遺体	1250±20	-26.29±0.11	AD 775	1175	AD 715-750(63.3%) AD 765-780(27.4%)	1235-1200(63.3%) 1185-1170(27.4%)	PLD-9487(AMS)
4.91	褐色砂混じり腐植層	木材	1988±21	-25.57±0.11	AD 5, 10, 20	1945, 1940, 1930	AD 0-30(61.1%) AD 40-50(24.4%) AD 20-10(10.0%)	1950-1920(61.1%) 1910-1900(24.4%) 1965-1960(10.0%)	PLD-9484(AMS)
4.91	褐色砂混じり腐植層	草本植物遺体	1423±20	-27.45±0.12	AD 640	1305	AD 635-655(62.1%) AD 620-635(37.9%)	1315-1295(62.1%) 1330-1315(37.9%)	PLD-9485(AMS)
4.93	褐色砂混じり腐植層	枝材	1944±21	-28.84±0.11	AD 65	1885	AD 50-80(70.5%) AD 25-40(29.5%)	1900-1870(70.5%) 1925-1905(29.5%)	PLD-9483(AMS)
6.28	黒褐色粘土層	有機質シルト	2030±22	-23.48±0.14	BC 40, 25, 20, 10, 5	1990, 1975, 1970, 1955, 1950	BC 50-15(65.8%) BC 15-AD 0(34.2%)	2000-1965(65.8%) 1965-1945(34.2%)	PLD-9543(AMS)
6.43	黒褐色粘土層	有機質シルト	1555±23	-24.72±0.11	AD 535	1415	AD 465-520(69.0%) AD 525-540(16.1%) AD 440-450(14.9%)	1485-1430(69.0%) 1420-1410(16.1%) 1510-1500(14.9%)	PLD-9544(AMS)
6.56	灰色粘土層	有機質シルト	1576±21	-23.70±0.14	AD 440, 450, 465, 520, 525	1510, 1500, 1485, 1430, 1420	AD 480-530(68.4%) AD 455-465(15.8%)	1465-1420(68.4%) 1495-1480(15.8%)	PLD-9545(AMS)

表3 地点2 (B区) における放射性炭素年代測定結果

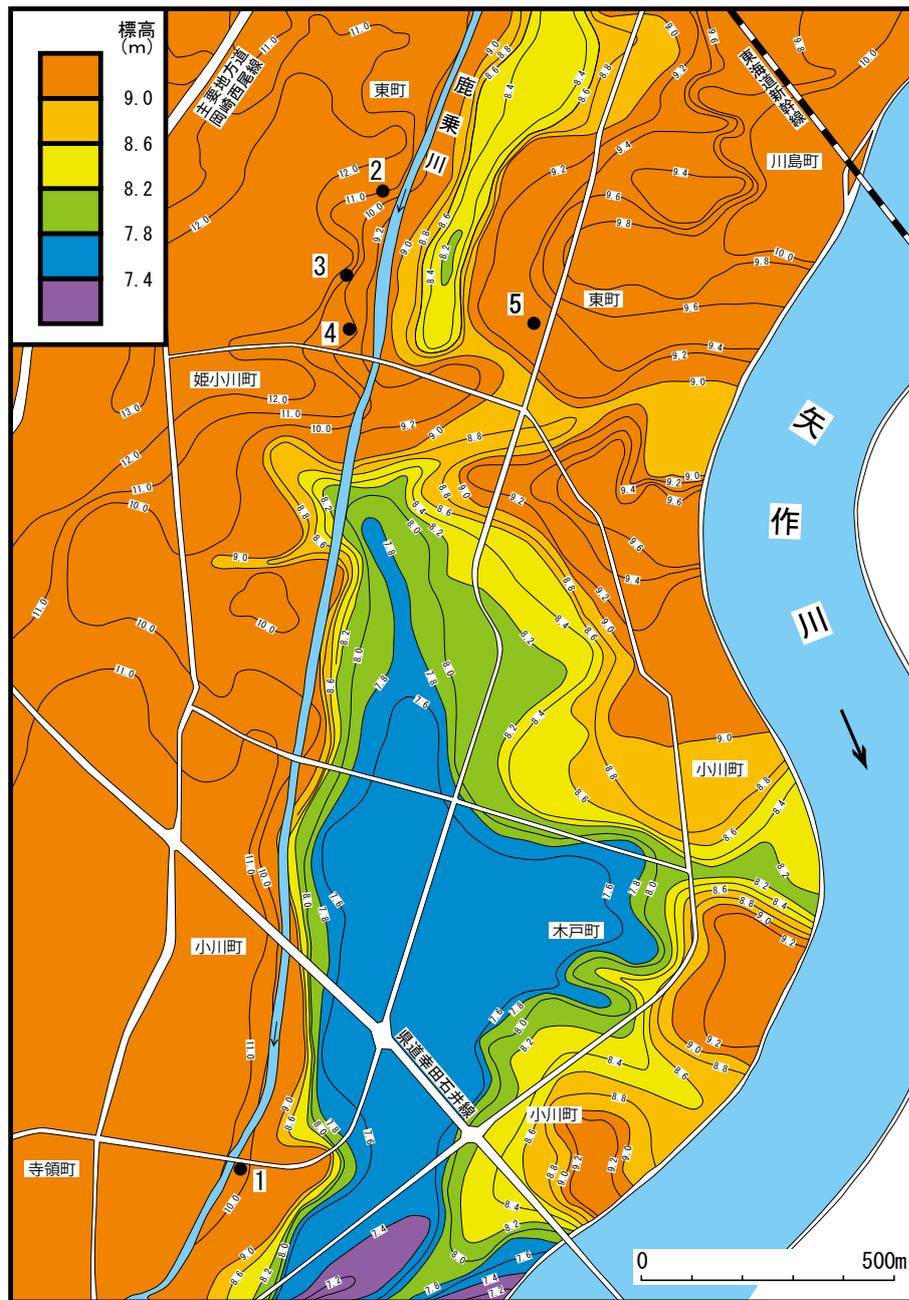
標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	暦年代較正值 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正值 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (cal AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
4.53	黒色粘土層	植物遺体	1369±19	-29.47±0.17	AD 660	1290	AD 650-670(100%)	1300-1280(100%)	PLD-9931(AMS)
4.96	黒色粘土層	植物遺体	1744±20	-23.79±0.13	AD 260, 280, 290, 300, 320	1690, 1665, 1660, 1650, 1630	AD 275-305(45.9%) AD 315-340(33.3%) AD 250-265(20.7%)	1675-1645(45.9%) 1635-1610(33.3%) 1700-1685(20.7%)	PLD-9927(AMS)
5.68	黒色粘土層	植物遺体	991±18	-27.18±0.17	AD 1025	925	AD 1015-1035(89.2%)	935-915(89.2%)	PLD-9928(AMS)
6.08	黒褐色粘土層	植物遺体	1049±19	-27.68±0.19	AD 995	955	AD 985-1005(74.4%) AD 1010-1015(25.6%)	965-945(74.4%) 940-935(25.6%)	PLD-9929(AMS)
6.34	黒褐色粘土層	炭化材	953±19	-26.64±0.15	AD 1035, 1140, 1145	915, 805, 800	AD 1090-1120(45.2%) AD 1025-1045(28.4%) AD 1140-1155(26.4%)	860-830(45.2%) 925-905(28.4%) 810-795(26.4%)	PLD-9930(AMS)

表4 地点3 (C区) における放射性炭素年代測定結果

標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	暦年代較正值 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正值 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (cal AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
4.60	細礫混じり 極粗粒砂層	木材	2214±24	-29.46±0.23	BC 355, 295, 230, 220, 210	2300, 2245, 2180, 2165, 2160	BC 320-275(45.3%) BC 260-240(19.9%) BC 220-205(18.1%)	2270-2225(45.3%) 2205-2185(19.9%) 2170-2155(18.1%)	PLD-9940(AMS)
4.68	細礫混じり 極粗粒砂層	植物遺体	2246±24	-30.59±0.26	BC 360, 270, 260	2310, 2220, 2210	BC 290-255(41.7%) BC 380-355(33.7%) BC 250-230(21.4%)	2240-2205(41.7%) 2330-2305(33.7%) 2200-2180(21.4%)	PLD-9941(AMS)
5.41	灰色砂質 シルト層	炭化材	2170±24	-31.39±0.23	BC 200	2150	BC 205-170(45.5%) BC 350-315(44.9%)	2155-2120(45.5%) 2300-2265(44.9%)	PLD-9942(AMS)
5.55	粘土質シルト層	炭化材	2235±23	-19.07±0.26	BC 355, 275, 260, 240, 235	2305, 2225, 2205, 2185, 2180	BC 265-230(37.6%) BC 295-265(30.7%) BC 365-350(13.8%)	2210-2180(37.6%) 2245-2215(30.7%) 2315-2300(13.8%)	PLD-9943(AMS)
5.75	砂質シルト層	炭化材	1679±24	-28.57±0.21	AD 390	1560	AD 375-410(54.4%) AD 345-370(45.6%)	1570-1540(54.4%) 1605-1575(45.6%)	PLD-9938(AMS)
6.08	黒褐色粘土層	炭化材	1082±23	-26.01±0.23	AD 980	970	AD 960-995(69.6%) AD 900-915(30.4%)	985-955(69.6%) 1045-1035(30.4%)	PLD-9939(AMS)

表5 地点4 (H区) における放射性炭素年代測定結果

標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	暦年代較正值 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正值 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (cal AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
4.29	褐色植物片集積層	枝材	1997±27	-28.99±0.12	AD 5, 10, 15	1945, 1935, 1930	BC 5-AD 25(51.1%) BC 20-10(20.3%) BC 40-25(15.2%) AD 40-50(13.4%)	1950-1920(51.1%) 1970-1960(20.3%) 1985-1975(15.2%) 1910-1900(13.4%)	PLD-4579(AMS)
4.59	中粒砂層	種子 (ヒシ属果実)	193±24	-23.89±0.12	AD 1670, 1780, 1795	280, 170, 155	AD 1760-1805(62.6%) AD 1660-1675(23.2%) AD 1935-1945(14.2%)	185-145(62.6%) 285-275(23.2%) 10-5(14.2%)	PLD-4580(AMS)
4.69	極細粒砂混じりシルト層	種子 (マツ属 複雑管束 垂属経果)	184±24	-29.58±0.14	AD 1670, 1775, 1800, 1940, 1945	275, 175, 150, 10, 5	AD 1755-1785(36.5%) AD 1665-1780(18.8%) AD 1790-1805(17.0%) AD 1740-1750(11.6%)	195-165(36.5%) 285-270(18.8%) 160-145(17.0%) 15-5(16.1%)	PLD-4581(AMS)
5.41	灰色粘土層	植物遺体	119±24	-26.18±0.12	AD 1695, 1725, 1815, 1850, 1860, 1920, 1950	255, 225, 135, 100, 90, 35	AD 1825-1885(51.3%) AD 1685-1705(17.8%) AD 1915-1925(10.2%) AD 1720-1730(10.1%)	125-65(51.3%) 265-240(17.8%) 35-25(10.2%) 230-220(10.1%)	PLD-4582(AMS)
5.60	灰色粘土層	植物遺体 (単子葉類 の茎)	91±25	-27.08±0.16	AD 1890, 1910, 1950	60, 40, 0	AD 1875-1915(43.6%) AD 1695-1725(31.6%) AD 1815-1835(22.9%)	75-35(43.6%) 255-224(31.6%) 135-115(22.9%)	PLD-4583(AMS)



第 102 図 惣作遺跡調査地点周辺の等高線図

数字 1～5 は調査地点と周辺の主な遺跡を示す。

1. 惣作遺跡 (今回の調査地点) 2. 獅子塚古墳 3. 姫塚古墳 4. 姫小川古墳 5. 八ツ塚古墳。
 等高線 (m) は安城市発行の「都市計画基本図 (1/2500)」の標高値を基に作成。等高線間隔は
 0.2m である。地名は東 (ひがし)、川島 (かわしま)、姫小川 (ひめおがわ)、小川 (おがわ)、
 木戸 (きど)、寺領 (じりょう) である。

第2節 放射性炭素年代測定：D区 SB36 出土試料

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

1 はじめに

愛知県に所在する惣作遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表6のとおりである。同一の堆積物から複数種類の試料を抽出したもののについては、試料No. にabの枝番を振ってある。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3 結果

表7に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、第103図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期 5730 ± 40 年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

参考文献

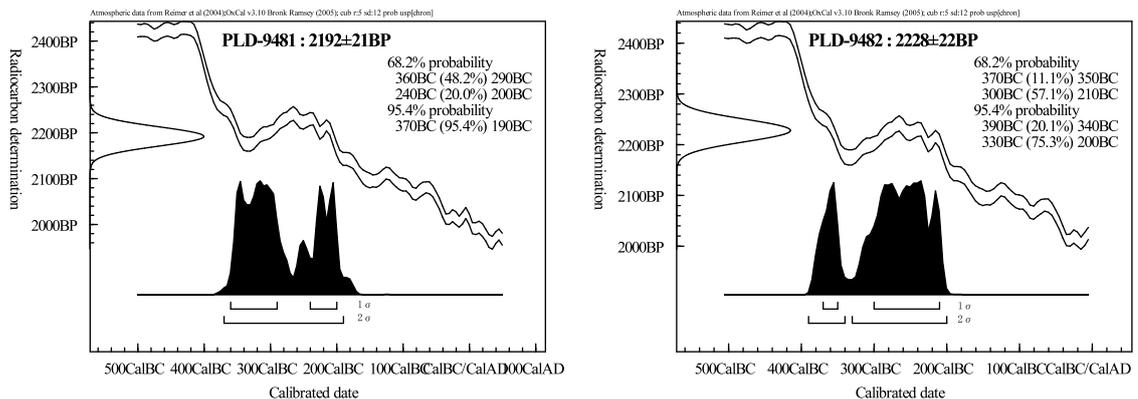
- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎 . 日本先史時代の ^{14}C 年代 . 3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.

表 6 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-9481	遺構 : SB36 調査区 : II ASS04D 位置 : IE1a 試料No. : 14Cサンプル① 層位 : 床面 その他 : 住居跡	試料の種類 : 炭化材 試料の性状 : 不明 状態 : wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-9482	遺構 : SB36 調査区 : II ASS04D 位置 : IE1a 試料No. : 14Cサンプル② 層位 : 床面 その他 : 住居跡	試料の種類 : 炭化材 試料の性状 : 不明 状態 : wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス

表 7 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-9481 試料No. : 14Cサンプル①	-25.94 \pm 0.14	2192 \pm 21	2190 \pm 20	360BC (48.2%) 290BC 240BC (20.0%) 200BC	370BC (95.4%) 190BC
PLD-9482 試料No. : 14Cサンプル②	-27.58 \pm 0.14	2228 \pm 22	2230 \pm 20	370BC (11.1%) 350BC 300BC (57.1%) 210BC	390BC (20.1%) 340BC 330BC (75.3%) 200BC



第3節 惣作遺跡C区 SX09 出土種実の同定

中村賢太郎・Bhandari Sudarshan・孔智賢（パレオ・ラボ）

1 はじめに

惣作遺跡は愛知県安城市に所在する。発掘調査で弥生時代中期前葉の遺構 SX09 が検出され、遺構内の堆積物が採取された。遺構内堆積物の水洗選別により得られた種実の同定結果を報告する。

2 試料と方法

SX09 は、ほぼ南北方向に走る河川跡の東側縁辺部に位置する遺構である。SX09 の時期は、出土した土器から弥生時代中期前葉と考えられている。

植物遺体、動物遺体、人工遺物の検出を目的として、SX09 内の堆積物について水洗選別を行った。堆積物の量は土囊 2 袋分で乾燥重量が 30,356g である。堆積物は、灰色 (5Y 8/1) のシルトで、高師小僧 (褐鉄鉱) がやや多く見られた。

堆積物は、秤量した後、2・1・0.5 mmメッシュのフルイを重ねて水洗洗浄し、90 μmメッシュのフルイを用いて、残渣を回収した。乾燥させた回収試料について肉眼観察および実体顕微鏡観察により内容物の選別作業を行なった。

選別作業により、種実 (胞子含む)、炭化材、未炭化植物片、土器片が検出された。

これらのうち、種実について肉眼および実体顕微鏡下で同定・計数を行った。

3 結果

同定結果を表 8 に示す。同定された分類群は、木本植物のアカメガシワ種子・炭化種子、木本植物あるいは草本植物のナス科炭化種子、草本植物のイヌタデ炭化果実、サデクサ炭化果実、サナエタデ炭化果実、シロザ種子・炭化種子、アゼスゲ節炭化果実である。その他に不明炭化種実と子囊菌類の炭化胞子が得られた。

4 主な分類群の形態記載

(1) アカメガシワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell.-Arg. 種子・炭化種子 トウダイグサ科

種子と炭化種子が出土した。いずれも破片である。球形。表面は粗く、瘤状ないし棍棒状の隆起が密に分布する。断面には曲線的な柵状組織細胞が見られる。

(2) ナス科 *Solanaceae* 炭化種子

扁平な楕円形～円形で一端が僅かに窪む。表面には特徴的な網目模様が見られる。長さ 1.0mm、幅 0.8mm。

(3) イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitagawa 炭化果実 タデ科

側面観は先端の鋭い卵形、断面は三角形。表面は平滑で光沢がある。長さ 1.9mm、幅 1.2mm。

(4) サデクサ *Persicaria maackiana* (Regel) Nakai 炭化果実 タデ科

いずれも破片である。大型の破片を見ると、上部は角ばり、下部は丸みを帯びる。表面は平滑である。

(5) サナエタデ *Persicaria scabra* (Moench) Mold. 炭化果実 タデ科

先端の鋭い卵形。長さ 1.5mm、幅 1mm。

(6) シロザ *Chenopodium album* L. 種子・炭化種子 アカザ科

円形～凸レンズ形。1本の筋が中央付近まで入る。端のくぼみにへそがある。長さ0.9mm、幅0.8mm程度。

(7) アゼスゲ節 Carex section 炭化果実 カヤツリグサ科

先端は尖る。表面には細密な紋様が見られる。長さ1.6mm、幅1.1mm。

(8) 子囊菌類 Ascomycetes 炭化孢子

楕円形。長さ1.5mm、幅1.1mm。

5 考察

アカメガシワ種子とシロザ種子の一部は未炭化であり、これらは現代のものが混入した可能性が考えられる。以下では炭化種実を中心に植物利用および周辺植生について考察する。

食用など人間により利用されたと見られる分類群は乏しい。SX09周辺に存在した植物が偶発的に炭化した可能性もある。

水辺に生育するサデクサが、破片ではあるものの多く見られ、河川跡に面したSX09の位置を反映していると考えられる。また、イヌタデ、サナエタデ、シロザなど田畑のふち、路傍、荒地などに生育する雑草類が見られることから、これらが繁茂するような人為的に開かれた場所の存在が想定される。また、アカメガシワは林縁や二次林的要素を示すと思われる。

6 おわりに

SX09より検出された種実を検討した結果、SX09周辺には河川を伴う人為的に開かれた環境が存在したことが推定された。また、人間による植物利用については検討できなかった。

表8 SX09出土種実一覧表

※ ()内は破片の数を示す

分類群	部位	個数
アカメガシワ	種子	(2)
	炭化種子	(2)
ナス科	炭化種子	1
イヌタデ	炭化果実	1
サデクサ	炭化果実	(25)
サナエタデ	炭化果実	1
シロザ	種子	3(5)
	炭化種子	2(3)
アゼスゲ節	炭化果実	1
子囊菌類	炭化孢子	1
不明	炭化種実	(1)

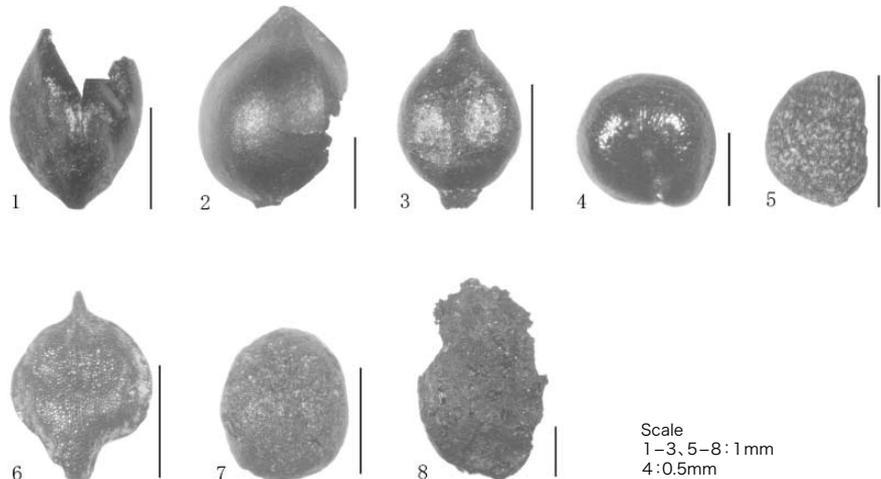


写真5 惣作遺跡 SX09 出土種実

1. イヌタデ炭化果実 2. サデクサ炭化果実 3. サナエタデ炭化果実 4. シロザ炭化種子
5. ナス科炭化種子 6. アゼスゲ節炭化果実 7. 子囊菌類炭化孢子 8. 不明炭化種実

第5章 総括

第1節 遺構変遷

D区南東部からE区にかけては、いわゆる遺物包含層が30cm程の厚さで堆積しており、いくつかの遺構が重複していることが土層観察より確認できた。ただ平面的に見ると、遺構の埋土が黒褐色やオリーブ褐色を呈している場合は比較的検出が容易であるが、暗灰黄色砂・砂質シルトに黒褐色砂・砂質シルトのブロックを含む埋土が同色の暗灰黄色砂・砂質シルトのベースに掘り込まれている場合には、遺構の認定についてはかなり困難を伴った。特にE区やF区の竪穴建物は、調査場所がかなり限られているため、遺構の全体を把握しながら検出することができなかった。そのため、掘り込みが明瞭で、全体の形状がある程度判り、支柱欠が認められ、床面に焼土・炭化物が広がるといったもののみを竪穴建物として取り上げると、竪穴建物として認定できるものは少数であり、他は竪穴状の落ち込みといった認識になる。この遺構変遷では、確実と思われる竪穴建物を中心に、竪穴状遺構や遺物の分布状況を考え居住域を想定した。

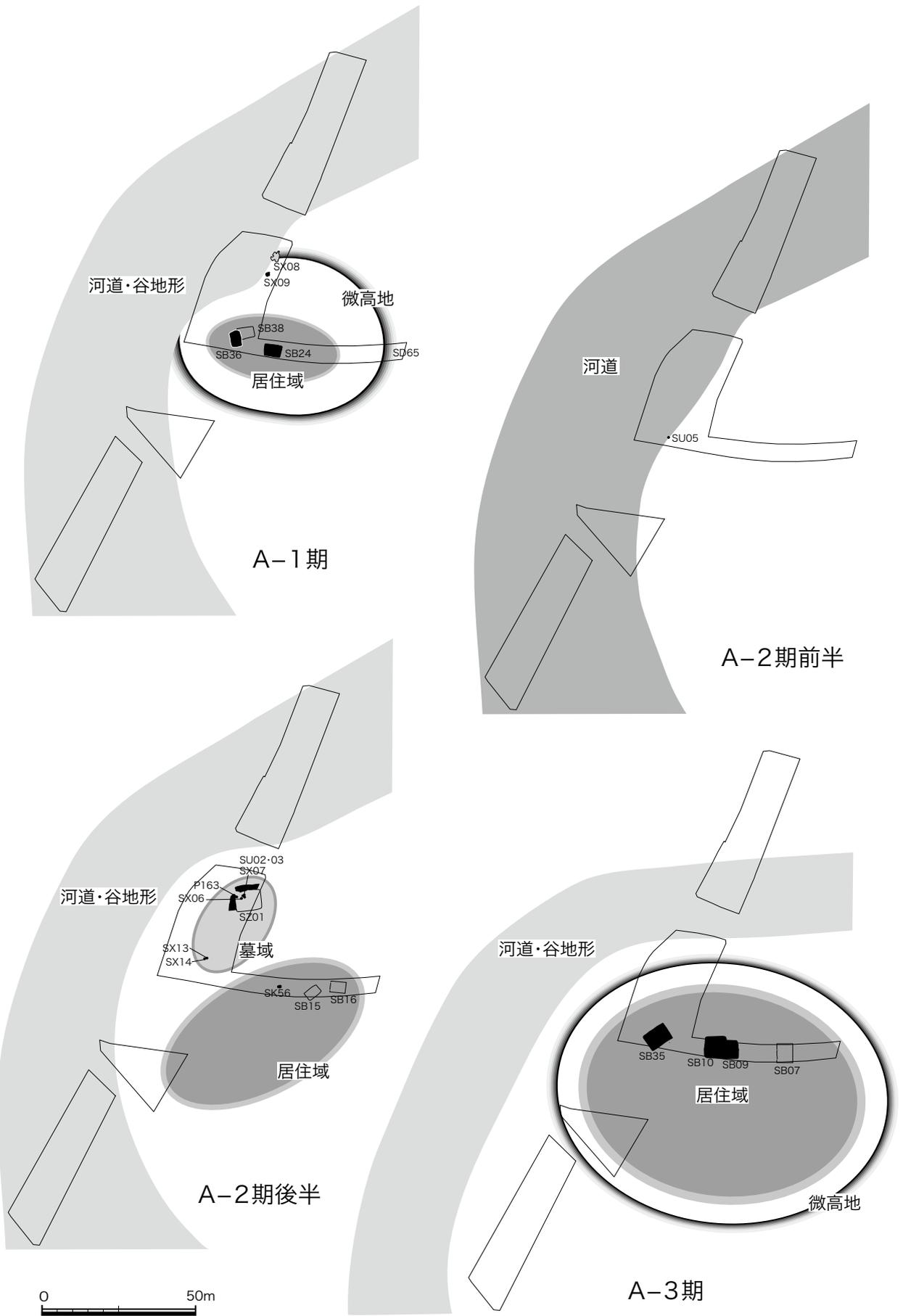
惣作遺跡は第4章第1節で考察されているように、東側にある谷状地形に向かって東西に延びる舌状地形上に立地しており、調査で河道・谷地形と判断したものは、舌状地形の北側にある小規模な谷地形及びその延長部と考えられる。川幅については、A-3期とB期については、B区とC区で両岸が検出されているため推定できるが、その他の時期については不明である。

A-1期 SB24・36がこの期の竪穴建物で、SB38もその可能性がある。居住域はこれらの建物を中心にそう大きくは広がらないと思われ、居住域がある微高地も、西側は河道・谷地形まで、東側はSD65まで、南側はF区まで延びていない。北側については、第104図A-1期に示したように、河道・谷地形はやや微高地側に入り込んで後、居住域を避けるように西側に曲がる。西側についてはA-2期の河川の影響で削平されていて不明であるが、遠方に河道・谷地形肩があるとは考えにくく、居住域もそれほど広がっていないと思われる。また河道・谷地形については、G・H区においてもこの時期の遺物が一定量出土していることから、これらの遺物が居住域より水流の影響で運ばれたと考えられると、河道・谷地形内には水流があったと想定できる。ただA-2期にまとまって流されてきた可能性も否定できない。さらにSX09の種実の分析（第4章第3節）によると、水辺に生育するサデクサと田畑のふち、路傍、荒地に生育するイヌタデ・サナエタデ・シロザが出土しており、周辺には河川を伴う人為的に開かれた環境が推定されている。

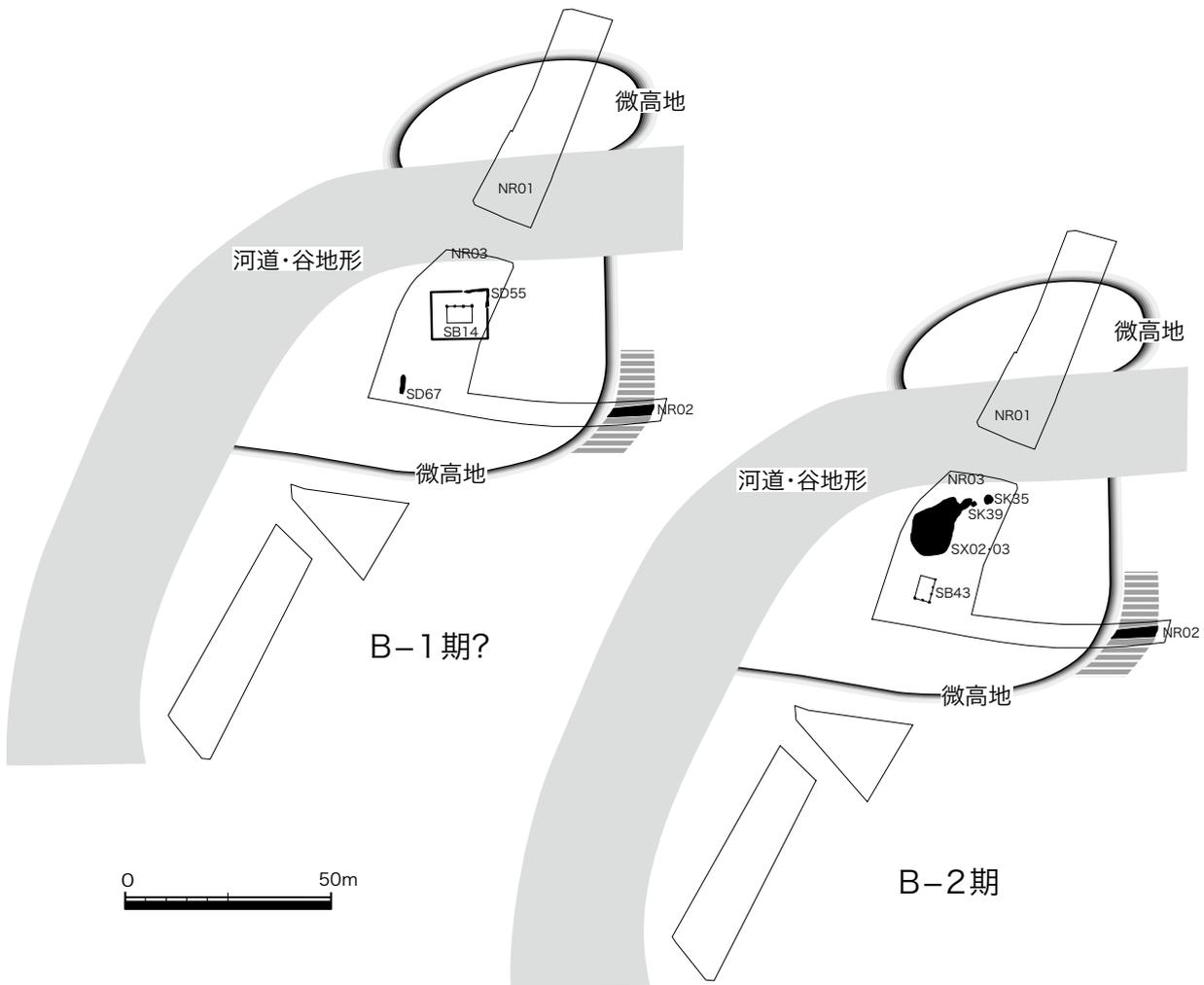
SB36で出土した土器集積SU04が乗る埋土中層で検出された炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ（第4章第2節）、サンプル1では360BC—290BC、370BC—190BC、サンプル2では300BC—210BC、330BC—200BCの暦年代が算出されており、SU04（朝日式期）の暦年代もこの年代に近いと考えられる。

A-2期前半 河道・谷地形の水流が活発化し、東肩はA-1期の居住域まで達している。河道・谷地形埋土下層には粗粒砂とともに古井式前半の遺物が多量に混入しており、大型の破片も含まれていることから、そう遠くない地点に当期の居住域があると推定される。また河道・谷地形の埋設途中で土器廃棄SU05が行われるが、この廃棄はA-2期後半の開始期と見ることもできる。

A-2期後半 河道・谷地形肩が北・東側に後退し、C・D区が再び安定した微高地となる。SB15・16がこの時期の竪穴建物となる可能性があるが、確実ではない。ただ遺物の分布からみるとE区中央部からF区にかけて居住域が広がっていたと推定される。地形が安定したばかりのC・D区部分は



第104図 惣作遺跡遺構変遷図(1) (S = 1/1800)



第105図 惣作遺跡遺構変遷図(2) (S = 1/1800)

墓域となる。SD56・57で構成されるSZ01は、溝の検出が困難で形状についてやや不明瞭な点があり、確実に方形周溝墓になるか不明であるが、墳丘部には土器棺SX06やP163が設置される。また南側には同じく土器棺SX13とSX14があり、墓域として利用されていたことは間違いないと思われる。SX06やP16に近接して出土した同時期の土器集積?SU02・SU03・SX07の性格については不明である。

A-3期 SB09・10・35がこの期の竪穴建物で、SB07もその可能性がある。A-1期には落ち込んでいたE区東端SD65部分も、この時期には埋まって竪穴状遺構が造られ、遺物も広い範囲に分布していることからみて、D区・E区・F区の広範囲に居住域が展開していたと思われる。ただ後世の削平・攪乱を受けたためか、竪穴建物・竪穴状遺構・土坑などの遺存状況は良好ではない。河道・谷地形の範囲は、A区NR01とB区NR03の両肩内で収まると考えられる。また河道・谷地形の北側でも竪穴状遺構が検出されA-3期の遺物も出土しており、一定の安定した微高地となっていた可能性もあるが、はっきりとはしない。

B期 C区・D区部分が居住域になり、SB14・SD55→SX02・03の順に造られる。またSB14と異なる軸方位をもつSB43をSX02・03と同時期のものと推定した。居住域の東側はE区NR02が

溝状の落ち込みになっており、その東も低地部と推定できる。北側にはA区 NR01 と B区 NR03 の両肩とする河道・谷地形があり、東側まで続いていくと推定された。また河道・谷地形の北側も、南の微高地ほどではないが、ある程度の安定した微高地が形成されていたと考えられ、規則的に並ぶ溝群はこの時期になる可能性がある。河道・谷地形はそんなに深くなく、ゆるやかな傾斜をもった落ち込みになっていたと思われ、一定の水流があり、B区には木器・加工材が集積している。南側に関してはF区までは広がっていない。

この時期の特筆すべきこととして、主に SX02・03 や NR03 から出土した 42 点の墨書土器があげられる。この点数はひとつの遺跡から出土したものとしてはかなり多いもので、惣作遺跡の西約 300 m に所在する寺領廃寺に関連する遺物と考えられた。また瓦も 147 点出土しており、これも寺領廃寺との関係の中で考えることができるであろうが、出土量としては遺跡内に瓦葺きの建物を想定することはできず、器面に煤・炭化物が付着していることからみて、カマド壁や火を用いた作業の道具として転用されていたと思われる。さらに、NR02 から出土した銅滓や銅バリ・銅滴・炉壁などの鑄造関連遺物の出土もこの遺跡の性格を考える上で重要で、寺院で使用される銅製品の鑄造が行われていた可能性が指摘される。

遺構の切り合いから 2 時期に分かれると想定し、古いものを B-1 期（井ヶ谷 78 号窯式期～黒笹 90 号窯式期）に比定したが、確証はなく、両者とも B-2 期（折戸 53 窯式期）になる可能性も充分にある。ただ惣作遺跡は B-2 期で途絶えており、10 世紀前半に廃絶したとされる寺領廃寺と同じ変遷を示すことは注目される。

C 期 確実に C-1 期（鎌倉時代）の遺構は SK61 のみである。C-2 期（戦国時代～江戸時代）の遺構としては、B 区で検出された大型土坑 SK20 とそれに連続する SD27・28 がある。またそれより新しくなるが、同じ B 区の ST01 や SD24・25、SK22 も同時期になると考えられる。また G・H 区の SX12 もこの時期か。C-2 期はある程度の安定した地形となり、この地域は水田などに利用されていたと考えられる。C-3 期（江戸時代後期以降）の遺構としては、C・D 区にある SD42 や SX10・11、G・H 区の SD72～74 や木器群があげられ、河川の水流がある不安定な地形になっていたことが推定された。

第 2 節 SB36・SU04 出土の土器焼成失敗品

D 区で検出された弥生時代中期前葉の SB36 は短径 345cm、長径 365cm 以上、深さ 32cm を測る、やや隅丸の長方形を呈する竪穴建物（第 22 図）で、北側の短辺に近い地点で土器集積 SU04 が出土した。SU04 は炭化物を含む埋土中層最上位で検出されており、土器集積周辺にも炭化物がみられた。炭化物は大型のものではなく、ほぼ全て中～小片で出土している。この土器集積 SU04 資料は小片で層状に剥離したような状態で出土しており、焼成失敗品の可能性があると考えられた。そのため愛媛大学法文学部 田崎博之氏に実見していただいたところ、焼成失敗品が含まれていることが確認できたので、以下内容について述べていきたい。

1 焼成破裂痕土器

田崎氏によると土器焼成時に破損し、器面が弾け飛んだように剥離した破損痕跡は (i) 不整な円形もしくは楕円形であること、(ii) 中央が深く周縁が次第に浅くなるクレーター状の窪みであること、(iii) 破損した面も器表面と同じ色調に焼き上がること、(iv) 器体の外面に生じることが一般的であること、(v) 連続して二重三重に重なる例があることの特徴をもち、特に (ii)・(iii) は二次的な火熱、打撃や加圧による器面剥離では決してみられないとされている。

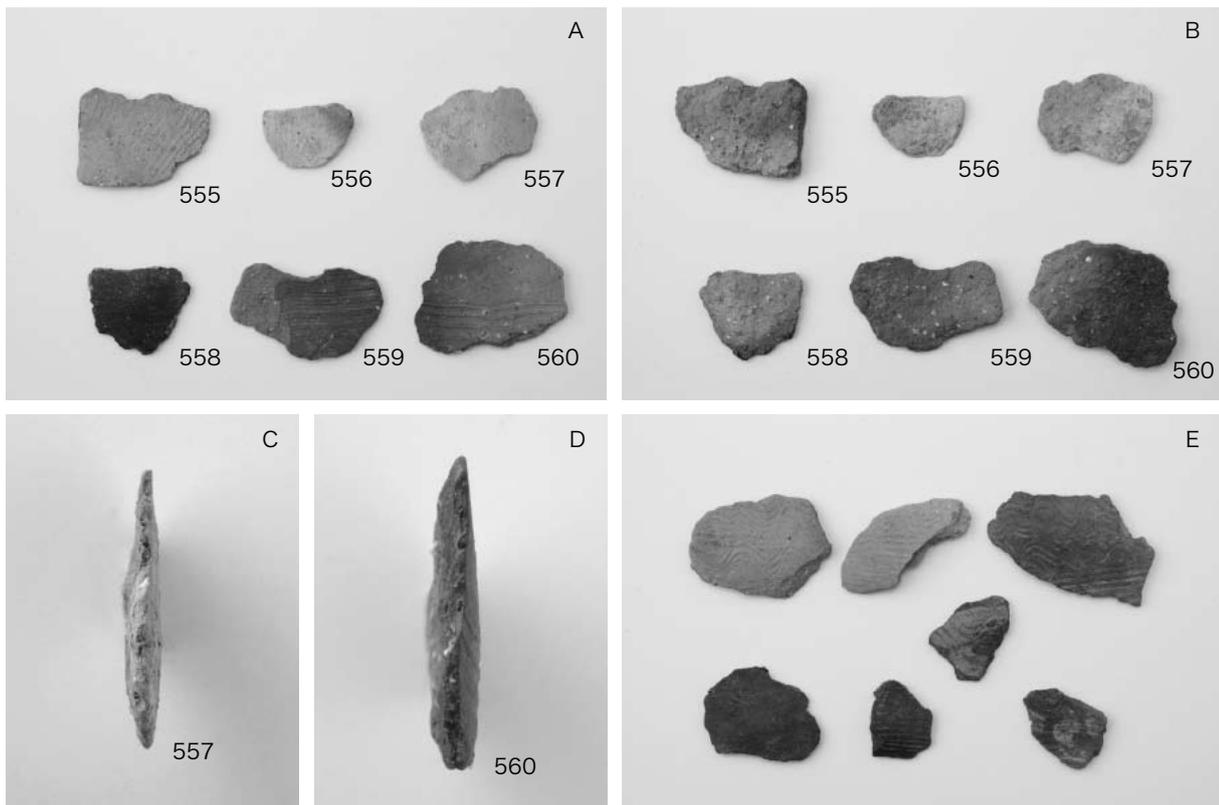


写真6 D区 SB36・SU04 出土焼成破裂土器片

このような特徴をもつ資料としては、写真7 H・I があげられる。Hの23 壺体部には推定径4 cm 前後の円形・楕円形で、深さ2 mm のクレーター状に窪む連続する焼成破裂痕が確認され、剥離面も器表面と同様の橙色を呈している(写真図版13)。Iの24 壺体部から底部にも焼成破裂痕があり、体部は推定径4.5cm 前後の円形・楕円形で、深さ2～4 mm、底部は推定径5 cm 前後の円形・楕円形で、深さ3～5 mm のクレーター状に窪みが連続するが、剥離面の色調については、体部が器表面と同色なのに対し、底部は器表面とは異なる淡橙色を呈している。また器表面全体が層状に剥離する写真7 Fの20 壺体部にみられるクレーター状の窪みも焼成破裂痕土器の可能性があり、推定径2.5cm 前後の円形・楕円形、深さ1.5～2 mm の焼成破裂痕が連続し、剥離面も器表面と同様の淡黄色・灰黒色を呈する。

2 焼成破裂土器片

Iと同じく田崎氏によると、焼成破裂が生じて弾け飛んだ土器片を「焼成破裂土器片」と呼び、(i) 不整な円形もしくは楕円形であること、(ii) 焼成破裂面の中央が凸レンズのように膨らみ縁辺が薄く尖ること、(iii) 焼成破裂面も器表面と同じ色調に焼き上がること、(iv) 径3～7 cm 前後、厚さが2～5 mm ほどのものが多いこと、(v) 土器の外表面が弾け飛んだ破片が多いことの特徴をもつとされている。

SB36・SU04 資料では薄く小片になった土器片を、焼成破裂土器として意図的に区別して取り上げ・洗浄を行わなかったため、大部分の資料が縁辺などの脆い部分を中心に破損してしまったと考えられる。そのため良好な形の焼成破裂土器片は確認されていないが、第106 図・写真6 A～Dの6点を可能性の高いものとして取り上げた。器種は壺である。また類似する資料として写真7のE7点を掲載した。

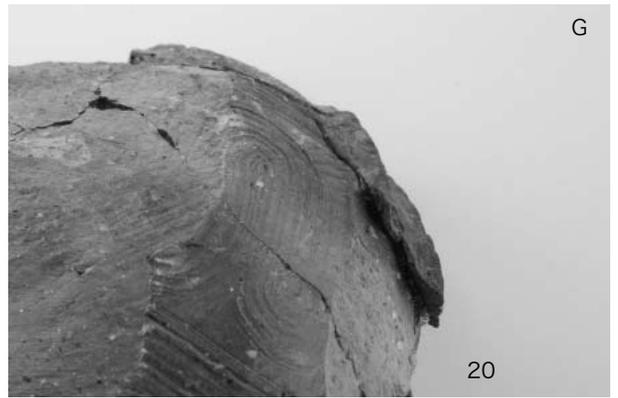
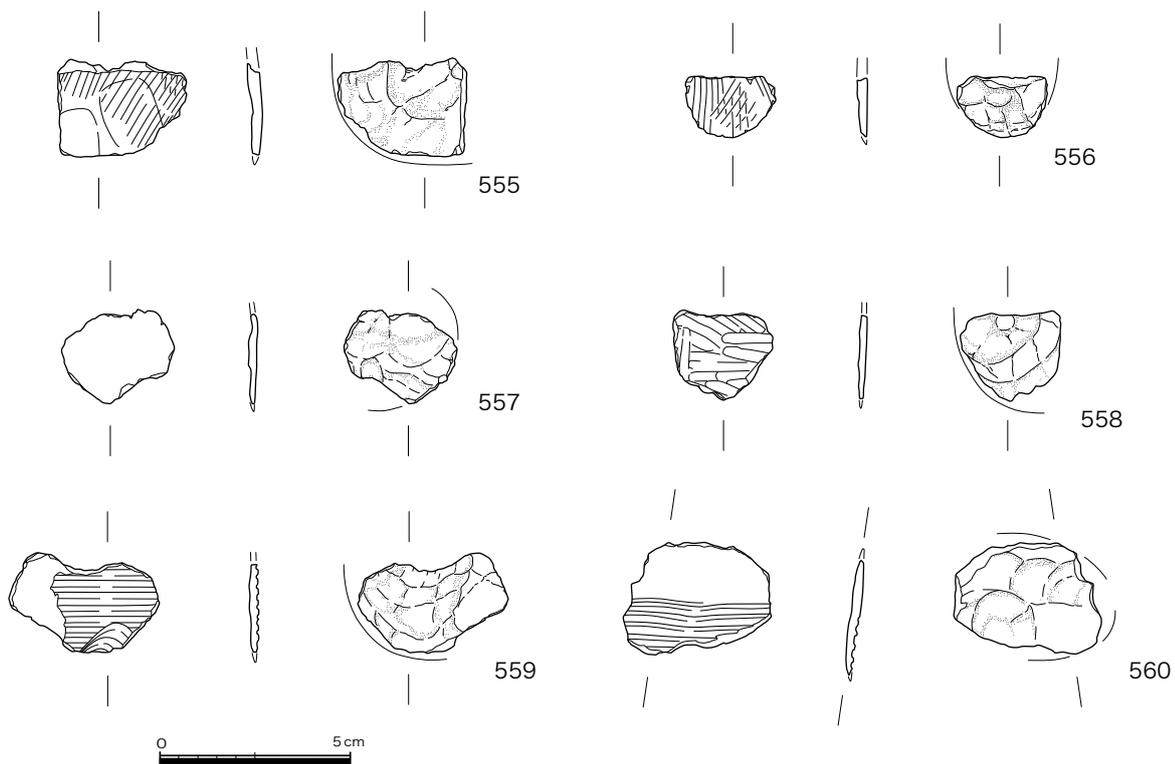


写真7 D区 SB36・SU04 出土焼成破裂痕土器・焼成時破損土器



第 106 図 D区 SB36・SU04 出土焼成破裂土器片 (S = 1/4)

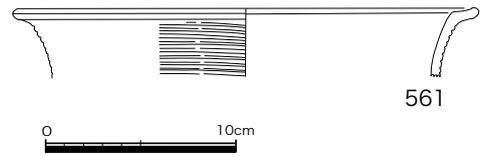
555 は幅 3.4cm、長さ 2.4cm、最大厚 3mm を測る。破裂時に弾け飛んだ土器片のおよそ 1/4 程度と考えられ、縁辺部は欠損している。剥離面と器表面は同じ橙色を呈している。556 は幅 2.4cm、長さ 1.6cm、最大厚 2.5mm を測る。元の焼成破裂土器片のおよそ 1/2 程度で、縁辺はわずかに欠損している。剥離面と器表面は同じ橙色を呈している。557 は幅 3.0cm、長さ 2.4cm、最大厚 2.5mm を測る。元の焼成破裂土器片のおよそ 2/3 程度と推定され、縁辺はわずかに欠損している。剥離面と器表面は同じ橙色を呈している。558 は幅 2.4cm、長さ 2.6cm、最大厚 2mm を測る。元の焼成破裂土器片のおよそ 1/3 程度と推定され、縁辺はわずかに欠損している。器表面は黒色であるが剥離面は橙色をしており、わずかに淡灰黒色を呈する。559 は幅 3.9cm、長さ 2.3cm、最大厚 2.5mm を測る。元の焼成破裂土器片のおよそ 2/3 程度と推定され、縁辺はわずかに欠損している。剥離面と器表面は同じ橙色・灰褐色を呈している。さらに器表面には焼成破裂痕と思われる、連続する円・楕円形のクレーター状の剥離がみられる。560 は幅 3.9cm、長さ 2.9cm、最大厚 3mm を測る。縁辺部が欠損しているのみで、元の焼成破裂土器片の形状を比較的良好に残している。剥離面と器表面は同じ橙色・灰褐色を呈している。

3 焼成時破損土器

焼成破裂以外にも、焼成中に亀裂が生じたり粘土接合面で剥離したりする。こうした破損痕跡は打撃や加圧によって生じる痕跡と区別することは難しいが、田崎氏により以下の事例に注目することによって焼成中に破損したと判断できるとされている。I 種は、黒化・黒変部・黒斑が生じたり消失したりするタイミングが焼成過程で微妙にずれていることに着目して、焼成時に器体が破損し破片ごとに異なる焼成環境で焼き上がったと考えられる事例。II 種は、接合できる破片ごとの焼成破裂痕の残存状況に着目し、焼成中に器体が破損したと判断できる事例である。

本資料中では II 種にあたるような事例は確認できなかったが、I 種にあたるものとして写真 7 J

～Mがあげられる。Mの26 壺底部は3片が接合しているが、上の器表面にある黒斑は中・下の土器器表面にまで及んでいない。写真J・Kの25 壺底部と写真Lの27 壺底部は、粘土接合面で剥離していると思われるが、25は破面、27は破面と剥離面にまで黒変が及んでいる。また内面にも剥離痕がみられる。また、写真図版13の22の頸部にも破損部で連続しない黒変が観察できる。



第107図 D区SB36・SU04出土土器 (S = 1/4)

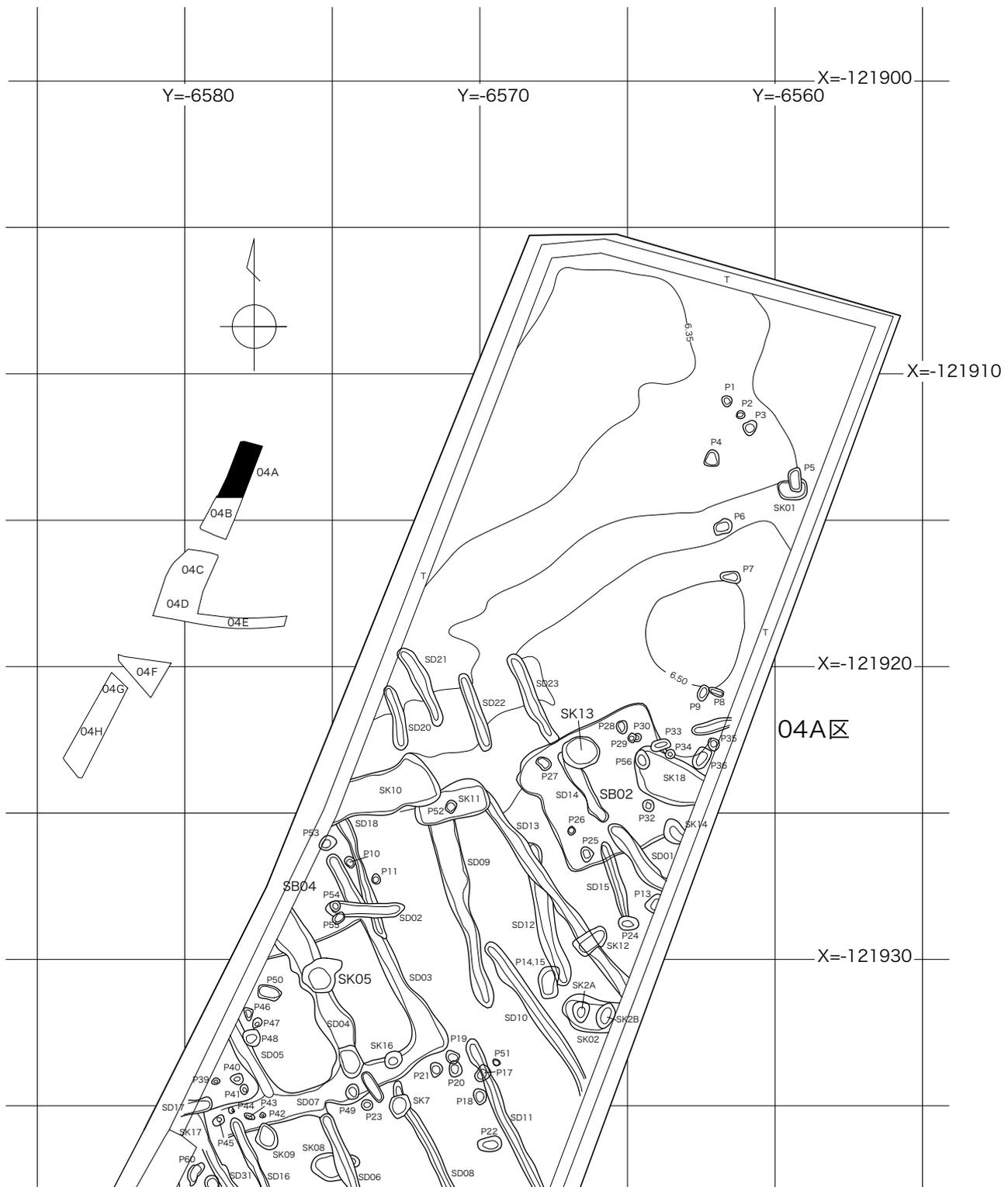
4 まとめ

以上SB36・SU04出土資料の焼成破裂痕土器・焼成破裂土器片・焼成時破損土器についてみてきた。この中には二次的な火熱を受けたものと区別が難しいものもあり、焼成破損時土器のII種がみられないことや生焼けの焼成不完全品がないことと併せ断定はできないが、焼成破裂痕土器の(ii)・(iii)が存在することや焼成失敗品の条件となる複数の要素を持っていることから考えて、本資料が焼成失敗品である可能性は高いと思われる。このことは近接した場所で土器焼成を行っていたことを示しており、焼成失敗品を既に廃絶していたSB36の竪穴に投機したと考えられる。SU04土器の廃棄が行われた弥生時代中期前葉の惣作遺跡の集落規模はごく小さなものであったと想定され、存続期間も前期後半から中期前葉と短い。このような小規模な集落で作られた土器が自集団内だけで使われていたのか、一定地域内を流通していたのかは不明であり、現段階で資料の少ない西三河地域の当該期の集落の動きと伴に今後の課題となろう。またSU04土器は、接合した土器を1点と数えてカウントすると、総数約600点程になる。その多くが層状に剥離した剥片状になっており、確認できるものは壺片が大部分で、条痕深鉢片が3点(第107図)のみ確認されている。この壺片も剥離しているため数は多くなるが、個体数では数個体から十数個体であろうと推測される。このような器種構成は土器焼成の単位を考える上で参考になり、この地域では一般的ではない朝日式土器が作られていることを含め、集落の性格・土器の生産体制が問題になる。

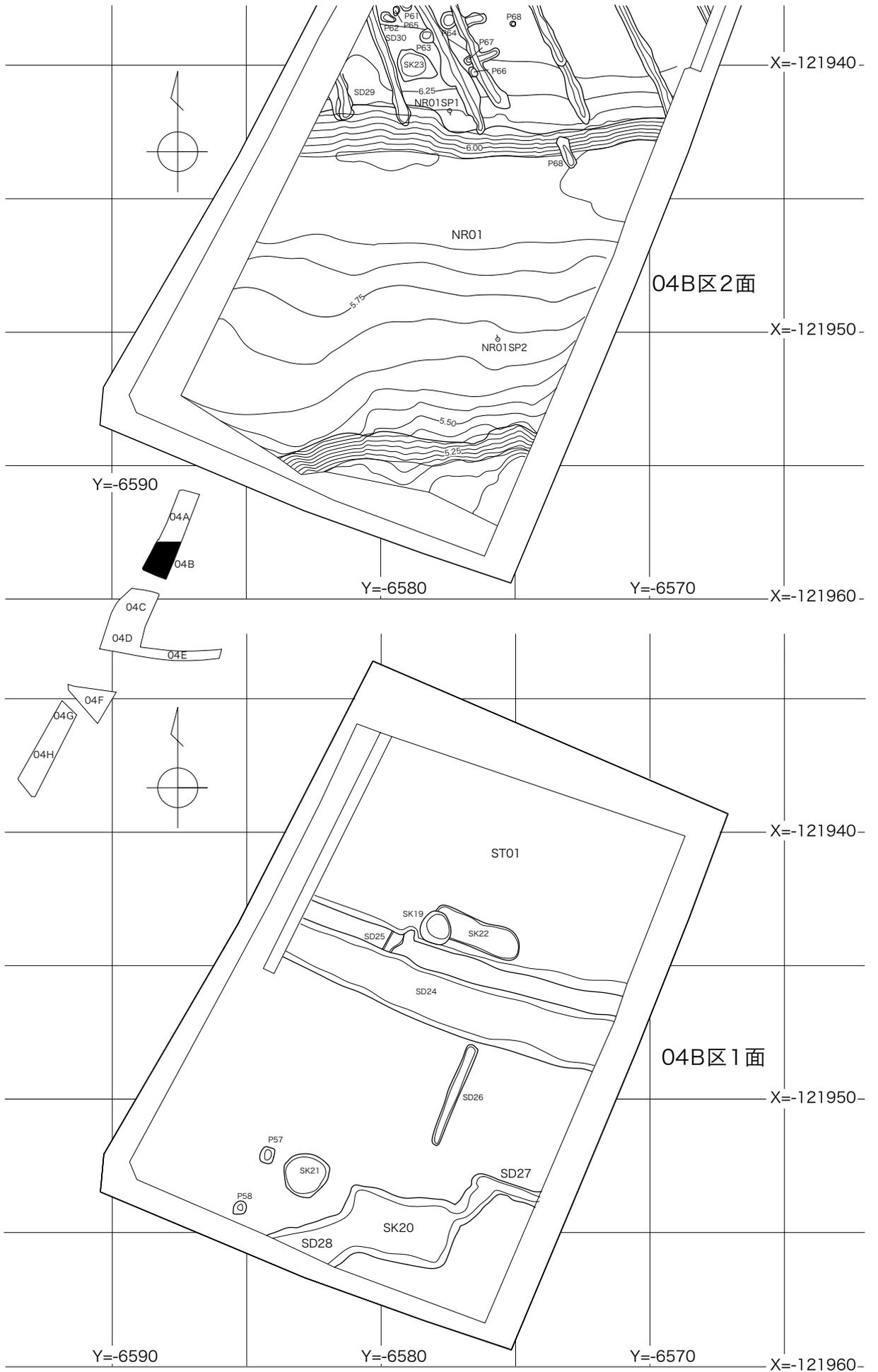
本節を記すにあたっては、田崎博之氏に多くのご教示をいただいた。記して感謝する次第である。また本文中に誤り・事実誤認があれば全て筆者の責となる。

参考文献

- 田崎博之 2000 『遺跡出土の焼成粘土塊・焼成剥離土器片からみた弥生土器の生産・供給形態』(平成9～11年度科学研究費補助金〈基盤研究(C)(2)〉研究成果報告書)
- 田崎博之 2007a 「土器焼成失敗品からみた焼成方法と生産体制」『土器研究の新視点～縄文から弥生時代を中心とした土器生産・焼成と食・調理～』考古学リーダー9 六一書房
- 田崎博之 2007b 「上の山遺跡出土の焼成失敗品についてー弥生時代中期前葉(弥生II期～III期)の土器生産様態ー」『上の山遺跡II』財団法人大阪府文化財センター



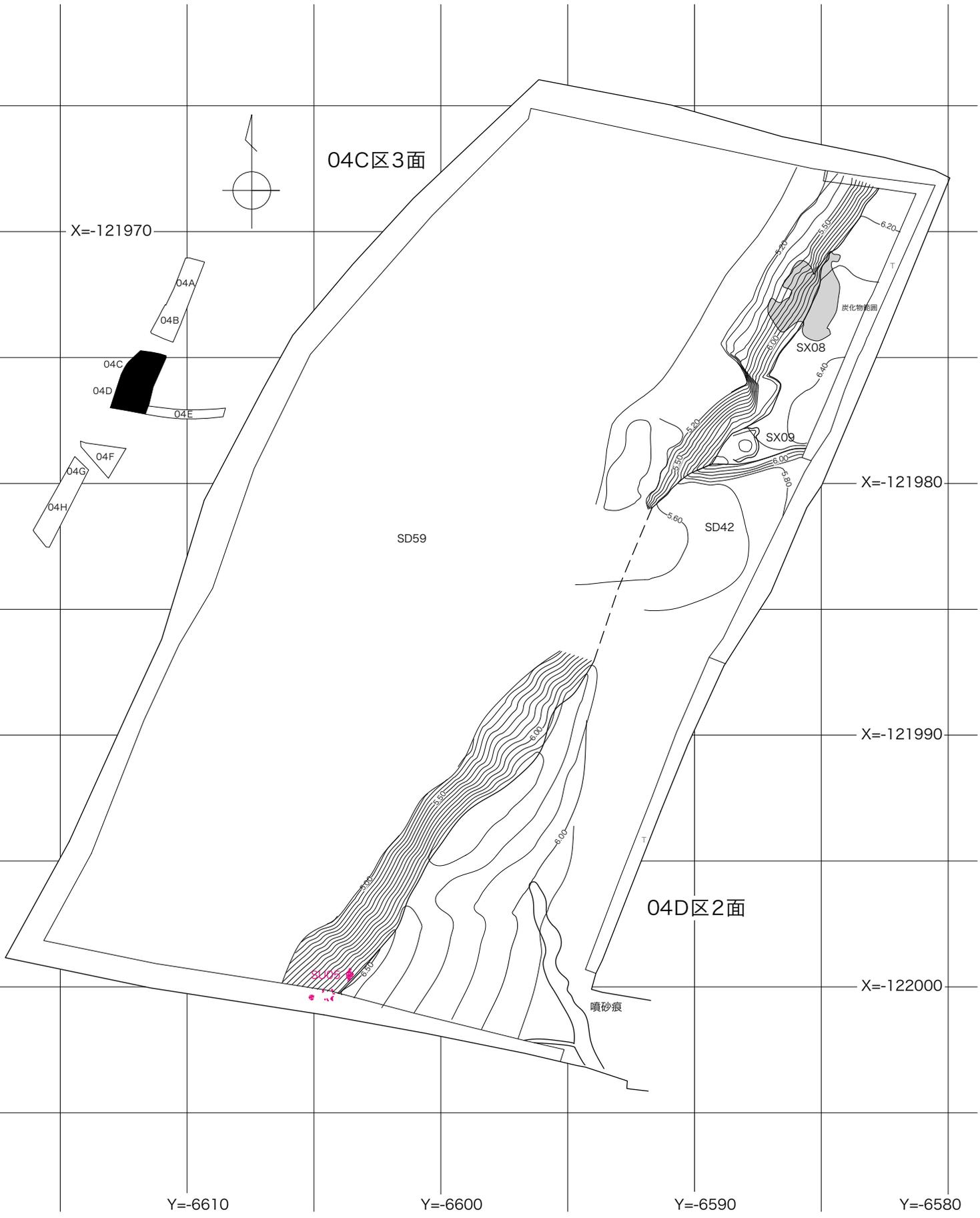
図版1 04A区遺構平面図(S=1/200)



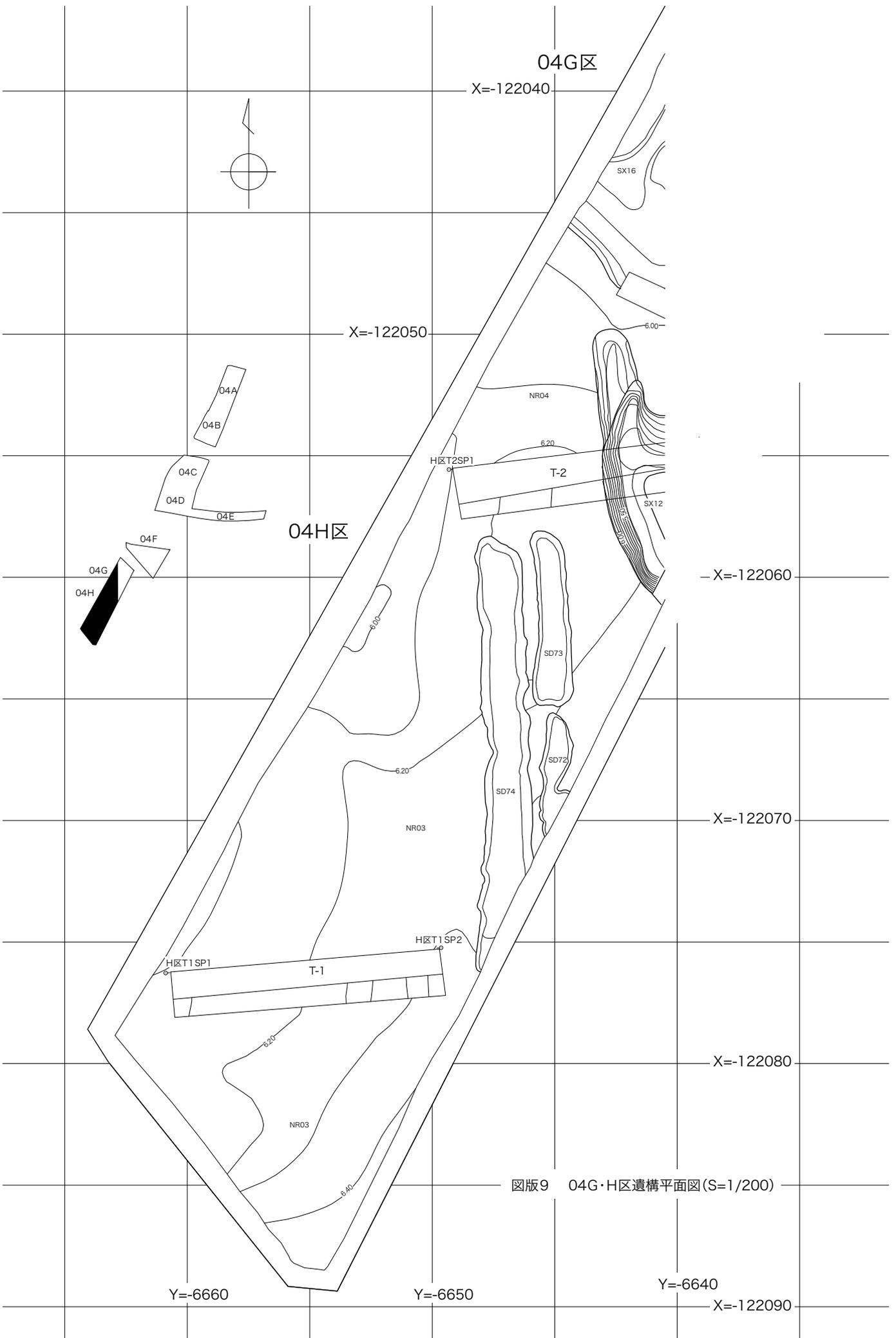
図版2 04B区遺構平面図(S=1/200)



図版3 04C・D区遺構平面図(1)(S=1/200)



図版5 04C・D区遺構平面図(3)(S=1/200)



図版9 04G・H区遺構平面図(S=1/200)



調査前風景A・B区(北から)



調査前風景E区(東から)



調査区遠景(北から)



調査区遠景(南から)



調査区周辺風景(北方向)



調査区周辺風景(南方向)



調査区周辺風景(東方向)



調査区周辺風景(西方向)



A区全景(南西から)



A区(北西から)



A区南部(北西から)



A区SB02(北から)



A区SK05土層断面(東から)



A区SK13土層断面(西から)



A区溝群SD07土層断面(東から)



A区溝群SD03・18土層断面(南から)



B区1面全景(南西から)



B区SK20・SD27・SD28(西から)



B区2面(南西から)



B区2面(北西から)



B区NR01下層木器集積(西から)



A区木器集積1(北西から)



B区NR01下層横槌出土状態(北から)



B区NR01下層竪杵出土状態(北から)



C区1面(西から)



C区SB14(西から)



C区SB14・P155土層断面(南から)



C区SB14・P156土層断面(南から)



C区SB14・P158土層断面(南から)



C区SK35遺物出土状態(東から)



C区SK35土層断面(北から)



C区SK39最下層土層断面(南から)



C区SX02・03(西から)



C区SD56・57(北から)



C区SD57土層断面(西から)



C区SU02出土状態(北から)



C区P163断面(南から)



C区SX06断面(西から)



C区SX07・SU03出土状態(南から)



D区SX13・14出土状態(南から)



D区SX13出土状態(南から)



D区SX14断面(西から)



D区SU05出土状態(北から)



C区SX04(東から)



C区SX05(西から)



C区SD59・SX08出土状態(西から)



C区SD59(南から)



C区SX08出土状態(西から)



C区SX09土層断面(北から)



C区SD59土層断面(北から)



D区SD59(北から)



D区SD59遺物出土状態(西から)



D区(西から)



D区SK62土層断面(北から)



D区SB43(南から)



D区SB35(南から)



D区SB39(東から)



D区SB36、SU04・炭化物出土状態(北から)



D区SB36、SU04出土状態(南西から)



D区SB36、SU04出土状態(南から)



D区SB36、SU04出土状態(北西から)



D区SB36東西土層断面(南から)



E区1面(東から)



E区2面(西から)



E区SB09(西から)



E区SB09焼土・炭化物出土状態(北から)



E区SB21(西から)



E区SB24(東から)



E区SB24焼土・炭化物出土状態(北から)



E区SB24焼土・炭化物土層断面(西から)



E区SB10(西から)



E区SB10、SX18(東から)



E区P113土層断面(北から)



E区南壁NR02土層断面(北から)



F区1面(西から)



F区2面(西から)



F区2面(北東から)



F区SB46(北から)



G区(北から)



G区(西から)



G区SX16土器出土状態(南から)



G区西壁土層断面(東から)



H区1面(北から)



H区1面(西から)



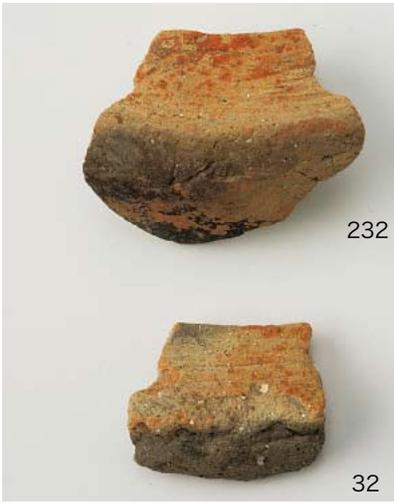
H区2面SX12(北西から)



H区T1土層断面(南から)

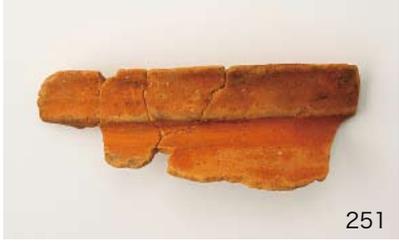


22





171









273



283



287



291



292



293



294



298



302



346



348



364



367



368



371



377



375



379



380









491



493



492



494



495



496



498



499



500



501



503



505



507



509



510



504



506



508





報告書抄録

ふりがな	そうさく							
書名	惣作遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第158集							
編著者名	宮腰健司・鈴木正貴・鬼頭剛・株式会社パレオ・ラボ(伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫 小林紘一・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎・Bhandari Sudarshan・孔智賢)							
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町字野方802-24							
発行年	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
そうさく 惣作	あんじょうし きどちょうそうさく 安城市木戸 町惣作	23213	540132	34°53'60"	137°05'38"	2004年 10月 2005年 3月	3295m ²	鹿乗川河 川改良工 事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
惣作遺跡	集落 墓 水田	弥生時代 古墳時代 平安時代 江戸時代	竪穴建物 土壇 溝 方形周溝墓? 土器棺 河川 水田	土器 土製品 須恵器・灰釉陶器 土師器 銅滓・銅滴 木器 石器 瓦		焼成剥離土器片 墨書土器42点 平安時代の木簡1点		
文書番号	発掘届出(16埋セ第47号・2004.8.31) 通知(16教生第1127号・2004.9.16) 終了届・保管証・発見届(16埋セ第112号・2005.3.4) 監査結果通知(16教生第2144号・2005.3.29)							
要約	<p>本遺跡は鹿乗川左岸の標高約7mを測る、自然堤防に立地する。弥生時代前期末～中期前葉、中期後葉～古墳時代初頭の竪穴建物群が確認され、中期後葉には方形周溝墓?や土器棺もみられる。また焼成失敗品を出土する竪穴建物も検出されている。</p> <p>平安時代(9世紀後半～10世紀前半)にも掘立柱建物が確認され、墨書土器や木簡、折敷底や竪杵などの木製品、瓦、銅滓や銅滴などの鑄造関連遺物などが出土している。</p> <p>戦国時代から江戸時代にかけては、土坑・溝・水田が検出されている。</p>							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第158集

惣作遺跡

2009年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社